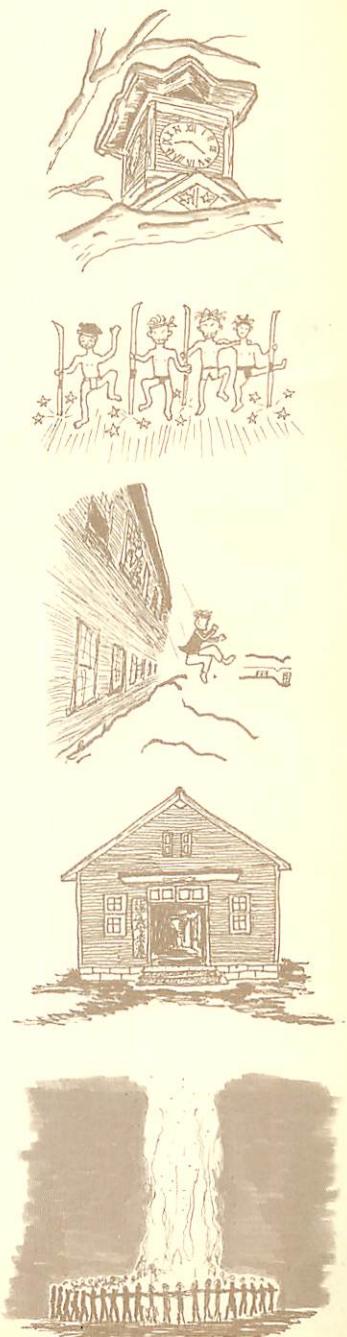


平成七年一月一日発行（創刊号）恵迪寮同窓会

恵 迪 創 刊 号

- ◇ クラーク先生「大志と野望」—開識社講演—
- ◇ 新渡戸と内村と宮部—そのアンビション・仁義・道義
- ◇ 「都ぞ弥生」の四季と色—世界の色・北の色
- ◇ 盆踊りの太鼓を聞かぬ間に（五十二枚）
- ◇ 北極研究を通じて学んだこと
- ◇ 拝啓、現恵迪寮生諸君！（OB座談会）



営業種目

- ◎ 原子力発電所工事
- ◎ 火力・水力発電所工事
- ◎ 産業機械据付工事
- ◎ 製罐・配管工事
- ◎ 建設機械整備・改造工事
- ◎ 水処理設備据付工事
- ◎ 昇降機・立体駐車設備工事
- ◎ 変電所工事
- ◎ 動力・制御・計装電気工事
- ◎ 一般電気工事

株式会社繁富工務店

代表取締役会長 繁富一雄 (機械10期)

代表取締役社長 繁富文承 (機II修士1期 工博)

取締役副社長 繁富佳行 (機械44期 工博)

本 社 札幌市中央区南12条西6丁目1番28号 ☎ 札幌(011)代表511-3428
江別出張所 江別市緑町西3丁目10番6号 ☎ 江別(011)382-2994
苫小牧出張所 苫小牧市宇勇払157番地の2 ☎ 苫小牧(0144)56-0711
旭川出張所 旭川市パルブ町505番地 ☎ 旭川(0166)22-5434
岩内出張所 岩内郡岩内町字大浜40番地の5 ☎ 岩内(0135)62-6784
札幌工場 札幌市西区発寒11条12丁目2番5号 ☎ 札幌(011)661-3588
旭川工場 旭川市永山3条9丁目1番5号 ☎ 旭川(0166)48-2660

都ぞ彌生

(明治四十五年)

横山芳介君作歌

一 都ぞ彌生の雲紫に

花の香漂ふ宴遊の筵

盡きぬ奢に濃き紅や

その春暮れでは移ふ色の

夢こそ一時青き繁みに

燃になん我胸想を載せて

星影汎かに光れる北を

人の世の清き國ざさがれぬ

豊かに稔れる石狩の野に

雁はるゝ沈みて行けば

羊群聲なく牧舎に歸り

手稻の嶺黄昏こめぬ

雄々しく聾ゆる榆の梢

打振る野分に破壊の葉音の

さやめく覺に久遠の光

おごそかに北極星を仰ぐかな

三 寒月懸れる針葉樹林

櫻の晉水りて物皆寒く

野もせに亂る、清白の雪

沈黙の曉靄々として舞ふ

あゝその朔風颶々として

荒ぶる吹雪の逆まくを見よ

あゝその蒼空梢聯ねて

樹氷喚く壯麗の地をこに見よ

牧場の若草陽炎燃にて

森には桂の新綠萌し

雲ゆく雲雀に延齡草の

ましろの花影さらきて立つ

今こそ溢れぬ清和の光

小河の濁なさまよひければ

美しからずや咲く水芭蕉

春の日のこの北の國幸多し

五 朝雲流れて金色に照り

平原果てなき東の際

連なる山脈玲瓏として

今しも輝く紫紺の雪に

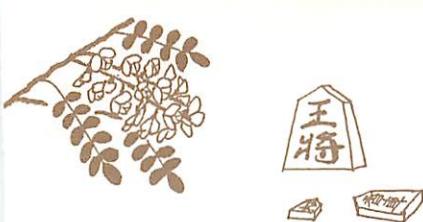
自然の藝術をなつかしみつゝ

高鳴る血潮のはこぼしりもて

貴き野心の訓へ培ひ

榮え行く

我等が猿を誇らずや



惠迪

KEITEKI

創刊号 ● 目次

平成七年一月一日発行



- 「カラーグラビア」 “それぞれの秋” 構成・文 井口 光雄（昭和二十八年入寮） 7
会誌「惠迪」発刊に思う 惠迪寮同窓会会长 繁富 一雄（昭和六年入寮） 16
祝辞 北海道大学総長 廣重 力 18

研究・論文

- クラーク先生の「大志と野望」 佐山 峻（昭和二十五年入寮） 20
第一回惠迪開識社の講演から 河合 正恭（昭和九年入寮） 34
新渡戸と内村と宮部 「そのアンビション・仁愛と道義」：切替 辰哉（昭和十四年入寮） 20

- 新渡戸稻造命日前夜祭記念講演から 神野 善司（昭和二十六年入寮） 65
恵迪寮の野球部の先輩たち（其の一） 太田 昌秀（昭和二十八年入寮） 114

- 「都ぞ弥生」の四季と色——世界の色・北のいろ 極地探検家ナンセンのヒューマニズム 56
北極研究を通じて学んだこと 極地探検家ナンセンのヒューマニズム 65
盆踊りの太鼓も聞かぬまに 「心臓移植を中心に」：中瀬 審信（昭和二十六年入寮） 161

▲主張▼

北海道大学はどう変わろうとしているのか
—『北大のルネサンスを目指して』を読む—

高村 泰雄（昭和二十五年入寮） 49



寮と恵迪寮

敗戦の教訓をめぐって

二十一世紀の展望

惠迪寮への意見と期待

札幌の地に人間教育の学校を！

Boys be Ambitious Again! —異業種交流のススメ—

栗原 一雄（昭和十三年入寮） 47

栗原 一雄（昭和十三年入寮） 49

未永 義圓（昭和三十年入寮） 53

未永 義圓（昭和三十年入寮） 53

亀貝 一義（昭和三十一年入寮） 135

亀貝 一義（昭和三十一年入寮） 135

山本 博己（昭和四十七年入寮） 136

山本 博己（昭和四十七年入寮） 136

遺稿

惠迪寮生活に思う

大原 久友（昭和五年入寮） 74

「まかない会」を育んだ生活部

中西 三郎（昭和十九年入寮） 90

援農動員

土方 与平（昭和二十年入寮） 92

すぎし日

菊池 昭（昭和二十一年入寮） 95

恵迪寮と木原均先生と私

辻山 昌佑（昭和二十六年入寮） 61

勉強をしなかった論理

高木 任之（昭和二十六年入寮） 97

四十年目の詫び状

田村 審弘（昭和二十九年入寮） 99

入寮許可証

湯浅 亮（昭和三十二年入寮） 101

私の恵迪寮 —あの忌まわしい夜を超えて—

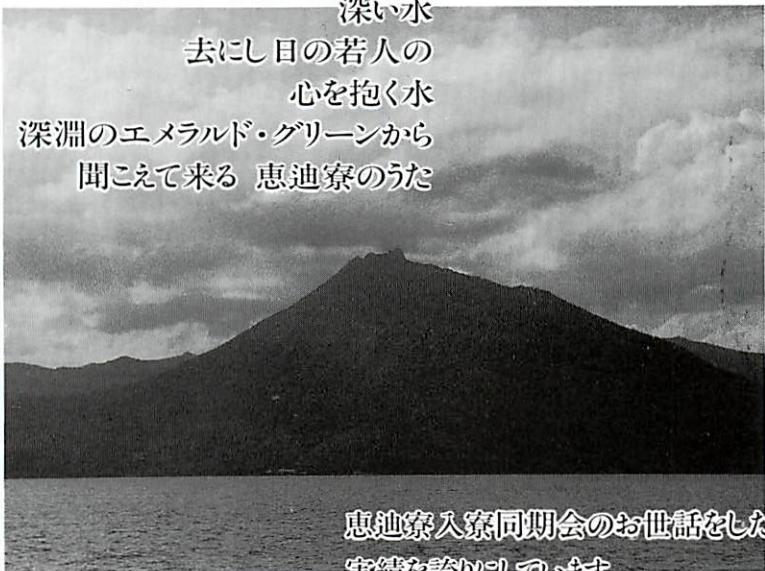
尾郷 賢（昭和三十三年入寮） 106

ネズミ、カツコウのことなど

石村 義典（昭和四十年入寮） 112

湖に星の散るなり

どこまでも透明で
深い水
去にし目の若人の
心を抱く水
深淵のエメラルド・グリーンから
聞こえて来る 恵迪寮のうた



恵迪寮入寮同期会のお世話をした
実績を誇りにしています。

コープさっぽろ直営

支笏湖レイクサイドホテル

北海道千歳市支笏湖温泉
TEL 0123-25-2216

北の豊かな暮らしを創造する



株式会社 ラルズ

(31年) 横山 長
(31年) 平山 一
(27年) 小寺 義彦
清正 副社長
彦監督



ラルズストア宮の沢店

寮歌のこころを北大に歌い上げた決定盤をCD化!

CD 北大寮歌

水野 一・川越 守 校訂 2884円

広大なキャンパスに学び研究する全貌を映像で紹介

ビデオ HOKKAIDO UNIVERSITY

企画 北海道大学 VHS・27分・2884円

北大キャンパスを手描きの立体イラストでガ乍する

北大マップ 絵で見る北海道大学

伊藤太郎・岩沢健蔵 A2判 和文・英文 各515円

ごらん、あの山だよ

札幌から見える山

朝比奈英三・鈴島慎一郎 編 B5判・1442円

野の花は野に咲いてこそ美しい

花風景・北海道

梅沢 俊 著 AB判・1854円

北海道が世界に誇るボタニカル・アートの最高峰

北海道主要樹木図譜 [普及版]

宮部金吾・工藤祐舜著 /須崎忠助画 B5判・4944円

(価格は税込)

北海道大学図書刊行会

札幌市北区北9条西8丁目 北大構内

☎011(747)2308・振替 小樽 3-17011

北大の四季

高島 英雄 著 北大の自然をこよなく愛する著者が、40年にわたり撮り続けてきた珠玉の写真集。四季それぞれに織りなす北大の美しさを50のショットで紹介する。
A4判・二〇六〇円

八鍬 利郎 著 長らく黒百合会の顧問を務めた著者が描き続けた、北大キャンパスの風景・建物、そして植物園や今はなき旧学生寮等を収録した画文集。
A5判・一八五四円

岩沢 健蔵 著 年老いた建物や樹々たちが過ぎた日々の出来事を語り、地面や石塊の表には古い物語が彫られている—建物や史跡等を通じて語る北大の歴史。
四六判・一四四二円

【現寮生からの寄稿】

初の女子恵迪寮生の一人として

上野 尚美(平成六年入寮)

寮生活ショートストーリー

金原 成岳(平成六年入寮)

故郷を離れ北海道へ

梅崎 真大(平成六年入寮)

雑感

田中 充哉(平成三年入寮)

同窓の集い

昭和十六年入寮同期の二つの集い

村山 正郎(昭和十六年入寮)

83

横浜秋好日'94東日本大会始末記

石川 舜(昭和三十二年入寮)

71

拝啓、現恵迪寮生諸君！

“恵迪寮で育った人間が、今、君達に何を伝えたいのか”

【出席】 安井 勉(昭和十八年入寮) 村山 正(昭和二三年入寮)

富永 巖(昭和二五年入寮)

中瀬篤信(昭和二六年入寮) 井口光雄(昭和二八年入寮)

高橋邦臣(昭和二八年入寮)

幸健一郎(昭和三十年入寮) 高井宗宏(昭和三一年入寮)

湯浅 亮(昭和三三年入寮)

谷口哲也(昭和四八年入寮) 清原義雄(昭和五七年入寮)

180

〔司会〕 河原克美(昭和二六年入寮)

71

139

141

143

編集を終えて

題字 初代北大総長 佐藤昌介(明治九年入舍) ■ 表紙・目次・扉・本文カット 河辺 傑(昭和二十八年入寮)

207

都そ彌生

に調

赤木顯次郎君作曲

1. $\frac{3}{ミヤ}$ | $\frac{5}{コゾ} \frac{5}{ヤヨ}$ | $\frac{6}{ヒノ} \frac{5}{タモ}$ | $\frac{3}{ヒノ} \frac{3}{タモ}$ | $\frac{5}{ムラ} \frac{5}{サギ}$ | 5 ○ |
 ハナノカタダタ | ヨウワタ | ヒタムシ | ロ

1. $\frac{3}{ツキ}$ | $\frac{5}{ノ} \frac{5}{カタダタ}$ | $\frac{6}{ヨウワタ} \frac{5}{ヒタ}$ | $\frac{3}{ゲノムシ}$ | 1 ○ |
 ツキセヌ | オゴリニ | コキクレ | ナヰノ

$\frac{6}{ツキ} \frac{6}{セヌ}$ | $\frac{6}{オゴリニ}$ | $\frac{1}{コキクレ} \frac{1}{ヒタ}$ | $\frac{6}{ナヰノ} \frac{5}{ノ}$ |
 ヨノハル | クレテハ | ヴツロ | イロノ

○ $\frac{1}{ユメ} \frac{3}{コゾ}$ | 5 5 | $\frac{6}{ヒト} \frac{i}{ト} \frac{i}{キ}$ | i i o |
 アチ | キシ | ゲミニ | -

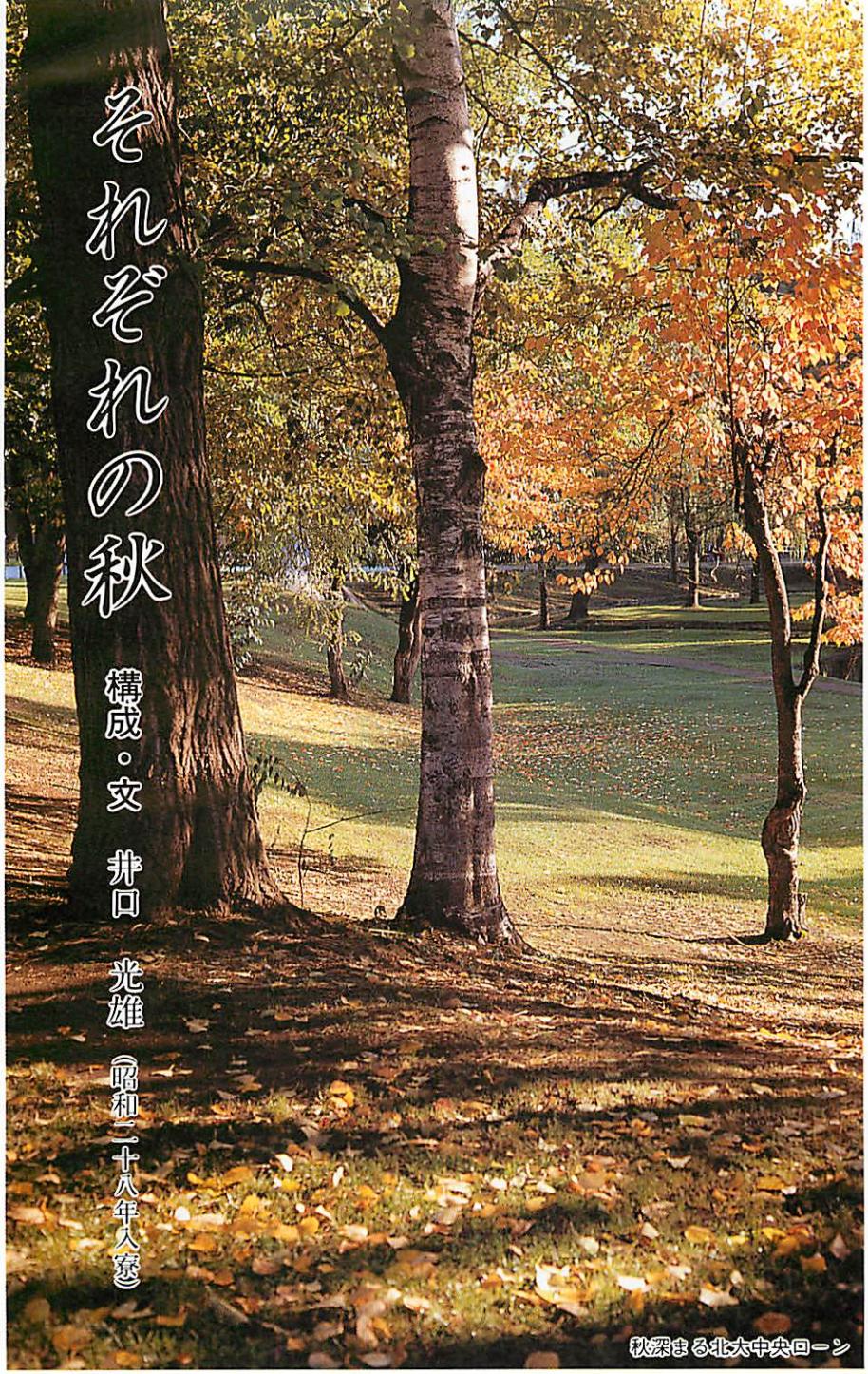
○ $\frac{1}{モエ} \frac{3}{ナシ}$ | 5 5 | $\frac{6}{ソガム} \frac{i}{ガム} \frac{i}{ネ}$ | i o |
 モエ | ナシ | ソガム | ネ

○ $\frac{6}{オモ} \frac{5}{ヒチ}$ | 3 i | $\frac{2}{ノセ} \frac{3}{セテ} \frac{i}{テ}$ | i o |
 オモ | ヒチ | ノセ | テ

○ $\frac{1}{ホシ} \frac{1}{カゲ}$ | 1 1 | $\frac{2}{サヤカ} \frac{3}{ヒカ} \frac{5}{ヒカ} \frac{6}{ヒカ} \frac{i}{カレル}$ | $\frac{1}{キタチ} \frac{6}{5} \frac{5}{5}$ | 5 ○ |
 ホシ | カゲ | サヤカ | ニヒカ | レル | キタチ | -

$\frac{5}{ヒトノヨ} \frac{5}{ノヨ}$ | 5 o |
 ヒトノヨ | ノヨ

$\frac{6}{キ} \frac{6}{モキ} \frac{5}{ヨキ}$ | $\frac{3}{クニゾト} \frac{3}{ヒト} \frac{2}{アヨガレ} \frac{5}{レ}$ | i o ||



それぞれの秋

構成・文

井口

光雄

(昭和二十八年入寮)

秋深まる北大中央ローン



朝の登校ラッシュ



かつての恵迪寮の跡地は、野球場になつてゐる。札幌 6 大学 2 部低迷中だった野球部も、来春は久しぶりに 1 部に復帰するという。(右)



アメフトの人気は北大でも高い。女子学生のマネージャーが、かいがいしく選手の練習をサポートしていた(右)



クラーク像のあたりは、観光の若い人たちでいつもにぎわっている(下)



工学部へと続く北十三条通りの銀杏並木が美しく色づく十月は、北大の先生や学生たちにとつて一年で一番充実する月ではないだろうか。朝八時過ぎの教養部のあたりは、登校する学生たちの流れがひきも切らず、自転車や車もラッシュ状態となる。大学生だけでも一万人を越すマンモス大学となつた北大では、今、学部縦割り体制、大学院重点化がすすめられている。くわしくは、本誌掲載の高村泰雄氏の一文を。

横濱氷川丸船上で歌う



奥さんや娘さんたちの姿も目立った



宍戸昌夫実行委員長挨拶



都々 猶生



入寮年次毎に指名されたが、先輩、後輩入り乱れて、寮歌を歌った。

去る十月二十二日、横浜港の氷川丸

で開かれた恵迪寮同窓会東日本大会には、家族づれの寮OBなど二百五十人余がつめかけた。晴天に恵まれたこの日、プレ企画の故木原均博士（明治45年入寮）創設の研究所訪問ツアーや「みどり未来21」歩くツアーも大盛況。大会には大正から昭和六十年代まで、出席したOBの年令差は六十年を超えたが、共に力一杯寮歌をうたい、語りあつた。詳しくは、本誌掲載の石川舜、辻山昌佑各氏の一文をご覧あれ。



酔うほどに歌うほどに



木原生物学研究所前にて



伝統の灯は消えず — 恵迪寮祭 —



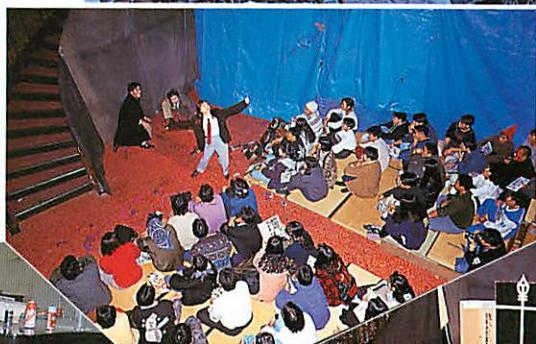
歌うほどに飲むほどに



夜8時過ぎからはじまった晩秋の屋外での寮歌祭だったが、みんな元気一杯だった。



部屋デコは往年のそれと比べると力は格段におちる(上)



建物がコンクリートになつても、寮の伝統は残る。第八十六回目となつた平成六年度の恵迪寮祭も、十月下旬から十一月の中旬まで、毎日、寮内のどこかで何かが行われているという RNGランで開かれていた。寮内には数百人規模の集会場がないため、身を切るような寒さの中、夜八時過ぎから屋外で開かれた寮歌祭。初の女子寮生も加わって、薪を燃やし、酒をくみ交して暖をとりながら、寮生たちはパワフルに寮歌をうたい続けていた。

寮外生の女子も多数つめかけた人気の恵迪座公演

そして



冬.....

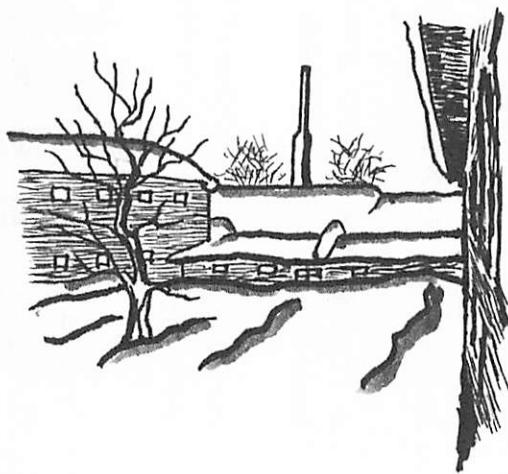


惠 迪

KEITEKI

創刊号

1995・1・1



会誌「恵迪」発刊に思う

恵迪寮同窓会会长 繁富一雄

(昭和六年入寮)

昭和六年十一月、私は北十七条に移転再建なったばかりの恵迪寮に最初の寮生として入った。この年の四月に北大予科に入学したものの、あこがれの恵迪寮は取毀し移転中で、半年間も待たされた末の入寮とあって、その高揚した気持は今でもつい昨日の如く思い出される。

こうしてはじまつた私の恵迪寮での二年有余は、まさに人生の花園であり、青春そのものであった。全国から集まつた個性豊かな若者たちが、勉学もしたが、好きな運動に汗を流し、杯をくみ交し、心を開いて大いに語り合い、今日に続く友情を育んだ。

あの時代からはや六十有余年、私が心ときめかして入つた寮舎も歴史的使命を終えて、十数年前、コンクリートの現寮舎にとつてかわられた。しかし、たとえ有形の「建物」が變るうとも、私たちには、無形の「恵迪精神」がある。今回創刊となる同窓会誌「恵迪」は、まさにこの無形の精神を後世に伝える大きな役割をになうこととなろう。

ふり返つてみると、私の寮生時代には、寮誌「恵迪」があつた。大正八年、開識社の決議に基づいて創刊され、その後、多い年には年に數回も発刊されていた。「①舍生相互ノ了解ヲ計リ、友愛ノ情ヲ深クシ親睦ヲ増進スル②先輩トノ連絡ヲ計リ本寮綱領ヲ充分發揮スル③成ル可ク多數舍生ノ記事ヲ網羅スルコトヲ重ンジ」(原文のまま)等の目的を掲げての創刊であつた。

当時の寮誌「恵迪」は、寮自治の根幹に関わる寮生の自由なる意見発表の場として、「開識社」と共に、両輪の役割を果していた。しかし、やがて戦争が深まる中で発刊は中断され、戦後も一時復刊なつたものの、数号をもつて姿を消したと聞く。明治以来の伝統を持つ開識社と、ほぼ軌を一にしたような推移をたどつたのである。

十二年前、旧寮舎の閉寮を機に発足したわが恵迪寮同窓会は、恵迪寮名の継承と寮歌の継続的制作を呼びかけ、旧寮舎の復元、文集や歴史写真集の発刊など、一貫して恵迪精神の継承を図ってきた。そして数年前には、恵迪寮自治の自由な意見交換の場としての開識社を復活させた。

この度の会誌「恵迪」の創刊は、かつての寮誌「恵迪」創刊の精神にも通ずる大きな意義がある。つまり、かの恵迪寮を巣立ち、社会の様々な領域で活躍された、また現に活躍する同窓生たちが、会報「恵迪」を通じて人生を語り、社会を語り、自由なる意見を寄せ、交換することにより、無形の恵迪精神に永久不滅の生命を与えるものと大いに期待されるからである。

願わくは会誌「恵迪」が、恵迪寮同窓個々をつなぐ場として機能するのみでなく、同窓から現寮生へ、また全北大生、全北大OB、さらに社会全般へ、"恵迪精神"を伝え、広めるものとならんことを、心から期待するものである。



祝 辭

北海道大学総長 廣 重 力

この度、三十余年にわたるブランクを超えて雑誌「恵迪」があらためて発行されるにあたり、一言お祝いの言葉と希望を申し述べたい。

三十余年まえ、すなわち昭和三十年代といえば、私自身を振り返っても、その前半は大学院時代であり、後半はアメリカ留学の時期であった。ずいぶん遠い昔のことのようでもある。あれから何があり、どの様に生きてきたか、個人のライフ・ヒストリにとつては掛け替えのない年月であった。思えば、この三十余年間に事は決したのが強い。それだけにこの貴重な星霜のブランクを乗り越えて、あらためて「恵迪」を復刊しようとする編集者の意図を一瞬いぶかつたのである。

しかし北海道大学のライフ・ヒストリの視点からみると話は大きくかわる。今から百年ほど前ハーバード大学の創立二百五十年祭の席上、当時のエリオット学長は「大学は人間のつくった制度の中で最も永続するものの一つである。特定の形の政府よりも、また大学がはめ込まれているようにみえる法律的・産業的な機構よりも長く生きている。」と述べている。言い換れば、大学はエルムの大樹のように、個人のライフサイクルを超えて生き延びる。この視点にたてば、三十余年の年月は大学からみればいわばひと休みに相当するといえようか。

ではこのようなやや長いひと休みの後に、何故「恵迪」の復刊がいまあらためて企画されたのであろうか。その詳しい事情は部会長の河原克美氏から述べられるであろうが、私なりに感じたことを述べてみたい。
編集者の案内によると、本誌の目的は「恵迪精神・クラーク精神・北大の心」を伝えることにあるという。これは

素晴らしいことである。永遠に生きつづけ、発展しつづける北大を支える心は何か。まもなく百二十年の年輪を刻もうとしている北大、この間、時代の大きな奔流に揉まれ、形を変えながらも生きつづけてきた北大、その北大を支え続けてきた変わらざる心は何か。いままさに戦後最大の北大変革が進行している時にあたって、変えてはならない北大の心は何か。それを問いつつしていいるからである。それは単なるノスタルジアであつてはならない。過去の貴重な体験の中から、時代の変遷を超えて現代と未来に活きる助言であり、示唆でなければならない。

私見を述べさせていただくと、北大の心はクラーク精神に尽きると思う。クラーク精神とは、彼が新しく札幌農学校の教育を始めるにあたつてあげた基本方針である。それは学生の「自修心」と「独立独行、不撓不屈の精神の涵養」にあつた。一方、クラークは校則は「Be gentleman!」の一語で足りると主張し、もしこれに違反するものがあれば、「即時、退学あるのみ」と言つたという。北大の二世紀目はすでに船出して二十年を経ようとしているが、この北大の初心はどうなつているのであろうか。

独立独行、不撓不屈とジェントルマンシップは一見あい容れないようにも見えようが、実はそこに北大マンの目標すべき全人としての秘密がある。クラークの頭の中にはジェントルマンシップを支えるものとしてキリスト教、とくにピューリタンとしての信念があつたのであろうが、これは必ずしもキリスト教に求めなくともよいと思われる。しかしこのような精神的支柱なしに、独立独行、不撓不屈のみを強調すれば、それは単なる蛮勇、自由奔放、無責任に墮し、救い難い結果となろう。恵迪精神の真髓が以上述べた北大の心を培い、クラーク精神を涵養するところにあるとすれば、恵迪精神は限りなく素晴らしい。それは人生に使命感をもち、人間の信頼関係を重んじ、物事の道理を究め、青春の豊かな感受性をフルに活かして人間性の陶冶に努める「自修心」を意味し、またその上に立つ信念の人を意味するからである。

「恵迪」の復刊を祝し、これから北大の歩みを支える「北大の心」を問い合わせ続ける雑誌として発展されるよう祈念して祝辞といたしたい。

クラーク先生の「大志と野望」（第一回 惠迪開識社の講演から）

佐 山 峻

（昭和二十五年入寮）

はじめに

先程、幸（健一郎）君が紹介してくれたように、私は昭和二十五年に惠迪寮に入った旧寮生であります。皆さんと同じように、クラーク先生の肖像の掲げられた食堂で食事らしきものをとり、『クラーク氏、ビー・アンビシヤス・ボーアズと』とストームをしていましたのであります。また、

明治十年から七十五年間続いた「開識社」を最後に開いた百四十三期委員会の委員であります。

さて、四十年振りの「開識社」であります、私がお話をできることといえば、ここ二十五、六年にわたって個人的にも追いかけ、またテレビ番組でもとり上げたクラーク先生のことぐらいであります。クラーク先生についてなら、少しはお話することができるだらうと思いまして、小一時間、責めを塞がせていただくことにしました。

消されたクラーク

さて本論に入りましょう。「クラーク精神とは何か」をクラークさんの人生を追いかける中で、皆さんと一緒に考えていただきたい。惠迪寮の「開識社」でありますので、いさか北大にこだわった話になることを、前以てお許し願つております。

最初に、なぜ私がクラーク先生に興味を持ったのかをお話しておいた方がいいと思います。一九六六年（昭和四十一年）に、アメリカ政府広報庁（U.S.I.A）から招待を受けまして、テレビ番組制作のためにアメリカに出かけました。北大O.Bとして番組のテーマに『クラーク先生』を選びました。その時アメリカに行つて驚いたことは、クラークさんことを知つてゐる人が、北海道を訪問したことのある人を除いて、一人もいなかつたということでした。

クラークさんの生まれた家も探しに行きました。町の人たるが誰も先生の生家も知らなければ、クラークという人がいたことさえ知らない。もっと驚いたのは、私たちの前に先生の生家を捜しに来た人が一人もいなかつた、ということを知つたことです。私たちはその家を、その町の歴史協会の土地台帳で探し出しました。以来、私はクラーク先生の生家の発見者の栄誉を担つてゐるわけです。

先生が生まれ故郷のアッシュフィールドで忘れられてゐるのは、まあ昔のことですから致しかたないとしても、大学を創り、学長となり、大活躍をなさつたアマーストの町でも、更に肝心の大学でも、先生が忘れ去られているのは何か訳があるのでないか。

アマーストの町の中心、タウンホールの前に一つの石の台があつて、クラーク先生への贈り物と彫り込んであるんです。贈つたのはハリエット・クラーク夫人です。で、ハリエット夫人の贈り物の台だけあつて、上がないんですね。どうしてだろう。これは僕が行つた時に、ちょうど、恵迪寮のOBで、僕の十年近く後輩の安藤忠男君、今広島大学の教授をやつていますけれど、安藤君が当時留学生でアマーストにいました。その安藤君が聞いてきたところによると「クラークさんの銅像を作るんだつたけれど、町の人

が皆反対して止めさせたんだ」というんです。それから後にも、また二度ばかり行きましたけれど、依然としてその台の上には記念となるようなものは、何もありませんでした。私は、クラークさんは故意に消されたんじやないかと考えたわけです。つまり、先生はその最後において余りにも町の人に迷惑をかけた。それで、迷惑を被つた、ということを知つてゐる人がいる間は、クラークさんの名譽は回復出来ないのでないかと。

そこで、「クラーク先生の人生に一体何があつたのか」。

生い立ち

先生の六十年の人生は、光と影の起伏の激しいものでした。

先生はアメリカ合衆国独立五十年目の一八二六年七月三十一日、マサチューセッツ西部の小さな村アッシュフィールドで生まれました。お父さんはアサートン・クラークといつてお医者さんであります。お母さんはハリエットさんといい、アサートン氏の二度目の妻であります。お母さんの両親もお医師さんだつたといいますから、お医者さんのお家だつたということです。お父さんがこのアッシュフィールドと、近くのカミントンという村でお医者さんをや

つてましたので、クラークさんは十才になるまで、そこで育ちました。

それから一家は、少し大きな町のイーストハンプトンに移りました。ここでお父さんがウイリス頓というお金持の家の主治医となります。で、この家に出入りするようになります。このサムウェル・ウイリス頓という人は、実は後にクラークさんの奥さんになるハリエット・リチャード・ウイリス頓の親です。

クラークさんはこのウイリス頓氏が作ったウイリストン・セミナリー（高等学校）の一期生です。そこから、アマースト・カレッジに入りました。この時代、クラークさんは学資に困り、お父さんに無心の手紙を書いておられますが、どうやらお父さんはお金をくれなかつたようです。そこでクラークさんは山を歩いて鉱物を集め、鉱石を標本にして売り苦境を切り抜ける、ということもありました。この辺りからクラーク先生は鉱物に興味を持つていたことがわかります。

大学の卒業講演のテーマは「鍊金術師」で『これは大変夢のある仕事だ』ということを云つてます。先生の生涯を振り返ると、意味深なテーマです。卒業後、母校であるウイリストン・セミナリーの教壇に立ちます。

英語の論文で博士号

一八五〇年、学問の先進国ドイツのゲッティンゲン大学（正式にはゲオルギア・アウグスタ大学）に、親友のマンロスさんと一緒に留学します。二年間の勉強の成果は、卒論『隕石中金属の化学構造に関する一研究』に纏められました。自慢するようですが、クラーク先生を調べにドイツまで出かけたのも私たちが最初です。先生が生活をしておられた下宿やレストランも見つかりました。我々の寮生活とは違つて、なかなか良い生活をしておられたようです。先生が研究した標本も大学に残されていました。

さて、少し詳しく調べてみると、先生はアマーストから同行したマンロスと共に、ドイツ語ではなく英語で論文を提出して、論文審査の間ご本人たちはベルリンへ出かけているんですね。その留守の間に教授会が開かれています。そうとう有名な教授たち、「ガウスの定理」のガウス先生とか、電磁気の権威のウェーバー先生など世界的な教授たちが出席しています。クラークとマンロスが英語で論文を提出した理由というのが、「とても忙しくてドイツ語を勉強する時間がない」ということだったようです。

その論文審査の結果、合格は合格だけどリテ（RITE）。

リテというのを、聞いてみると秀優良可の可だそうであります。いずれにしても、当時アマースト大学で博士号を持っている人はクラーク先生だけしかいなかつたそうです。

このドイツ留学はクラーク先生の人生にとって二つの大きな意味を持つています。一つは、今申し上げたアマースト大学唯一の博士号を持つ者として将来が約束されたことと、もう一つはこの旅行中にハリエット・リチャーズとの結婚を決めたことです。妹のハリエット・クラークに、そのような手紙を書いています。

更に、クラーク先生が不慣れな外国語で苦労なさつたことは、後に札幌農学校の生徒たちが英語で苦闘した時、クラーク先生が理解を示すことが出来たのではないかと、私は考えています。

さて、先生は先進国ドイツから帰つて来た博士号を持つた少壮の学者として、母校アマースト大学の教授になつたというわけです。帰つて来てすぐ（一八五三年）、ハリエット・リチャーズと結婚しました。

ハリエット・リチャーズという人は、ハワイ・マウイ島の生まれです。十年ほど前までその珊瑚礁で出来た生家が残つてしまつたが、今は記念の柱が一本立つてゐるだけです。お父さんのウイリアム・リチャーズという人は、宣教

師としてハワイに渡り、当時のハワイ王国の文部大臣を勤めたそうです。ホノルルのビショップ・ハウス・ミュージアムの事務所にこの人の大きな肖像画があつて、驚いたことがあります。リチャーズさんは、子供たちを祖国アメリカで育てるため、ハリエットさんとその兄ライマンを、かつての牧師仲間でその後実業家として成功したウイリストンさんに預けたというわけです。

さて、ハリエットとの結婚を契機に、クラークさんは妻の育ての親であるウイリス頓さんからいろいろな経済的なバックアップを受けることになります。例えば、ウイリス頓さんは大きな家を結婚後に、ハリエット夫人に1ドルで譲るとか、クラークさんが教授になつたアマースト大学に一つのホールというか建物を建てて贈るとか、いろいろなことをやつてます。

この辺はずつと飛ばしていきましょう。この後、州の農業委員会委員をやつたりハングシャーの農業会会长をやつたりしています。教授でありながら、極めて行動的に活躍しています。

九死に一生・クラーク大佐

そして一八六一年、南北戦争が始まります。クラークさ

んはマサチューセッツ第21義勇連隊を作りまして、ノース

カロライナ州ロアノク島で南軍と戦って勝利（一八六二年二月二十八日）をおさめ、すぐ中佐になります。翌月、三月十四日、同じノースカロライナ州のニューバーンの戦闘でも勝つて、クラークさんは大佐になるのですが、実はこの戦闘でアマースト大学の学長の息子さん、スタンズ中尉が戦死してしまいます。

その年の九月に、ヴァージニア州のチャンティリーで、クラークさんが敵軍に囲まれて、味方の兵士を次々に失つて、とうとう自分も「戦死」の報を故郷で流されます。三日間全く動けなかつたということあります。

丁度同じ九月に、メリーランド州のアンティータムで、クラークさんの友達で、あのゲッチングンに行つた時の仲間でもあり、ご自分が大学を休んで北軍に参加した時には自分の講座の後任者であったマンロス大尉が戦死してしまいます。そして、その年の暮（十二月）、ヴァージニア州

れていたということです。

軍人としてのクラーク先生はどんな人だったか気になるところです。それで、アメリカ国防省の参謀本部を止めたばかりだったレイモンド・G・スミスという戦略の専門家に、ワシントンDCで話を聞いたことがあります。資料をいろいろ調べていたスミス氏は、クラーク大佐は組織化された現在の軍隊の指揮官としては、むしろ危険な人物だ、

という評価でした。

南北戦争はこの後数年続くのですが、ここで急にクラーク大佐は退役します。一八六三年四月（二十二日）のことです。退役の本当の理由は、どうもはつきりしないんです。先生が退役した時の演説などを読むと、やはり仲間を余りにも失し過ぎたということがあると思いません。

破格の待遇で日本へ

もう一つは、これもよく知られていることですけれど、当時モリル法という法律が出来て、これは農業とか工業とかいった実業のための学校を創るのであれば、連邦の土地を州に譲るということだったんです。従つて、新たに州立の学校ができるということでした。やはりこちらの方が良い、とクラークさんは考えたのではないかという気もいた

します。従つて戦争は続いていましたけれど、クラークさんは退役して、アマーストに帰つてきて大学に復職し、翌年マサチューセッツ州の州議会議員になります。

新しい州立カレッジについては、ボストンなども強力に誘致を計つていました。クラーク議員はアマーストにマサチューセッツ州立の農学校を創ることに成功しました。そして自ら三代目の学長となりました。三代目といつても開校した時の学長ですから、実際には創立者といつてもよいと思ひます。この時代が約十年ぐらいあつたと思います。農業の一般理解を広めるために、いろいろな試みを行つていますけれど、その辺は省略させてください。

この農学校は農業の指導員を作りながら、軍事教練をやつてたんです。兵隊は集められても将校がないから、その将校を作ろうということでした。軍事教練をやつているこの学校はいいということで、当時日本から出かけた岩倉具視の使節団にも、この農学校に目をつけ見学に行つたんだろうと思います。

クラーク先生が目をつけられて、ワシントンDCで、時の公使、吉田清成と契約するのが明治九年の三月三日です。この契約書でどういうことが決つたかというと、出入り

で一年、報酬は七千二百ドルを金貨でもらうこと。七千二百円と書いてあります。当時は1ドル一円でしたから。右大臣と同じ給料になります。マサチューセッツ農学校の学長としては、多分四千ドルだつたろうと思いますから、その倍とはいしませんけれども、七千二百ドルというの大変な破格の値段だつたと思います。

それから面白いのは、契約書は和文と英文の二種類あるんですが、札幌農学校におけるクラークさんの身分について、英文の方にはクラークさんご自身の手で「ブレジデント」つまり学長である、と書き込みがある。それを吉田公使も認めるサインをしている。にも拘らず、日本文の方にも訂正があつて、「教頭即副校长」となっています。先生の身分が、アメリカ側と日本側とで異なつたまま、先生の札幌行きが決まつたというわけです。日本政府としては、多少の、あるいは多少ではないかも知れませんが、契約書の字句にとらわれている時間的余裕もなかつたのかも知れません。

実際にニューライングランドを四季を通じて歩いてみると、北辺の守備のために北海道の開拓を急ぐのであれば、やはりニューライングランドのように寒いところ、岩石が多く

く開墾の難しいところで開拓に従事した人に白羽の矢を立てる気持ちは、実に良く分かります。開拓使なり明治新政府なりに、焦りの気持ちもあつたでしょう。

一方、クラーク先生側にも、開拓使の誘いに応ずる理由がありました。当時、マサチューセッツ農学校は経済危機に瀕していて、ちょっとともう、これに手をつけるのが大変だということでした。「設備投資だとか、人材育成にお金をかけるのはもったいない」というのが、大体農業界の意向であつたようでした。つまり、お百姓さんに学問はいらぬのじやないというのがベースにあつた。ただクラーク

さんは、これを一般教養大学の形にしたいと思つて、いたから、当然寄付もなかなか集まらない。負債も嵩んできて、多分二万ドルくらい負債があつたと思ひます。クラークさんはそういう負債があつたのにも拘らず、その仕事をおいといて日本に行こうということになつたようあります。

いずれにしても、国の中で新聞に叩かれるし、何かと面白くないということもあつたでしょう。それから、何よりも、十年経つてマサチューセッツ農学校は基礎が固まつた、今度は新しい学校を札幌というところに作ろうということに非常に興味があつたんだろうといわれています。

「ビー・ジェントルマン」について

先生は、マサチューセッツ農学校の教え子、ウイリアム・ホイラーとデビッド・ベンハローを伴つて、アメリカ独立百年目に当たる明治九年（一八七六年）五月、ニューヨークランドを後にします。博覧会に沸くフィラデルフィアから、七年前にできたばかりの大陸横断鉄道に揺られ、六月一日にサンフランシスコを発ち、二十九日に横浜に着きました。札幌到着が七月三十一日。この日が先生のちょうど五十才の誕生日だったことはよく知られています。

札幌でのことは皆さんよくご存じだと思います。いろんなことがありました。黒岩涙香という人がいますけど、その人のお兄さんで黒岩四方之進という一期生が、手稲山で木の苔をとる時に靴のまま先生の肩に上つて感激したという話だとか。何れにしても、師の影を踏まずということではないということ。それからこの先生の教育方針の中で、額に汗したらお金ももらえる（一時間働くと五銭）ということ、これが士族の息子たちには非常にびっくりすることだつた、というようなこと也有つたようです。

昭和十七年に出版された「惠迪寮史」にこういうところがありました。これは例のビー・ジェントルマンに関する

ところであります。

『ここに開校に際し、開拓使仮学校時代の苦い経験を持つ人たちは、学則を定めるということは重大問題だと。ある日のこと、札幌学校の規則を持ち出して、クラーク先生の補足を願つたところ、黙つていた先生はこんな細則を設けてする教育では人間は出来っこない。ビー・ジェントルマン、これで沢山ではないかと叱咤された。先生は厳重な規則によつて生徒を威圧し、統御して、こうなどとは少しも考えなかつた。けれども、誓則や校則が全然なかつたわけではなかつた。単に開放を与えたのみではなかつた。そうして先生は規則に対する根本精神を素朴にイメージしておられる。学校は学ぶところであるから、起床の鐘が鳴ればすぐに起きなければならぬ。食事に集まる時には知らせるから、すぐに集まつて来なくてはならぬ。消灯の時間には灯を消さなければならぬ。ジェントルマンはすべて規則は重んじるが、規則でやるのではなく、自己の良心に従つてやるべきだ。こんなことは決して学校の規則ではない。紳士たるもの、みなやるべきことなんだ』ということがあつて、さらに『余は諸君を紳士と思って対するであらう』というふうにいわれたんだそうです。

私はやはり、札幌農学校の生徒たちがまず、先制パンチ

とはいませんけれど、非常にびっくりしたというのは、やはりこのビー・ジェントルマン精神ということだったのではないかと思うんです。さつき、岡部（賢二）さんもいつおられましたけど、私はこのビー・ジェントルマンといふのはおそらく、お互に信頼しようじやないか、ということじやないかと思うんですね。翻つて、例えば僕らが今惠迪寮のことを考えて非常に懐かしくなつたり、惠迪寮の仲間にについて非常に安定した気持ちを持って接していられるのは、これはやはり同じ寮の仲間に極めて強い信頼感を持つてゐるからじやないか。つまり、こういう精神というのが札幌農学校の伝統的な考え方、ビー・ジェントルマンの考え方じやないかと私は思ひます。

このビー・ジェントルマンに関連して、クラーク先生のモラルの根源をキリスト教を見る人もいます。私もそう思います。しかし、先生がアマーストにおいても特別に熱心なクリスチヤンであつた証拠は見つかりません。むしろ、先生はキリスト教以外に、生徒を導く術をご存じなかつたのではないか、と考えます。解禁（明治六年）になつたばかりのキリスト教の持つ新鮮さ、クリーンさというものが、札幌農学校の生徒たちの心を引きつけたのでしょう。キリスト教に関するかぎり、与えたクラーク先生と受けた生徒

(一、二期生) たちとの間に、そのインバクトについての落差があつたようにも思います。

「ボーアズ・ビー・アンビシャス」について

そこで、ボーアズ・ビー・アンビシャスという言葉があります。クラーク先生がボーアズ・ビー・アンビシャスといったかいわなかつたかというには、非常に議論になつてゐます。ひと頃、一九七七年ですから今から十五年ほど前に新聞紙上でも度々、ボーアズ・ビー・アンビシャスをなんで訳すのかということが出ていました。私は、自分の番組を考える中で、先生の思想・行動から大志ともとれるし野望ともとれる。大志も野望もどつちも本当だ、といふんで、番組もあるいは本のタイトルも『大志と野望』としました。

お断りしておきますが、学者の中には『クラーク先生がボーアズ・ビー・アンビシャスと云うわけはない』という説を唱える人もいます。どちらかといえば、私はこの、云わなかつた説の方に加担したいのですが、それは別の機会にします。

方。この方が旧制の第一高等学校在学中、恩師で校長の新渡戸稻造先生のところに親友の河合栄治郎さんたちと一緒に遊びにいったというんですね。明治四十二年の春のことだと思いますけど、このクラーク先生のボーアズ・ビー・アンビシャスを思い出して、新渡戸先生にいつたいどういう意味ですかというふうに聞いた。先生は『この言葉はクラーク氏の性格から考えてもそう難しく解釈する必要はない。見送りに来た学生に向かつて、諸君しつかりやれよ、といった程度だ』と。その後に面白いのがあるんです。『勿論学外の青年を相手にした言葉ではない』。つまり、送りに来たボーアイたちに、ボーアズ・ビー・アンビシャスと云つたとすれば、その程度であるといふんです。

私は、この言葉は、先生のフロンティア・スピリッツといふか、バイオニア精神といふか、開拓者魂といふか、皆同じような言葉ですが、いずれにしても先生のアクティブな精神を表したものだと思うのです。それが段々有名になり、大きくなつて、「青年よ大志を抱け」とか何とかいうんで、満蒙开拓に駆り出されるようになるというのはですね、これはクラーク先生のせいではなくて、時代のせいであると思います。

ただ、一九七七年当時の資料を見てましたら面白いものがありましたんで持つて来ました。当時、既に八十九才になつておられた東京農大名誉教授の上原敬二さんという

ふたたび日本への夢

ストに戻ります。

明治十年の五月二十五日、シティ・オブ・ペキン号で横浜を発ちました。サンフランシスコ着が六月九日です。そして二日後の十一日には、開拓使から依頼された鮭の調査のために、コロンビア河に沿ったオレゴン州のポートランドとアストリアへ出かけておられます。その途中で孵化場の調査を兼ねて、カリフォルニア北部のシャスタ山に一日で登り、山頂にメモを残しておられます。私もポートランドに出かける時、何度か旅客機の上からシャスタ山を見ましたが、四千メートルを越す高い山です。五十才を越したクラーク先生の強靭な肉体には驚嘆します。もっとも、この健康に対する自信が、後の鉱山経営での無理に結びつくような気がします。

アストリアでの調査の結果は、先生からの報告書の形で開拓使に届いています。因に、千歳のインディアン水車は、一期生の伊藤一隆さんがアメリカから齎したものですが、原形はアストリアを流れるコロンビア川にあつたようです。本場のアメリカでは、鮭を傷つけるとかで、とっくに中止されてるという話を現地で聞きました。

こうして、先生は七月二十八日、一年二か月ぶりにアマーリー

さて、先生はマサチューセッツの学長として帰るわけですけれど、さつきお話ししましたように、不安定な状態が続いていた。農業委員会の方からも、また大学の評議員会の方からも、学長を止めたらどうだ、というようなことをいわれます。初めは抵抗をしてるんです。自分としては止められる気はない、ということをいっています。『無知なる者の偏見と、無知ならざる反対者の嫉妬に抗して、自らの存在を守らざるを得ない』と。

結局、衆寡敵せず一八七九年に辞表を提出しました。辞表を出したのは一月ですが、実際お止めになつたのは五月一日だったと思います。

実はその前から、ニューヨークの資産家でジェイムス・ウッドラフという人が、洋上大学を作るという話を持つてきました。船に乗つて二年間で世界を一周して日本にも寄りますといふんで、クラーク先生もちょっとマサチューセッツ大学の方が経営的に面白くないんで、じゃそつちに乗ろうとしたんだろうと思うんです。

洋上大学の計画によると、これは生徒一人から二千五百ドルといいますから、さつき申し上げたように、学長の給料が四千ドルというんですから、二千五百ドルというの

大変な金額ですが、三百人集めてやろうと。ドイツから三千トンの船（ジェネラル・ウエーダー号）を買ってきて、一八七九年の五月八日に出帆します、ということでした。ニューヨーク・タイムズが書き立てたので（計画は一七八七年十二月二十二日ニューヨーク・タイムズに発表）人気にはなったんですけど、実際には人は集まりませんでした。申し込みが初めは百人いたんですが、どんどん減つて最後には三人とか二人とか数人とかになってしまって、出航する予定だった日のニューヨーク・タイムズに、この計画は断念します、というのが出ています。しかもジェイムス・ウッドラフという人が、中止発表後間もなく急死してしまうわけですね。クラーク先生はこの船に乗って、全てが順調に行き、今でも自分を慕ってくれる沢山の教え子のいる日本に帰ってきたかったらしいのです。そういう手紙が随分残っています。しかし、駄目でした。

クラーク社長大儲けをする

そこで今度は、一八八〇年十月、ニューヨークにいたジョン・R・ボスウェルという人と組んで、「スターラグロー・ブ銀鉱山会社」というのを創りました。社長はクラーク、事務局長がボスウェル氏です。このボスウェルというのが

どう考へても悪い奴で、アイオワ州の出身で南北戦争に将校で参戦しているんですが、戦争中に詐欺と背任横領で有罪になっている。それで軍隊を追われて、アイオワ及びシカゴで新聞記者をやっている。賭博で新聞社を追われると、ニューヨークで鉱山毎日新聞というのを創つてゐるんですね。

ご存じのように一八四九年、フォーティーナイン、つまりサンフランシスコのフォーティーナイナーズの語源ですけれども、その前年、四八年にカリフォルニアで金が見つかりまして、クラーク先生は日本への行き帰りにサンフランシスコを通つていますので、そこでゴールドラッシュをよく見てるわけですね。クラーク先生は日本から帰つて来ての報告の中でアマーストの人に、「あのゴールドラッシュというのには手を出しちゃ駄目だ。もう目茶苦茶になつてしまふぞ」というようなことをおっしゃつてます。

ところがご自分は手を出した。自分は専門家だといっておられたというんですね。確かに、子供の時から鉱石を集めたりなさつてますから、あるいは隕石の研究もやってますから、専門家には違ひない。従つて、元学長で専門家で元北軍大佐という人と、新聞社と組むとあんまりろくなことはないのかも知れない。鉱山毎日新聞というのには、どう

いう新聞だったのかわかりませんが。

クラークさんが手を出したというんで、「スターグロー
ブ社」の2ドルの株がすぐ3ドルになつて、ニューヨーク
・タイムズが書いて、アマスト・レコード社が、すぐ5ド
ルになるぞ、って書いたもんですから、瞬く間に故郷アマ
ストでの株が売れちゃつたわけですね。

時間がないので端折つていきますけど、この会社は一八
八年の三月に「クラーク・アンド・ボスウェル証券会社」
と名前が変わって、ネヴァダ州で銀山二つ、ユタ州で銀山、
カリフォルニアで金山二つ、カナダで金山、メキシコで銅
山。オリンピック並みにいうと金3、銀3、銅1というす
ごい鉱山を持つ会社になるわけです。

一八八〇年のクラークさんのアマーストにおける町民税
は一八六ドルです。これは町の中では三十何番目位です。
翌年、三〇七二ドルというんですから、十六倍以上、それ
で町一番の多額納税者になつたわけです。それで資産が二
〇万ドル。それでアマーストの人がみんな株券買って、投
じた金が二五万ドルだつたといいます。

ところが間もなくこの会社は無配になりました。これは
ストライキと過剰投資が原因になつていますね。それで後
から裁判になるんですが、その弁明書の中で先生は次のよ

うに云つてます。

『私たちは現金40万ドルでスターグローブ社を買いました
が、一八八〇年、この鉱山からは性能の悪い破碎機一台
で3万ドル相当の地金を出していました。そこで破碎機を
増やそうとしました。ところが、その機械を据え付けたと
たんにストライキが発生し、生産が落ちました。丁度その
頃、豪雨が続いて、鉱山への燃料輸送が止まつてしまいま
した。これを解決するため、鉄道を敷いて10万ドルを支
出しました。その上、新しい破碎機の運転開始が遅れ、出
費が嵩み、14万ドル使つてしましました。これは予算の三
倍で、経営に大きな支障をきたしたのです』。

つまりクラークさんとしては、このボスウェルというい
い加減な人間、これは騙しの専門家ですが、クラークさん
は黙つて見ていたのではなくて、アンビシャスの精神でア
メリカの中を駆け回つたんですね。調べて見るとよく分か
ります。出張報告書みたいなのがあるんですが、殆どアマ
ーストにはおられない。今日はユタに行って、明日はネヴァ
ダに行って、カリフォルニアに行って、というように。

実は私、ここに鉱山を調べに行つたんですけど、百年
後の今になつても、これはとても一日で行けるような所で
はないんですね。ソルトレイクから車に乗つて、ストアモ

ント銀山のあつたシルバーリーフという所まで行くのに、片道五百キロですから、完全舗装のハイウェイを時速百キロ平均で飛ばしても五時間。私、とうとうそれでアメリカのバトカーに捕まつて、罰金44ドル取られましたけれど、クラーク先生はここに行くのに鉄道に揺られ、馬車に揺られて行つたんですから、大変なものだったと思います。

しかも裁判を起されました。それでもう、心身共に疲れきつて、肺炎を起こすわけです。つまりクラーク先生は

非常に有能な方でしたけれども、やはり二十世紀が近くなつて来たアメリカの近代文明、機械文明の進歩と、それに伴う新しい労働問題に、とても対処出来なかつたんじやないか。有能な経営者とはいえたなかつたんじやないか。つまり、先生の目の届く範囲での教育というものは出来ても、あるいはマサチューセッツ州内という同質のエリアの中のことについては処理できても、時の流れとか新しい機械文明とか産業革命というものはちょっと対応出来なかつたんじゃないいか、という気がするんです。流石のクラーク先生も、十九世紀末という変動の時代には勝てませんでした。

クラーク先生が肺炎で倒れてから亡くなるまで、四、五

年位です。途中で心臓病を悪くされましたから。「私はビンの中に入つているようなものだ」というようなことをいっておられます。しかし、今申し上げたように、クラークさんのために損をしたという人が町に溢れているわけですから、誰もクラークさんを顧みようとしないわけですね。亡くなる前の年、内村鑑三さんが先生を訪ねています。「学者というより軍人のようだ」というのが、内村さんの印象です。

一八八六年三月九日、先生はアマーストで亡くなりました。享年五十九才。決してある有名な評論家が無責任にいつたように「酔っ払つてドブにはまつて死んだ」わけではありません。心臓病の悪化が原因でした。奥様も病の床にあり、寂しい葬儀でした。

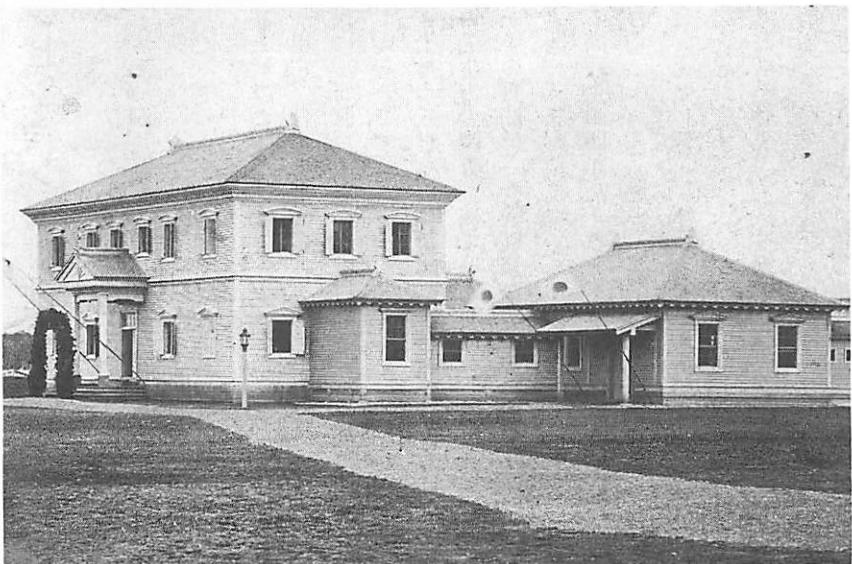
クラーク先生の偉いところは、学校作りにしても教育にしても、あるいは戦争にしても会社経営にしても、アンビシャスの精神で、ご自分で夢を、理想を実現しようとなさつたところです。

クラーク先生のキリスト教徒としての側面を重要視する人もいます。しかし私は人間としてのクラークさんに大きな魅力を感じます。先生のピューリタンとしてのビー・ジエントルマンと、バイオニアとしてのビー・アンビシャス。

これはまさに新渡戸先生がいうように『約束は守れよ。しつかりやろうよ』ということじゃないかと思います。どうか学生諸君も、これは強制するわけではありませんけれど、このビー・ジェントルマンという意識、あるいはアンビシヤスという意識でもって、これから世の中を渡つていつてもらいたいと思います。

司会者が、そろそろ止めると申しますんで、この辺で止めます。質問がありましたらお受け致します。ご清聴ありがとうございました。

(1992.Sep.19 於・札幌共済サロン)



札幌農学校北講堂（2階で開校式が行われた）=北大図書館蔵=

新渡戸と内村と宮部——そのアンビション・仁愛と道義——

切 替 辰哉

(昭和十四年入寮)

底ということです。

現在、日本に求められるビジョンは、すでに明治二十年代に、新渡戸あるいは内村あるいは宮部によって確立されているのです。

本日は盛岡新渡戸会会長の岩持静麻先生の御推挙により、新渡戸稻造命日前夜祭記念講演としてお話することができますことは非常な喜ばしいことと考えます。といいますのは私は北大を出まして現在盛岡に居ますが、北大時代私の人格形成に与えられた新渡戸と内村と宮部の精神の感化というものは非常に大きいものがありました。

最近の政治状況を見ておりますと、海部総理大臣が退陣されることが決定しました。海部総理が記者団と会見したことの中で、一つは政治倫理の確立ということで、「私は退くが、政治倫理は確立しなければならない。政治改革を成し遂げなければならぬ」。二つ目は「公正で豊かな心を持った日本であってほしい」。これは内村鑑三、新渡戸稻造とも明治の時代にすでに声を高くして言っている。第三に世界への貢献、平和主義の徹底ということです。具体的にPKOという問題がありますが、これは平和主義の徹

人格の形成、人格主義ということは新渡戸稻造が言つてゐることでありますから、私は現在の日本の状況を踏まえて話したいと思います。

十月十五日の毎日新聞に、全国の高校の倫理、現代社会の先生方の調査が出ていましたが、学校教育に何を求めるかとの質問に「受験勉強などについてではなく、人間の生き方や人格形成についての指導をしてほしい」と答えている高校生が四十パーセント近くもいるというのです。青年の心の中にこのような欲求があるということに驚きました。それに対応して我々の教育方針を立てなければならぬいと思ひます。

人格の形成、人格主義ということは新渡戸稻造が言つてゐることでありますから、私は現在の日本の状況を踏まえ

私と北大そして札幌農学校

私は昭和十四年に北大予科に入学し、すぐ北大恵迪寮に入り三年間の予科生活を終えました。そこで内村鑑三、新渡戸稻造、宮部金吾という札幌農学校（北大の前身）北大二期生の感化を受けたのです。さらに昭和十七年に一年間遠友夜学校の習字の先生として勤めました。この学校は新渡戸稻造がメリーハ夫人と共に創立した貧しき青年のための学校です。昭和十六年十二月八日に太平洋戦争が勃発した状態でしたから、ここで学ぶ人はわずか二十名ほどでした。私は終戦とともに医学部を卒業し、内村鑑三の長男で東大精神科の教授だった内村祐之先生が作った北大精神科の教室に残りました。昭和二十一年に内村および新渡戸の弟子である矢内原忠雄教授（のちの東大総長）の講演を聞くことができ、内村、新渡戸、宮部さらにその後輩の人々の感化を受けた北大学生時代は私にとっての全てと言つてよいほどで、感謝しています。さらに昭和十四年の夏、私が北大に入学した年に北大の佐藤昌介総長のキリスト教による大学葬が農学部の講堂の前で行われました。佐藤昌介は花巻出身の北大札幌農学校の第一期生で後年北海道帝国大学の総長になつた人です。私は偶然岩手に来て今暮らしてい

ますが、すでに岩手県出身の偉い人の影響を受けていたのだということを感じています。

仁愛と道義の校訓

遠友夜学校は札幌農学校や北大の学生がボランティアで先生をかけて出て講義するという伝統があり、新渡戸稻造が貧しく学校に行けない青年たちのために学校をつくり勉強させたいという精神で建てたものです。しかし昭和十八年に国指導で廃校に決まりました。生徒の一人だった山口森平が後に「遠友夜学校回顧」を書いています。その中に「あの仁愛と道義の校則こそ永久にわれらの子孫に、いや日本の民族の指導目標になるまでわれらは待ち構えるだろう生死を越えて」という文章を残しています。私の講演の「そのアンビション・仁愛と道義」というのはここから採つたのです。

新渡戸稻造の英文の著作『武士道』の第三章に「義」がありますが、矢内原忠雄の訳したものが岩波文庫の中に収録されています。「義」の最初の文章に「孟子は“仁は人の心なり、義は人の道なり”と言ふ」から採つたのではないかと思う。「仁は人の心なり」はつまり愛のことと、「義は人の道なり」は正義の道、道理と言つても良いとおもい

ます。ようするに新渡戸稻造は愛と正義あるいは愛と真理を説いているのですが、これこそ三人に共通するアンビションなのでないかという気がします。新渡戸と内村と宮部は札幌農学校の第二期生として親友であり一生変わらざる友情を保ち続けた人たちですが、そのアンビションは「愛と義、愛と正義、仁愛と道義を根本精神として国と同胞に尽くすことだ」としたと結論づけることができると思います。

札幌農学校

札幌農学校は明治八年に創立されています。東京には東京英語学校といい後の東大になる大学予備門というような学校があり、そこに入っていたのですが、札幌に新しい学校ができたということで三人はここへ入学したのです。札幌農学校の特色はご存知のようにウイリアム・S・クラークの「ボーワーズ・ビー・アンビシャス」という言葉で語り継がれていますが、そのクラークの弟子たちが、日本で活躍し、後年日本の精神の手本となる人たちがたくさん出ています。

札幌農学校の特色は三つあります。一は科学、サイエンスです。すなわち科学を收め、産業をとおして近代日本の

建設に貢献するということです。

二番目は平和主義あるいは人道主義ヒューマニティに基づいた人格教育をしたということです。そして一般教育が行われ、すなわち教養教育を重視し、哲学、倫理、プロテスタント教育理念を取り入れたということです。

三番目は明治八年の北海道でクラークの指導の下に逞しいフロンティア精神が養われたということです。

このサイエンス、ヒューマニティ、フロンティアの思想が数々の人材をうみだしている。わが国の近代精神の黎明に当たり、正しい方向付けをしたということで私は高く評価しています。この中から新渡戸、内村、宮部、などたくさん的人材が輩出しました。戦後その感化を受けて矢内原忠雄、田中耕太郎、南原繁、天野貞祐などが輩出しています。

この方々は新渡戸稻造が一高の校長で東京帝国大学の教授時代に学んだのです。この人々が戦後影響を与えたことの中に教育基本法の制定が挙げられます。昭和二十二年三月に教育基本法が制定されました。人格の完成ということを中心としたかったのだそうですが、教育基本法の第一条、「教育の目的、教育は人格の完成を目指し平和的な国家形成者

として真理と正義を愛し個人の価値を尊び勤労と責任を重んじ自主的精神に満ちた心身共に健康な国民の育成を期し「われなければならない」という名文があります。ここに心身の健康な国民ということは人格主義教育をバックボーンにしていることは非常に感銘深く感じられます。

新渡戸稻造

みなさん良くご存知のとおりですし、たくさんのお説書があり、内川氏の解説書もありますので、改めて言うまでありませんが、北大における新渡戸稻造について述べてみたいと思います。

中津川の向こうに新渡戸稻造生誕の地という緑地がありますが、その説明文に「新渡戸稻造は文久二年、一八六年、南部藩士新渡戸十次郎の三男としてこの地に生まれ、祖父は青森県三本木で三本木開拓の父と仰がれたひとであるが、稻造は祖父の開拓事業に因み最初は稻之助と称した。稻造は農政学を選考し農学博士、法学博士の学位を受け、札幌農学校教授、京都帝国大学教授、第一高等学校長、東京帝国大学教授、東京女子大学長として青年の教育に当たつた」と書いてあります。そこで一言抜けているのではないかと思うのですが、札幌農学校を卒業したとは書いていません。ドイツの大学は神学が基礎になつてゐるのですが、

新渡戸稻造はジョーンズ・ホブキンス大学に学びましたが、どういう訳か農業を学習の目的にしなかつた。史学あるいは文学を学んでいます。それは後年『武士道』を著作し、あるいは倫理問題に指導性を發揮する所以になつたのです。

続いてドイツのボン大学で経済学を学んでいます。ベルリン大学では、農業史および農政学、統計学、農業経済学を学んでおります。ベルリンに行きたくなかったということもあります。代わりに南ドイツにあるチュービンゲン大学にゆこうとしておりました。ここは私が学んだ所でもあります。ドイツの大学は神学が基礎になつてゐるのですが、

最も重要な青年期の人格形成の基礎になる札幌農学校における教育ということを書いていないので、訂正方をお願いしようと思っています。

ここも神学が盛んな大学で、稻造はここに留学したかったのだそうです。そこで新渡戸が目指すところは単に農政学、農業経済学だけではなく、もっと広い問題を目指していたと言えます。その後ハレ大学に行っています。このような研鑽の結果、明治十八年に六年ぶりに帰朝し、札幌農学校の教授として農政学、植民学、あるいは経済、英語、倫理を担当し、図書館の主任をされ、寄宿舎の舍監をしています。

このなかで新渡戸が重点的に考えたことの一つに農学部の基礎を築いたことです。後年の北海道大学の基礎を作ったのです。次は人格主義あるいは教養重視の教育方針で倫理エシックを本格的に講じ、多くの学生に感銘を与えました。毎週土曜日、屋上に時計台のある演武場に集まつて様々な話しをしたということです。これは座談会のようなもので新渡戸の該博な知識と透徹した人格からほとばしる説は、後に一日一言の主要な著述になつて現われています。新渡戸はカーライルのサー・ターリザーティスという哲学を学び、学生に講じました。非常に話が上手だったということですで、ここに新渡戸稻造の実践倫理という言葉に現されるような講義をし、青年の心を引き付けたのです。この段階ですでに倫理学の講義を重視したということは、今日日本の社

会で問題になっている政治倫理、経済倫理、もちろん教育倫理、医療倫理などいろいろな倫理問題が考えられつつある現状にあります。すでにこの時に新渡戸はこれを重視したのです。そのほか新渡戸はスミス女学校の経営に参画しています。スミス女学校は現在の札幌の北星学園大学の前身であり、私が札幌にいましたころは北星学園といいました。これは米国長老協会伝道協の婦人宣教師サラ・クララ・スミス女史によって明治二十年に開設された学校です。後年スミス女学校と呼ぶようになつています。メリーフ夫人とスミス女史との親交関係で新渡戸もこの教育に携わったということは文献に載っています。スミス女学校の教育方針は生徒にあらゆる方面の有能な知識を授け実生活においてあらゆる義務と責任を果たし得るように教育することにある。また生徒に及ぼす宗教的影響は本校において最も重要なものである。この二つの理念は良い学校において実現されるであろうし、そうされるべきであろうーと書かれています。新渡戸はこの学校を大いに後援したようですが、キリスト教的に教育するということは、キリスト教徒としての日本人を育成することだったと言われております。このようにキリスト教的教育というものは決して日本人の教育に障害を与えるものではないというのが新渡戸の主

張する教育です。ミス女学校の実践で女子教育に自信を付けた新渡戸稻造は後年、東京女子大学の初代の校長になり、日本の女子教育に大いに貢献したのです。

二番目は北鳴学校と新渡戸稻造についてです。北鳴学校というのは北海道炭鉱鐵道株式会社社長堀基(ほりもとい)が創立者ですが、昔の尋常中学に相当するものでした。堀は新渡戸を經營の中心に求めて教育を任せたということです。新渡戸は知的教育よりも人格教育に重きを置き、いつも注意を払ったのは健康だったということです。健康といふのはクエーカー精神のことと、これを規律ある生活に求め清潔、節度、理性を倫理の時間に説いたのです。なおスポーツを奨励し、野球、スケートを奨励した。青年の勇敢な気風を養い卑屈になることを止める。スポーツ精神を涵養したというのが新渡戸の教育でした。人間的、道徳的な性格の形成を重視して、人物が高尚であれば、学問はなくても恥ずかしいことはない。成績は落第にこだわらないとして生徒をいましめたということです。この学校はその後に学制改革により、札幌では札幌第一中学校、札幌尋常中学校、函館では函館尋常中学校、後年の函館中学校、後年の札幌南校になるわけです。

新渡戸は専門家になることをむしろ軽視したと書いてい

るのですが、実証主義に立脚した現実的な教育を説いたようです。とくに植民政策原理を講義していますが、徹底した人間尊重と原住民の利益尊重を理念にしました。このようにして新渡戸はキリスト教的ヒューマニズムと儒教的な武士道精神と札幌農学校の開拓精神とを持つて、新渡戸稻造の生来の教育者としての資質とが融合され、偉大な教育的活動を生涯に亘って展開したというのが実情ではないかと思います。

内村鑑三

内村鑑三は二十巻の『内村鑑三全集』を残されました。その中のエッセイを採った「内村鑑三所感集」があります。岩波文庫に出ています。その一つに「眞理は神の属なり。眞理を保存し国家は滅ぶるもまた興り、その反対に眞理を放棄して国家は榮えるが遂に死す」という言葉があります。なぜかこの言葉が私は好きなのです。日本の思想史における内村鑑三の地位というのは、矢内原忠雄が書いた「内村鑑三と現代」の中の一つの文章ですが、「内村鑑三の歴史的役割は三つの点から考えられます。日本と新日本の福音を説いた」とあります。要するに武士道とキリストの福音を説いたとあります。

ト教、キリストの福音を説いて一生を終えた人と言えます。武士道の精神とは義を重んじること。義を重んじるということは大きく言えば神の義を重んじることであると言つてあります。

さらに二番目は東洋日本と西洋の国々とを結び付けてい る。彼は英文の著作『代表的日本人』を書いていますが、その中に中江藤樹、二宮尊徳、上杉鷹山、西郷南洲、日蓮 を紹介しています。五人はそれぞれ旧い時代の日本人を代 表する人ではなかつたでしょうか。内村鑑三はアマスト大 学に入学しますが、その前に白痴院、現在の精神薄弱児施 設に看護者として職を奉じたことがある。後年、内村鑑三 の息子である内村祐之東大教授が『本当の教育者と問われて』を朝日新聞に掲載されたが、その中に「私の父鑑三も 若いころ白痴教育に従事し、愛情と忍耐こそ眞の教育に価 値のあるものであるとし、教育を志す者に対しては、文部省は まず白痴教育の体験をさせるべきである」と書いている。こ のことは幼児や少年の教育にあたってはもつとも核心的な ことである。幼い頃を振り返つて誰もが懐かしいものは、 こうした愛情に溢れた先生であろう。私はすべての人に善 意と愛情を抱き得る人のみが眞の教育者であると言いたい」と書いています。

内村鑑三はシユペイツァーに心を奪われたが、このふたりはともに迫害をうけ流浪の時代を体験するが、最後に天職であるキリストの伝導を発見する。内村は嘗々三十年間 「聖書の研究」を発行しつづけた。

宮部金吾

宮部金吾は東京御徒町の武士の子として生まれ、昭和二十六年に没しました。札幌農学校の二期生です。三人を別々に論じては何もならないのであえて彼の名を入れました。宮部は北海道帝国大学農学部教授で、植物分類学者、植物病理学者、海藻学者として広い意味の植物学者として 名声を馳せた。また北海道大学の多くの門下生を育成しました。この中に小麦を研究した京都大学の木原均などがい ます。昭和十二年一月十八日昭和天皇に御進講した。宮部はこのような学者として自然科学者としてまさに理想的な 人格を完成させて亡くなられた人だと思う。現在、科学と 宗教が大きなテーマとなると思う。特に私たち医療に携わる者には宗教を度外視しては考えられない。

新渡戸稻造が後年札幌を去る時に、宮部は旧友新渡戸の 友情の下に遠友夜学校の経営に参画している。北大の青年 寄宿舎を作り、ここでは信教の自由をみとめ禁酒禁煙をモ

ツトーとした寄宿舎にしている。もちろんその底に新渡戸、内村、宮部と共に通したキリストの精神があった。

宮部金吾は昭和二十六年、一九五一年三月十六日の満九十歳の高齢でこの世を去った。かれはその生涯に見るようにならぬ悠々と我が道を行く君子人であった。したがつて、内村去り、新渡戸去り、その他の同期生がことごとく世を去つた後も最も長寿に恵まれ「愛は寛容にして慈悲あり」というコリント人への第一の手紙の愛唱の句の通り穏やかにこの世を去つていった。

札幌の西の丘陵、円山公園の一角に宮部金吾の墓があり、

宮部金吾の名は宮部保子と並んで刻み込まれている。

北大恵迪寮そして札幌農学校寄宿舎

自治と自由（自治寮の源流）

私は昭和十七年の三月までの三年間ここにおりました。

ここはすべての学生の自治によつていました。そこに流れる精神は自治と自由でした。「明治九年ウイリアム・S・クラーク氏が着任するや、舍生一同を集め訓示した。『余は諸氏をして、紳士をもつて対するだらう。ビー・ジエントルマンゆえに寄宿舎においても特に繁雑な規約を設けようとは思わぬ。諸氏、各自自治をして本分を尽くせよ。』

すなわち舍生の自治はクラーク教頭の教育方針であった。と「恵迪寮史、第一章自治の興り」の中に書いてある。新渡戸稲造は舍監としてここに勤務し、常に自由主義をもつて学生を導き、環境よろしきを保つていた。

平素、学生と教官の間は親密で、学生はしばしば教官の自宅を訪問し教えをこうた。このような伝統はわたしが入寮していた昭和十四年から十七年の間も同じ様であった。まだ宮部金吾名誉教授が元気なころで自宅を訪ねて夜遅くまでお話しを聞きました。

内村鑑三著「後世への最大遺物」

内村鑑三は明治二十七年三十四歳の時、重要な一つの著述と講演を行つてゐる。著述は英文の『代表的日本人』、講演は七月に箱根芦ノ湖畔での「後世への最大遺物」です。これは岩波文庫に収録されている。私は恵迪寮に入寮した当時、図書室に内村鑑三全集二十巻があり、私はなぜか内村の雄願な文にひかれた。「我々は後世に残すべきものはないにも無くとも、我々の後世の人にはこれぞといつて覚えられるべきものが何も無くとも、あの人はこの世の中に居る間に真面目な生涯を送つたと言われるだけのことを後世の人々に残したいと思います」。この内村の言葉はその後の私

の人生観となつてゐる。「何かこの世に記念物を残していただきたい。それならば何人にも残すことができる最大遺物は勇ましい高尚な生涯である」。これが講演の要旨だが、普遍的な実践倫理の教訓である。

これと同じような講演が新渡戸稻造によつてもなされてゐる。昭和六年五月十六日、最後に札幌を訪問することになつてしまつた時、北大中央講堂で『母校に帰りて』と題する講演を行つてゐる。

鳥居清治氏が最も感銘を受けたのは「人生の目的は地位や名譽や富を得ることではなく、心豊かな人間として完成することである」という言葉だということだ。これは内村と同じ様な実践倫理の普遍的な言葉ではないかと思う。

遠友夜学校

遠友夜学校はメリーフ夫人との志によつて建てられた学校である。メリーフ夫人はフィラデルフィアのエルキンントン家の令嬢で、クエーカー教徒の家族である。私財をなげうつて多くの人を助けたが、その中の一人孤児を引取り家族同様に育てメリーフ夫人と姉妹のように暮らしていた。その孤児が死亡し、遺言によつて貯金千ドルを残し、二十六年に送金されてきた。豊平川の右岸に民家と土地を借り入れて、

教え子である札幌農学校の学生有志と共に教育を始めた。

その後遠友夜学校はこれら札幌農学校、北大生徒有志によつて続けられ、最終的に昭和十七年授業停止命令が下つたが、それまでに千五百人ぐらいの生徒を教育したという実績がある。

私は医学部の一年の時、学校の庶務をしていた小林君に誘われて一年間勤めた。もう戦争の最中だったので生徒は二十人前後に減つていた。

昭和八年十月十六日午後八時に（日本時間）ビクトリア・ジュビリ病院で亡くなつてゐるが、新渡戸の永眠の状況については、私の北大時代の一級下の後輩であるブリティッシュ・コロンビア大学の和田淳教授が二、三日前に来盛し、語つていたが、和田君が赴任した時に学長に真っ先に言われたことは、新渡戸先生を顕彰する新渡戸庭園があるということだった。新渡戸の話を聞いて新渡戸稻造の感化を受け、彼は「私は日本に帰らない」と言つてゐた。彼が新渡戸が最後に入院した病院のカルテを探したが見当たらなかつた。しかし、内川永一郎氏によれば、外務省に新渡戸の病歴が残つてゐるという。

新渡戸稻造のレリーフが青少年ホームにある。

新渡戸稻造の実行力は不滅であり、遠友夜学校の精神で

ある仁愛と道義の校訓は人類の有る限り、恐らく日本の有る限り、日本がはつきりと目覚めなくてはならない現在において重要な思想であり行動であつたと考えられる。

ないと思う。それがすなわち愛と義、仁愛と道義であると強調したい。ご静聴ありがとうございました。
(平成四年四月二十日刊の「盛岡新渡戸会報」より、筆者の了解を得て転載)

矢内原忠雄講演『内村鑑三と新渡戸稻造』

昭和二十一年九月二十一日に北大講堂で矢内原の講演があつた。この時私は北大を卒業し北大の精神科に残つていて聞くことができた。講演の内容は『内村鑑三と新渡戸稻造』という本の中にまとめられている。

新渡戸はビジョンを持たなければならぬという言葉を残した。内村は日本國の隆盛と宇宙の完成を祈るという言葉を残した。さらに矢内原はビジョン・アンビションは潔めなければならないとした。我々は正しいビジョン・アンビションを持たなくてはならない。

正しいアンビションとは仁愛と道義であると言つてよいだろう。

結

現在日本は最も普遍的な価値觀は何かを忘れている状況にあり、文化、倫理感覚の崩壊が起つてゐる。今こそ新渡戸、内村、宮部の精神に立ち返つて考えなくてはなら



左から新渡戸、宮部、内村(明治16年・東京)
=北大図書館蔵=

敗戦の教訓をめぐつて

栗原一雄

(昭和十三年入寮)

昭和十二年に始まつた支那事變以降、惠迪寮に過した者として、思い浮ぶことは戦争との関連である。當時、図書室で「改造」、「中央公論」などの○○、××などできりばめられた論文を見ながら、これは一体どんな字が書かれてあるのかなどと思いをめぐらしたものである。私が惠迪寮を去つた後、日本は昭和十六年十二月、大東亜戦争に突入した。そして僚友を含めて幾多の知人が散華して行つた。

敗戦後、書物、報道などから知つた情報の中で、もつとも残念に思うことが三つある。

その一は、松岡外相の日ソ中立条約の際の経緯である。

松岡外相は昭和十六年三月に東京を出発し、モスクワ経由でベルリン、ローマを訪問した。

外相がベルリン滞在中に、四月在欧陸軍武官会議が開かれた。会議は当然第一の問題としてドイツが英本土に上陸するか、それともソ連に向かうかということであった。全

員が英本土上陸を主張する中で、小野寺武官が只一人ソ連に向うと確信のほどを披露したが、誰一人相手にする人はなかつた。ドイツからのある補佐官は「自分は大島大使のお伴をしてドイツ側の案内で英本土対岸の港々を視察したが、どこにも船がいっぱいであつた。これらはみな上陸作戦用だと説明された」と云つて、小野寺武官は英米の宣伝に迷わされてとんでもないことを言うとまで明言したといふ。三年後、小野寺武官は独軍幕僚から「ドイツ大本營の方針は日本に対し英本土上陸作戦を印象づけるため、大島大使に逆宣伝をしたのだ」と聞かされて納得がいったと云う。そうしてまでドイツは意図的に日本に独ソ開戦を悟られまいと苦心していたのである。

(以上①小野寺百合子「バルト海のほとりにて」による)
松岡外相はモスクワで、四月十三日、日ソ中立条約を結んでいる。そして独ソ戦は六月二十二日に開始された。正

しく、日本は情報戦に敗れたりである。しかも松岡外相は独ソ戦開始後、日ソ中立条約を棄てて、ドイツ側に起つて、ソ連を攻撃すべしと云つてゐる。

その二は、日米開戦の通告遅れである。米国は開戦前の一年以上も前に、日本の外交暗号を解読していた。

所謂最後通牒はワシントン時間で十二月七日午後一時に米側に通告するよう日本の駐米大使は訓令されていた。しかし電報の翻訳などに予想以上の時間がかかり、野村大使よりハル国務長官に通告されたのは午後二時二十分であつた。真珠湾攻撃開始は七日午後一時二十分であつた。因に米国大統領の手許に日本の通告電の翻訳がどどいたのは七日午前十時五十分であつた。

この最後通告の一時間の遅れが「騙し討ち」「リメンバー・パールハーバー」のルーズベルト先導による米国民の大合唱の根源となつた。日本にとって、歴史に残る痛恨事である。

その三は、ソ連の対日参戦についてである。昭和二十年二月、米英ソの三首脳によりヤルタ会談が開かれた。スウェーデン駐在の小野寺武官は、その席で決議されたソ連の対日参戦密約に関する重大情報即ち「ソ連はドイツの降伏より三ヶ月を準備期間として、対日参戦する」を入手し、

それを中央に送つた。

(以上①に同じ)

昭和二十年六月下旬、日本政府はソ連を仲介役として和平工作に入る方針を定めた。七月、当時海軍航空隊にいた私は、士官室に集められて、近衛公を特使として和平工作のため、ソ連に派遣する予定であると聞いたのを覚えてい。しかし、ソ連は果して信頼に倣するかと秘かに思つた。結局、この話はソ連首脳部に回答をはぐらかされて終つた。ソ連はドイツ降伏後、歐州で不用になつた軍隊や軍需品をヨーロッパ戦線からシベリアに向けて大量に移動させていた。

ヤルタ会談のソ連参戦の小野寺情報は一体どうなつたのであるうか。正しい情報処理がなされていたら、ソ連参戦もなく、敗戦の様相も一変したものになつていてあらう。私はこの三つこそ、廟堂に立ちて大政をなす者が、大東亜戦争の教訓として、敗戦後国際舞台において生き抜くたために、生かさなければならぬものと思う。

日本の最近の首相が諸外国において、英雄記念碑とか、戦死者の記念碑に献花などすることはあるとも、首相が靖国神社に公式参拝することはない。一体、何処の国の首相

かと思う。事あるごとになされる外国よりの内政干渉的言
辞に屈して、大臣の更迭とか、土下座的処置がなされる。
一応日本と云う独立国でありながら、恰も他国の従属国で
あるような様態を呈している。

日本の各都市に狙いを定めて配置されてある核の性能向
上のために、核実験を繰返す中国に対して、孤立させては
いけないなどと云つて、援助を出し続けている。

そこへもって来て、最近の謝罪外交ブームである。

これらは諸外国は善良の塊であり、日本は惡の塊である
と云う東京裁判史觀に基くものではないか。従つて、現在
の日本の政治は、日本の誇りをはぎとり、日本国民を無間
地獄の道に陥れるために行われていると云つても、過言で
はない。現況のままに推移せんか、その先に待つのは日本
国家の滅亡であり、日本国民の奴隸化である。戦場に散つ
た人々のその死は何のためであつたのか。

しかし、一方で、東京裁判の未発表の裁判資料の編纂、
刊行の事業が着々と進行しているようである。この刊行に
より、所謂東京裁判史觀が覆えり、日本の前途に一筋の光
明がさすこと希うものである。

これが靖国神社にねむる寮友を始めとする各位の鎮魂の
基となれば幸であると考える。



二十一世紀の展望

繁富一雄

(昭和六年入寮)

夢と希望に燃えた青春の恵迪寮の生活を偲び乍ら、会報の筆を取つた。然し既に二十世紀は終わらんとして居り、来る二十一世紀に向けて考える時であると思う。

私は北海道帝国大学工学部機械科の出身であり、現在原子力発電所、火力発電所、水力発電所 etc. の建設が仕事であるので、二十一世紀のエネルギーについて述べることにする。

吾々人間の文化的生活には、エネルギーを考えないで過ごせない。と同時に、吾国の企業の発展も又、エネルギーが貧弱では世界から取り残されてしまう。先ず第一に電力である。電力を作るには原子力発電所のウラン、火力発電所の石油と石炭が原料となるが、之は五十年から百年で枯渇してしまうと云われている。残りの水力発電所は全電力エネルギーの三分の一しか占めていない。従つて、五十年から百年後に水力発電所のみに頼るとすれば、現在の豊か

な生活の三分の一になる訳で、到底人間は生活して行けない。現在の原子力発電所はウランを原料とした核分裂に依つて高熱を出し、電気に変えてエネルギーにする訳である。之を、ウランの原料を使用せず、核融合に依つて撰氏何億度もの熱を出す事が出来るとすれば、之こそ素晴らしい発見ではないかと思う。核融合については全世界の科学者が研究に没頭して居るが、日本の研究グループも中々負けて居らず、世界のトップ級になつて居り、実に心強い事である。核融合の権威、山科俊郎教授(後述)の言を借りると、太陽や星のエネルギーは核融合に依り生じて居り、若しこの核融合を地上で実現出来れば十億年以上エネルギー源として用いる事が出来るとの事。核融合の原理を少し説明すると、水素などの比較的軽い原子を衝突させると、比較的重い原子を発生し、その際莫大なエネルギーが放出される。之が核融合の反応である。之と逆の反応が、核分裂反応で、

重い原子が軽い原子に分裂する時、エネルギーが放出される。之が現在の原子力発電所の原理であつて、ウランが原料とされている。核融合反応の最も起こり易い重水素と三重水素（トリチウム）の核融合が開発される事が、当面の目標である。その時原料となる重水素は、海水の中に無尽蔵にあり、燃料確保には全く心配がなくなる。

さて、先般宇宙船に乗った毛利衛君の名前は記憶に未だ新しい事と思うが、当時彼は北大工学部原子力工学科高真空工学講座の助教授であった。高真空工学講座の教授が山科俊郎君で、吾庭球部の後輩である。その山科教授が日本に於ける、否、世界に於ける核融合の権威者であり、實に誇らしい話である。

この様に、二十一世紀の未来を考える時、日本には鈍才は必要ない。俊才が欲しい。英才教育を考えるべきである。

遅まき乍ら、文部省は大学院大学の設置を考えて、東大、京大、北大の三校に対し、大学院大学を作る事を認可した。旧帝国大学六校の中の三校に北大が入った事は、卒業生の吾々に取つて、実に嬉しい事である。恵迪寮が沢山の英才を育て上げたが、之から吾母校北大が日本の俊才教育の柱となる事を心から願つて擱筆する。



北海道大学はどう変わろうとしているのか

——『北大のルネサンスを目指して』を読む——

高 村 泰 雄

(昭和二十五年入寮)

北海道大学は、平成七年度から一般教育を主として担当していた「教養部」を廃止して「学部縦割り体制」に移行し、入学試験も学部別に行なわれることになる。

この新しい北海道大学の教育・研究体制については、平成六年三月に公表された『北大のルネサンスを目指して――北海道大学の現状と課題――』(平成五年度)というパンフレットにその概要が説明されている。

それによると、この教育・研究体制は「学部一貫教育」と「大学院重点化」という二つのキーワードによつて表現することができ、後者については「将来は本学のすべての教官がそれぞれの大学院に籍を置き、大学院における教育・研究を本務とし、学部は純然たる教育組織として再編成される方向に向かって進みつつある」とされている。

そして、平成五年度には、従来の環境科学研究科と理学研究科のいくつかの講座を母体として「地球環境研究科」

が新設され、理学研究科に植物学専攻・動物学専攻・高分子学専攻をまとめて「生物科学専攻」が誕生し、「大学院重点化」がスタートした。

さらに平成六年度には、理学研究科で物理学専攻が新しい「物理学専攻」に改組され、地質学鉱物学専攻・地球物理学専攻が「地球惑星学専攻」に改組され、また工学研究科では金属工学専攻・応用化学工学専攻・合成化学工学専攻が「物質工学専攻」と「分子化学専攻」に改組され、全学的に年次進行で着々と進んでいる。

一方の「学部一貫教育」構想については、

- 1 一般教育等を含む学部教育の改革
- 2 新しい教育課程の展開

- 3 学部一貫教育体制への転換に伴う諸問題
- 4 全学教育の実施組織

などの四項目にわたって多くの頁を割いて詳細に説明されている。

そして、平成七年度から移行する新しい「学部教育体制」への転換の要点については、

① 4年ないし6年の学部一貫教育

② 学部別学生編成と入学試験

「一般教育科目」を廃し「全学教育科目」の導入

③ 「教養部」の廃止と学部責任体制の確立

④ 全学教育センター及び学務部の設置

以上が、「北大のルネサンスを目指して」で説明されている北大改革の骨子であるが、「大学院重点化」による研究体制の改革は、その改革によつて北大が国際的にも国内的にも水準の高い研究成果をどれだけ多く産出できるかによつて比較的に短時日で評価し得るが、「学部一貫教育」による教育体制の成否は短時日の評価には馴染まない。

この「学部一貫教育」構想は、戦後昭和二十四年に発足した新制大学の教養課程として今まで四十六年もの長い間北大方式としてユニークな一般教育を担つてきた「教養部」（教養学科・一般教養学科・一般教養部・教養部など名称は目まぐるしく変つたが）を廃止し、各学部の責任による「学部一貫教育」体制のなかに包摂しようとする

もので、いわゆる『北大のルネサンスを目指して』の主要な内容を成すもので、北大の将来にとって最も重要な課題となるものである。そこで、ここでは主として「教養部」の廃止に伴い「一般教育科目」に代わる「全学教育科目」を担う全学教育の実施組織に焦点を合わせ、その概要を紹介するとともに、それらの問題点に対する私見を述べみたい。

さて、『北大のルネサンス』が目指す「学部一貫教育」による各学部の新しい教育課程には専門科目、教養科目、基礎科目、外国語科目、及び健康体育科目があるが、このうち、複数学部の学生を対象として共通の内容をもつて開講される教養科目、基礎科目、外国語科目、及び健康体育科目を「全学教育科目」と呼び、教育課程における位置づけや担当教官等について全学的に調整し、全学的な協力によつて実施することになっている。

一旦「教養部」を廃止し、全教官を大学院及び学部教育に位置付けたあとで、このような「全学教育科目」を担う全学的実施組織を再組織することは至難の業であり、事実このことが北大改革の最大の焦点になつてゐる。当初の「全学教育センター」構想は、専任の教官がセンター長（副総長）一人だけという貧弱なものであり、概算要求としての

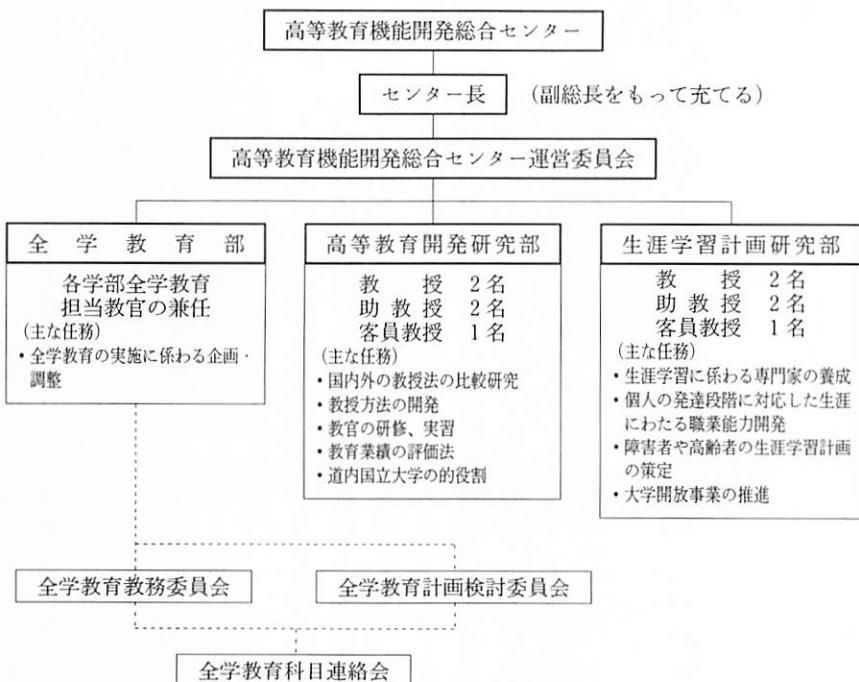
体を成しておらず、文部省の受け入れるところとならなかつたようである。

ようやく昨年になつてから、教育学部が主体となつて提出していた全学センターである「生涯学習計画研究教育センター」と合体し、更に理学部・工学部・農学部など幾つかの学部の積極的な教官定員の拠出などの協力を得る事ができ、図のような新しい「高等教育機能開発総合センター」構想がまとまり、平成七年度から実現の運びとなつたのである。

「全学教育科目」は、このセンターの「全学教育部」における関係委員会においてそれぞれ企画され、調整を受け、各学部の担当教官の兼任によつて実施されることになる。

しかし、このような方式は、従来の「教養部教官会議」における担当教官全員による安定した実施責任体制とは全く異なるものである。即ち「運営委員会」は、各部局長クラスで構成され、「教務委員会」も各学

北海道大学高等教育機能開発総合センター（組織図）



部の代表教官と全学教育科目群の代表教官で構成され、「全学教育計画検討委員会」及び「全学教育科目連絡会」もそれぞれ各学部の代表教官及び各教育科目の代表教官で構成されることになっており、「全学教育科目」を担当する全教官が一同に会する場が全くないのである。

これでは、担当者自らが全く係わることなく作成された教育課程によって「全学教育科目」を担当することになり、大半の「全学教育科目」担当の教官は非常勤講師的位置付けにならざるを得ず、「全学教育科目」の実施責任体制は弱体化するのではないか？

従来の「教養部」を担当していた教官が在職中は、かれらの力量によって、なんとかその水準を維持出来るかも知れないが、世代の交替が進むにつれて、新任教官の大学院に対する帰属意識が強くなり、「全学教育科目」の水準を維持するのは難しくなるであろう。

大学における一般教育は、絶えず専門的に研究しなければ、その水準を維持することはできず、大学全体の教育機能の低下は免れず、総合大学は単科大学の寄り合い世帯にすぎなくなってしまうのではないか？

東京大学や京都大学が、「大学院重点化」の大学改革を着実に実現しつつ、多くの問題点や制度的矛盾を抱えながら

らも、より高度な「一般教育」の形成を目指し、それを担う専門的な全学的組織をそれぞれ「教養学部」とび「総合人間学部」として再編したのは、大変賢明なやり方だったのではないであろうか。

五年、十年と年月が経つうちに、北大の弱点がボディーブローのように効いてきて、東大や京大に更に水をあけられるのではないかと危惧せざるを得ない。

しかし、「教養部」の廃止に踏み出してしまったからには、「全学教育科目」を一層高度に維持し、北海道の中核的な大学としての教育機能を十全に發揮するため、全学的な支援のもとに北大だけに新設されるユニークな「高等教育機能開発総合センター」の組織と機能を充実する知恵と努力を惜しんではならない。『北大のルネサンス』の成否はまさにこのことにかかっていると言つても言い過ぎではないと思う。

（平成六年十一月三十日）

恵迪寮への意見と期待

はじめに

恵迪寮!! その名は我々の世代のものには大変懐かしい響きをもって想いだされ、常に青春時代の一コマともなる。私は昭和三十年四月九州より遙々と津軽の海を越えて遊学の地札幌へやつて來た。入学と同時に恵迪寮生となる。昭和三一年二月、考える所あつて一時退寮し再び同年十月に再入寮した。その在寮期間は約一年半であつた。学部では月寒寮に二年間滞在して獣医学部を卒業した。学窓を離れしていくつかの職場を経由して現在北大医療短大に勤務し、また全学の学生委員のメンバーともなつてゐる。学生委員会内では第二小委員会に属し、直接寮問題とはタッチしてはいないが、過日恵迪寮同窓会通信で会誌“恵迪”発刊のニュースを知り、さらに学生部長深沢和三教授のすすめもあつてペンを取ることにした。

恵迪寮に関するレポートを書くためには先ず現場を見ることが肝要と考え一度訪問して見たいと思つた。今年の九月頃、部の後輩に恵迪寮を見たいのだがと頼んだところ、今は自治会の連中がうるさいのでまずいといって敬遠された。そこで時の到来を待つことにした。恵迪寮祭にそのチヤンスが訪れ、最後の十一月十三日に所々部屋を散見してまわつた。

その時出会つたどの寮生も個人的には皆好感の持てる人物ばかりであり、現寮生との間の約四十年の年令差をあまり感じさせない或る種の共通した親近感を抱いた。あちこちに敷きつめた畳に圧等された。最近入居したばかりの女子寮生が早くもかなり自然に寮へ適応しているように思われた。この時、寮生のひとりが教えてくれたところによる

末 永 義 圓

(昭和三十年入寮)

第八六回恵迪寮祭を見学して

と、一般に、A・B・Eの各棟は部屋の集団的利用者が多く、一方C・D棟は孤立的利用者が多いそうであった。A棟からE棟までの定員は各々九八名で計四九〇名となり、その内訳は教養生二七〇名と学部生二三〇名であるが、近年これらの各部屋には空室が一〇〇室以上もみられ、女子惠迪寮生が誕生する動機ともなった。F棟は別格であり大學生五十名と留学生四十名が在住し常に満室となっていた。

惠迪寮の現状と課題

北大では惠迪寮を含めた各寮（北学寮、進修寮、桑園學寮、月寒學寮、楡影寮、有島寮、北晨寮、及び女子寮等）の老朽化が進んでるのでこれらを建替えるべきかどうかについて学長より諮問が学生部委員会へだされ、昭和三七年十二月十八日に学寮建設準備小委員会が発足した。一方、このころ文部省は学寮の管理運営規則と負担区分の適性化について通達をだした。この後、歴代の学生部長を始め学生部委員、学生部事務官と寮生との間に様々なやりとりがあり、途中全国の大学紛争は寮問題に油を注ぐこととなり益々複雑化してしまった。昭和四九年（一九七四）十一月

十八日には惠迪寮北寮棟から出火し六室を全半焼した。その後も、かなりの混乱を経過してもなお多くの未解決の問題を残して昭和五八年三月三一日（一九八三）新しい学生寮（恵迪寮）へ移転して行つたのである。それから満十一年を経過した今日でもまだ解決されていない問題、また新しく発生した問題などをあげると次の様な課題が考えられる。

①入寮選考について

これは管理運営の根幹にかかる問題と思われる所以簡単に解決しそうはない。我々が入寮した昭和三十年代の前半までは全く問題がなかった。法学部の教授に納得のいく様な解説をしてもらつたら如何であろうか。

②寮部屋の完全個室制　これは新寮建設以前には出ていない問題であつたが、経験的に予測されることであつた。すなわち教養生は集団部屋を望み、学部生以上は個室を希望するものが多いと思われる。このことは、空室の問題、畳の問題、食事の問題が関連しているようと思われる。各棟を個室部屋と四～五人部屋の二種類に改築することによって案外解決するかもしれない。前恵迪寮のように各部屋に番号を付けて在室者名を記載することによって寮生の実態がより明確になる

であろう。十年に一度くらいは大々的なオーバーホー

ムスビ

ルが必要ではなかろうか。

③教養生、学部生、大学院生、留学生の同居について

教養生とその他の学生では学生生活の実態と目的が異なっているようと思われる。両者の寮は区別したほうがトラブルが少なくてよいよう思う。過日、他大学

卒業の院生から学生部長宛に”学生寮における騒音の停止を求める要望書”と題して厳しい投書があつた。太鼓、蛮歌、コンバ、とくに水産追い出しコンバなどの環境破壊活動により騒音性ストレスが原因とおもわれる円形脱毛症にかかったというものであつた。

④寮生の自家用車所有について 寮生は現在多数の自家

用車を所有している。大学では学生の車による通学を許可していない。しかるに、寮生のみはガードマンの前をフリーパスである。学内交通委員会で未解決のひとつとなつてゐる。

⑤恵迪寮在住の担当事務官 担当事務官と寮生との間に

トラブルが生じて、事務官が寮を離れてかなりの歳月が経過している。このまま良いはずがなく、いずれ修復して正常な勤務につくことが期待される。

恵迪寮は本来の予科、教養生のみに限定し、学部学生とは分離独立する。学部寮は学部学生、院生のほかに、留学生と女子学部生の大幅な増加が予測されるのでこのことを十分考慮する必要があらう。

一九九四年五月一日現在の北大学生数は教養生五、五九五（一、三三三）人、学部生五、七五七（一、一七七）人、修士二、三〇二（三〇七）人、博士一、二八三（一七二）人、研究生九五〇（二〇一）人、留学生四四四（一一〇）人、及び医療短大六三一（五〇四）人である。日本人全体の生活レベルは著しく豊かになった。今最も寮生活を必要とする学生はどのようなタイプの学生であろうか。（一）は女子学生数。



恵迪寮の野球部の先輩たち（其の一）

河合正恭

（昭和九年入寮）

明治六年、札幌農学校の前身、芝・御成門の開拓使假学校で米人教師ペーツ氏が生徒にベースボールの手ほどきをしたのが、本邦野球発祥の定説ともなっているが、この野球技が明治九年札幌農学校の開校と共に北海の地に渡り、早くも開校初期の頃から東都各校に先んじてベースボールが最も盛んなスポーツとして行われるようになつた。これは、農学校の第一期生の伊藤一隆、小野兼基、荒川重秀がペーツ氏直伝の弟子であつたことにも依ろうが、クラーク博士と共に来日したベンハロー教授が可成りの野球通でルール等にも詳しくコーチ役を務めたことも大きく力あつたものと思われる。然し乍ら、何んと云つても寄宿舎生活と云う土壤がベースボールの発展には缺かせない重要な存在であつたことは想像に難くない。

筆者は昭和十三年刊行の「北大野球部史」の編纂に携つたが、明治三十四年文武会設立に伴う野球部の誕生以前の

記録・資料は全く乏しく、明治二十五年発足のベースボール会に就いての僅かな記事（恵林第一号及び第六号）により当時の状況を知り得たに過ぎなかつた。その後、野球部の大御所、橋本左五郎、松村松年などの先輩により当時活躍した人達の名前も明らかになつて來た訳であるが、恵迪寮同窓会名簿が整備されたお蔭でそれ等の人達と寄宿舎・寮との関係も判明して來たので、ここに寮と野球部の先輩たちにつき若干取纏めて見ることとした。殆んどが姓名の羅列になつて興味薄いものとなつて仕舞うかとも思われるが、北海道球界の先駆となり今日の野球部の基礎を築き、又、寮の自治発展にも多大の貢献をした先輩たちの名前だけでも承知して戴ければ幸と思う所である。

（註）爾後は先輩に対する敬稱は省略させて戴くこととし、人名の後の（ ）内の年次は恵迪寮同窓会名簿に従い入寮年次を示し、Mは明治、Tは大正、Sは昭和を指す。

前期農学校第一期生の伊藤一隆、小野兼基、荒川重秀（M9）は、ベーツ氏よりベースボールの直接指導を受けた訳であるが、第一期、第二期生の時代は、勿論人数も少なかつたせいもあるが、ベースボールを行つたと云う記録は見当らない。所が、第三期生（M11）、第四期生（M13）の頃になると、早くもベースボールは校内唯一の盛んなスポーツとなり、河村九渕（M13）の回想に依れば、「学生を甲乙両班に分け、放課後は演武場前のローレンで毎日堂々と試合を行つていた。甲班の投手は尾泉良太郎、捕手は細川紋五郎（M13）、一塁は渡瀬庄三郎（M13）、乙班は投手・堀宗一（M11）、捕手・頭本元貞（M13）、一塁は河村九渕が務め、これにより心身の鍛錬は勿論、不言裡にスポーツマンシップが重んぜられ、苟も学生の対面を穢すような行為に陥ることはなかつた。」と云うよな記述がある。これ等の人達は皆寄宿舎生であるが、二班を編成したからには、その他のポジションにも殆んどの舎生が加わつてしたものであろう。尾泉は後の農学校教授、頭本は「寮史」の変り種人物小伝の項に記載有るよう、「ジャパンタイムス」の創始者として有名であるが、本邦最初のゴルフ教

本「護留夫図説」の著者であることは最近始めて知つた。護留夫の宛字も面白い。

第五期生から第七期生の間では、石渡朗、和田健三（M16）、寺尾熊三、藤村信吉（M17）が技に勝れていたと云われている。和田及び藤村は後に水産界の重鎮となる。

明治十八年の入寮者即ち第八期生の野球人には、橋本左五郎を始めとして足立五郎作、今村猛雄、榎原伸、高林甲子郎、長屋平太郎、横山莊次郎がおり、明治二十年の入寮者（第九期生）の荒井寅治、宮崎太郎、同二十一年（第十期生）の小田切栄三郎、田口於兎吉、村越銃之輔らが當時活躍したと云われている。特に、藤村、荒井は投手、宮崎は捕手として鳴らしたそうである。

橋本左五郎は筆者の在学時代に於いては、野球部の大元老格で前記野球部史の達筆なる扉文字は同氏の揮毫によるものであるが、大学予備門入学の前、夏目漱石、中村是好等との小石川新福寺に於ける自炊生活仲間である。後に中村是好が満鉄総裁の折、明治四十二年漱石は是好より満鉄の見聞に招かれ、橋本は蒙古の畜産事情調査を依頼されて渡満、調査終了後、漱石と再会し二人で旅した時の様子は、漱石の「満韓ところどころ」に面白く記されているのは、先刻ご承知のことと思う。また、橋本と寮との関係は極め

て深く、初代恵迪寮時代の明治三十八年から大正九年に至る長期間、学生監として事ある毎に寮の諸問題に対する相談役となり、寮の自治発展に尽され寮生に親しまれていたことは「寮史」の随所に伺うことが出来る。筆者は昭和十一年の開識社で興味深い講演を伺つたが、直接お会いし往時のことどもを拝聴する機会を失したことは今以つて残念に思つてゐる。野球部の名簿では橋本左五郎、高林甲子郎が筆頭部員として名を連ねてゐる。

この時代のベースボールは、使用球は現在同様に硬かつたが、無論グラブもミットもなく、素手素足か精々足袋裸足で、投手は下からの掬い投げ（この投法をピッチと稱す）で、現在のソフトボールの投手の投げ方に近いものと想像される。然かも一球一球、打者の要求に応じハイアーボール（眼から乳まで）、ミドルボール（乳から腰まで）、ローボール（腰から膝まで）を投げ分け、この範囲を外れて打者が見送ればボールが宣告される。当時はボール九球で一塁へ出塁となり、ストライク四個でアウトとなる所謂四ストライク・九ボール時代で、捕手はワンバウンド捕球の頃である。アンパイヤーは投手の後方に立ち一人で一切の判定を下していた。

橋本左五郎に次いで野球部及び寮にも多大の影響をもたらしたのが松村松年である。恵迪寮同窓会名簿では松村の入舎は明治二十四年となつてゐるが、明治学院から札幌農学校への入学は明治二十年である。この時代は札幌農学校の学制の変り目で予備科が五年制の予科になつたり、農学科の他に工学科、農芸科等も出来た頃で、松村松年も予科修了後、始め工学科に進み直ぐ農学科に転じたようである。松村の卒業は明治二十八年であるが、「私は明治学院から札幌農学校に入り、九年間絶えず捕手を務めた。この間、既に東都では採用されていたのだが、投手の投球方式をスローライニング（手を肩より上に揚げて投げる方式所謂オーバースロー）とし、捕手の捕球を・ダイレクトキャッチに改革した」と云うのが御自慢であつた。筆者も前記部史編纂の折、東京渋谷の松年のお宅を訪ね、この様な話を含め往時の回顧談をうず高く積まれた蝶の標本と書籍の間に挟つて拝聴した。九ボール出塁のルールも徐々に数が減り、

現在の四球出塁となつたのは、本邦では明治二十四年である。また、ストライクゾーンの要求も明治二十二年に廃止となつた。松村は明治二十五年ベースボール会発足の際の中心的存在であったと云われ、卒業後は寄宿舎の舍監を務め寮の発展に貢献し、昆虫学の大家として文化功労者であったことは申すまでもない。

この頃の名手には、末田新松、山田幸太郎（M23）、若林功（M28）、河田恵一（M29）の名があり、寮外生の遠武勇熊、佐々茂雄（旧制函館高等水産校長となる）は松村とバッテリーを組んだそうである。次いで入寮の東海林力

蔵、半沢洵（M30）、高村倫治（M33）、江刺家昂、影山滋樹、村山正二、住友璋一、米山豊（M34）、安部忠一、素木得一（M35）等は野球のみならず寮の自治運営に大きな足跡を残している。

寄宿舎は明治三十二年から自治制が採られ此處に第一期委員会の誕生を見た。当初の委員会は委員長、事業委員、賄委員、衛生委員の四名により構成されていたが、東海林

は第四期、半沢は第六期、高村は第七期、米山は第八期に

夫々事業委員を務め、影山は第十一期賄委員、素木は第十四期会計委員を務めるなど、野球部員が連続して委員に名

を連ねているのは注目される。

半沢は後の農学部教授であることは御承知の通りであるが、初代の寄宿舎生徒係を務めている。米山は後に岐阜高等農林（旧制）の校長となつたが、当時はブレイヤーと云うより音聲朗々たる名審判として有名であつたと云われてゐる。後日、米国に在留研究中、松村松年に寄せられた書

簡にも「渡来比方野球試合は欠かさず見物致し居り候。私はフィールディングより審判官の態度に興味を覚え申候。云々」との記述によつても、当時の名審判の姿も何んとなく想像出来る。

明治三十四年には農学校に文武会が設立し正式の野球部の設置を見、部長に松村松年教授、主任には影山滋樹がなつた。松村松年は大正十年、予科チームが桜星会野球部として独立する迄野球部長を務め、文武会（本科）野球部長を高松正信（M38）に譲り、本人は新設の陸上競技部長となつたが、野球部の試合、会合には何時も出席し、定年まで野球部との縁は切れなかつた。

初代恵迪寮時代の初期

明治三十六年七月、寄宿舎は現理学部前に移転のため一旦閉鎖、一年九ヶ月後の明治三十八年四月、装いも新たに開寮となつた。従つてその間の明治三十六年、三十七年の入寮者はいない。然し、野球部の活動は盛んに続けられ、札幌師範、札幌中学、北海中学等を糾合し連合野球大会を開催するなど、野球の指導的役割も果してゐる。

寮が新設されるや、野球部員としては、既に明治三十四

年入学の高松正信、岡本半次郎、橋渡正農夫、吉田守一、また、明治三十五年入学の片桐嘉晴、行田又三郎、明治三十六年入学の牛渡日出太郎、小林正規、森岡光信、明治三十七年入学の木田小四郎、末光信三等の名手が一挙に入寮し、野球部は寮内で大所帯を占めるに至った。高松は当時の中心的存在で、後の畜産の教授であるが、入寮するや直ちに第十四期炊務委員、第十七期会計委員（同時に吉田守一は庶務委員、岡本半次郎は炊務委員）、翌三十九年第八期の委員長（同時に岡本半次郎は庶務委員）として活躍、明治四十年、恵迪寮最初の寮歌「一帶ゆるき」の作詞者である。又、明治四十一年より有島武郎の後任として寄宿舎係も務めている。

その後、板倉勝則（M39）、加藤茂雄、丸山猪之輔、吉見貞治（M40）、荒木忠郎、福羽発三、田中次郎（旧姓渡瀬）、水田進、柳沢秀雄（M43）、岡見聞多、徳岡松雄、樋口桜五、堀三千雄（M44）、木原均、一色周知、大場義夫、荒川鎌吉（M45）等明治末期の錚々たる先輩の入寮と共に、寮外生の名投手稻田昌植（佐藤学長の長男）佐藤清（佐藤学長の甥）、戸野琢磨等により、高松コーチの下、愈々野球部黄金時代の現出となり、また、これらの部員に依る寮の各分野に対する顕著な活躍を記述せねばならぬが、今回はこの辺で一先ず筆を擱き次回に譲ることとする。



北大野球部の投手だった木原均(大正4年)

恵迪寮と木原均先生と私

辻 山 昌 佑

(昭和二十六年入寮)

一九九四年即ち平成六年十月二十二日土曜日午後四時、いや五時頃か、時もはつきりしない空氣の中で、同期の中瀬篤信君がグラスを片手に『オイお前、同窓会誌、恵迪』に原稿出せ。お前は本屋なんだから。河原が原稿集まらなくて困っている。中瀬君も河原君も昭和二十六年(一九五一年)四月、北大恵迪寮入寮の同期で、中瀬君は寮時代は寮務部長でかつ恵迪十傑の一つ尊猛恵迪に選ばれ馬の轡を首にかけられた写真が残っている程の人物で、今は恵迪寮同窓会の代表幹事で市立札幌病院の心臓血管外科医。私も然としても恐ろしくてと思うのですが。又河原君は寮時代は炊務委員の部屋に、今は恵迪寮同窓会の会報・文集担当部会の幹事で新創刊会誌『恵迪』部会の会長、コーブさつぼろの役員です。

今日は第三回目と思うのですが恵迪寮同窓会東日本大会で、横浜の山下公園の岸壁に繋留されている氷川丸の船中

が会場。大会実行委員の一人石川舜君(昭和三十二年入寮、テレビ朝日勤務)にきくと大体三百人程集っているとの事。午後三時に始まった大会は今や演説?あり、寮歌あり、懐旧談あり、寮歌あり、現況報告あり、太鼓あり、陣羽織あり、寮歌あり、トリンケンあり、女性もあり、旗・幟あり、初対面あり、名刺交換あり、ネーベンあり、次第に酔(睡)眼・朦(耄)朧。午後六時下船の実行委員苦心のスケジュールも早や狂い始めてる模様です。原稿が集っていないなら小生の如き平凡なる恵迪OBでも書いても構わないかと思いつゝも、怠けものの小生のこと、書くと約束したらエライことになると心の隅で意識が働いてると見えてウンともスンとも返事はなし。今こうして筆を進めていますが、これから十日程を経って原稿締切日の十月三十一日の夜になっています。この調子では明日一杯はかかる一日の夜が完成、二日投函がよい所でしょうか。書き上げたら締切が

過ぎても何とか河原さん、会誌恵迪に載せて下さい。

大体この恵迪寮同窓会に出席するとか、寮歌祭に出席するとか、それも遠い所から出席するという人間は、北大の大地北海道に懼れ北大の寮歌「都ぞ弥生」に恋い焦がれるとかで、寮時代は寮委員をしたとか寮歌気狂い、寮オンチなんですが、小生は北海道の田舎町胆振支庁の伊達町、今は人口三万五千人の市ですが、その旧制中学から新制高校へ「都ぞ弥生」も知らずして、只々いかに安く生活できるか丈を念頭に、家からの仕送りゼロとして恵迪寮への入寮願いを出したら運よく北大と恵迪寮へ入れた訳でして、更に又入寮してからも、寮にも、寮歌にも馴染み親しみ、感激することなく、アルバイトに精を出し、教養学部の理類からどの学部にも進部できるよう物理のフル単位から図学、はては中国文学に至るまで、多くの単位をアルバイトのための欠講とバランスをとつて最低合格ラインの可でパスするという、寮を愛する人から見たら全くつまらぬ寮生であったのです。寮の行事にも非協力ですし、数多くの友人を作ろうと努力するでもないそんな寮生でしたが、マテヨ、しかしあの頃大半の寮生は多少の違いはあっても小生と同じではなかつたのかなとも思い直して、そんな恵迪寮生の一人である小生と恵迪寮との関わりを書いて見ようと

思うのです。
恵迪寮はどこかで小生を形作っているに違いないと思うのです。何せ今回も大阪・門真市の住いから横浜まで新幹線で三時間、そして大会のプレイベントであるバスツアーノも参加するため前夜から一泊できているのですから。
バスツアーハ寮の先輩、コムギのルーツを発見した、生命科学、遺伝の権威、故木原均先生の遺した木原生物学研究所を見学するもので、大会実行委員の見識は、流石であります。

木原先輩は寮歌集で見ると大正二年寮歌（一九一三年）「幾世幾年」の作歌で（作曲は柳沢秀雄君）、一九一二年に予科入学、恵迪寮に入寮し、一九一八年農学科（生物学）を卒業し同年大学院に入学、この年コムギの研究を始めています。この間豪腕投手として鳴らし、又スキーのジャンパーとしても活躍、二年後京大理学部へ助手として移られ、その後京大農学部教授として一九五六年まで、同年静岡県三島の国立遺伝学研究所長になられて一九六九年まで、一九九七年七十六歳で退官後は今回見学した生物学研究所にて一九八六年九十三歳で亡くなられる迄一生研究をされたのであります。東京、横浜に来られましたら是非足を伸ばして頂きたいと思います。先輩の三女、木原ゆり子理事が研究

所におられます。

研究所は三々四町歩（ヘクタール）もありましようか、横浜市こども植物園と併されておりますが、化石植物のメタセコイヤの並木があつて、うつそつたる緑の中、研究所の裏に故先輩の自宅があるという素晴らしい環境で、自宅から研究所へ通い、興いたれば夜遅くまで研究し、或いは又家でアイデアが浮べば朝早くても研究所へという生活ではなかつたかと想像いたしました。小生の様に民間の営利会社のそれも営業部門で過した者から見ますれば、大学教

授を始めとする学究の方々の生活は真に素晴らしい思われます。このメタセコイヤは三十年生程との事で花をつけていますが、中国四川省で一九四五年に発見され挿木で日本に植えられたもので、日本では三ヶ所京都東本願寺と宝塚に植えられているそうです。東本願寺は戦前一九〇二年の大谷探検隊の西域探検と関係があるのでしょうか。



木原生物学研究所にて

木原先生の業績を聞いて驚くのは、その内容については小生の如き門外漢にとって分かりませんのですが、その論文・著書の多さでしかも亡くなれる九十三歳まで発表されていることです。論文では京大時代の三十五年間、五十五年までに一六三、国立遺伝学研究所長時代の十四年間、六九年までに一三三、退官後木原研究所時代亡くなれる迄一七年間に一一四合計四一〇の論文であり、九一、九二歳に各三の論文を発表されておられるに至つては、長寿社会となつた現代において徒らなる長命は老害ではないかと思つてゐるのでですが、その様なことは全く感じられぬことがあります。小生の如き凡人も少し意を強くした次第です。先生は卒業後も国際スキー大会に日本代表として参加、全日本スキー連盟会長、冬季オリンピックの選手団長をされた他、内蒙ゴ、カラコラム・ヒンズークシ、コーカサス、

南米スリナムなどの植物探検をされている他、諸外国の十
以上の研究機関の会員をされたり、海外での講演を数多く
されておられる所を見ますと、広くいろいろの事に興味を
もたれる博物学の方でもあったと思われます。

先生の事を記した「一粒倉主人・写真譜」が研究所から
発行されていますのでおすすめしておきます。

尚研究所は来年、同じ横浜市内ですが舞岡に移転されま
すので、現在の研究所建物を記念保存するための資金を集
めたいとのこと、その節はよろしくお願ひします。今この
研究所は横浜市に寄付され、横浜市立大学の研究所となっ
ていますが、奇しくも現横浜市長は昭和二十一年入寮（土
木）の高秀秀信氏でありますので何となるでしょう。

尚木原均博士生誕百年を記念して木原記念財団学賞が
設けられ、第一回受賞は昨年、大阪大学医学部教授野村大
成博士「ガンの後世代への伝達に関する研究」に贈られま
した。賞金は二百万円です。木原研究所への通信は〒二三
二横浜市南区六ツ川三の一一二の二〇、横浜市立大学木原
生物学研究所TEL〇四五（七四一）五〇八二、FAX（七
一五）〇〇二二。

日々の小生の現状生活を省み、いたく感銘いたしました。

感銘しても凡人としては変らないとは思っています。所で

小生が北大生の折、亡父と北大キャンパスの理学部前、工
学部横の小川寄りのエルムの下あたりに歩いて参ります
と、亡父が「この辺りに木原先生の養蚕室があつて仕事を
したのだがね」と話をことを聴気に憶えています。父は
明治三年生れで松本の蚕業大学卒業後北海道に来ていま
すので二十歳とします。木原先生は明治二六年の生れです
から北大農学部を卒業し大学院へ入られたのが大正七年二
十五歳、大正九年二十七歳で京大へ行かれています。七歳
の差がありますので、そうしますとこの頃木原先生は蚕の
研究をしていました事になります。先生の業績記録にはこの頃
蚕についてはなく一九五三年（昭和二八年）に「蚕の遺伝
学」についてコロンビア大学招待の米国、カナダ旅行での
講演及び「蚕とショウジョウバエの遺伝学の比較」論文が
あります。この養蚕室は存在したのか否か。殆んど己れの
ことを話すことのなかつた父の貴重な、亡父と小生を北大
で繋ぐ糸であります。私事ではありますがご存知の方は教
えて頂ければ幸せです。母は元気でおりますが父との結婚
前のことで知らぬ、北大との関係は知らぬと申します。昔
の、明治の夫婦関係とはこんなものなのでしょうか。現代
では考えられぬことであります。

「都々弥生」の四季と色——世界の色・北のいろ——

神 善 司

(昭和二十六年入寮)

恵迪寮からホテルマンへ

日本が国連に加盟したのは、一九五六年であるが、事實上、世界の一員として認められたのは、その五年前、六十番目のユネスコ加盟国として迎えられた、一九五一年である。この年が、私の入寮の年であった。

現在、国連の加盟国は百八十四カ国である。これに非加盟のイスラエル、バチカン市国、トンガ王国などを加えて、日本が承認している国は百八十八カ国になる。このうち、半数の九十カ国余の人が札幌を訪れている。もちろん、個人的來訪も含めてであるから、その国の数だけの国旗を用意する必要はない。

私のホテルでは、八十カ国を揃えている。「北大を見下ろすホテル……」と揶揄されるが、「いや、石狩湾を遠望してゐるのだ」と言いながら、キャンバスの縁に培かつた青

春の想いを、わが身に取り戻している。恵迪寮時代には、夢想だにしなかったことである。

私も、「恵迪寮卒」と言つてゐる人間の一人ではあるが、入寮二年目の夏、工学部に進むことになった。集団赤痢の発生で、全寮禁足になり、申込状況の掲示も見に行けない。他人まかせの学部選択であつた。

電気工学を学んだ私は、東京の私鉄に就職した。地元の北電が内定しているのに、国鉄の本社面接に行き、それも断つて東京西郊の小私鉄に入ることになったのは、そこに電気一期の先輩が居て、挨拶に行つたがために他ならない。四十年たつた今でも、当時の北電や国鉄の関係者に申し訳がない思いをしている。

積極果敢、開拓精神旺盛な先輩技術者のもと、小私鉄であつたが故に、施設の近代化や自動化、駅業務の省力化にいち早く取組み、国鉄の先駆となつた。そして私自身、鉄

道技術プロバーの業務を卒業して了つた。結果、ディベロ

ッパーとして、企業内転進をし、今の札幌のホテル用地を買つた私は、ホテル事業に携わることになつたのである。

国旗と絨緞

外国の客が多くなつたこともあるが、東西冷戦の解消後、民族の独立と紛争が盛んになつて、TVの映像は、各国の国旗を色鮮やかに伝えてくる。スポーツの中継でもそうだ。そんなことから、世界の国旗を勉強し始めた。

国旗の図柄や色を調べだすと、政治体制、民族宗教、歴史など、背景にあるものを勉強せざるを得ず、だんだん深

みにはまる。大変なことになつたと思しながらも面白い。

世界の国旗の色は、濃淡は別とし、赤・青・黄・緑・黒の五色が基本である。白地に五色の輪で、五大陸を表わす、このオリンピックの旗の色と同じである。血の色が風化した茶色とか、黄金を意味する橙色など、例外はあるが、本はこの五色である。

客を差別する訳ではないが、ホテルでは、赤い絨緞を敷いて貴賓を迎える。これがどうして赤なのか？よく判らない。英國の影響を受ける前から、インドでは、赤は高貴な色である。國會議事堂を赤絨緞というが、これは必ずしも

高貴な人ばかりとは思えない。

白なら葬式になるし、そうでなくとも、教会の結婚式のバージンロードのようで、娘の手をとつて歩かねばならない。黃色、これは工事現場への案内と間違われる。緑色は無難であるが、ゴルフ場の表彰式で、グリーンの上に緑のかーペットでは、様にならない。

やはり、赤に限る。雛飾りの絣の毛氈は、人形の白い顔を引き立てる。菜の花の黄色や薄緑の葉にバランスする。桃や桜の色にも合う。赤は全てを包んで、調和する。

赤色

赤い色は、世界の四分の三の国旗で使われている。白地に赤（または赤地に白）一色だけの国は、日本のほかに、インドネシア、スイス、オーストリア、デンマークなど、十数カ国だが、他の色と組合わせて用いているのを含めると、百四十カ国におよぶ。

しかし問題は、国旗に関する限りほとんどの国が、赤に、革命と戦いと血を意味していることである。太陽とか花の、陽のイメージは、日本、モナコ、インドネシア、韓国など、數カ国にすぎない。もつとも、カナダのように、赤いカエデの葉の両サイドの、太平洋・大西洋を意味する海まで赤

にして、一色ですませた例もあるが、大部分の国旗の赤は、血の色である。中立国スイスも戦いの赤だ。

赤い絨緞も、戦勝者が勝ち取った、流血の国土を意味するのではないか？ちなみに、五十年前、マッカーサーが厚木基地に降り立つたときのカーペットは何であつたか？さすが米国は、当時の映像をカラーで撮つてある。しかしカーペットは敷いていなかつた。

モスクワの赤の広場。戦車のパレードを映す、ソ連崩壊前の報道は、革命の血のイメージで伝えるマスコミが多かつた。赤色をロシア語で、クラスヌイと言うが、クラスヌイは「美しい」の意もあることを知らないジャーナリストがいるのだ。煉瓦色で赤みがかつてゐるが、「血の広場」でなくて、「美しい広場」の意味なのだ。

初冠雪の大雪山・旭岳を彩るナナカマドやイタヤカエデの赤は見事である。美しい。やはりカーペットは赤で良いのだ。

赤と青

国旗の色で、赤に次いで多いのは、青である。半数の国が採用している。ギリシャや大洋州諸国のように、海の国として青一色の国もあるが、大部分は、赤と併用している。

仏・英・米を初め、帝制時代に戻つたロシアの旗もそうだ。大国に多い。

赤が陽であり、情熱であり、戦いであるのに対し、青は理性であり、希望であり、平和である。だから国連旗の色は青である。米国五十州の州旗を見ると、北部に青系統が多く、南部に赤系統が多い。これは各州の民族性・風土を反映していると考えられる。

希望の青は、「空の青も、海の青も、近付いて手にする」と消えて了う（谷川俊太郎）」得難いものもある。それが故に、ロイヤルブルーと言われる高貴な色である。

しかし一方、ブルースが黒人哀歌であり、ブルークリスマスというと、男一人の寂しいクリスマスでもあるよう、ネガティブな色でもある。赤と同様、青にも二面性がある。

西洋の宗教美術画で、聖母マリアの衣装に注目してみるとよい。白い衣装は、受胎前のマリアである。キリストを抱く聖母マリアは、血の通う人間としての赤い衣に、人間を超えた存在の天国を示す、青いマントを着けている。

二面性のある色も、組合わせると、意味がはつきりしてくる。

初冠雪の旭岳にも青がある。白雪の上の蒼空がそうであ

り、紅葉の下の沼の碧がそれである。白雪に赤と青がある。

黄色と緑

世界の国旗の四割が採用している黄色は、富と力と太陽を意味している。ライオンのイメージであり、黄金であり、稔りある沃土である。アフリカや南米の諸国で多く採用している。中国の旗は赤地に星である。星の黄色は、天子の色でもあり、高貴な色である。

緑も四割の国で使っている。緑は地球創世と同時に、太陽の恵みを受けて現われた色であり、総ての生物が死滅しても繁茂する色である。国旗では、イスラムの国の色であるが、自然と富と安定を希求する国の色もある。

旭岳の秋。黄金の太陽をも凌ぐ、カエデの鮮やかな黄色と、隈笹・這松の濃淡の緑に、赤が加わって、唐三彩を凌ぐ北の色である。

黒と白

黒を採用している国は二割ある。アフリカやアラブ諸国のはかに、ドイツやベルギーがある。团结の強さを表わす色としている。黒はあらゆる色を含み、すべてを吸収する。

谷川俊太郎は、「黒はピリオド、終りの色である」と言

うが、私は「同時に、次の文章の始まりの色である」と思う。ブラックホールは、宇宙の終焉であると同時に、宇宙創世でもある。

日本の歌舞伎では、黒は無いものであると約束している。舞台の黒子は、存在しないものを意味する。フランスのバントマイムは、存在しないものを白で覆う。彼我の違いだ。確かに白は、存在を示すものではない。白とは何か？雪でない。雲でない。塗られた白でない。塗り残された白でない。空白を示すものでもない。しかし白には可能性がある。

総ての色、黒をも引き立たせる色である。「黒人を白くする唯一の方法は、白人が心を白くすることである（トマス・ペイン）」

私は、黒も白も北の色であると考える。中国の方位・四神の思想では、東を青龍、南を朱雀、西を白虎とし、北は玄武としている。玄は玄人（クロウト）である。白は、古事記に「因幡の素兎」とあるように、素即ち素人（シロウト）である。可能性を持った素人が、伝統や家元に縛られないで玄人になれる。北海道には、そんな気質と風土がある。

五色

中国の四方の色は、相撲の四ッ房の色で、日本に残つてゐる。黄色は天子の色として、中央に位置する。緑が無い。これは、碧も翠も石として区別しないからである。

日本の交通信号でも、青と緑は定かにしていない。進行信号を、道交法では青色灯火としているが、鉄道信号ではグリーンのGとしている。

ともあれ、赤・青・黄・緑・黒の五色は、世界の国旗の色であり、五輪旗の色である。わが「都ぞ弥生」にも、五色が詠われている。ただし、緑が無く紫がある。しかもその紫が二度出てくる。

「都ぞ弥生」の色

「都ぞ弥生の雲紫に……」。明治五年、今の芝公園に、北海道開拓仮学校が開設された。十四歳から二十歳の青年を募集する、春三月十日の布達である。桜にたなびく花霞を、北の淨土を志向する紫雲に見立てたのである。「紫の雲路にさそら琴の音に浮世をはらう嶺の松風（新古今）」の、この紫である。

横山芳介君作歌の、その二番が「豊かに稔れる……」秋

であり、三番が「寒月かかるる……」冬であり、四番が「牧場の若草……」の春である。その中に色、「濃き紅」「青き繁み」「清白の雪」「桂の新緑」「眞白の花影」がある。

そして五番が、「朝雲流れて金色に照り……今しも輝く紫紺の雪に……」の冬である。冬、はるか東の山なみに昇る朝日は、一瞬、黄金の光を発して暗灰色の雪を紫に染める。冴えた良質の黄金が、ときとして紫に発色する。朝日と雪が合体して、その紫色が作られる。紫紺というより紫金である。「竜宮の紫磨黄金を取つて鋳立て給いし鐘の声（用明天皇）」の、この紫金である。この五番に、金色の黄色があり、紫が詠われている。

「都ぞ弥生」の四季

ところで、一番「都の春」、二番「秋」、三番「冬」、四番「北の国の春」ときて、五番が「冬」なら、わが「都ぞ弥生」には「夏」が無いことになる。従つて、五番は夏でなくてはならない、と言う人が居る。紫紺の雪は、紫紺の雲の誤りであるといふ。

この説によると、春、都で志を立てた青年は、秋、北海道で学び初め、冬、春を越して夏、栄えゆく寮を去つて行く。学期も九月からの制度であるからといふ。

私はそれをとらない。都から来て学ぶ青年には、北の夏は無い。夏は帰省している、というのはこじつけとしても、春から秋へのつながりの中で、北海道の涼しさは夏を感じさせないのだ。「連なる山脈玲瓏として」の玲瓏はまた、冬の澄んだ寒氣の中での陵線でなくてはならない。濃き紅の花にたなびくおぼろの紫雲にあこがれた青年は、冬の雪にも紫を覗たのである。

むらさき

北の国には、総ての色がある。しかし私は、わが寮歌にある紫こそ、北の色であると考える。春、雪が融けて現れる土に、一番咲く、可憐なエゾエンゴサクは淡い紫色である。ライラックも、ラベンダーも、リンドウも、秋の山ブドウも、色相に差異はあっても紫である。

北海道の、弱そうではあるが鋭い、かつ清涼な日の光が、植物をして紫を作る。そして冬の雪にも紫を作る。

クレオパトラが帆に染めた紫。「虞美人草」の藤尾が好みで着た紫。紫式部が登場させた光源氏の母の桐壺・恋人の藤壺・妻の紫の上、共に紫。清少納言の「紫なら何でも美しい」の紫。紫は妖艶な色であるが、推古朝の位階で最高位の色でもある。

しかし北国の紫は、自然の中にあって、清廉で控え目である。

絵の具の赤と青を混ぜると、眼には紫に映るが、自然の中には紫は無い。波長の長い赤外線の外にあり、波長の短い紫外線の外にある。百四十年前、ペーキンによつて合成された、といつても本来は、紫貝や植物の、自然の中にしか存在しない。その紫が北の国の四季、自然の中にあら。



横浜秋好日・'94東日本大会始末記

石川舜

(昭和三十二年入寮)

'94恵迪寮同窓会東日本大会は、さる十月二十二日、前回と同じ横浜港の「氷川丸」に、家族、寮外生O.B.・OGらも含め約二百五十人が相集い大盛会だった。

大会の二、三日前から天気が下り坂となり前日にはついに雨が降りだした。夜にはいつて風雨はつのるばかり、「こりやあ、明日はダメか……」実行委員一同、観念させられたのだったが、翌朝雨はピタリと止んで尻上がりに天気は回復、昼ごろには雲一つない秋空が広がった。

「氷川丸」での集いが始まるまでの時間を利して、と企画した「バスツアー」、「歩くツアーワーク」にとつては絶好のコンディション、「やあやあ」「いいお天気になつてなによりだね」「暑いくらいだよ」。みんなウキウキしながら出かけていった。

土曜日の午後。秋晴れに誘われて山下公園の人出もしげ

くなってきた。その中を、三々五々寮友たちがタラップを昇つてくる。そこここに歓談の輪ができるいく。「受付」が予想外の混雑となつて定刻よりやや遅れ、午後三時十分、元捕鯨船々長の細萱安彦君（S三十一年入寮）が高らかに打ち鳴らすドラの音を合図に「氷川丸」は“出航”した。吹き抜ける潮風もさわやか、まさしく「横浜秋好日」である。

まず型どおりのオープニング・セレモニー。物故者への黙祷、宍戸昌夫実行委員長（S十年入寮）、繁富一雄会長（S六年入寮）のあいさつなどがあつたあと、出席者中最長老の金田精蔵さん（T十三年入寮）の音頭で乾杯、「宴遊の筵」は広げられた。

プログラムについて実行委員会では「新機軸」もあれこれ検討してみたが、けつきょくは「寮歌を中心」にと落着



いた。

「わたしはこれまで、寮歌祭や寮の同窓会には出たことがなかつたんですが、恵迪寮歌が流れだしたとたん、何十年も昔の寮生時代に還つてしまつた。いやあほんとうに感激です。来てよかったです」。ある老先輩が声をはずませておられた。

「寮歌は青春の歌」とよく言われる。たしかにそうだが、青春時代、その時のためだけあるのではない。若き日に描いた夢、希望、燃やした理想、抱いた志を想い起こし、今日まで生きてきた己が人生を重ね合わせ、また明日からの人生の旅路に、勇気と希望を抱く——そのためにある。そういう歌をわれわれは作ってきた。歌いつづけてきた。北海道の大自然の中で『恵迪吉』をかみしめて生活した人々が共有する魂の歌、それが恵迪寮歌だ。

寮歌の合い間に設けた「スピーチ」では、各世代の代表から「自分が居たころの寮」の話、エピソードなどが披露され「ミニ恵迪寮史」が綴られた。また、昭和三十年代初めに炊務事務員をつとめた丸山礼子さん（旧姓佐藤）、同じく寮務事務員、浅見幸子さん（旧姓大西）、「バスクター」で訪ねた木原生物学研究所のマドンナ、木原ゆり子さん（故木原均博士の末娘）ら珍しいお客様の方から、懐しい話、

連帶のあいさつをいただいた。さらに、「妻から四千五百

通もの手紙をもらった男」と、NHKテレビで紹介された谷藤繁さん（S二十八年入寮）、昭和三十年代、学生課長として寮生や運動部の諸君の面倒を見た苦米地秋郎さん

（S二十九・文・哲卒）などにも登壇いただいた、爆笑、感慨とりどりに「氷川丸」は大いに”揺れ”た。

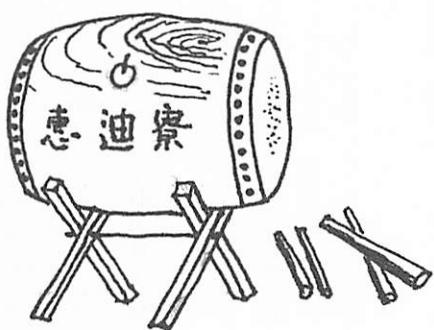
前回、「恵迪グッズ」を売ってかなり儲かつた。そこで「今回はもっと」と、北大図書刊行会や一般出版社刊の、寮OB・北大同窓生の近著なんぞにも手を広げ、売店は大にぎわい。しかし、客足と売上げは必ずしも一致しない。

全品買い取りで仕入れたこともあって「一二匹目のドジョウ」は成らず、寮同窓会には支払いを「四年々賦」でご勘弁願うことになってしまった。ザンキにたえない。が、まあなにごとも経験、これから全国各地に”行商”に出る。ときには”押売り”もあるかもしれないが、よろしくお願ひしたい。

ところで、この日の出席者を世代別にみてみたら、「旧制」の人が三五%、「新制」が六五%。「新制」の六五%（出席者全体の四二%強）が、昭和二十五年—三十五年入寮者、という結果になった。四十歳前半以下の「若い」人たちにもっと出てきてもらいたかったが、公私ともに「いま

がいちばん忙しい時代」にあることを思えば妥当な数字といえるかも……。ともあれ、大正末期から昭和六十年まで六十年余年にわたる入寮者が一堂に会し、大いに飲み、喰い、語り、歌い、結び合えたことは快挙である。

場所がら出席者のほとんどは、首都圏在住者だったが、北海道、東北、中京、関西、四国などから二十余人の遠友がかけつけて下さったこと。大会には参加できないながら、遠隔各地からグッズの注文をいただいたことを申し添え、併せてこれらの方々に厚く御礼申し上げる。



恵迪寮生活に思う

大原久友

(昭和五年入寮)

私が恵迪寮に入ったのは昭和五年（一九三〇年）だから今から六四年前です。初代恵迪寮は明治三十八年四月八日開寮、昭和六年五月一日閉寮なので二十七年間つづいた建物です。理学部の前にありましたが、昭和六年十一月二十一日教養部のところに移転しました。

入寮当時のことを思いだしてみると、何より便利だったのは朝起きてから洗面し、朝食をとり、教室（予科工類）に行くのに二～三分かかりますので、起床後の二〇分間位で授業を受けることができたのです。寮の記念行事の日には会食しますが、通常赤飯が多かったように思います。

その時に佐藤昌介総長、南鷹次郎教授、宮部金吾先生とか、予科の青葉万六主事、藤原正先生等と寮の食堂で一緒に食事しますので、これら大学上層部の諸先生と顔を合わすのは、この時位のように思います。

恵迪寮の建物は木造でしたが、材料は相当しつかりした

ものを使っていたので荒っぽいストームをやつても床とか壁などの破損は少なかつたようです。廊下にストーム用のスキーパーがたくさんたてかけられてあり、毎日のように行われましたが、遠くから聞こえてくるストームの歌声が今でもなつかしく感ぜられます。

当時は四つの寮に運動部所属の寮生がかたまっていますが、例えれば中寮は剣道部、弓道部、南寮は柔道部、山岳部、北寮は野球部、庭球部、水泳部、新寮は陸上競技部、ラグビー部、サッカー部、ホッケー部という編成です。恵迪寮の行事はいろいろありましたが、印象に残っているのは対寮試合、寮祭、定山渓旅行、開識社などであったと思います。対寮試合はラグビー、卓球、庭球、陸上競技などだつたと思いますが、一つに勝つと賞品としてそれぞれビール一樽もらいますので楽しみでした。たとえばラグビーでは南寮は柔道部員が多いのでフォワードが強く、新

寮は陸上競技部員が多いのでスピードが早いなどの特長がありました。私達中寮は剣道部と弓道部、それに寮務委員室であったが、卓球と庭球で二樽もらつて中寮生みんなで盛大に樂飲したこと覚えています。

寮祭では女人禁制の寮を開放し、各部屋にいろいろと時代を風刺したデコレーションを飾つたり、恵迪座で演劇するのです。私の時には主役の大槻均君が名演技をし、寮生始め一般参観者を沸かせました。彼は昭和六年の改築、閉寮に当つて「別離の歌」とか、昭和七年の寮歌も作詩しています。医類所属でしたが文才もあり、寮生活を満喫した一人でしよう。その他の行事も生活も楽しいことが多く、半世紀以上を過ぎた今でも強い印象として残っているのが生き甲斐を感じた青春時代の寮生活です。

つまり、恵迪寮は一生を通じての大きなファミリー生活をした仲間と共に心を燃やして過ごした一時を与えてくてたことに深く感謝し、高く評価しています。したがつて同窓会員とのつながりも今日まで強く続いているといえます。

(大友久友恵迪寮同窓会前会長は、去る九月二十五日永眠されました。つつしんで前会長の安らかなるご冥福をお祈り申し上げます)。



恵迪寮跡地に佇んで往時を憶う

宍 戸 昌 夫

(昭和十年入寮)

最近は毎年札幌を訪れる事にしてゐる。そして他に日程がいくら混んでいても必ず北大構内を歩く。大抵は地下鉄で北十八条まで行き、通りを西行する。西五丁目の通り、つまり北大の正門前の通りは昔は市電が通つていて十八条は終点であつた。街へ出て疲れた時は市電で寮まで帰つた。その頃市電は七銭均一料金で、他線に乗り換える時には、市電系統全部が印刷された大きな切符に、乗換地点と行先に鉢を入れてくれたものだつた。車掌が乗つていて車内を切符を売つて歩いていたのである。十八条の終点まで車掌が車内を廻つてきてもしらない顔をして本など読むふりをしていて、終点で降りる間際に「あつ小銭がないんだ」と言つて十円札（その頃料理屋で芸者をあげて一晩遊べた金額であった）を出して「これしかないんだけど」と言うと、「今日はいいですよ」と言つて、そのまま降ろしてくれたものであつた。

十八条の通りを西に行くと、左手に当時としてはちょっと洒落た家が数軒建つてゐた。標札を見ると何れも医学部の教授であつた。それは昔のことでは今は全く別の家であつた。中央道路が突き当る、第二農場のモデルパークを右に見て進むと、昔は恵迪寮の玄関に通ずる立派な道があつたが、今は道をなしていない。草に埋れた溝を越えて言語文化部の裏手に出ると右手に広々とした空地がある。柵があつて中には入れないようであつたが、膝を没する草地を踏んで行くとどうにか中に入れた。野球場として使つているよう見えたが、しかし最近に使つたとは思えない風情であつた。何か寒々とした、打ち捨てられたという感じがある。四つの寮があり、玄関は、食堂は、浴場は、とその空地に建物を思い浮べてみても、さっぱりその姿をそこに描くことは出来なかつた。それでもこの辺りが玄関であつたとすると、一九三五年（昭和十年）に初めて入寮して住ん

だ中寮十九号室はこの辺りの二階だつたろうか、と歩いてみたが、乾いた土が拡がつてゐるばかりであの懐しい建物が浮んでこない。一年の三学期には寮報部員に選ばれて新寮を行つた。そして二年の二学期には炊務会計に決つて、いた高田天君が退学したとて補欠選挙で選ばれて、たつた一人二年生で委員になつて北寮の炊務部の部屋に移つた。それぞれどの辺だつたろうかと歩いてみたが一向にピンとこない。

寮を去る日、ひとりで街で酒を飲んで寝静まつた四寮の中を「別離の歌」を歌つて廻つた時のこと�이出された。寮と寮の間の渡り廊下を通つた時だけ寒かつたこと、最後に自室に帰つて寝ようとした時はボカボカと体が暖かかったこと、そして涙が溢れて仕方がなかつたことなど思い出された。一年の時同室の三年生のHさんが勉強をしていたのをついぞ見たことはなかつたのに、ドッペルとともに学部へ進まれたこと、そのHさんが或日大いに酔つて夜半に帰寮し、「今、愉快な事をしてきましたぞ、交番でおまわりのサービルを取つて逃げてな、追つて來たからどんどん走つて大学の正門近くの堀の中に投げ込んで、俺は正門から入つて、ヤアイヤアイとはやし立ててやつた。奴らは大学の中には入れないんだ。愉快だつた」と言つて大笑いして

いたが、翌日学生課に呼び出されて大目玉を食つてしまふ返つて帰つて來たことがあつた。学内は治外法権の様に警察権が及ばなかつたようであつた。

* * *

寮の南の原始林がそのままの姿で残つてゐるのは嬉しい限りである。記念祭の夜部屋の飾りつけに使つた木材や段ボール等を焚いて「祭の火」をかこんで寮歌を歌い乱舞したのはどの辺だつたろうか。火がよくつくようになると誰かがガソリンを撒いた為に、点火の際爆発して購買部長の内田君が火傷をしたことなど思い出された。また、寮跡地へ戻りながら、ここをグランドにしておくのではなくて原始林にしたらどうかと思つた。昭和六年に寮が現在文学部、教育学部の建つてゐる土地から此處に移転して來た前は、ここは恐らく原始林であつたろう。そうとすればまた元の姿に戻したらどうか、榆や桂や白樺等々苗木を二、三千本も植えれば四、五十年で原始林の様になるだらう。工学部から十八条通りまでの中道の両側に今は大木になつてゐる榆の木は、私達予科生が昭和十一年に陸軍大演習があつて昭和天皇が農学部を大本營にして滞在した時、学内整備の一環として二メートルばかりの苗木を勤労奉仕で植えたものである。今、六十年近く経て亭々たる大木になつて

いるのを考えると寮跡地を原始林にするのは三、四十年のことではないか。そしてその真中には空地を残してかつての予科生のマントに朴歯の姿と戦後の服装をした寮生の像を置いて、「ここに恵迪寮ありき」とでも書いたい・しぶみを建てたらどうだろ。何なら今道路傍にある佐藤昌介元総長の書を刻んだ碑もここに移せばよい。老ロマンチストの夢は大きくふくらんで、北大構内の新しい名所を心に描いてしまう。

次々に去來する思い出に立ち去り難く、低徊するうちに、ふと思い出したのは昭和十一年に寮の壁を全部塗り替えたことである。その前の落書きを歴史に残しておこうと、寮部員が手分けして写し取る作業をして、私は中寮を担当して数日間かかって写し取り、当時の日記帳に正確に書き残して現存する。他の寮の分はどうとう書き写す作業をして塗りつぶされてしまった。その中寮の壁の落書きを以下に部屋毎に再現しようと思う。当時は今の様にフェルトペンやサインペンの様な筆記用具はなかったので、全部筆に墨汁を含ませて書いたものである。文字通り墨痕鮮やかな落書きであった。勿論小さく鉛筆で小遣錢の計算やら備忘録の様な記載もあったが、それは書き写してはない。それらはごく微細な僅かなもので、大半は壁一面に、また

天井に大書されたものである。天井にどうやって書いたかと、ベッドに寝て仰ぎ見て感心したものである。内容は寮生の心情を吐露した烈々たる文章あり、詩歌あり、時にユーモアあり、哲学ノートありで、今読んでみて当時の感慨を新たにするばかりである。卑猥な文章は一つも見当らないし、女性の名前など書かれたものはない。恐らくこれらは彼の地に寮が再建された昭和六年から五年間に書かれたものであろう。

閉寮に近い頃写真週刊誌などが「有名な恵迪寮の内部」などと書いて紹介された写真を見て、汚いのはいいとして、その落書きのいささか下劣とも品のなさにひんしゆくしたものであつた。昔の寮の落書きはこんなものであつたことを、若い諸君に知つてもらいたいとも思う。

* * *

第十七号室

太く長く生きん

予科三年の生活は男になることだ

男の中の男たれ

寮永遠の工作を

めざめよ内面の道へ

自治寮の危機・寮生よ自覚せよ

（筆者注・ソガ）第百二期（昭九）委員長曾我俊一氏、シガ同寮務部長滋賀秀正氏であるう）

三年の夢はあはくとも、長き旅路の道すがら 神秘の森に迷い入る、生命ぞまたたき青春の日を、尚き生活を君知るや

北斗は遠く星清し、妄執の現世見下して

神美一路の恵迪ぬ、意氣と血潮に生くる子の、瞳に燃ゆる紅焰は、永遠なる生命の證なり、さらば我友諸共に、我等起つべき時なれば、いや寮友よ迪を惠めん、

寮即寮 自治を守つてくれ、夫俗世より高踏せよ

神は汝を愛す、故に汝は人を愛せよ

Erkenne dich selbst!

Albeiten zum Glück!

Per Aspera Ad Astra

秋風に露の命の鉢虫も あきはてられて今更に 泣くに
なけれぬ物思ひ
らくがきは消すものではない
(天井に書かれたもの)

意味なき酒をのむな (ゲーテ)

嘘だばい (ソガ) げんばれ (シガ)

第十八号室

げに三年の春はすぎ易し

落第してはいかんぞ、寮生よ馬鹿になれ
自然の如何に悠久にしていかに短促なる
寮即寮生 寮生即寮 寮即寮 寮生即寮生

戦はこれからだいざ

徒に舊套に恋々たる者滅びん、力強く一步々々を踏みし
めつつ生くる喜びを語る所に感激があるのではないか
理論は解説にして直観は創造なり

不具の恵迪寮よ、お前の不具は永久になほるまい、何故?
だってお前の一つ一つの細胞が不具をなほしたくないから

月は東にスバルは西に
人生自古誰無死 留取円心照汗青

第十九号室

之を思へ之を思へ、思つて得ざれば鬼神之を教ふ、鬼神
に非ず、精氣の極なり

人生五十唯有意

前兵児謡（全文省略）

遊ぶときには遊んで やるときにはやる

病の如く思郷の心湧く日なり 目に青空の煙かなしも

啄木

千里往来征馬瘦 十年離別故人稀
涙、涙は人生を生かし、汗は貧を救ふ

英邁豪果一好男子

意氣は男の宝なり

寮よ！お前は俺の第一歩を暖かい愛を以つて育んでくれた。だが俺はお前に残して行くものは何もないんだ。而し寮よ！俺はお前を永久に忘れないであるぞ

朝有紅顏誇世路 暮為白骨朽郊原

第二十号室

自由に生きよ 偉大なれ

風に随ふ桐の葉の枝に分れて散る如く

”感傷に走るな“誰かが言つたが果して俺はセンチに負けてゐたのだらうか

泣くな、怒るな、怖るるな

西東あはれさ同じ秋の風

予科三歳の生活を満喫せよ

未来に頼るな、如何にそれが楽しくとも

逝にし過去を死人の如く葬れ

奇蹟とは努力の結晶に非ずや

意氣の生活だ、野心を持って

男一匹 太く短かく

勉強する奴は音痴なり

第二十一号室

柔かに柳青める北上の岸辺眼に見ゆ泣けと如くに
一以貫之

天何をか言はん四時行はれ、地何をか言はん万物生育す
淋しさにせめて心のなぐさみと、やけ酒のみに今日も直営
死とは全てを愛する者の唯一の道なり

人生の極美を知れ

この偉大なる大自然に対し一指だにさし得ぬことを俺は悲しむ。然し俺には憧憬がある。それがせめてもの自然に対する詩歌なのだ

誠は天の道なり、此を誠にするは人の道なり
我をして自然の子の如く語らしめよ

自治寮の本義を忘れるな

第二十二号室

北海の敢為、東北の剛毅、東海の爽俊、
北陸の実直、近畿の優雅、中国の慧敏
南海の朴訥、西海の精悍
それ言はずや、達人は大観すと
雁鳥一声啼きて石狩原頭秋漸く深からんとす。負笈千里
多情の若人故郷を思ひて時に涙なからん乎、寮を環る眺
望又漸く異趣を加へ遊子の心を慰めんとす、嗚呼!!この
地に生を送る者誰か自然の恵に感謝せざらんや
その間幾多の変遷はあれど三歳の生活の如何に倫しかり
しよ、今この家を去らんとす多感の若人何ぞ幾多の感慨
なきを得んや、希望の光に憧れて津軽の海を渡りし三歳
の昔なりき、三条の白線は如何に輝かかりしよ、されど
期待せし高校生活の無意味さに幾度か慨歎之を久しうせ
しか。或は醉ひて大声乱舞、感激の涙に狂ひ、或は思想
の困惑に苦しみ懊惱の数日を送る、若人の意氣情熱誰か
之を咎めんや、照る日曇る日交々至り天日の夫にも例へ
んか、されど憶へば華やかに清き夢なりき。ああ!!我今
この地を去らんとす何ぞ別離の情の断ち難きや
汝の信する道を真直に歩め

第二十三号室

断じて行へば鬼神も之を避く

三年不蜚、三年不鳴

享楽は堕落の化身なり

夢を実現し得る者は唯狂人と天才のみだ
不斷の努力語るを好むは愚人のみなり

第二十四号室

川 柳 平助が直営に行くと犬が吠え

敬三に炊務二ヶ月赤字出し

桑原は寮歌どなつて声からし
敬三是十三杯目に帶をとき

（筆者注・平助＝不明、桑原＝第百五期（昭和十年）委員
長桑原麟児氏、敬三＝同年入寮の工学部卒石原敬三氏か）
狂 歌 試験きて本とスキ一のにらめっこ滑りたくあり
滑りたくなし
都々逸 飯は食いたし朝寝はしたし飯と朝寝の板ばさま
俳 句 祢を質におきけり年の暮

第二十五号室

赤壁懷古後二句及春秋 他詩一篇

念祭!!

第二十六号室

〈書くべきものなし〉

悠悠たる哉天壤、遼々たる哉古今五尺の小躯以つて宇宙の大を計らんとす

第二十七号室

完成へ、完成へ

人生愚挙多し

万里之道不見只万里之天見

教学の五大綱要

一、人格の尊重

一、高尚なる情操の涵養

一、士魂の陶冶

一、健全なる心身の鍛錬

一、勤労の良習の養成

第二十八号室

寮生よ歌へ寮歌を、而して剛健たれ

人生は寒い

男子も哭くときはある

笑者任汝笑、罵者任汝罵、天之知我正 不要他人知

美酒を棄てて雌伏の道、人は舞へど我は歌はず 祝へ記



自治寮生の誇を忘れるな
北済自治の牙城恵迪寮

「少年よ大望を懐け!!」

札幌農学校創始のクラーク先生は別れに際してかく言はれました、而るに近年の青年は徒らに目前の事のみに専心す、悲しむべし

昭和十六年入寮同期の二つの集い

村山正郎

(昭和十六年入寮)

昭和十六年といえば、われわれの年輩の者がすぐ頭に浮ぶのは、「十二月八日太平洋戦争の開戦」であろう。情報に乏しい一般国民にとっては、正に寝耳に水で「これは大変なことが始まつた。大丈夫なのか?」というのが実感であった。以後の連日の戦果の発表で、これは少し調子が良すぎるのではないかと思つたりしたが、年が経つと共に衆知の経過を辿り、昭和二十年夏の終末を迎えることになる。昭和十六年入寮組は、昭和十八年末まで、つまり戦況が下を向きはじめた時期に寮生活を送ったわけで、昭和十五年以前の寮生活に比べれば、もちろん厳しい条件下におかれたのは確かであるが、われわれとしては、圧迫感を殆んど持たずに、自由な意義深い三年間であった。この三年間の数々の思い出は消えることなく、五十年を経た現在でも、折に触れて胸中を過ぎり、人生を真面目に進む引糸になっている。前言が長くなり御寛恕を乞う。

さて、ここに二枚の写真を掲げたい。何れも昭和十六年入寮有志である。二枚の間には十年の歳月が流れているので、重複参加した四人（小川・三国・三宅・村山）に注目すると面白い。写真には参加者全員の氏名を添えてある。寮の想い出には、行事・自然ほか数多いが、人の想い出が大なり小なりその背景を成している。昭和十六年前後の先・同・後輩の方々は、面倒でも虫眼鏡を御用意の上、是非御一瞥を願いたく、貴重な誌面を使いました。

以下には各写真の簡単な説明を記したい。

（写真一）〔昭和五十八（一九八三）年四月〕
懐かしの恵迪寮は、この年取り壊しとなつたが、その直前、在東京の有志が札幌に呼びかけ、大学当局の諒解を得て、寮の南で惜別の寮歌祭を行なつた。

（写真二）〔平成六（一九九四）年四月〕

関東地区の昭和十六年入寮同期の会が、「サッポロライ

オン銀座七丁目店」で盛大に開かれた。

この席で「恵迪十六会」誕生が決まる。



※道外

※小川周三農

上平林作農

※村山正郎理

山岡広海工

寺山良雄理

番場猛夫理

鈴木英生医

※大須賀一雄工故人

※三宅正元工

※三国英四郎村松工

加藤莊司医

※中井健五医

秋谷元工

音羽敬三工

西尾徳三工

糸原公医

曾根崎日吉医



(滝幸理は所用中座)
吉村香二工

西岡芳和理木全幹雄農生出正也農

柳治一理猪木幸男理金田浩一医

村山正郎理田島安之助医塙田敬司森屋医

黒田晃工三宅正元工和泉庫四郎農

一杉武治理橋爪秀雄工

小川周三農山下鉢登工三国英四郎村松工

木村信良医近藤邦二工

白鳥嗣朝東大農八木陽一郎工尾本泰藏法

下田修農上杉寿彦工田崎光栄工

青木貞一理

井口重雄工

春原千秋笠島医

文平会始末記

四 方 英 四 郎

(昭和十九年入寮)

戦争前夜の恵迪寮生は、当時北十八条の北大第二農場入口の左側に数軒の古びた長屋が並んでいたことを覚えてい ると思う。それは北大の官舎で、東端が第一農場畜産部助 教授、林文平さんの住まいでした。自ら不休庵と名付けた お宅には寮生が頻繁に訪れていました。文平さんと寮生と の交流が何時どの様に始まつたのか定かではありませんが、 第五期幹事会（昭和十七年度）の幹事を中心に深い交流が あつたことは間違いないと思います。

「恵迪寮史」第二卷二九〇頁以降に、生活部に畜産園芸 掛を設置し並びに専属幹事を置く件の記事があつて、「農 学部の林教授（助教授であったと思います）の提案に依つて」戦時下の自給体制を設えること、同二九三頁には昭和 十七年十二月六日創設記念式典を寮裏のブール横で宇野、 伊藤両先生出席のもとに盛大に挙行し、大正十四年九月よ り休止していた畜産蔬菜部を復活させ、先人の開拓精神を

引き継ぐ決意が述べられています。更に、「畜産園芸部が 林先生の助言、協力に依つて創設されたこと」、この記念 式典に「甚大な助力を頼いた林先生の御参席が得られなか つたことを残念に思う」と記されています。

畜産園芸部に就いては、「恵迪寮史」第一巻三五六頁に、 明治四十年第三学期、第二十四期委員会で、同年四月十五 日に里正義、丸山猪之輔両君の提案による本寮事業として 養鶏を行うことを決めています。同年五月三日には、新設 の新寮（明治三十八年四月開舎）に小熊捍君（明治三十八 年入寮）他で花壇落成の記事があります。同年六月四日、 園芸部、畜産部の設立が可決され、前者は小熊捍君、後者は里正義君に主任を嘱託し、各寮生はそのいずれかに必ず 属すべきことを決めています。尚、この二部は大正十四年 九月休止されました。

園芸部主任の小熊捍先生は後に理学部教授、低温研所長

もされた細胞遺伝学の碩学です。文平さんは、小熊先生や理学部教授、後の日本学士院会員牧野佐二郎先生とは深い親交があり、第二農場に引きこもる文平さんを小熊先生が勤め前にしばしば激励に訪れたことや、牧野先生の声援を頂いたことを、「一老教授の憶出」（あるてりあ、札幌医科大学学友会誌第十七号、昭和三十五年三月）に書き残されています。

文平さんが戦時下の恵迪寮に畜産園芸部の設立を提案されたのは、或いは小熊先生との親交の中で着想されたのかもしれませんが、寮生自ら汗して生活することの意義を示唆されたものでしょう。それ以後、先生から豚、鶏などの飼育に就いて懇切な御指導を頂いています。そして、戦中戦後の寮生は全員が畠作業に汗を流したのですが、その中心となつたのが畜産園芸部です。又、文平さんの指導で飼育した豚や鶏の肉、卵も寮生のエッセンにいささかの貢献を果したでしょう。

私が入寮した昭和十九年、生活部と畜産園芸部のみでなく、他に多くの寮生と文平さんとの交流の輪ができるまでいつも誰か古びた六畳間の不休庵を訪れていました。戦時中の暗い青春の時代、戦後の混乱の時、六畳間の語り合いと団欒はいつも暖かく、人の絶えることがなかつたのです。

この人の繋がりは、学部の専攻にかかわりなく、大学を卒業して社会人となり、結婚して子をもうけた後も、手紙や写真で先生の御宅に届けられたのです。戦中、戦後といえば、寮は勿論、下宿も極端な食糧難でありました。勿論、文平さんの所も例外ではないのですが、奥様は訪れた学生に必ず乏しい物資の中からご自慢の腕を奮つて手料理を御馳走して下さいました。時には、ジャガイモやカボチャだけのこともあり、又僅かスープか漬物のみのこともありましたが、誰しも極端に欠乏していく余裕などあろう筈のないときの貴重な食糧を、毎日誰かが座っている六畳間の学生に隔てなく供されたのです。当時の若い学生にとっては胸にしみるエッセンであります。中には、これを目當てに繁々と訪れる学生もあつたと思いますが、その人達も含めて文平会の輪ができあがっていました。

文平さんは、徳島の出身で、明治二十六年九月二十六日生まれ、大正二年入寮、大正十一年畜産学科卒業、農林省月寒種羊場に勤めた後、昭和三年母校に戻り、私がお宅に伺った頃は、農学部付属農場の畜産部助教授として、第一農場事務所（現在の生協中央食堂とボーラ並木の間で、理学部別館のある辺り）の二階の研究室で動物遺伝学の学究生活を過ごし、昭和三十二年四月退官されました。文平さ



くわえたばこは文平さんのトレードマーク、
ありし日の林文平先生夫妻

昭和二十九年、文平さんの還暦を祝い東京の文平会員（この時すでに文平会の名が使われています）が中心になって、既に社会人となつて活躍している所を御夫妻にお見せしようと東京へ御招待の旅を計画し、多くの会員の賛同を得て実現しました。同年十月二十六日札幌発の汽車で上京、東京見物、歎談の日々を過ごし、会員の御両親、家族共々の箱根バス旅行を楽しみ、大阪では只一人の姉の臨終の悲しみに遇いましたが、三十年振りの故郷の訪問と旧友との出会い、再び東京で奥様のお好きな歌舞伎見物の後、十一月十一日東京からは飛行機（当時はプロペラ機）で帰札されました。そのお喜びの様子は、残された旅のアルバムと薰夫人の旅日記「憶い出を辿つて」に溢れ出る如く記されています。

北大を退官された昭和三十二年八月、昭和四年以来住み慣れた官舎から琴似町東八軒五一一番地へ不休庵を移されました。文平会は退官に際してお礼の記念品として、新居にソファとチェア一式と、これから会員の送る写真を張つて頂くようになるとアルバム一冊を贈りました。

文平さんは、昭和三十七年七月二十八日、六十八歳で亡くなりました。葬儀は大野精七葬儀委員長により琴似町の不休庵で行われました。文平さんが亡くなつて、お子様も

なく、只ひとり残された奥様のもともに訪れる人は絶えず、折々の手紙や、ときには心盡くしのものなど、文平会員との交流の日々が心の支えであったことが、アメリカ留学中の私へ送られた手紙にいつも書き記されました。昭和四十二年七月二日、薰夫人は五年の孤独の生活を経て五歳の生涯を閉じ、文平さんのもとへ旅立たれました。葬儀は大野精七先生の御子息、札幌医大生化学教授、公吉氏が委員長で、文平会、奥様ゆかりの方々によつて自宅で執り行されました。

今、御夫妻のお骨は、北大寺納骨堂宝蔵院ハーニー二十の、生前特に御親交の深かった大野家の隣に眠っています。御夫妻の死後、折々の年忌法要は文平会により行われました。が、札幌へ出張や、休暇で来られた人など、納骨堂を訪れる方も多かつたとお寺の方から聞きました。

平成六年七月は文平さんの三十三年忌、昨年は薰夫人の二十七年忌に当たります。考えてみると、文平会の方々も既に文平さんの年を超えているのです。文平さんへの思いは私たち文平会のもので、子や孫に残すものではないといふ意見もあって、お墓を作らないできたのです。私のお預かりしている遺品は、初めて文平さん宅に行つた時、誰でも必ず筆と墨で抱負を書かされた「雄志録」、卒業してお

別れの時に青年の夢と希望の一言を書いた色紙、また文平会員から送られた写真等を奥様が一々手紙と共に丁寧に整理されたアルバム、還暦旅行の写真集、そして会員の結婚や新婚旅行の写真等です。お互いの年齢を考えると、これらの遺品を、もうそれぞれの方へお返しして、これで文平会としてひと区切りの年忌法要と考えたのでした。文平会の皆様にその旨ご案内を差し上げたところが、思いがけず多数の方の御生存と連絡があつて、却つて文平会存続の火を付ける始末となりました。

東京在住の会員は、七月三日、銀座ビアハウスに二十二名が集まり、「文平先生御夫妻を偲ぶ会」で青春の思い出に時のたつのを忘れたようです。札幌から送った遺品のアルバム等に取り希望の付箋が多数付いて戻つてきました。その上、東京では、今後「偲ぶ会」の集まりをさらに続けて行くことに決めたのです。御夫妻が北十八条のお宅前で写された写真のテレホンカードも皆様に喜んで頂きました。

札幌では、七月十六日、KKR札幌（元石狩会館）に二十二名が集まつて文平先生の三十三年忌の法要を行いましたが、そのうちわざわざ倉敷、東京、横浜など遠くからおいで下さった方は八名になります。読經をして下さった北

大寺の住職さんも北大出身とかで、この様な親族の居ない法要が年忌毎に行われることは非常に珍しく、また三十年を越えて今でも時々納骨堂にお参りに来る人があると話をしておりました。札幌でも遺品の数々を見て昔を思い起こし、思いがけない若い頃の写真や書き物を見つけて大切に持ち帰り、なかには文平宅に預けてあった? 北大予科の修了証書を初めて受け取った人もあります。

札幌でも、このまま文平会を解散の気運はなく、文平さんはすでに済ませてあるが、奥様の永代経と五年後の年忌のことなど、時の過ぎるのを忘れました。東京でも札幌でも年代も専門もそして仕事も全く違う方々の集まりで、学生時代お互いに面識の無かった方も多いのですが、皆文平さんの思い出の中では話が尽きることはありませんでした。

特に、この法要に故大野公吉先生の奥様がお元気でご出席頂けた事は誠に有り難いことです。東京からわざわざお越し下さった安田雄二郎氏（昭和十五年入寮）は、文平さん御夫妻がお好きであった徳島名産のスダチを沢山靈前にお供え下さって、文平さんの縁でこの様な会が続いていることを初めて知り大いに感銘を受けたと挨拶されました。その様に言われてみると、私共も今更の様に文平さんが私共の若い時代に残された太い絆を改めて感じたのでした。

年忌法要のあと、予て遺品の整理をして下さった井田昭三氏（昭和二十年入寮）が、住所の分かっている方にそれぞれ関係の分をお送りしたところ、思いがけずたくさんの方から激励やらお礼の手紙を頂きましたが、皆青春時代に文平さんと過ごした日々の思い出を大切にしていることを知りました。却って、今回の法要を契機に、文平会の絆は深まるばかりの様です。

文平会の名簿には、氏名のみ書かれていて連絡先が不明の方も多くあります。この一文をお読みになつてお気付きの方は是非小生まで御連絡下さい。

（札幌市白石区本通十三丁目南二二二十二、電話〇一一一八六四一一六七三）



「まかない会」を育んだ生活部

中 西 三 郎

(昭和十九年入寮)

「まかない会」とは昭和十九年入寮、昭和二十年春から二十二年春までの二ヶ年間に亘り生活部委員をやつた我が同僚の集まりの愛称である。それは生活部十期（部長・玉置昭英）、十一期（部長・中西三郎）幹事会、一三三期（部長・増淵法之）・一三四期（部長・増淵法之）委員会のメンバーである。時局の進展に伴い、学校当局の寮に対する指導が強化され委員会が幹事会に改組されたのは昭和十六年のことである。昭和二十年八月終戦、二十一年五月より元の委員会組織に戻った。つまり、幹事会・委員会と称するだけで生活部の活動任務は変わっていない。

我々生活部は三百名からの寮生の命を預かっていたと言える。しかし、戦後の食料難は筆舌に尽くせない程の悲惨なものだった。食糧の配給も半分近くは欠配となり、配給されても砂糖・トウモロコシの粉・缶詰類などである。二十一年十一月一日生活部長（一三三期）の日誌に「米配給、

実に感激、委員となつて五月一～二回米取りに行つただけで、米俵を担いだことはなかつた。その間、欠配百回を突破」とある。

我々は配給の食糧に事欠いても寮生三百名を養わなければならぬ。学業どころではない。毎日のようリヤカーブを曳いて口に入る物があれば買い漁つた。

海草を原料とした「海宝麵」なるものがある。ミネラルはあるもののカロリーはゼロに近い。それでも口に入り空腹を免れるならと泣けるような逸話さえある。

「まかない会」の連中はこのような苦難の中で寮の食糧確保に悪戦苦闘をした仲間なるが故か、今でも年に何回か集まつては旧交を暖めている。

当時の苦しさも今になつて見れば、楽しい思い出でもある。例えば、昭和二十一年春、突如として錢函の浜に押し寄せたニシンの大群をトラック二台で買い出しに行つた

話。昭和二十一年の冬、燃料事情により春まで学校は長期休校となるが、親元が樺太、中国などの外地にいるため帰省出来ない寮生（約三十名）の食事を生活部委員が面倒を見た話。その正月のオセチ料理を作るにあたり関東派と関西派の論争（雑煮は味噌かおすましか、モチは焼くか焼かないかなど）等々、尽きることのない話題が我が「まかない会」を支えているのである。

迪ゆけば

松

原

淳

（昭和二十五年入寮）

迪 ゆけば 恵水溢る水芭蕉

コ ンカニペ金の露おく君が墓

すすき野や猪八戒殿世捨酒

天からの手紙読む日々冬籠

遠友夜学校ありき雪明り



援農動員

土 方 与 平

(昭和二十年入寮)

あれは実に奇妙な瞬間であった。三十数年過ぎた今も、その時の光景がありありと目に浮ぶ。

一九四五年八月十五日、短い休みで援農動員先の農村から札幌に帰っていたわれわれ北大予科恵迪寮生は、寮の長い廊下に正座させられていた。その廊下の梁にスピーカーが取り付けられて、そこからガーガーという雑音とともになんとも形容し難い、この世のものとも思えぬ「あの声」がわれわれの上に流れるのであった。

「重大発表」ということで集められたわれわれはそれを「対ソ宣戦布告」と信じて疑わなかつた。だからこの判じ難い詔勅が終つても、てっきりそれであると思い込んでいた。つづく解説を聞いてはじめて私ははつとした。「ボツダム宣言」という一言が私の脳裡につきささつたからである。

放送が終り、みんながざわざわする中で、私は側にいた

級友に「おい、降伏らしいぞ」と声をひそめて告げた。「そんな馬鹿な！」と信じてもらえなかつた。

しかしやがて真相が教官たちによつても確認された。その途端私の近くにいた級友が泣きくずれた。彼は「おじさんにすまない」と何度もくりかえしては号泣した。彼は最近おじの戦死の報に接したのであつた。辺りは涙や「畜生！」などの叫びでまるで阿鼻叫喚の巷と化したかのようであつた。私もみんなと一緒に泣かなければ、と思つた。しかし涙は出なかつた。代りに身体中が大きな安堵感の中に沈むのを感じ、それをかくすのに懸命であつた。

札幌にいたのも束の間、私は級友とともに援農地に再び就任するため札幌駅のプラットホームに立つてゐた。早々にゲートルを捨て、下駄ばき、腰には手拭をだらりと下げ、声をはりあげて寮歌を歌つていると憲兵の下士官につかまつて、駅の片隅にひっぱつて行かれた。「氣をつけ！ 畏く

も天皇陛下は何とおせられたか！堪え難きを堪え、忍び難きを忍んで日本の再建に挺身せい、とおおせられたではないか！それなのに貴様らのそのさまは何だ！不謹慎きわまる！」私の頬にびんたが飛んだ。これが私にとっての最後のびんたとなつた。

援農先の空知郡芦別町字新城に到着すると村中はパニック状態を呈していた。あちらこちらに穴が掘られ、そこへ歩兵操典等の軍関係の本はもとより、家にあつた軍人の写真等々が大急ぎで埋められていた。それが一段落すると村に残った男たち、といつてもほとんどが年寄りであつたが、昼日中から各部落の集会所に寄り合つてはどぶろくをあおり「残念会」を開いていた。しかし女子供、そしてわれわれ援農の学生は抜け目なく働かされていたのである。戦争中からすでに「学生の本分は勉強することであるのに、こんな仕事ばかりしていいものか……」など「懷疑派」もいただけに、われわれの勤労意欲も「最高」とはいえなかつた。しかし夫や兄弟を戦争に取られて懸命に働く農家の婦人たちとの連帯感でわれわれは働きつづけたのだと思う。ついでながらその男たちの多くは帰らぬ人となつた。私が居た田中家の御主人も……。

話は敗戦直前にさかのぼるが、われわれ北大予科農類一年生がこの新城にやつて来たのはその年の五月のことであつた。そしてほとんどが農家一軒に一人という具合に配属された。中にはある級友のよう、二人の幼児をかかえて一人きりで留守を守る二十代の「出征兵士の妻」の所に配属されたのもいた。かれは一つ居間のこの貧農の家でかの女と起居を共にし、共に終日働いていたのである。その人の御主人も戦死したと聞いている。

この新城に半夏^{はなげ}という日があつた。私と一緒に田中家に分宿していた級友の記録によるとそれは七月二日で、この村の祭日となつていた。なんとその日われわれは「農村慰安」と称して芝居をやつたのである！中農であつた田中家に大きな納屋があり、そこを「劇場」とした。出演は第一部落配属の学生十人全員。演目二本は私が書いた。といつても一本はオリジナルだつたが、もう一本は北大に入る前、爆撃で焼失する直前の築地小劇場で見た「日本の河童」を記憶をたよりに再製したもの。われわれは毎日朝八時頃から日暮れまで田や畠で仕事をして、夜は石油ランプとう生活だったのに、どうしてこんなことが出来たのか不思議でならない。それだけ若かつたのだろう。とにかく当日は文字通り四里四方から人々が集まり大成功であつた。特

に「日本の河童」は大当たりで、娘っ子役の級友はそれから外を歩くと村中の娘たちにはやしたてられるほど人気を博した。

やがて青函連絡船の定期便も停止し、内地へ帰る希望もなくなつて來た。われわれは夜な夜な集まつては津軽海峡を自力で渡る方策を語り合うのであつた。筏をつくる案なども真剣に話される一方、誰しもが顔をもう見られまい親に思いをはせるのであつた。

ある日、私は麓の町に軍事訓練に呼び出された。それは地雷を手に戦車に立ち向う訓練であつた。「米軍いざ上陸」にそなえてのことという説明であつた。「ああ俺も遂に室蘭あたりの海岸に死体をさらすのか」とは帰路私を襲つた感慨であった。私は母に遺書を書いた。その日付は七月二十七日である。

われわれが援農先を引きあげ、それぞれの郷里に帰れたのは九月も半ばすぎである。そして私は仙台刑務所に父を訪ねた。文字通り「骨と皮」になつていた父はしかし精神的には元気であった。「政治犯釈放」の時は迫つていたのである。

(一九八四年九月刊「悲劇喜劇」早川書房刊より筆者の了承を得て転載)



昭和20年7月2日

北海道空知郡芦別町字新城第一部落配属の北大予科農類一年生全員10人による劇公演のスナップ。

中央の筆者と後列左端の田中仁太郎氏の他は全員「日本の河童」の扮装のまま。

すぎし日

菊

池

昭

(昭和二十一年入寮)

昭和二十一年から二十四年春までの三年間、私の恵迪寮生活はよくも悪くも文学一色だった。食べることについては、先輩および同期の生活部諸賢のお蔭で、どんなに乏しかろうとも日に三度の食事を欠かさずいられたから、自分の力だけで毎日の糧をうるには人間どれほどの労苦を必要とするかというようなことは、考えて胸にずしりとこたえるどころか、実にまだ、頭に浮かぶことさえ稀な問題だつた。気分の上からだけいうと、まるで良家の御曹子みたいに鷹揚にかまえて日を送っていたように思う。格好よくいえば、いい作品を書くことだけが唯一の願いで、将来の職業など何でもいいと思っていたのだが、それから三年たつて大学を卒えてみると、私は自分でも思いがけず研究者の道を歩きはじめていた。大学での三年間に、自分が筆一本で食つて行ける才能など持ちあわせていないことを、私はいやでも応でも自覚せざるをえなくなつていたのだ。

みずから創造するよろこびは諦め、代りに誰にも負けない文学のよい読み手になろうと一応は覚悟したものの、しかしそれだけにまた、なんの感いもなしに創作にひたり切つていた予科三年間を、私は時として、ゆきてかえらぬ青春を偲ぶ老人のように、深い愛惜の情をもつて振りかえつてみたものだ。

あれは多分、予科三年目も春の終わりだったと思う。私は寮の裏手の小川のほとりに坐して、ひねもす夢想に耽つたことがあつた。戦争中の伐採のせいで原始林とは名ばかりになつた木立ちを越えて行くと、丈高い草にまぎれるようにして、清冽とまでは行かぬものの、それでもまだ汚れのない細い川が流れていた。草の上に坐つて東の方を眺めると、付属病院の暗い太い煙突も見えた。病院は古びた木造の建物が目立ち、患者の数も少なくて、その頃はまだ付属病院内の一つの科でしかなかつた歯科に通うのに、私は

はいつも寮の方に向いた小さな裏口から入って治療を済ましたほどのんびりしていた。

その病院を右手に眺め、農場の牛舎わきを通って北十八条どまりだった市電の停留所まで続く道は、いま思い返すと、ほとんど恵迪寮生のための道でもあるかのよう人に影まばらな道だったような気がする。

のである。

*

街の果て、屋根々々の上は、陽に光る粉雪のように、あるいは写真のネガの光の部分のように、きらきら暖かそうに輝いていた。

しかし空は晴れてはいなかつた。けだるい光が銀色に溢れていた。

高い煙突はその中に、少し傾いた煙を流した。
それをかすめて翔ぶのは鴉だつた。

風はひとしきり、小川の岸の猫柳の茂みをゆすつて、街につづく湿った道を歩いて行つた。

そして夜が來た。人はよい眠りにつくことがで
きた。そして——、
——みることができた！

わち臆面もなくいわせてもらうならば、ここに掲げる「す
ぎし日」と題するつたない一篇は、それでもなお私にはか
けがえのない、あの古きよき日々に捧げる心からの悼歌な
ど——あるいは、今だからこそかえつて——私の気持をその
ままに言い表わしているように感じられるのである。すな
している深いノスタルジアの情は、人生の晩年に達した今
も——あるいは、今だからこそかえつて——私の気持をその
ままに言い表わしているように感じられるのである。すな

勉強をしなかつた論理

高木任之

(昭和二十六年入寮)

寮生時代は余り勉強しなかったようと思う。もとより、

勉強が好きであれば結構なことであるし、しかも成績が良いれば言うことはない。だが成績の良い人がすべて出世する訳でもないし、成績はそれ程でなくても世に重きをなしている人は幾らもいる。

大体、人生には次の五つが大きな影響を与えていた。すなわち、資質、環境、運、行い、そして勉強である。

第一に資質とは、もって生まれた遺伝的なもので、これは一方的に与えられる。本人の努力でどうなるものではない。どんな人でも親を選ぶことだけは不可能である。従つて、これは一〇〇%与えられるものである。

第二に環境というのも大切である。氏よりも育ちといつて、育った時代の環境、地理的な環境がある。これもかなりの部分は与えられるが、本人の意志で或る程度は変えられる部分がある。そこで七五%は与えられ、本人の努力(選択)は二五%としよう。

第三に運というものは、絶えず好運と不運とが交互にやつてくる。好運な人、不運な人というのは結果論である。前者は廻つて来る好運をとらえ不運の影響を少なくすることができる人であり、後者はその逆であるからだ。そこで運というものは、与えられるもの五〇%、本人の努力五〇%と考えてよい。

第四の行いとは、日頃の行動である。目立たないようでも良い行いを続けていると、結局は良い結果となって本人に戻つて来る。良く陰徳とか積善というのがそれである。これは最初から打算的に自己の利益を期待している訳ではないが、結局はそうなるのである。そこで純粹に他人のためを思つたことでも、善因善果で自己への見返りが何らかの形で戻つてくる。これは他に与えるもの二五%、自分に戻つてくるもの七五%程度と査定する。

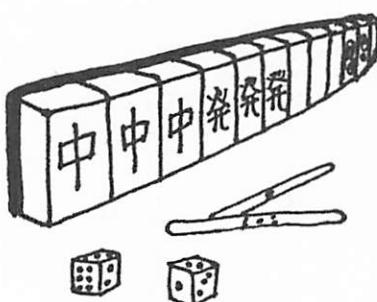
第五は勉強なのだが、これは言うまでもなく自己のための努力なのだ。他人のためではない。子供と親は同体だから良い成績をとっても喜んでくれるのは親ぐらいのものである。周囲の者はライバルである。従つて、勉強だけは一〇〇%自己の努力であり、かつ、自己のために行われるものである。

このように考えると、恵迪寮という所は誠に住みやすく、懐しい時代であつたことが判るような気がする。寮生は選ばれた資質のある者ばかりだつたし、環境は申し分なかつた。運の方は麻雀で確りと学んだ。幾ら良い配牌でも他人に上がられたら何も残らないこと等。そして良い友人を得られたことは、社会に出てから大いに役立つている。

結局、寮生活の楽しさは、そこまでであるような気がする。勉強は寮生でなくともしていたし、また良くサボッたものだ。

私は還暦をすぎて、漸くどうして恵迪寮時代に余り勉強しなかつたのか、その訳が少しずつ判りかけて来たのである。

どうやら二人の息子達も、これに似たようなことを考へてゐるらしい。キット、父親の背中を見て育つたからである。



四十年目の詫び状

田 村 審 弘

(昭和二十九年入寮)

平成六年十月、横浜の氷川丸で行なわれた東日本大会に、卒寮以来三十八年振りに参加させて貰った。ご婦人方を含め三六〇名程参加し、大変盛会だった。

九十歳の長老を始め、元気一杯、夢を熱っぽく挨拶で語っていた繁富会長は八十二歳でおられるとか、我々六十前後のものは、未だ小憎っ子と云うべきだろう。高秀横浜市長の挨拶代読があり、寮出身の先輩とは知らなかつた。全員太鼓に合わせて大声で寮歌を朗々と老若、年に関係なく

自然に参加出来るのは、同じ恵迪部族出身の連帯感によるものだろう。

締めに船のドラが高らかになり、別れをつげ再会を誓つた。さて、四十年前に溯つて入寮時を考えると、一般社会の常識と如何にちがう面白いコミュニティにいたことか。入寮には厳しい条件があり、先ず自宅が遠距離で、学業を受けるに経済的に厳しい事、従つて、母子家庭や親父がいても収入が少なく充分な送金を受けられないことを強調しなければバスしない（駄目親父にされた可愛想なお父さん達ご免なさいね）。

寮では貧乏が大きな顔をして肩で風を切つていた。小さな家庭単位で生活していたものが、各地より集まつた個性的若者が、趣味のサークル別に八人一組となつてべたべた落書きをした部屋の置付き木製ベッドと机が領土の生活をはじめた。一日三食の食費が五十円、保健所に拘留されたワンチャンも五十円、ほんまによいワンワンで、何時も野良犬のように腹を減らしつつも、友と語らい、議論し、洗

面器で飯を炊き、塩をおかず有幸を感じたものである。

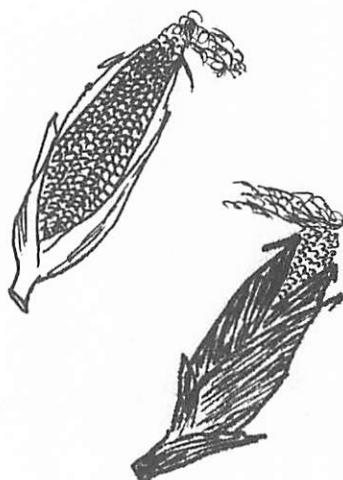
実りの秋になると、学校の農場は寮生のものなんて事で、農学部の先輩が苦労して作ったリンゴ、玉蜀黍、鹽ぐらいの南瓜、馬鈴薯、小豆等無断で大量にいただいた。特にリンドゴは、登山用の大きなキスリングに一杯詰め込み、追っ手の事を考え、リュックを逆さまに背負い持つて帰ると、仲間が匂いを嗅ぎつけ、あれよと云う間になくなってしまった。

アタックと言う行動を分析すると、慢性飢餓を補う。猫に鱗節の実務面的なものと、若者の禁じられた遊びのハントティングゲーム的な体育会系的のりがあり、運動部の連中は体力、團結力、消耗度が激しかつただけに、回数と戦利品の量が格違い。或る部屋などは南瓜の食べ過ぎで、顔が黄色になつたと漫画的な笑い話をされた程だ。

若い時には腹が一杯になる事が先で、罪の意識はうすかつたが、今にして思えば、農学部の皆さんには、苦労して作物を作れば野猿のごとき餓えたる猿が根こそぎに近い状態でもつていいき、一体何の為に何か月も苦労したのだろうと、さぞや嘆きのセレナーデを唄つた事だろう。若いと云う事は世の中の事が分からぬまま、あり余るエネルギーを思慮のないまま行動し、相手にダメージを与える事思えは赤面

の至りである。当時の寮生全員に代わり、本当に申し訳ない事をしたとお詫び申し上げます。

貧乏だが明るく、我儘な青春を送らせて貰った北海道の大きさに感謝し、大学のモットーのボーアイズ・ビー・アンビションを改めて胸に刻み、何時迄も未来に向かって前進したい。



入寮許可証

湯 浅 亮

(昭和三十二年入寮)

この一枚が、今の私にどれほど影響を与えたか：

昭和三十二年四月、入学許可証と札幌駅までの切符そして何よりも大切な恵迪寮入寮許可証を胸に、故郷近江八幡を出発。東京で一泊、東北本線急行「みちのく」→真夜中青森発の連絡船：青森の灯がどんどん遠のき行く手は真っ暗闇：心細くなり涙ぐみ：早朝の函館・初めて見る北海道、かすかな希望…急行「大雪」は珍しい地名「俱知安」付近、残雪の壁を通過：十一時五十分札幌駅到着。どんどんより曇った馬糞と土埃の舞う未だ肌寒い殺風景な札幌の街：「北十七条西八丁目」の地名を頼りにようやく…恵迪寮玄関に到着した。

居室は、ラグビー部のスペースを割当てられた。同室の先輩は太田徹、小林征、乾幸男さんの三人、一年目は神戸出身の矢頭成元君と私、計五名で、隣の部屋には九里謙一先輩や諫訪出身の一年目小林大二君が居た。皆さん温かく親切で、早速歓迎会ということで喫茶店へ；私には始めてのコーヒーの味であった。

新入寮生歓迎コンペ、観桜会…、やがて寮生活にもすっかり馴染み、すばらしい初夏の北海道の青春を満喫した。夏休みの終わり頃、太田委員長のもと「都ぞ弥生」の歌碑建立の作業、そして九月には除幕式。赤木顯次氏の講演会が行われた。

受付での、寮務部長牛山先輩の親切な応対に有り難く感じ、見覚えのある布団ズックと柳行李を発見した時は本当にほっとした。

二年目になつて応援団の二部屋が出来、野村・窪田・石川・次田・杉山・千秋君らと同居、寮歌をたくさん覚え、商大戦やローランでの寮歌指導、各種行事に活動した。当時、ボーラ並木や寮の周辺でアベックを襲うチンピラが出没、

チンピラ刈に出かけあわや一戦という事態もあった。不眠街とやらに居住し、夜中に「いろいろ」に通い、昼間は寝ているかゲルビンになるとアルバイト、さっぱり祭は最高“であった。

恵迪寮に「ハワイアン・バンド」が誕生した頃を思い出し……

石川舜

(昭和三十二年入寮)

夏休みがもうじき終わり、となると”帰寮ラッシュ”が始まる。

昭和三十年代、東京から札幌へ、という場合、飛行機は飛んでいたが、当時、飛行機に乗れる恵迪寮生なんてまずいなかつた。

『エンヤラヤーのエンヤラヤーのエンヤ

ラヤ エンヤラヤーの声聞きや勇み立つ 娘十七、八やス
チユワーデスでござる 誰も見たがる乗りたがる……

こんな唄があつたくらいだ。汽車で行くのが通例である。
その汽車もいまとは大違いで東北本線も函館本線も、そして青函連絡船もみんな石炭を焚いて走っていた。

札幌に夜着くには、上野発十九時五十分の急行「十和田」
か、二十時十分発の急行「北斗」が便利だった。この二つ

の列車には、「グリーン車」、「寝台車」も連結されていた
が大部分の車両は『オハフ』などの”三等車”（普通車）。

恵迪寮生たちはもちろん”三等乗客”である。しかも、「指定席」なんてなかつたから、発車時刻のかなり前からホームで列をつくらなければならない。上野→札幌は、これら急行列車と連絡船、函館からの急行列車「まりも」と乗り継いでも約二十四時間かかった（特急もまだなかつた）。

かなりの長旅になる。気心の知れた者同士連れだっていけば道中も楽しい。そこで寮生たちは、八月も中旬になると、帰省している寮友同士連絡をとりあつて、上野駅に集合して汽車に乗つた。

”三等車”は四人で「ワン・ボックス」。人数の多いときは「フォー・ボックス」くらい寮生たちが占めることもあつた。

昭和三十三年八月末のある夜、例によつて数人連れで帰ることになり、二つのボックスを占有した。まだ二人分席

がある。「誰か来るかもしれないから見てこよう」。わたし

はホームに降り、列車に沿って「捜し」に出かけた。と、二人の仲間がやってきた。TとKだ。「オウ!」と手をあげると彼等も「オウ!」と応えて「やあ、やあ」となった。

「〇〇や口なんかと一緒だ。席もあるぞ。来ないか」

「それは有難い」と答えるだろうと思つたら、あにはからんや二人は「いいんだ、いいんだ」「?」「俺たち、ここに乗るから」。なんと、寝台車の前だった。「えつ!? どうしてお前らこんなものに乗れるのか」アッケにとられているわたしを尻目に、二人はさつそうと寝台車に乗り込んでしまった。

「ゲルビンだ、といつもグチってるヤツらがどうして⋮⋮?」わたしたち、三等乗客はひとしきりセンサク論議をさせられた。

連絡船の中でも、函館からの列車の中でもついに彼等と一緒ににならず、「どうやらヤツらは大名旅行をしたナ」「けしからん」など思つてもみたが、楽しい長旅は終り、翌日夜、一行は寮に帰還した。

やがて九月のお彼岸。前年、「赤痢発生」でやむなく中止となつて、首を長くして待ちわびていた寮祭が盛大に行われた。寮祭の「打上げ」と「水産追い出し」と「委員会

交代」を兼ねた「全寮コンパ」の席の余興の際、かの二人が首からギターをブラ下げて登壇して、驚くべき秘技をみせた。これまで「全寮コンパ」のとき歌舞音曲はいろいろあつたけれど、ほとんどは寮歌とY歌だった。ギターを演じた者もいなかつた。数年前から北京大学内ではブレクトラム音楽が流行りだして、寮でもギターをやる者がいたが、みな、クラシックだつた。それだけに二人のいでたちに、みなのはビックリしたが、二人は当時、世間でブームになりかけていたトレンドィなものやつてくれたので、二重、三重にも驚き、また感嘆した。

万雷の拍手にこたえてKが宣うた。

「俺の高校の親友に、平尾昌晃ってえのがいる。知つてるか? 実はヤツとの付き合いから、俺も少しやつてたんだ。でな、この夏休みに、Tも誘い込んでアルバイトやつきたんだよ。寮祭でもウチの部屋は、ご承知のように『喫茶店』やつて、バンドつきで大好評、おかげでウンと稼がせてもらつたよ」「俺はな、全然シロウトだつたんよ。だけどサ、Kに誘われてやつてみたら、これ、このとおりよ。これ、エラく儲かるぜ。みんなもやれや」とT。「ほう⋮⋮ みんな呑まれてしまつた。

なるほど、彼等が寝台車に乗れたわけがわかつた。やる

もんだねエ……。さて、それからというもの、寮では、ギター、ウクレレ、スチールギターなんぞが大流行となり、やがていろいろなバンドができていった。

当時札幌では、冬になるとダンスパーティーがあちこちで開催されていた。しかしプロのバンドは少なくて、主催者たちは「少しくらい下手でも」とバンドの確保に大わらわだった。Tたちは『北大ブルーハワイアンズ』とか称して、札幌にとどまらず、登別など道内の観光地まで繰り出して稼ぎまくつていたらしい。またこのブームは、「水産生移行」とともに北農寮などへ持ち込まれ、函館でも大繁盛、バンドマンたちは、「メッツェン」にもてても困つた」(眞偽のほどは知らないが)と聞かされている。さらに同好の士たちは、札幌一函館と離れ離れになつたものとときどき、「メンバーが足りなくなつて、て呼ばれてさア」なんて“人材派遣”なんかもやり合っていた。

札幌農学校時代から今日までの長い長い「恵迪寮史」の中で、そのときどきの寮生たちが、どんな音楽を愛好、楽しんできたのか、その変遷史については詳かではないが、「ハワイアン」の登場、まんえんは、K君、T君らによるものと思う。



(一九九四・一一・一五記)

家仲間で音楽好きの者たちが『音楽会』をやるんですが、よろしかつたら」とお招きいただいた。
洋楽のクラシック、セミクラシック、各国民謡 etc。合唱、独唱、合奏、独奏あり、邦楽では薩摩琵琶、尺八、さらに、歌舞伎の声色まで。うまい人、いまいちの人、みなそれぞれ、それなりに一所懸命演じ合い、実に楽しく、暖かい夕べだった。ふと、K君、T君その他寮友たち、寮祭のことなどが思い出された。

われらが恵迪寮同窓会には、隠れた「樂才」の持主が沢山いるだろう。音楽以外の芸能でも多才さいさいのはず：三いつか適当な折に、Yさんたちのような催しをやってみたらどうだろう。同窓の輪がまた大きく太くなるにちがいない。

私の恵迪寮——あの忌まわしい夜を超えて——

尾郷賢

(昭和三十三年入寮)

憧れの北海道大学受験の前夜、私たち同級生七名は恵迪寮に泊まっていた。札幌から汽車で約二時間の田舎高校を卒業したばかり。先輩の寮生に特別に計らつてもらつた。

尊敬する北大生に前夜から囲まれ、アカデミックな雰囲気には浸れば、受験にもプラスするに違いない、と愚かにも思つたわけである。

部屋はマウマウ団という恐ろしげな名前だった。今にして思えば、これがあの忌まわしい夜の前兆だったのかもしれない。

マウマウ団々員は紳士だった。部屋を布団ごと明け渡し、不要な干渉をせぬよう配慮してくれた。われわれ七名の他にもう一名、年配の受験生が居た。医進課程を目指して、自分のペースで勉強していた。われわれが騒がしくして迷惑をかけたようだった。

寮内の雰囲気は静かで、食堂で会った寮生たちは好意的

だった。幸せな気分で早めに床に就いた。しつかり眠らねば。気持ちはあるが、目は冴えてなかなか眠られない。寝がえりの音ばかり聞こえた。

いつか寝入っていた私たちの部屋の戸が、突然荒々しく開けられた。「受験生が泊まっているんだって?」酔っぱらった寮生が一人入って来た。「ようし、俺がこれから受験の心得を教えてやる。みんな起きてよく聞け。こら、そこの二番目の男、起きろ。大事な話だ」

ひどく酔っていた。ありきたりの受験心得を、くどくど長々とならべた後で、「いいか、一番大切なのは睡眠だ。最低四時間は熟睡しろ。眠られぬ奴は敗けだぞ」酔っぱらいの特徴で、何度も繰り返す。

泣きたかった。かの北大生が、最低の醉態で、こんなひどい仕打ちをするなんて。叫びたかった。(熟睡したいから早く消えてくれッ!)

この瞬間、私は恵迪寮が大嫌いになつた。

一時間以上も経つて、彼よりも年配の、例の受験生がやんわりと阻止してくれた。それがなければ、まだまだ続いたに違いない。その後朝まで、ほとんど眠られなかつた。全員目を充血させたわれわれが、七人中四人も合格したことは奇跡だつた。しかし、あの恩人の年配受験生は不合格だつた。

経済的事情から、苦界に身を沈めるような思いで、大嫌いな恵迪寮に入寮した。あの醉漢寮生と同格になることを恥辱と思つた。機会があればすぐにも出るつもりだつた。

半年も経たないうちに、私は恵迪寮大好き人間に変つた。男たちの旺盛な自主独立の精神、貧困にめげぬ陽気さ、高い野心、本音の会話、破天荒な行動、団体生活の魔力。どれをとっても田舎出の中途半端な優等生には新鮮な刺激だつた。自分のこれまでの思考体系が、音をたてて崩れるのを感じた。

今私は、恵迪寮出身であることを大きな誇りとして、人に語つている。



〈刷り込まれた〉者の末路

合　田　寅　彦

(昭和三十三年入寮)

恵迪寮の二年有余は、現在の市民生活の感覚からみると全く異様なものであった。恵迪寮の生活を経験した者なら恐らく誰もがそう感じているにちがいない。

夜襲がつねのストームはいわば公然たる住居不法侵入だし、安眠妨害である。部屋サークルのコンバでいいかげん酔いがまわると、「いっちょ、ストームをかけるか！」となるから、台風ではないが、いつどこで発生するかわからない。

私が在寮していた頃は、かの安保改定反対闘争が日本中に渦巻く前夜だったから、寮生同士の深夜の議論や活動家によるオルグも頻繁で、隣で誰が寝ていようとそんなことはお構いなしであった。理論がつねにもとめられ、理屈がすべてに幅をきかせていた。

深夜、昼のうちに売店で買っておいたプロットを机の引き出しから出し、マーガリンをつけてほおばる。硬く冷え

たそれも、空きつ腹には御馳走であった。いまわが家では、豚や牛や鶏が町のパン屋から毎日で売れ残りの菓子パンやふわふわした食パンを腹いっぱい食っている。

秋ともなると寮務事務室の隣のヒータ室からは、夜毎に馬鈴薯やかぼちゃのゆであがつた匂いが漂ってくるが、それらはたいてい裏の農場からアタックしてきたもので、洗面器が鍋代わりに使われていた。わが家にはいま犬が二匹、猫が六匹いるが、こんな大所帯でもエサを煮るのに洗面器は使わない。

恵迪寮祭を見にきた札幌市民は、寮の汚さを「バイ菌も死ぬ」と形容していた。学部寮を含む五年間、私は布団を一度も干したことがなかつたが、だからといって細菌性の病気に罹つたということもない。もしやバイ菌の方が先に参つたのかもしれない。

入寮にあたつて母が縫つてくれた丹前が綻びたので、い

よいよ寮を出るときに月寒の叔母に繕つてもらつたことがあつた。叔母は顔をしかめながらふたつの指で丹前をつまみ上げたきり、しばしその扱いに窮していた。

主に学部寮に移つてからだが、私は北大寮自治会連合（北大寮連）や北海道寮連の仕事に打ち込んでいた。したがつて道内その他大学の寮を訪ねる機会も多く、そんなときは空いている他人の布団に寝かせてもらつた。どれも体臭の染みついたような布団だったけれど、いっこうに気にならなかつた。

さて、この異様な寮生活だが、大方の寮生OBにとってはそれは一過性のものであつたにちがいない。寮歌祭で先輩OB諸氏が学帽をかぶり蛮声をはりあげる光景も、一過性ゆえの懐かしさによるものとお見うけする。人生の大半をかの恵迪寮のような生活をしていて、なおかつ舞台の上でも寮歌を歌つていたとしたら、よほど「おめでたき人間」ということになろう。

教養部自治会が大学のなかのひとつミニ権力だとするならば、寮務委員会（執行委員も寮におけるミニ権力であった。任期がたつたの四ヶ月でも、新しく決まつた寮務委員（十二名）は厚生課長の案内で学長室によばれ、挨拶と自己紹介をする。私は、杉野日学長から「しつかりやりたまえ」と握手をもとめられて、このミニ権力のボルテージが一挙に上がつてしまつた。寮委員会の四ヶ月間は、今的生活の一年分以上に感じられたし、実際のところそれに匹敵する活動密度をもつっていたようと思う。

鳥類のヒナは、卵からかえつて最初に見たものを自分の親と思い込み、しかもその認識は終生変わらないという。この現象を動物行動学では「刷り込み」といつているが、私の場合は入寮時の新入寮生歓迎ストームや、最初に耳にした寮歌「春雨に濡るる」のことなく灰白色の旋律、長い廊下の向こうの炊事場から漂つてくるズッペの匂い、学長との握手などが、どうやら私の脳細胞に「恵迪」として刷り込まれてしまつたらしい。寮の活動にのめり込むのに、たいして時間はかからなかつた。

大学の自治会は昼間の活動である。社会矛盾を説くアジテーターが、かりに夜の巷の退廃の海に溺れようと、その人格が問われることはない。ところが寮では、活動は二十四時間である。まる一日の行動が問われるということよりも、衣食住のすべてが活動にかかわつてくるという意味で。食事の献立を考えもすれば、エッセンタックの監視もある。建物の補修を大学厚生課に掛け合つたり、寮從業員の採用や給与規定の検討などもするのである。寮の活動が

時にデモの動員に有効にはたらくことがあつたとしても、活動の主流は寮生の「生活」に根ざしたものであつた。大學自治会の活動との際立つた違いがそこにある。ともあれ、二十歳そこそこの人間が手探りでやつた寮の活動は、私はいい勉強になつた。

では、「刷り込まれた」男のその後の生活スタイルはどうであったか。

人により人生が様々であるように、その生活も様々である。つまり、私の生活がどうであれ、それは私だけのことであつて敢えて述べるべきことではない。ただ私は、自分がかりに舞台の上で学帽をかぶり寮歌を歌つたとしたら（それこそヤバイことになる）と密かに思つてゐるので、他のO.B.諸氏の諒承を得んがためにのみ、そのあたりの私の生活のあらましを以下に記してみたい。

ところは、障子一枚隔てて三人の若い教員が下宿していた屋根裏のような仕立屋の二階部屋であつた。翌年結婚して教員用に高校が借りうけていた炭鉱住宅街の長屋に移つた。そこには碁の仲間、絵の仲間、組合の同志や同人誌の仲間、教え子やその親などがよく顔をみせていた。クリスマスだからと深夜までダンスをしていて、壁ひとつ隣の体育の教師のひんしゆくを買ったこと也有つた。風呂は炭鉱夫用に二十四時間開いている無料の共同浴場で、浴室の感じも匂いも恵迪寮のそれによく似ていた。

東京に来てからの住まいは公団アパート。前後左右を壁で隣と接する西洋長屋である。ここでも私の生活スタイルは炭鉱住宅でのときとまったく変わらない。ある住民運動の結果から自宅のガスが使えなくなり、六ヶ月ほどヒーターならぬ石油コンロ一つで意地を通したことがあつた。どうせん風呂も使えないで、団地で同じ活動をしていた四組の家族が一緒に、一日おきに車で遠くの銭湯に入りしていく。幼い子供たちは毎度の温泉気分に大いに楽しんでいた。

勤め先で組合をつくつた。生活要求を掲げて賃上げ闘争なども果敢にやつたけれど、組合員同士が生活そのものを語り合おうとしないのが、私には不満であつた。

私が櫻影寮を卒て道東の高校の教員として最初に住んだののサークル名を表札の名前に見立てれば、寮は一種の長屋である。それも、客の出入り自由な。

生産と生活の両方が同時に見えるような生活をしたい！

そんな想いが高じて、十八年勤めた会社を辞め、四十五歳のときに茨城の山の斜面を開墾して百姓になつた。国の教育費を使いながら、講義（農学部の）もろくに聞かないで寮にばかりいた人生の負い目が、動機のひとつになつていたことも事実である。

女房は変わらず勤めているから、ここ十二年夕食の支度は私がしている。龍田揚げやクリームシチューなど、寮で食べた料理が私のメニューにもしばしば登場する。

農園は、畑と水田各三十アール、鶏三百羽、豚五頭、肥育牛一頭、やぎ一頭と、まったくの小規模である。ただ、完全無農薬の有機栽培というところがめずらしいのか、素人の農場だというのにいろいろな人が研修に入る。今年は西アフリカの黒人農業技術者が四人、田植えと稲刈りにきた。

百姓仕事の合間に町の若い仲間と地域の文化誌を刊行するようになって、わが家はにわかに人の出入りが激しくなつた。酒がはいり、議論や編集作業も深夜に及ぶから、受験生の勉強の妨げや家族の安眠妨害になつていることは確かである。

ところで、「こんな男に連れ添う女の顔が見たい」とお

思いの方がいるのでは、とここに至っていさか心配になつてきた。だから敢えて告白するのだが、われわれ夫婦は一九六二年に東京で開催された全国寮連合定期大会で知り会つたのである。

〈刷り込まれた〉者の末路が救われないことが、これでお分かりいただけると思う。

・・・

本誌の原稿執筆の依頼をうけて、久々机に向かつてワープロのキーをたたいた。机の横には私専用のベッドがある。もちろん万年床である。私は家具店にあるような豪華なベッドは好きになれない。町の知り合いの大工に特注して、縁台にも転用できるように木製の縁なしのものを作つてもらった。縁がないから、寝ているうちに毛布や掛け布団はずり落ちるはずである。ところが私の布団は、そう、あの頃のようにな、敷き布団の下から長い紐で縛つてあるのである！



ネズミ、カツコウのことなど

石 村 義 典

(昭和四十年入寮)

一瞬の走りぬける痛みに「アッ！」とびおき、スタンドの明りで確かめると、親指に血が流れている。深夜をこえてはいるが、まだ暗黒と静かさのなかの恵迪寮のベッドのうえでのことである。その血の流れは、ここ数日來の記憶と結びつくものであった。

机の引き出しにあつたプラスチックのブラシの歯はボロボロに噛み落とされていたし、授業から帰つて来て、あけた引き出しからはネズミがとび出してきた。私の親指を食物ととらえて、一噛みを与えて逃げ去つたのである。

それから旬日、恵迪での、私よりも先住者であるケイティキネズミとの抗争が展開された。

数日間は、街で求めてきたネズミ捕りに、その先住者を発見し、処分する朝がつづいた。

深夜、ネズミ捕りのふたの落ちる音にとびおきて確かめると、ネズミ捕りのなかに、その先住者を発見しない朝が

二～三日つづいたのち、木の床のうえを「ガタガタガタ」という乾いた音でとび起ると、ネズミ捕りは設置していた場所から二～三メートルの距離を移動していた。つまりネズミがネズミ捕りを引きずつて移動させたのである。まさにケイティキネズミの主の登場である。私の記憶はそこでとぎれる。多分、最後は登場した主ネズミも、私たちの手で処分されたのだと思う。

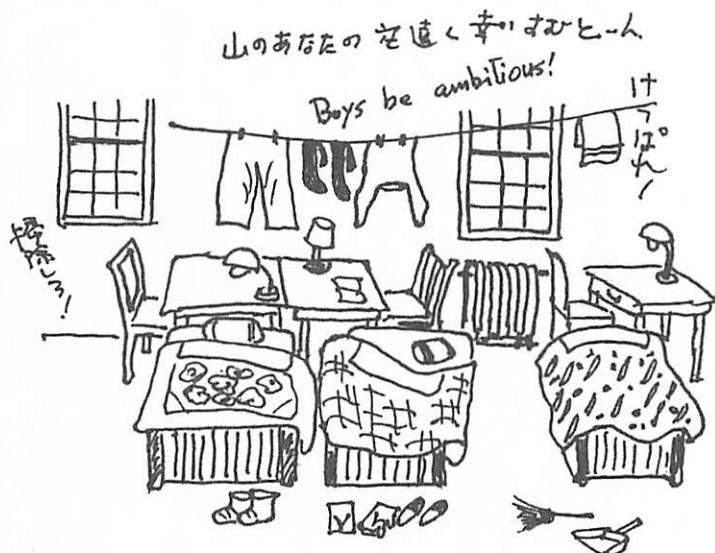
南からやつてきたものにとって、あの初夏の静寂をとおつてくるカツコウの声は、いまも新鮮さをもつて記憶のなかにとじこめられている。それも日曜の朝まだきの熟睡^{マタタキ}を破るものである。

そのころ、郷里から身につけてきたズボンの腰まわりをぬい直す必要にせまられた。三本のズボン全部が合わなくなってしまった。生協での仕立直しは一本六百円、三本で千八百円、一日の三食が九十円、食費一ヶ月二千七百円、

経常費を入れての寮費の合計五千円弱、その当時（昭和四十一年）の千八百円は大きい出費であった。

二ヶ月前までの南での百姓生活、昼間の農作業、夜は弟妹への学費の仕送りの道を開くために必死で見つけた家庭教師、それも一晩に二～三ヶ所を廻っての帰宅は十一時過ぎであった。（この高校生相手の家庭教師は、いつのまにか私の受験勉強の役割を果していた）。そんな百姓生活と、そして恵迪寮でのそれとの消費エネルギーの落差が、ズボンのぬい直しを惹起したのだ。

寮の食事のメニューのうち、今も残る味覚の記憶はないが、カッコウの声を聞く、そのころ、新入生への第一回目の、三ヶ月まとめての奨学金の支給がある。昭和四十年代一ヶ月八千円、三ヶ月分の二万四千円の支給。同室のもう一人の支給された友人と出しあって、同室者たちにふるまつた、ヒーターロームでのはじめてのジンギスカンは、いまも味覚にのこるものである。



北極研究を通じて学んだこと

—極地探検家ナンセンのヒューマニズム—

太田 昌秀

(昭和二十八年入寮)



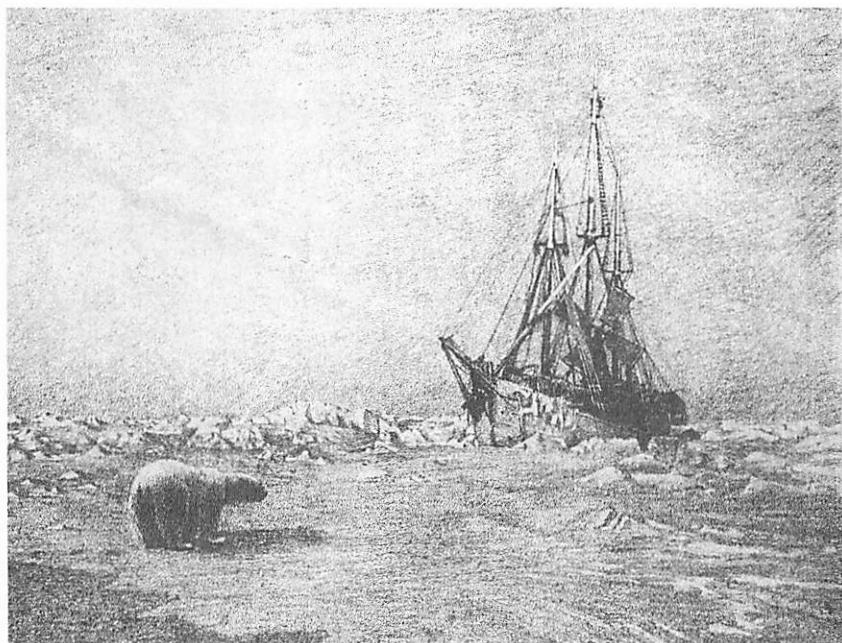
い生活をして還暦をこえた。この国の定年は六十七歳なので、まだしばらくは現役である。二十五年間、ノルウェーの極地研究と付き合いして、学問の外にも学ぶことが沢山あつた。ここにその一つを紹介し、旧友諸氏への報告とさせていただきたい。

前世紀後半から今世紀初めにかけて、北欧の小国ノルウェーから世界に知られるほどの人が続々と輩出した。絵画のムンク、音楽のグリーケ、三人のノーベル文学賞受賞者、数学のアーベル、低気圧理論のビャルケネス、それに極地探検家のナンセンとアムンセンなどである。彼らは皆、その頃スウェーデンから独立しようとして闘っていたノルウェーの高揚した時代精神の申し子であった。これらの人々を一人の人間として見た時、フルシチヨフ・ナンセンはその後の北欧の小国の世界での在り方を基本的に示した点で、傑出した人であった。

ナンセンの探検と学問

ナンセンと云ふどもやはり時代の子であつたから、十九世紀中頃に行われたスウェーデンのノルデンショルドによる北極研究、特にヴェガ号の北東航路の完通は大きな刺激になつたことであろう。ヴェガ号が越冬してシベリアの北岸を通り抜け、一八七九年に横浜へ着いて世界にその成功を打電した時、ナンセンは十八歳であった。二十一歳の時にはアザラシ狩船に乗つて、グリーンランド沖で初めて氷海の洗礼を受け、二十七歳の年には四人の仲間と橇を曳いてスキーでグリーンランドを横断した。

ヴェガ号がベーリング海峡を南下するのと入れ違いに、米国の探検船ジャネット号が北極海へ入り、二年間氷に閉じこめられて流された後、新シベリア諸島沖で沈没した。隊員は橇とボートを曳いてシベリアへ向つたが、大半は死亡した。この船の破片は更に数年後、グリーンランド南岸に漂着し、それを知つたナンセンは、氷につぶされない強い船を造つて氷と共に流されれば北極海を横断できると考え、一八九三一九六年にかけてこの画期的な探検を成功させた。この探検の重要さは、その後今日に至るまで北極海の調査は基本的に彼の探検を踏襲していることからも判



る。

それまで北極海中央部は浅海あるいは陸地で、そこから大量の氷山が流れ出していくと考えられていたが、この探検により北極海が深海盆であることが確認された。ナンセンはこの探検とそれに引続く海洋調査で世界の指導的海洋学者になり、四十歳台には国際海洋学会々長を務めた。それまで沿海にしか棲んでいないと思っていた鰐が外海にも沢山いることを認め、北洋の漁業に大きな貢献をしたりもした。

ノルウェーの独立と第一次大戦

この探検はスウェーデンに支配されていた小国ノルウェーの名を世界に知らせるうことになった。今世紀初めにスウェーデンとの対立が深まるとき、彼は探検で得た名声の上に立って、母国の独立のために力を盡した。国民投票が行われて独立の世論が確認されると、両国は一触即戦の緊張に達した。ナンセンは時の政府の要請でデンマークに赴き、王子夫妻を説得し現ノルウェー王室の実現に努め、近隣諸国の支持を取付けて戦争を回避し、母国は独立を達成することができた。岩山ばかりのスカンジナヴィア半島西部で独立はしてみたものの、この国はまわりの国々の助けなし

ではとても立ちゆかず、それらの中でも最も力のある英國へ、初代大使としてナンセンが派遣された。こうして独立直後の政治の中枢に巻き込まれた彼は、滞英中に愛妻を失い、一九一〇年には自宅の屋上から、自分が北極探検のために造ったフラン号が、アムンセンを乗せて南極へ向うのを見送り、探検の夢をあきらめてしばらくは学問に打ち込んだ。しかしこれも長続きせず、ヨーロッパは一九一四年から第一次大戦に入り、海洋調査どころではなくなった。

大戦中ノルウェーは中立を守つたが、最大の輸出品である魚をドイツへ売る一方、小麦の不足は全て米国に依存していた。米国が連合軍に参加するとこの小麦の輸入が制限され、ノルウェー国民は主食の不足に悩んだ。この時もまた、ナンセンは対米特別使節団々長を委任され、電信もない大西洋の対岸で母国からの指令も間に合わないままに協定を結び、国民の危機を救つた。

大戦後のナンセン

大戦が終るとその大惨害を反省し、再び破壊と殺戮を繰返さないための話し合い機関として国際連盟が生れたが、それは全く戦勝大国のもので、小さい中立国や革命で政体の変ったロシアが加盟できず、勿論敗れたドイツは排除さ

れた。ナンセンは、小国のお安全はこのよきな話し合いで通じてしか守られないことを痛感し、連盟の門戸を広げるために精力的に活動した。

戦いは銃声が止めば終りというものではない。戦いの悲惨は戦場に夏草が繁つても続く。大戦が終つた時、約五十万人の戦争捕虜が各地の収容所に散在し、その多くは凍え、飢え、病んでいた。革命の混乱に巻込まれたロシアでは特に惨めで、彼らは自分の家族の生死も知らず、絶望の中で死につつあつた。新生したばかりの国際連盟の最初の仕事の一つはこれら捕虜の母國送還で、"正しいと信することをどんな王侯や大統領にもきつと説き得る人"として、ナンセンがその責任者に推された。ヨーロッパは革命と反革命によつて引裂かれ、全てが破壊し盡くされた状況の中で、彼の委員会は二年間の間に四十五万人の捕虜をそれぞれの国へ送り返した。そして、"ナンセンのこの事業で、妻や母が喜びに泣かなかつた国はヨーロッパのどこにもなかつた"と感謝された。

ロシア革命後の十年間は戦争と革命による難民が百五十万人もロシアの近國へ溢れ出し、スラムになつて伝染病が広がつた。赤十字の要請によつて国際連盟には難民局が置かれ、その高等弁務官にナンセンが任命された。それから

数年に涉る彼らの努力により、難民はそれぞれ生きてゆける所へ落着くことができた。この難民の移住について、国境で区切られた国々の役人はバスポートを要求した。一九二二年、ナンセンは三十一ヶ国の代表を集め、難民局が発行する確認證をバスポートとして認めることを承認させた。これには責任者ナンセンの肖像を描いた証紙が貼つてあり、ナンセン・バスと呼ばれ、数十万人の難民がこれを示して国境を越えた。今日でも世界の難民達にはナンセンバスポートが発行されている。最近日本では、第二次大戦中バルト海の小国の領事であつた杉原千畝氏が、国の指示にそむいて数千人のユダヤ系難民にヴィザを発行したといふ人道的美挙が注目されている。杉原氏はナンセン・バスポートをどのように思つておられたことであろう。

革命で亡命したロシアの上流階級を受入れ共産主義を呪つた西欧諸国は、ほとんどこれらの事業に協力せず、飢えた難民を見殺しにする理由を反共の政治であると弁解したが、かろうじて生き延びた人々はナンセンに心から感謝した。この西欧の反人道的な冷たさが、その後半世紀にわたる東西対立の底にわだかまつていたのである。

革命の混乱と重複して、一九二一年からロシアの穀倉ヴォルガ川流域が旱魃に襲われ、八百万人の子供を含む三千

万人が飢餓にさらされていた。ナンセン委員会はソ連政府を説いて、国際連盟を通じて借款を受けることを承知させ、貸し付けと食糧援助を西側へ要請したが、提案は連盟の會議をたらい廻しされ、結論を出さず、多くの職業政治家達はナンセンを共産主義の手先だと誹謗した。その中で米国だけが募金活動に協力し、ナンセンは米国に渡つて援助を求める講演をして廻った。彼のヒューマニズムに溢れた呼びかけに、ある新聞は、”彼が通りすぎると、教会の塔も夜中に頭をうなだれている”と書いている。

大戦後もトルコとギリシャは戦いを続け、一九二二年に

はギリシャが決定的に大敗した。トルコに住んでいた約百万人のギリシャ人は、危険を感じて母国へ逃れ始めたが、石灰岩ばかりの痩せた母国は彼らを受け入れる余地がなかった。そこでナンセンは、マケドニア地方に住んでいた五十万人のトルコ人と逃れて来たギリシャ人を、人も財産も含めてそつくり入れ替えることを提案した。そしてほとんどの人が不可能としたこの難事業を、両国を説きつけて八年かけて成し遂げた上、借款を世話して新耕地を開き、人々に生きる糧を与えた。

古く景教と呼ばれた時代から回教圏の中に孤立して特異なキリスト教社会を造ってきた中央アジアのアルメニア人

達も、トルコの圧迫とロシア革命の間にあって惨めな亡国の危機にあつた。戦乱を逃れた人々は周辺のシリア、パレスチナ、イラン、イラクに放浪し、生死の境にあつた。ナンセンは連盟にアルメニア援助を要請したが否決され、憤激して辞表をたたきつけた。しかし連盟は辞表を受けつけようとせず、かと云つてアルメニア人を助けようともしなかつた。かくてナンセンはまた、民間の善意に訴えてこの援助事業を進めざるを得なかつた。この十年にわたる難民局の活動中、彼は全く報酬を受けず、ノーベル平和賞賞金をはじめ、私財まで活動に注ぎこんだ。

こうしてナンセンは、若い時には思つてもみなかつた國際政治の場で、気狂い沙汰だと笑われた北極探検を成遂げたあの不屈さで、正直のヒューマニズムを貫き通し、威信とか既得権にこだわつて妥協してごまかす国家の代表者達にはできない偉大な事業を達成した。

平和とは信頼を築くこと

再不戦の悲願をこめてつくられた第一次大戦後の国際連盟も第二次大戦後の国際連合も、実際は戦勝国の勢力争いの場でしかなく、本当に平和のために誠意を盡したのは弱權に縁のない小国であった。特に第一次大戦後の国際連盟

で世界の信頼をからうじてつなぎとめたのは、ナンセンの難民局であつた。

オスロ郊外のビグドイ半島には、ナンセンやアムンゼンが南極や北極の探検に使ったフラム号という船を岸に引揚げた博物館がある。館内の船をとりまく二階の回廊には、極地を主題にした油絵が沢山かかっている。これらはロシア生れで、現在フィンランドに住んでいるゴイヒマン氏が寄贈したものである。彼は青少年時代に正にナンセン難民局の援助で生き延びた世代の一人で、後に医学を学び北極探検にも参加して、第二次大戦中は赤軍の軍医総監であつたが、定年後フィンランドに移住し、趣味の絵を描いて知られるようになつた。その彼が、自分の描いた絵の中から数十点を選び、かつてのナンセンの援助へのお礼にとラム博物館へ寄贈したのである。

私は此頃、年に一度はセント・ペーテルスブルグを訪ねる機会がある。今年の五月には友人達が二十km位西の郊外に宿を見つけてくれた。そこはペトログラフというツアーオの夏の宮殿があるので、付近にはツアーラの賓客であつた上流貴族や外国の王族が滞在した別荘がある。それらは第二次大戦中ドイツ軍に占領され、内部は完全に破壊されたので、ソ連時代にはサントリウムに改装して利用していた。

私はその一画に泊めてもらつたが、幸い同じ建物の中に英・佛・独語の翻訳をしている年金受給者の老女がいて、ロシア語のできない私を親切に助けてくれた。彼女は、世が世なら私の如き土百姓の伴など近づける人ではないような優雅な雰囲気をもつっていた。私は年寄りの常である早朝の散歩にもお伴し、ツァーの時代の古いロシアの話や、最近の世情についての本音などを聞かせてもらつた。話がロシアの極地探検になつた時、彼女は、「私は女学生の頃、将来結婚するならナンセンのような人と一緒になろう、と真剣に思いつめていたものでした」と述懐した。「共産主義のソ連でどうして西側のナンセン?」という問いに、「私達の世代のロシアの女の子には、ナンセンは主義や国境を超えた理想の男性でした」と答えてくれた。

話は飛躍するが、このようなナンセンへの感謝と彼を生んだノルウェーへの信頼が、第二次大戦後の新国際連合で、初代事務総長にノルウェーのリー氏を選出させた、と私は思われる。岩の上に薄い苔しか生えていない貧しい小国ノルウェーの亡命政府の外務大臣が、世界の新秩序を築く機関の最高責任者に選ばれるということは容易なことではない。第一次大戦のあとの捕虜送還で、全ヨーロッパの妻と母の感謝を集め、西欧に白眼視されていた革命ロシアの

三千万人の飢えを救い、混乱した中近東の数百万人に生きる途を与えたナンセンの貢献は、彼を生んだ國の人ならきっと第二次大戦後の平和構築に、利己心なく盡くしてくれるだろう、という信頼が背後にあつたはずである。

昨年、数十年にわたつて世界の紛争の焦点であつたイスラエルとパレスチナが、話し合いのテーブルにつくという画期的な合意が調印され、その裏でこの難しい対立を協調にこぎつけたオスロ・チャネルが世界の称賛を浴びた。

表面では当時のノルウェー外相故ホルスト氏が華やかに取り上げられたが、この交渉の下ごしらえは小さい民間国際研究所所長であつたラルセン氏（現国連副事務局長）ら若い研究者達が営々と築いてきたものであり、ホルスト外相は丁度この問題が表面化した時期に外相であつたというに過ぎない。表面化以前の困難な話し合いの過程を思う時、かつてナンセンがギリシャやアルメニアの人々に盡した努力を思い出さずにはいられない。上記の研究者達がナンセンを生んだノルウェーの人々であつたからこそ、対立する両国の人々と心を開いて深い話し合いをすることができたのである。百年前のナンセンの貢献が現代の政治の中でも生きていると私は思われる。

私はこの数年、いくつかの協同研究などでロシアの研究

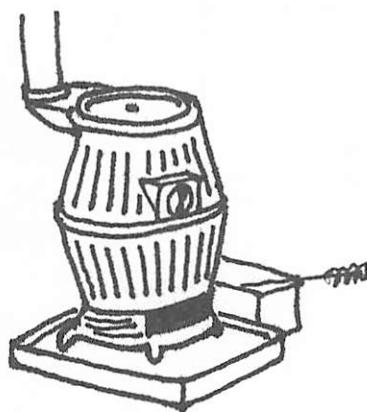
者達と接触する機会がある。日本人としてロシア人と話すと、一言で云えばロシアは日本など丸で相手にする気はない。金を出すとでも云えば、それじや使ってやろうかという態度である。日本とロシアは共に帝国主義的国土拡張の時期に鉢合せし、お互に相手の弱味につけ込んで侵略をしかけてきた。この不幸な歴史の中で両者は相互不信だけを積み上げてきた。その一方が今、助けて上げましょうかと云つても、相手が簡単に信用するはずがない。私がノルウェーの一員として話す時には様子が全く異つてくる。今年もドイツのラブチエフ海調査隊はムルマンスクに一ヶ月も足止めされ、多額の契約外費用を請求されて苦労したが、ノルウェー隊はロシアが最も敏感になつてゐるノヴァヤ・ゼムリアの核廃棄物投棄海域の海底試料採取でさえ何の障害もなく遂行できた。日・露・ノルウェーの北東航路協同研究でも、ノルウェーが日・露の間に入らなければ何事も進展しないだろうし、そもそもロシアがそのような協力を科学の分野でさえ、異なる國々の協同研究は関係国の中に今まで築かれてきた信頼関係に強く依存している。まして人種が異なり、歴史と文化がちがう人々の間で世界の平和を追求する時、何よりも大切なことは相互信頼であり、

ナンセンの生き方から私はそれをつくづくと学んだ。

現代の国際政治を見ると、ほとんどがごまかしと妥協の化かし合いで、自分の側の利益を求めるだけで、ナンセンのような無私のヒューマニズムなどかけらもない。そして大部分の現実家達は、”それがなぜ悪い？ 人間とは本来そういうものだ。お前のような奴は全くの世間知らずだ”とせせら笑う。

ナンセンを生んだノルウェーでも事情は同じだ。数年前、前外相が国連難民局高等弁務官に指名された時、この機関がかつてナンセンによって創設されたものであることを、きちんと解説した新聞はほとんどなく、現役の政治家も誰一人としてそれに触れた話をした者はいなかつた。そして任命された本人も、約半年後に本国の外相の席が空くと、やっと馴れかかった難民局を捨てて國へ帰り、そのあとを引継いだ日本の尾形貞子氏が、頻発する地域紛争が生み出す難民問題と悪戦苦闘している。彼がノルウェーの外相になろうと別の人があろうと、ノルウェーでは一人もそのちがいのために命を落す人はいない。しかし難民高等弁務官の手には世界中の数百万の命がかかる。就任半年でこの重要な職を平然と投げ出したこの前外相や、それを要請したノルウェー労働党には、ナンセンのような純

粹なヒューマニズムなど全くなく、自党の勢力維持しか頭にないと言わざるも弁解の余地はあるまい。日本の政界などは云うに及ばず、ナンセンの國ノルウェーでさえ、政治家は救いようのない小粒な俗物になり下つてしまつた。



カムチャツカ遠征雑記

高橋邦臣

(昭和二十八年入寮)

カムチャツキ

平成六年六月、私は機会を得て、カムチャツカ半島にあるジミナ峰（三、〇八〇メートル）に登頂、スキー滑降の冒險旅行に出かけた。

これは「北大山とスキーの会」主催で、隊員五名、年令構成五十四才～六十一才とロートルばかり、そしてサポートとして若手会員二名、合計七名で編成された。

詳細な登山記録は、同窓諸賢にとって必ずしも興味ある事項とは思えないでの、本稿はむしろ、近くで遠い国・ロシアを訪問した機会に見聞した印象的な事項について記述した。

素通りに近い見聞なので、正確無比という訳にはいかない点、お許しを乞う。

なお、日程（略記）は次のとおり。

六月四日 （土）新潟→ハバロフスク

六月五日 （日）ハバロフスク→ペトロパブロフスク・

通貨のこと

ルーブルであるが、我々が滞在中の交換レートは十円が百九十九ルーブルで我々は約二十分の一と概算した。五千ルーブルであれば約三百五十円である。我々のテントを見

六月六日 (月) ペトロ→ベース・キャンプ (ヘリ)

六月十日 (金) ジミナ登頂・スキー滑降

六月十五日 (水) ベース・キャンプ→ラドニゴバヤキヤンブ (ヘリ)

六月十六日 (木) ラドニゴバヤ→ペトロ (ヘリ)

六月十七日 (金) ——ペトロ滞在

六月十八日 (土) ——

六月十九日 (日) ペトロ→ハバロフスク

六月二十日 (月) ハバロフスク→新潟



て値段を聞いたので、六百ドルと答えると、六ヶ月分の給料といつた。すると彼等は一万円も一万五千円位の給料なのだろう。最近のニュースでは四千ルーブルで一ドルというからインフレがさらに進んだものと、思われる。

自由市場（ルイナック）のこと

ペトロの街には自由市場が二～三ヶ所あるとのこと。ホテルから歩いて十五分の所にある市場をフライとのぞきに行つた。

水産品が豊富に並んでいて日本の戦後の闇市での雰囲気である。テーブルの上に商品を積み上げて販売している。老婆がギョウジャニンニクを並べていたり、タラバガニの缶詰一ヶ四千五百ルーブル、スマーケサーモン一kg六千ルーブルで売っている。

六月十九日、一番大きいと言われている自由市場に行く。ここは品数も多かった。孫らしき女の子を連れたお婆さんが小さな木箱に網をかぶせて売っている。のぞいて見ると子豚が二匹、中で眠っていた。大きなキンギョサーモンを輪切りにして売っている。イクラのビン詰め二リットル位で六千円相当、ミンクの毛皮のロシア帽子百ドル（これは、ルーブルでは駄目と言つた）値切つて九十ドルで買う。皆に「モンゴリアン・オミサン、よく似合う」と散々からかわれる。ロシア式ソロバンで計算している姿も見受けられた。写真を撮らせてくれと頼んだが拒否されてしまった。

食事のこと

遠征中、ロシア人スタッフの中に十九歳の美人がコックとして、参加していく、我々に食事を作ってくれた。彼女は登山の級を持っているとか。勿論、彼女は、頂上まで登った。山を歩かせると身軽にスイスイと登つて行く。我々

の足どりを、まさかイザリとまでは思わないにしても、相
当にトロくぞく思つたことであろう。

A君から、「食事については、絶対に文句を言わないこと」と、がっかり釘をさされて、いたので覚悟はしていたが、味つけは塩とコショウが主体で、思つて、いたより口に合つた。いつも、楽しそうにボルシチなど作ってくれる。ニワトリも牛肉も骨ごと時間をかけてジックリと煮込んで作るので味がよい。中にマカロニを入れてだしてくれた。粒ソバが入つて、いた時は美味しいと思つた。米を入れてくれた時は、芯があつて、これはいただけなかつた。ほかに、パン、スマーフ・サーモン、バター、缶詰になつたタラの肝臓の塩漬けーこれは美味かつたので、山を降りてから自由市場でさがしたが見つけられなかつたーイクラ etc. 豊富に出售してくれた。食後、必ずチャイ（紅茶）又はコーヒーを飲む。コンデンスミルクは日本のよりネットリとしたもので、彼等は缶詰をナイフで上手に切りあける。

登山用具のこと

ペトロの市内でスポーツ用品専門店はみかけなかつたが、彼等のスキーは輸入品であつた。登山用品は豊富とは言えない。保温カップを珍しそうに、「テルモス」と言つ

て手にとつていた。

通訳はティーンエイジャーだったが、私の持つているエアーマットを売つてくれと再三せがんだ。結局、記念になる品と交換しようと言つたら、ロシア・イコンを持って来た。彼曰く「勿論筆談」「古いロシア・イコンで素晴らしいものと思う。正確にはわからないが、古いものだし、高価で、珍しい」とのこと。土産店には、売つていないものであり、交換に応ずることにした。

ペトロバブロフスク・カムチャツキーのこと

概ね、 52°N 、 158°E 、カムチャツカの州都、人口約三十万人、ペーリングのアラスカ探検の基地、ここから、ペトロ号、バブロフスク号の二隻の船で、探検に出港、一七二九年にペーリング海峡を発見した。

これに、因んだ都市の名である。せまい湾口から、奥深くアバチャ湾が入り込み天然の良港。原潜の基地もある。我々の乗つたヘリもその上を飛んだが、カメラを向けても、一向にかまわない。すい分とオープになつたものである。勿論市内どこにカメラを向けてもかまわない。

市内には、種々のモニュメントがあつた。ペーリングのは勿論であるが、一九四五とあるモニュメントは、旧ソ連

軍が千島列島を占領した記念碑で絵はがきの英文説明によると、「クリル列島を解放したソビエト陸軍兵士達へのモニュメント」とある。何言つてやがると、頭にきてしまつた。案内人はさすがに、我々をそこには、連れて行かなかつた。

幕末の日本人漂流民のこと

井上靖著「おろしあ国酔夢譚」という小説がある。最近、映画化された。私も二十年前に購入し、読み終えた時、深い感銘を受けた。

ご存知の方も多いとおもうが、大黒屋光太夫を船頭とする、伊勢漂民の話である。

一七八二年十二月、伊勢を船出し、嵐に遭つて、そのまま八ヶ月漂流、アリューシャン列島アムチトカ島に漂着、そこで四年過ごしてから、船を作り、一七八七年、千八百km航海してカムチャッカに渡る。その後、オホーツク、ヤクーツク、を経てイルクーツクに送られる。そこで、ラッ

クスマンの援助を得て、ペテルブルグに行き、時の女帝エカテリーナ二世に謁見を許され、直訴の結果、帰国の願がかない、一七九二年九月二十六日根室、一七九三年八月江戸に到着した。十七人のうち、二人が帰ってきた。鎖国政

策のもとで、一旦、海外に出た者が帰国出来たのは、希有な例である。

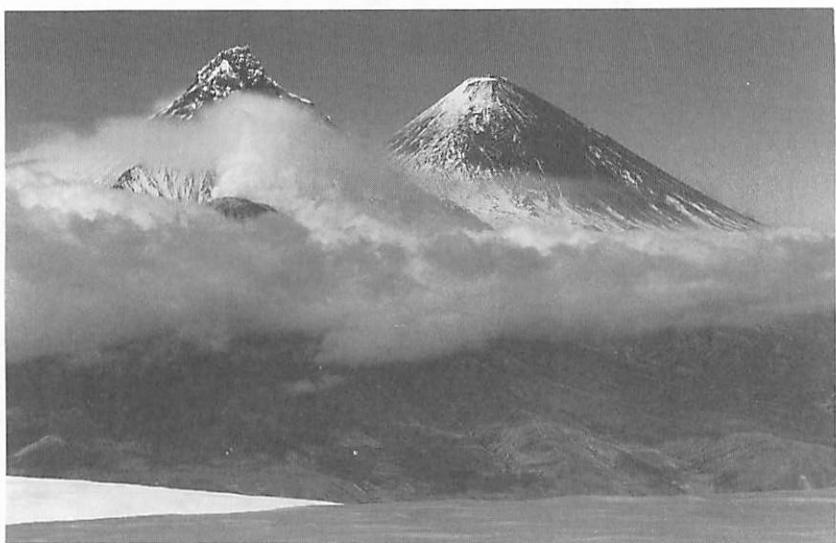
前置きが長くなつたが、光太夫がカムチャッカに到着した所は、カムチャッカ河口のウスチカムチャックである。そこから、約六km遡行して、政庁のあるニジネカムチャックで越冬している。

つまり、我々が登頂したジミナやクリチエフスカヤの北側をカムチャッカ河が流れているのを我々は山から眺めている。光太夫達はきっとクリチエフスカヤを眺めたにちがいない。

彼等がどんな思いで、故郷日本の富士山に似たクリチエフスカヤを眺めたのであろうか、記録には勿論ない、著者もそこまで言及していない。でも、私は、彼等が江戸航路を何回も往復し、目標にもしたであらう富士山を知らない訳はない。きっと、早く、日本に帰りたいとの思いを強くして眺めたと、信じている。

市内で見かけたこと

商店は日本のようにはなやかな雰囲気はない、これが店かなとおそるおそるのぞいたりはつたりした。また、幅ひろい歩道のうえに真四角な四重位のプレハブのようつ



ジミナ前進キャンプ（2400m）附近からみたクリチエスカヤ山群
(左) カーメン4579m (右) クリチエスカヤ4800m



ベースキャンプ附近でみた高山植物

くりの店が並んでいて、タバコ、ウォッカ、お菓子がガラス窓をとおして見える。冬には商売になるのか他人事ながら気になった。

彼等はアパート住まいである。アパートとアパートの間にケーブルが渡されていて、洗濯物が干してある。主婦の美的センスを示しているのか、大きな物から順に小さくなつて干していくたりして、なかなか、面白かった。利用順番など、どんなルールできめているのか、興味があった。

彼等は、犬好きらしく、随分飼っている。すべて、放し飼いである。大きな犬、小さな犬、種々である。日本の犬はワンワン、キャンキャンうるさいが、彼等はどんな様をしているのか、犬同士がすれ違つてもウンともウンとも吠えない。人間に対しては絶対に噛みつくことはない。大陸に住んでいると犬まで、おうようになるのか、飼い主が、

コセコセしていると、犬までコセコセして、ワンワン、キンキンキャン、になるのであろうか。

本屋があつたので、F君と入つて見た。クリチエフスカヤが写つてあるカレンダーがあつたので買うつもりでお金を出したが、システムが日本と違うようだ。それでも、売り子が親切で、我々をレジまで連れてつてくれた。つまり、品物の値段を見て、レジでお金を払い、レシートを売

り子に渡して現物と引き替えるシステムである。ロシア的非能率の例のこと、レジで並び、品物の引換に、また、並ぶ、ロシア行列とでも言うべきか。

トイレは正直いって汚い。ホテルの部屋のはまあそうでもないとしても、ペトロ市内の公衆トイレは有料で、それでもきれいとはいがたかつた。デパートにも、どこにも公衆トイレはなかつた。一般家庭のは知るべくもないが似たり寄つたりでないかと思う。水洗ではあるが、果たして、終末処理場があるのだろうか、疑問である。原子力潜水艦の廃棄と同様、太平洋にタレ流しているのだろうか。もつとも、人口が少ないので、仮にそうだとしても、自然浄化でウヤムヤになつてしまふので、問題になつていないので知れない。

温泉保養地バラトンカのこと

六月十八日（土）ペトロからアバチャ湾を迂回して対岸に近い所にある温泉保養地バラトンカに行く。前日、ホテルのレストランのママー陽気な肥つたロシア小母さん一人の話をしたら、彼女「オオ、ハラショウ！」別れる時、ゴム長靴を進呈したら、「スペシーボ！」と言つて、大変喜んだ。

この、パラトンカ、誰の所有なのか、利用条件など、私は

は知らずに、ただ、セットに乗った形である。空港のあるエリザバを過ぎる。土曜日なので、途中までペトロからの道路は車の列である。市民が郊外に土地を三百坪程の単位で借り、家庭菜園を楽しんでいるのである。楽しむと言うよりは生活の足しにしている。菜園団地（？）

の入り口附近の道端では、苗を売っている。A君の話によれば、日本からのお土産に野菜の種を持って行くと彼等は喜ぶとのこと。日本の種は発芽率もよいし、できる野菜の品質もよいからである。

パラトンカは広い敷地で、入り口の管理棟をすぎて、温泉プールに行く。途中、オオバナノエンレイソウが咲いていた。水着に着替え、プールで遊ぶ。I君が飛び込んだハズミでコンタクト・レンズを水中に落す。皆でさがすが、ついに、見つからずじまいであった。

林内の植物相は、北海道とよく似ていた。キクザキイチゲもあった。ワラビが随分あった。調理されて、ディナーに出された。日本人以外は食べないと、思っていたが、彼等も食べるようになつたらしい。

ペトロで会った北大若手OB

我々が山から降り、ペトロに帰った翌日、今回の山行をプロモートしてくれたA君が思いがけない情報をつかんだ。六月十六日、ペトロ港に北大OB若手研究家四名の乗り組んだ北極環境調査隊のヨット「ホキ・マイ」号が入港したということである。

何という偶然なのか、タイミングのよさなのか、六月十七日、我々は全員で、早速港に行き、彼等のヨットを探してた。

このことは、我々が帰国してから七月二日付道新夕刊に記事となつた。曰く、『老若両チーム熱くエール交換』とある。老チームとは我々のことである。

その夜、我々は市内のレストランで夕食を共にすることになった。吉川隊長から北極海の調査について話を伺つた。海底の土砂を採取し、その中から花粉の化石を見つける。それによつて、当時の植物相がいかなるものであつたか、つまり環境がどのような状態であつたか調査するとのこと。私は、氷河期にユーラシア大陸と北アメリカ大陸が陸続きであつたことは、單なる知識として持つていただけであつた。

吉川隊長の話は氣宇壮大である。針葉樹がユーラシアと

北アメリカで住み分けているとの話も、自分の智識の浅さを思い知らされた。

ところで話が札幌のことになり、ヨット隊の遠征にあつて恵迪同窓が応援してくれたとのこと。

それは恵迪同窓会事務局長の井口兄が関係している北海道青少年科学文化財団の援助があり、更に、井口兄の紹介により、恵迪同窓から物心両面の力添えが得られたのである。

はるか離れたベトロのレストランで、思いがけなく恵迪同窓一井口兄は私と同期入寮、同級であつただけに、世間は狭いと思い知らされた。同時に、冒險心のおう盛な卒業生の多いこと、ひいては、アンビシャス精神がこのようない所でも發揮されていると、強く感じた次第である。

あとがき

私達が帰国して間もなく、釧路から船でベトロに行くツアーゲ出発した。

約一週間の日程で、参加者は九十一名であった。参加者の中に、占守守備隊所属だった方が、沖合で戦友のご冥福を祈り戦後の結びとされた記事があつた。

これからは割合に渡航しやすくなると思われるが、雄大

な風景、美しき自然いっぱいのカムチャッカ、カールや氷河を抱えた山々、温泉等々、ロシア人達も『三度来ないとカムチャッカの良さはわからない。又、来てくれ』と言つてくれた。機会を得て再訪したい気持が切である。



「トルコからの便り」

岡 部 賢二

(昭和二十九年入寮)

期に重なり、思わぬ展開に戸惑いました。

早いもので、同窓会の諸案件を放り出し、トルコの首都アンカラに単身赴任してから九か月。春末だ浅い時に来て、百花繚乱の春・初夏を経て、灼熱の太陽と万物枯れる盛夏を過ぎ、今、一寸肌寒い小雨に濡れてしまつとした晚秋を迎えて、います。「安息の時」と言う風情です。

さて、現実の環境はこの様な感傷に浸っている暇は無く、相変わらず多忙です。

小生の赴任先は地下資源探査開発を任務とする国立の研究機関で、日本語に訳すと「総局」「院」もしくは「庁」に相当するものです。日本の通商産業省の地質調査所とは約三十年の交流の歴史があり、小生はほぼ二十年前にも当研究所に派遣されたことがありますので、前回と今回との間にどの様な変化があるのかと言ふことも楽しみの一つでした。

しかし、赴任時期が丁度トルコの国家財政が破綻した時

一般的な社会状況を見ても、トルコリラの引き続く下落傾向、公共料金を始めとする急激な物価上昇が続き、庶民の生活は塗炭の苦しみであろうことは容易に想像できます。

「今年の一月には、自分の給料は九百ドル相当だった。今

は三百を切つてゐる」と言う台詞はカウンターパートの連中が良く口にするものです。庶民がドル買いに走るのも蓋し当然と言えますが、それでも買える人はまだ良い方と言えるでしよう。

仕事の話はさておき、一般庶民を外から見ていると、それ程生活に苦しんでいる様には見えないのが何とも不思議な気がします。先進国並みのネオンなどのきらびやかさは無いものの、街には車が奔めき合い、ウインドーにはトルコリラ以外にもドイツマルクの値札をつけた舶来物の商品が溢れ、服装としても全般的に綺麗です。夜遅く迄、食堂や喫茶店は賑わい、人の波もかなりのものです。これも大都會の、殊に外国人達が多く住む地域、金持ち連中の居住地域に限られるのかも知れません。経済的な貧富の格差がかなり大きいのは確かにありますが、それ以外にも考えてみると、トルコは基本的には豊かな国で、足が地に着いているのではないかと言う感じがします。と言うのは、トルコは農業生産物は自給自足が可能で、輸出する可能な国です。確かに、農産物に関しては、商品としての品質管理、見た目の綺麗さには問題があるとは言え、季節感豊かな新鮮なものがその時期その時期に安く、溢れるばかりに出回っています。アンカラの様な内陸部の大都市には夏季には無理

としても、秋から冬季にかけては魚も高値ですが、豊富に出回ります。食料の供給に困ることは先ず無いのでしょう。問題は水ですが、日本の水不足がマスコミで伝えられた時、水の重要性を十二分に承知しているトルコ人達は、「日本では各家庭の水のデボはどうなつてゐるのか?」と言う質問を盛んに浴びせてきましたが、実際にこの国では水の供給には昔から多大な努力を重ねて來てゐることは御存知でしょう。

少なくとも、個人レベルでも物の供給が不足したり、途絶えた時のこととを想定して生活をしていると言う事でしょう。貯蔵できない物はとにかく、かなりの物を確保していける様子です。また、日常の生活は見た目からするとかなり切り詰めており、経済観念は非常に強いと言つて良いでしょうが、基本的に、生活に無駄が無い様に思われます。

贅沢さえ求めなければ、自らの国で食料の自給自足ができると言うこと、常に緊急時を意識した生活をすることの意味を、殊に日本との比較で改めて考えさせられます。

なお、今年などは水不足に悩む日本へ飲料水を輸出しましたから、日本でトルコの水を飲んだ同窓会会員もおられることでしよう。

生活を切り詰めるとは言つても、トルコの夏はバカンス

（季節でもあり、どこかの保養地や郷里の田舎へ長期滞在型の休暇を取つて出かけます。各機関が保有している施設への申込は溢れてしまつても、他にも安価な施設は沢山あります。今年は当研究所では調査活動がストップしたことであつて、研究室が空っぽになつてしまふ様な状況でした。小生もトルコ人達の一般のバカンスツアーナ（たつた一週間だけの）に参加したのですが、短期間の安いものなので若い夫婦者が圧倒的で、年寄りの、それも独り者の悲哀を感じさせられる所でしようが、すぐに仲間の一人に加えられてしまふことになりました。彼らが如何に金を使わずにバカンスを楽しむか、一例を挙げると、夜、あちらこちらのレストランやディスコで繰り広げられる歌と踊りの場に団体で押し掛け、ヨーロッパから来ている観光客と一緒になつて踊り狂い、適当な時に次の会場へ移る。要するに、「はしご」をする訳です。店ではコーラの一杯さえも飲まず、全く金を払うこと無く、明け方まで騒ぎます。店の方ではそれを容認している様子で、全く問題は無いとのことでした。外国人観光客に対するサービスの一つとも考えていいのでしょう。

他方、昼間はゆっくりと海岸やプールで遊ぶか、近傍の遺跡巡りをするなど好きなことをして時間をつぶします

が、バスによる移動の際は「よくもまあ、酒も飲まずに騒げるナ！」と言う程、皆で歌い、狭い通路で踊ります。日本でなら、すぐに酒とカラオケと言うことになるのでしょうが。「まあ、一杯飲めよ！」とこちらからアルコール飲料を勧めても、そう簡単には飲んでもくれないのも驚きの一つでした。「自分は飲まない」、「今、飲みたくない」、「何故だ、理由が無い」等々の答えが返つて来ますが、ノンアルコール飲料なら、お礼を言つて受け取つてくれることもあります。但し、目の前で口を切つた物以外は駄目です。余程、親しくならない限り、ある一線はきちんと画しているのでしよう。

なお、一般にイスラム教徒は酒も煙草も口にしません。十一月十日朝、トルコ中の学校・機関・会社・街の広場などに設置されているアタチュルクの彫像の前に、沢山の花輪を捧げた多くの人達が、九時五分のサイレンを合図に、一斉に直立不動の姿勢を取り一分間の黙禱を捧げます。当研究所でも構内の庭園の一角に総裁以下全員が集合し挙行されました。前日の雨にしつとりとした、曇天の、風もない、枯れ葉一枚が落ちても音が聞こえる様な晩秋の静寂のなかの厳肅なひと時でした。

「全てのトルコ人はアタチュルクを大愛愛し尊敬してい、

る。しかし、全ての人達がアタチュルクの様には物を考えない」とそのセレモニーからの帰途に、カウンターパートの一人が嘆いていました。「日本にもアタチュルクに相当する人がいるか?」と問われ、一瞬返事に窮したのですが、それはともかく、日常的に彼と話しているので、彼の言いたいことは痛い程良くわかりました。当研究所ばかりでなく、他の機関についても耳にしますが、機関の組織が組織として機能しておらず、「無駄な、誤りばかりしていて、どうにもならない」と言うことなのです。

人事には上は政治家から色々な段階で外部からの介入がある一方、機関内部では政治色絡みの勢力が競い合い、本当の能力は生かされいないのが実態なのかも知れません。研究所内には能力も、意欲もあらがら、體肉の嘆をかこつてゐる人達が大勢います。

仕事は完全な縦割り制で、言いつけられたことを「こなす」だけになってしまっています。国内の基礎的情報の収集が最大且つ緊急の目的として活動している際には、これでも大きな成果を挙げて来たでしょうが、現在は、仕事の内容も変化して來ている筈ですし、次のステップアップが求められてもいます。一般の職員は「何をしたら良い?」と仕事の指示を待つてブラブラしていますし、何か新しい

仕事を考えると、人には話さず直接総裁の認可（葵の印籠ですね）を貰ってしまうことに神経を使います。人に知られると邪魔をされるからと言うのがその理由です。しかし、この体質改善がそう簡単なことである筈は無く、大きな悩みを抱えていると言うことなのです。どうも遊牧時代の「出自を問わない実力評価」とオスマン時代の「宫廷政治力の評価」とが混在して尾を引いており、後者が少し勝っているのが現在ではないかと言う気がします。

研究所としては少し意味が異なりますが、組織としては、縦割りの欧米型と水平割りとも言える日本型を両極端として、その間の第三の型をつくり出して行くしかないのではないかと考えていますが、さてどうなることでしょうか。この様な状況は以下に述べる側面を持つてゐる様に思われます。アタチュルクへの忠誠心は幼少時期から学校教育でも叩き込まれますし、強烈で、誇りにもしています。なんと言つても敗戦直後に戦勝国である西欧列強相手に独立戦争を始め、勝利した指導者ですから。また、それはトルコ共和国にとって、必要不可欠なことでもあったのです。

現代の東欧社会の激変の根底にあると言われている様に、オスマン帝国は民族的な独自性も宗教的な自由をも認めるゆるやかな統治形態だった様で、新たな潮流として出

てきた西欧流の「國家と民族」とがイコール」と言う様な概念は極めて弱かつたか、皆無であった様です。従つて、独立戦争を始めた当時、一般庶民は「トルコ民族」とは言われていたとしても、それが单一の国家として存在することを意識していなかつた中での独立戦争だった訳で、民族意識覚醒をも同時進行で一挙になし遂げなければならなかつた困難さは、計り知れないものがあつたでしょう。

今、街の中でも職場でも日常目にするトルコ人は、体格、顔付き、肌・髪・目の色も多様で、長い歴史時代を通じて混血してきたことが容易に理解できるし、多民族国家の様相を呈しています。しかし、彼らは「自分はトルコ人だ」、「これがトルコ人なのだ」と誇りをもつて言いますし、アタチュルクを正に建国の父と考えていますから、トルコと言ふ国は確実に不斷の努力によつて根を張つてきていると言えます。

従つて、国家への帰属意識、忠誠心は強烈ですが、身近な生活の場に具体化された時、例えば行政機関、研究所、企業などへの帰属意識（忠誠心はともかく）は強くは無いように思われます。日本の様な状況が理想的か否かは議論のあるところですが、自分のことだけ一件は落着してしまいます。当研究所の将来をどうするのか、若い人たちを

どう教育し、鍛えて行くのかなどは、放り出されている様に見えます。気が付いて、考えている人もいますが、誰もどうしたら良いのか分からぬ状況なのかも知れません。

当研究所に関して言えば、日常の業務内容とは関係ないテーマで、勤務時間外に懸命に努力して学位を取る職員は少なくありません。しかし、その多くの職員の本音は、大学等のより高い名誉とより良い経済的収入を得るために、長く当研究所に勤務してより良い仕事をしようと言うことは無い様です。あの国家・アタチュルクへの強烈な忠誠心の具現化である国の研究機関の仕事に対する誠意はどこへ行つてしまつたのでしょうか。

アタチュルクへの畏敬の念の裏返しに、色々なレベルでの「アタチュルク」の様な傑出した指導者の出現を望み、現実には自分からは動けない、動かないと言うジレンマに陥つてしまつてゐるのでなければ良いのですが。

少し長くなりましたが。ともあれ、小生はこの国で還暦を迎えた、この国が第二の故郷になりました。技術協力と言う事業の一端を担つてゐるのですが、単なる技術だけでなく、彼らと一緒にになって、何がこの国にとって必要なのか、どうしたら良いのか、考え、多少でも出来ることをやつていこうと考えています。

札幌の地に人間教育の学校を！

亀 貝 一 義

(昭和三十一年入寮)

一九八六年に刊行された「恵迪の青春」に、私は次のようないいかけを行つた。

「序列と輪切り、偏差値、他人蹴落としの学校から、自由と個性を尊重し、本当の意味の人間教育を貫徹しえる学校を創設することはできないものか、志を共通にする恵迪の出身者を募りたい。：この人間教育とは、基底にヒューマニズムとロマンチズムが、すなわち北海道の精神＝恵迪の精神が流れなければならない」と。

その後、八年間の年月が過ぎ、私も五十代後半になつた。

しかしこの思いは増えこそそれ減るものではなかつた。そして今年秋、多くの『同志』たちと共に、札幌北の沢の地に「国際教育村」学園を創設しようという決意を固めた。この二万坪の地に、今の所まことに小規模だが、小学校百二十人、中・高校各九十名の合わせて三百名の学校を、九七年から九八年にかけてつくろうという方針である。

趣旨は前述のとおりの人間教育である。

このような検討をして来た昨今、愛知県の黄柳野（つげ）の高校が文字どおりの市民立て（十八億円の資金の寄付を得たとのこと！）開校がほぼ決まったというニュースに接することができた。あまりカネもない市民が、決して自分の子どもや孫のためだけではなく、次の日本と世界を担う青年のためにそれぞれが資金を出しているという。日本にもようやく「市民も学校をつくることができる」という民主主義が根付いて来たといえるのだろう。

いろいろと学校と教育を考えると、常に頭をよぎるのは十代の末からのわずか二年間ではあつたが、恵迪寮での生活だった。今の自分を支えてくれる根本の理念がここで作られたことはまぎれもない事実である。そう思つたとき、若い時の感動の時期がいかに大切か、強調しきることはない。現在はどうだろう。私たちがかつて経験した（勿論

同じことがあるはずもないが) ヒューマニズムやロマンチズムに彩られた感動がはなはだ少ないとと思う。ひたすら自分のこと、自己のまわり一坪の狭さに生きることが若者的人生であるような状況が残念である。

恵迪の同窓の皆さん、私たちの会・「北海道自由が丘学

園(仮称)をつくる会」。(代表 鈴木秀一北大名誉教授)へのご協力を待っています。

連絡先 〒○○一 札幌市北区北二十二条西四丁目

TEL (○一二) 七三六一五三四五

アカシアビル二F

Boys be Ambitious Again!～異業種交流のススメ～

山 本 博 己

(昭和四十七年入寮)

今年の二月、「Boys be Ambitious Again!」をテーマに、札幌で「『知恵の輪』全国大会 in 北海道」が開催された。

「知恵の輪」の大会と言うとあの輪が二個くついたもの

のを思い浮かべる人が多いと思うが、実は巷で盛んに開催されている異業種交流会や勉強会が一堂に集まって交流する会のことである。東京のグループが中心に行っていたが、

何年か前から地方で開催されるようになり、今年は北海道での開催となつたのである。北海道大会では、これに地域おこしのグループも加わり、東京や遠くは高松など道外のグループも参加して盛会であった。

私も実行委員会の一員として参加したのだが、札幌を中心にこの種の会の多さに驚いたが、当日予想以上の参加者があり、交流したい勉強したいと言う人達の多さに二度び

つくりしてしまった。

私は東京勤務の二年間、異業種交流会に出席していたのがきっかけで、すっかりはまってしまった感じがあり、札幌でもこうした会に出席するのが一つの楽しみになっていた。

その理由は三つある。

一つはひとそれぞれの目的意識は違うのだろうが、総じて向上心や意欲のある積極的な人が多く、話していくてもおもしろいし、自分自身にとっても有意義な仲間が増えることである。

二つには、その様々な顔ぶれが魅力的である。老若男女、自営業から公務員、サラリーマン・OL・主婦・学生など、会によつて違いはあるが、この多彩さが異業種交流の異業種たるところであり、私なども、このような会でもなければ仕事以外で異なる職種の人と、あるテーマで話したり酒を飲むことなど少なかつたであろう。

それがこうした会でつきあいの幅も広がり、仕事の面でもプライベートの面でもプラスになつてゐると思う。ついでに言うと出費もプラスになつてゐるが…。

三つ目はその会の活動そのものの魅力である。

私は今、エコロジークラブという環境問題の会と、オニ

オンの里という料理の会の二つの会に入つてゐる。

エコロジークラブは、自然や景観などをテーマにスライドなどを使つた説明の後、フリーに話し合い、その後は皆でちょっと一杯という会で、大学の研究者から私のような素人までが参加しており、気軽に環境のことを考えることができる。

また、料理の会は講師がすべて在札の外国人で、その国のお家庭料理を作り、試食するという会だが、料理を作る楽しみと様々な国のことと少しだけだが知ることができる。

以上、とりとめのない事を書いたが、要はこうした会を通じて、いつまでも「be Ambitious」でいたいと思うことだ。

私もいつの間にか中年の部類に入つてしまつたが、またそれ故にかも知れないが、気持ちはいつも寮生活をしていた頃の青春時代のままでいたい、前向きに生きていきたいと思う。

考えてみれば、恵迪寮同窓会自体が一種の異業種交流の場である。この会には様々な職業に就いている幅広い年齢層の方々がおられることが多々ある。同じ寮生活をしてきたことを共有しているのではないか。同じ寮生活をしてきたことを共有しているからこそできる関わり方もあるだろう。

そんな事を考えながら、私自身が同窓会の活動にあまり積極的に参加していなかつたことに対する自戒の念を感じるこの頃である。

※新渡戸稻造先生のこと

先月のある日、私の職場に一本の電話が入つた。（私は道庁の観光室というところで働いている）電話は若い男性職員が受けた。

旅行会社の添乗員らしい人の声で「新渡戸稻造さんの家がこの近くにあると聞いたのですが、新渡戸さんてどんな人ですか？」

男性職員「ちょっと待つて下さい。だれか新渡戸稻造って知つてゐる？」

「札幌農学校の卒業生で先生だった人。五千円札に載つてゐるだろう」

「五千円札に載つてゐる人って新渡戸稻造だつたけ」

結局、この後、ある程度の説明をして一件落着。

しかし、新渡戸稻造があまりにも知られていないことを実感してしまつた。と同時に、私自身もあまり詳しく知つていなかつて、気付き、この際だからと少し勉強した事もあり、この会報の原稿を書くことになつたときに、このこ

とを書こうかと思つたが、すでに大先輩の方が書かれたと言つた事なので私の付焼刃の文では恥ずかしいので止めることにした。

新渡戸稻造については様々な評価があるとのことだが、彼がクラーク博士の教育理念を受け継ぎ、札幌農学校などで行つた人格教育や、正規の教育を受けられなかつた若者のために遠友夜学校を設立したことなど、残した業績はもつと世に知られても良いと思う。



雑感

田中充哉

(平成三年入寮)

大学に入るまで——というよりも恵迪寮に入るまで、自治活動などという言葉について考えた事はなかった。尤も、寮に入つてからも、最初はなかなか考え方ようとしなかった。

自治、と言われば反射的に成程それはいいもんですねと答えていたような気がする。理由は、毎日の寮生活がそれなりに楽しいものだったからだろう。自主管理という理念を持ち、自らの生活の在り方を決定し、実行していくこうとすれば、それはかなり大変な事だ。だが、そういった大変さをも含めて、寮の生活というのは当時の自分にとって新鮮だったと言える。ただ、自分が毎日の生活を通して寮の自治活動に参加しているのだ、という意識は余りなかつたし、だから当然、そういう事の意味についても考えてはいなかつた。

それでも、しばらくすると、何度も耳にする”自治”といふ言葉が気になつてはくる。実際、何故これ程までに、

自治だ、自治寮だ、と言わなければならぬのか。最近では、言葉の中身は勿論だが、それを連呼しているこの状況というものについても考えてしまう。

自治寮をつくり上げ、運営しているという事に自信を持ち、それを誇らしく思うから言うのだ、というのなら、それは分かる。しかし一方で、それだけでもないな、と思う。つまり言い続けていないと忘れててしまうのだろう。それを忘れてしまえる程自然に自治活動が行われているというのではない。逆に、例え納得出来ないまま、強制的に寮自治が取り上げられたとしても、しばらくすれば、いずれはその生活に慣れてしまえるのではないかという事だ。最初は勿論憤慨するにしても、やがて特に不満もなく暮らしていくようになつてしまふ。

だが若し、一度そくなつてしまつたら、そこからもう一度、この寮に自治を築いていく、と言っていくのは随分

と難しくなるだろう。理屈を言う事は出来るかも知れない。

しかし、現状の生活に満足していたら、その上何故自治などという面倒なものが必要なのか、それを切実に感じ取ることは出来ない。そして、そうした雰囲気の中で自治寮の意義について説く事には、或る程度押し付けがましさを感じ

られるようになってしまふかも知れない。

もし現在の恵迪寮がそういう状態であるとすれば、それは自治寮としてかなりしんどい状況だと言えるだろうし、また実際そだだと僕は思う。

寮生活シヨートストーリー

金 原 成 岳

(平成六年入寮)

僕の前に道はない

僕の後ろに道は出来る

ああ、自然よ

父よ

僕を一人立ちさせた広大な父よ

僕から目を離さないで守る事をせよ

常に父の気魄を僕に充たせよ

この遠い道程のため
この遠い道程のため

彼の頭には、さっきからこの詩が何度も繰り返されていた。夕方、荒涼とした農場を横に見ながらの帰り道、赤く染まつた雲は彼の胸を締めつける。

「僕は一体、何をしにここに来たんだろう」

ありきたりな問いかど、もう一人の自分は冷めてはいた

が、その思考は続いていった。

「あこがれでここに来たのは間違ったのだろうか」

彼が北大を選んだ理由は、ただ恵迪寮へのあこがれのみである。それは、一見、低俗で、そこに何の意志も存在しない愚劣な理由かもしれない。しかし、彼にとって、あこ

がれが一番大切なものとしか思えなかつた。北海道へ来る前、彼は確かに実感していたのだ。言葉で言い表せない何か大きな力が働いて、自分の心に恵迪寮へのあこがれを生じさせると。そして、その時、彼は自分に対する誠実でありたいと願わざるを得なかつた。あこがれが愚劣であることを否定するためには。

「十八やそこらで、どんな学問を勉強したいかなんてわかるものか。今、自分にできることは誠実でありたいと願う以外ない」

ここまで彼の思考は停止せざるを得なくなつた。これ以上考えることは、彼が最も大切と感じた事が否定されてしまうことにつながると感じたから。もはや、その時点での敗北を示してはいたが、彼は思考を停止することによって、そこから逃れることができた。もう一人の自分が弱虫めと、ののしつているのを知りながら。そして彼にできることは寮への帰り道を急ぐことしかなかつた。

故郷を離れ北海道へ

梅 崎 大

(平成六年入寮)

大きな荷物一つ持つて、北海道へやつて來た。恵迪寮へ入るため、札幌駅から寮までは不安と荷物の重さの為、タ

クシーに乗つた。「北大恵迪寮までお願いします」と言うと、運転手さんはなれてない人らしく「恵迪寮つてまだあ

るの、だいぶん前だけど、とりこわしたつていうニュースを見たんだけど」というようなことを言つてきた。今、考えると新寮から新々寮へ変わつたときのことだつたのだろうが、当時の自分がそのようなことを知るはずもなく、ハニヤと思つた。結局、寮はあつたのでホッとした。雪の大構内を運転手さんとあちこち迷いながらも、それらしい建物にたどり着いた。これが恵迪寮だという保障はないが、形的に入つても間違いないだらうと思つた。意を決して入つていった。途中で毛髪ぼさぼさ、ヒゲボーボー、ぼろぼろの着物を着た、鹿の角付きのつえを持った一団が向こうからやつて來た。これは絶体絶命、何かされるのではと恐れおののいた。左右は厚く積もつた雪で逃げようがない。しようがないので、「こんにちは」と蚊の鳴くような声でいさつすると、あいさつを返してくれ、その一団はそのまま行つてしまつた。玄関先にはえらいこつちやと書かれていた。

寮内に入る。事務室に行くと、たたみとこたつがあり、金髪のあんちゃんがうろうろしている。「本日入寮の……です」、と言ふと、アピールしてくれなどと言われ、緊張して出身地と系と名前を言つて、最後にお願いしますなどとつけて無難に終わらせた。それから数分後、何人かの先

輩が集まつてきて、うちの部屋はああだこうだでなんだかんだしています。ぜひ来て、などと言われたが、どの部屋がどうなのかよくわからなかつたので、とりあえず一番近くにいた先輩の部屋に行くことにした。

部屋に入ると最初に、補食談話室に通された。一番最初に思つたことは、汚ないということである。筆舌に尽くしがたいとはこのことであろう。

ちょうどお好み焼きを焼いていて、「まあ、食べて」などと言われ、不信感を抱きながらも、とりあえず食べた。おいしかつた。新入生はすでに四人入つており、部屋に非常になれてくつろぎかえつていた。自分はといふと正座してひざがしらだけをこたつの中に入れちよこんと座つていた。自分は、なぜこいつらは二、三日でこんなに見ず知らずの人ばかりのところになじめるんだ、こいつらはなんかおかしいと思つていた。

しかし自分も二、三日経つか経たないかのうちに、あちら（こちら）側の人間になつてしまつていて。その後、面接・入学式の仮装・部屋まわりその他多くの行事をへて、今では立派な寮生……？

初の女子恵迪寮生の一人として

上野尚美

(平成六年入寮)

寮で生活し始めて早五ヵ月だが、色んなことがあった。はじめ、体験入寮で入ったときには軽く返事したものの、かなりの不安に友達の少なさが輪をかけて私をおそい、暗い日々をおくつたものでした。

私の場合、大学に入学する前から恵迪寮に面識があり、寮にし�ょっちゅう遊びに来ていたので、寮の様子がかなりわかつっていたし、寮における暗黙の了解のようなものもなんとなく理解していたので、それなりにうまくやっていたけど、今度女子入寮で入ってきた子達は、戸惑いや不満があつて当然だと思います。

まだ女の子は十一人しかはいってないし、みんなそれぞれ違う性格をもっているし、私みたいにいい加減でずぼらでデリケートのかけらもない女など、そうたくさんいちゃ

困るし、そうむきになつて今入っている女の子に混住しようとせめこまなくとも、これから入ってくるたくさん

の女の子の中から十人に一人くらいは、寮の仕事に生きがいをもつちやう子がいたりして。

混住もどんどん盛んになつていつて、多くの子が混住しだすと、ちょっと抵抗あるつて子も、半年間くらいやってみようかなーとか思つたりして、いざやってみたら楽しくてやめられなくなつたりして。

それとか、寮に永く住むにつれて男子寮生に仲良しがたくさんできて、今度は同じ部屋になるかつ、とかいっちゃんとて。

だから要するに長い目で見ていけば、女の子達も寮になじんでくれるんじやないでしようか。



遺稿

テープ「都ぞ弥生」青春の北大寮歌

飯田毅

(昭和七年入寮)

〈寸評〉

寮歌祭に於ける同窓諸君の熱唱振りを嬉しく聞けました。放歌乱舞のさまが偲べ、その意味では

よい記念です。

但し、ハーモニー、音階の崩れには失笑、爆笑を禁じ得ません。合唱としては稚拙、幼稚、乱脈です。

〈希望〉　之は之として結構な記念品、記録です。然し、立派な寮歌集として世に出すからには、醉狂のメンバーではなく、正しい合唱隊でオーソドックスなきちんとした寮歌集を出されんことを希望します。

小生の寸評に対し早速御回答を頂き感謝申し上げます。北大寮歌LP版や又日本寮歌大全集CD版も小生所持しています。確かに、LP版はデューケエイセスの歌もあり、芸術性の高い面もあり、又全体が優等生らしく、何となく寮歌集としてはそぐわない点も多いと思います。もう少し蛮カラ性というか、雑草性があつた方がよいでしょう。その点、全国のOBが吹込んだ日本寮歌大全集CD版は、北大も含めて適正です。OBが宣いが、余り酔っ払う前の合唱がよいでしょう。

曲の選定の正確さには敬意を表します。「春雨に濡るる」と「黒潮鳴れる」はぜひ選定して下さい。

今回のテープは、歌曲の選定はLP版よりよくできています。今後を期待します。

寮歌テープに関する件

※飯田毅氏は、同窓会事務局に二通目のお葉書をいただいたあと、十一月十三日、幽冥の地に旅立たれました。はるかにご冥福をお祈り申し上げます。なお、左の詩は飯田氏が十月十七日入院直前に書き残されていた一文。最後まで寮生時代の気質そのままであつたと奥様は語っておられました。

石狩の原
北の野の根城や久し
雲は夕日を纏
勝闘にども墨瀬
血はいわ紅の柳
血と汗に生えき御子
球遊び大把をかけよ



寮生時代の飯田 毅さん（下・右端）

寮歌「雪解の榆陵の」作詞者より

鈴木信夫

(昭和十七年入寮)

突然の書簡お許し下さい。実は、昭和十九年度寮歌「雪解の榆陵の」作詩は私がしておりますが、代々の寮歌集には、何時の頃からか歌詞の誤印刷がございます。それは第4節の „散りぬる若桜もあるぞかし“ が、 „散りゆく若桜もあるぞかし“ になつております。原詞はぬるですので、次の寮歌集からは御訂正願いたいと思います。一応作詞當時の、恵迪寮々務部教養の原稿用紙に委員会に提出したと同じものがございましたのをコピーしまして同封致しますので御確認の上、御訂正願います。それから、この「雪解の榆陵の」の作曲は竹山君がしたのですが、今の寮歌集では、最後の児等が生命や聖からんの „や“ の音が原曲と異つて二つ下つて、イワユル「ド」の音になつておりますが、もともとは「ミ」でございますので、これも是非御訂正願います。



不しつけな御願いで大へん失礼とは存じますがよろしくお願ひ致します。

散りく被遣のむけ高き辭ことばの感激ひ

四 厚の邊の有明に 韶かく宝底の御元罪了、

散りゆる若櫻もあざかひく波濤の御起し

義質、钩にすりと潮が狀元ノ御日影

五 水、世は塵運の人事 飯の茶松は松へい

湖心島の太節竹子に 韶の風煙翠を去る

星雲の道に故身まへて 鮎か月光拂拂

「豫科柔道部東征歌」の誤り訂正を

小 峰 康 正

(昭和九年入寮)

みでの作曲法です。

第三行の第三小節の終わり（いる）の音は（ミソ）ではなく、（ラソ）が正しい。

第五行の第一小節に前打音が、また第二行と第五行にスラーが付いてますが、原譜にはありません。原作が大分弄られていますが、誰が勝手に直したのでしょうか。

か。

3、原譜は、北大柔道部誌「北大柔道」の裏表紙に印刷されている通りです。

4、愚生の在学中に所持していた寮歌集には、正しい原譜で書かれ、作曲者も兄の名前が載っておりました。勿論愚生は入学前からこの曲も「生命の争闘」も知つており、共に早くから歌つておりました。

5、この話は、寮歌の校正委員であった、当時の水野一教授も充分ご存知で、当然先生の校正を受けていた筈で

愚生は昭和十五年農学部卒業の、小峰康正と申し、只今は神奈川県逗子市に居住しており、豫科時代（昭和九〇～十一年）は恵迪寮に起居し、柔道部に属しておりました。さて恵迪寮々歌集に記載の「豫科柔道部東征歌」については、幾つかの点で誤りがありますので訂正方お願ひ致します。
1、作曲者は小峰三千男です。（愚生の長兄で、豫科の時は柔道部。和光大学教授ののち昭和六十年没、大正十年寮歌「生命の争闘」の作曲者でもあります）
2、この曲は四／四、ペナタスケールで、拍子は各小節とも（付点四分音符と八分音符の組み合わせ）を基準にしてある。従つて第二、四、六、行の第一節の終りの二つの四分音符、及び第六行第二節の終りの二つの四分音符は何れも（付点四分音符と八分音符の組み合せ）に訂正下さい。なおペナタスケールとは、ファとシを使わない、ド、レ、ミ、ソ、ラの（5つの音）の

すのに、何うして誤記のまま残されていたのか不思議です。何か事務上の手違いがあったのでしょうか。

6、

田代匡之と言う方は、柔道

部の名簿にも試合の記録にも載つておりません。この

人については、兄も知らないと申しておりますし、他の先輩たちも愚生も、全く名前も知つておりませんでした。何うして柔道部に全く関係のないこの方の名前が出て来たのか、これも亦不思議なことです。

7、

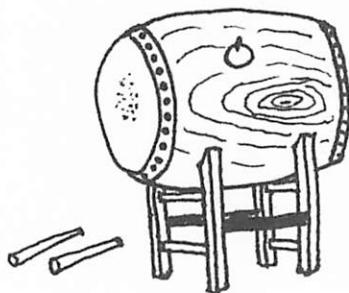
愚生等の選手時代に、部の集まりの時には必ずこの歌が合唱されました。また毎日稽古を終わり恵迪寮に帰る時、或は遠征では宿舎と試合場の間を歩く時には、

作詞 河合峰 九洲男君
作曲 小峰 三千男君

(正) 柔道部東征歌



キャプテンの指示で三列縦隊位に並び、この歌を高らかに歌いながら堂々と歩きました。これを歌って歩くと、他の高等学校は「北大が来たぞ」と畏敬の念で見ていきました。この様に由緒もあり、懐かしい往時の思い出として選手達の胸に残っている歌です。正しい歌で残して下さい。



寮歌テープを聴いて

清 水 穎 一

(昭和十三年入寮)

寮歌テープ本日有難く入手致しました。待ちこがれるよう、表裏とも三回ほど連続して聞き入りました。若がえった気持になりました。

寮歌ではないけれども、私の時代に、私の友人岩崎五郎君作詞の桜星会三十周年記念「清き郷石狩の」があればとのねがいです。

私の時代は、毎日入浴時に誰ということなく先鞭を切つて、次から次へと寮歌の齊唱で賑わいました。だから練習は十分でした。にくまれ口になりますが、このテープより少しうまかったと思います。同窓会通信七号飯田氏の評に同感です。「藻岩」「瑠璃」「ストーム」は特に出来がわるいようです。頑張って下さい。できれば第二巻を。

ノータッチ エース健在

岡 本 敏一

(昭和七年入寮)

前向きに趣味を生かした日々を送る。

左利きのアンダー・カットサーブは右へ左へ一メートル以上もスピント。サンダーリーンテニスクラブ（古和釜町）で、「キャー！」と悲鳴と笑い声のノータッチエースを取るのは松が丘に住む岡本敏一さん（八十）。

小学校五年から始めたテニスに「年齢を感じて考え出した」得意技が冴（さ）えを見せる。北海道大学時代全道選手権で優勝。職場のOBとしてオール三菱ダブルス大会・百十歳トーナメント（ペアの年齢を足して百十以上）でもV。今は百三十歳の部への出場を楽しみに。クラブの会員が開いてくれる「誕生会」も五月の恒例行事となり、心尽くしの料理や花束が並ぶ。岡本さん直筆の色紙や短冊に話の花が咲き、食後はテニスに汗を流す。「私たちのお手本であり目標です」と同クラブの水晶八重子さん。

岡本さんは昨秋五十年連れ添った妻を看取り、「八十路越え 去り逝きて寂しさの果て 亡き妻を憶（おも）ふ」と心情を。しかし「勉強・訓練・忍耐・根性」を信条に、

前向きに趣味を生かした日々を送る。
十七年前から本格的に学んだ習字は師範となり十年。今も近所の主婦たちに週に二日教えている。好きな絵は月刊誌『趣味の水墨画』で独学。旅先のスケッチなど玄人はだしの挿し絵は、戦友と発行した「十字鍼（しゆう）激動の青春—独工三戦友思い出集」などに色を添えた。
六十年間書き続けている「日誌」には、中支、フィリピン、ジャワなどの戦争体験も克明に記されている。数年前に六十歳までの自分史。六百ページをまとめ、息子にと。健康の秘訣は規則正しい生活。早寝早起きと晩酌一合の「くすり」。マルチーズの「五郎」と二人暮らし。十月から一ヶ月間、ハワイにいる長男家族を訪ねるのを心待ちにしている。「発しては 万朶（ばんだ॥満開の桜）の花と香れかし」—酒を酌み交わした友の一匁が心に残る。

（平成五年、千葉県「船橋朝日」より転載）

「花に詠ず」

桜庭慎吾

(昭和三十一年入寮)

くるくると走る綿毛を見詰めおれば
やがてポプラの花と覺りぬ

何時の頃からか、風に賦し、花に詠ずることを好むようになつた。事に触れ、折に遇い感じたままを文字に留めておこうとの考えである。後になつては印象も薄れるし、又感覺も忘れてしまるので、ともかくスケッチの様にメモに書きとめておく。

平成六年六月中旬、訪札、アカシヤの花期に出遭つたのは幸いであつた。北一条通りから植物園、農学部へと辿つた道すがら得た歌

道府中庭に亭々と聳えるポプラの樹下におりながら、舞う綿毛がその花であることに気付くのに暫く時間がかかりた。時々は訪札していたにも拘わらず、この時期に遇わなかつたのですかり忘れてしまつていたのである。
教養課程で別れて以来の友と三十六年後の再会を果すべく新緑の信州・蓼科の地を選んだ。

アカシヤのクリーム色の花房を

渡る風さへ匂うがごとし

年月ときを語り繼ぎて夜は更けぬ
蓼科の湯に身をば伸して

アカシヤの花房渡る風に立ちて

甘き香りぞげに懷しき

文字通り三十六年の年月を埋めるのに、お互の過ぎ来しかたを語りつないだ懷しい再会となつた。

いとおしき木瓜の花こそ女の神の
髪の飾りにせばやと思う

今年の夏は猛暑に見舞われ、暑い所の好きな百日紅は、
各地とも花色が殊に鮮やかであった。

蓼科山の別の名を女の神山とも呼んでいる。湖畔は桃・
桜・木瓜が一つ時に咲いて花の盛りであった。

咲き初めし山茶花の紅いとおしく

おみな童の唇に似たるかも

女の神の山のしづくの集りて

碧の湖に姿映れり

毎朝の通勤途中、垣根に咲きし山茶花を楽しみながら道
を歩むこれからの季節、椿も咲き出すので楽しみは一層増
す。

翌朝、蓼科山を映す紺碧の湖畔で友と別れを告げた。

手稻より吹く南風懷しき

向日葵の花かすかに揺れり

西野に住む同期生の芳君と、今春、住地を彼此と異にす
ることになった。昨秋、彼の家に泊って、庭に咲く向日葵
と一緒に見たのが永遠の別れとなってしまった。

大いなる花房さやかさるすべり
白き雲より輝きて見ゆ



自作 ど・艶歌 「ススキノ有線放送に流れる雪舞」

ススキノ有線放送に流れる

田 中 義

(昭和三十二年入寮)

平成五年六月、自費出版した歌がススキノ有線放送にリ
クエスト曲として登録された。

恵迪寮に昭和三十二年入寮してから、ススキノネオン街
との付き合いがはじまつたわけだから、もうかれこれ四十
年近くになる。よくも懲りずに通い続けているものだと思
う。これまでには、甘い酒もあり苦い酒もあったわけでス
スキノの思い出は尽きない。そして、人生を左右するよう
な出来事や出会いもあつたよううに想う。カラオケブームに
なつて久しいが、自曲「雪舞」をリクエストして聞きなが
ら、そしてときには歌いながら気のおけない奴等と一杯や
ることは無上の悦びである。そして、この悦びが永く続い
て欲しいと願うばかりであるが、この上ない喜びに元気づ
いて、今年もまた第二弾の新曲を作製中である。

近い内にススキノ有線放送に登場する筈であるが、どう
なることであろうか。その曲目は「男の金字塔」という。

雪 舞

憎いあなたの 心が欲しい
何故にわたしを 遠ざける
雪明かり 雪明かり
うしろ姿が かすみがち
ああ ああ

北の街に 雪が舞う

好きよ好き好き 抱き締めながら

何故にわたしを 燃えさせる

雪明かり 雪明かり

涙ばかりが 止め処なく

ああ ああ

北の街に 雪が舞う

忘れられない 愛しい夜よ
何故に わたしを 傷つける
雪明かり 雪明かり

このまま冷たく なれるなら

ああ ああ

北の街に 雪が舞う

♩=88

雪 舞

作詞 たなか のぶよし
作曲 堀江 洋三

The musical score consists of eight staves of music for voice and piano. The vocal part includes lyrics in Japanese, with some words underlined or repeated. The piano part shows chords and bass notes. The lyrics are as follows:

Am Am Dm
にすわ く一 よれ あなた すきな のきい こだい こきと ころがほし
わ きす よれ れな きい いと きめなが しめるよる
E₇ Am Dm
いらよ な ぜ に に わたし 一 二 を
ををを
E₇ Am Am
ともき おえず ささつ かけー れるる ゆきあかー り
E₇ /Am Am Dm
ゆきあかー り うーしろーすがたがー か すみどり がーー
なーみだーばかりがー とめれ なれどる なーー
このままでたくー な なーー
E₇ E₇ Am
ちくら ー あ あ あ あ あ
Am E₇ Am
あ きたのまちー に ゆき
が ま う

湯の街の女

千 秋 哲 夫

(昭和三十二年入寮)

男の十代から二十代前半の性の衝動は激しく心身を揺さぶる。その衝動に動かされて男はとてつも無い行動に走る事もあれば、それ故に必要以上に女性を美化して、己自身を身動きのならない自縛自縛に陥らせてしまう事もある。大学二年目の後半ともなると、応援団の大半が水産学部移行の為函館へ去ってしまった。すると私自身、心の中にも空白を生じ、応援団活動から離れて、三文会等と言った全く活動のしていない部屋に入り、なす事も無い日々を送っていた。かと言つて、出席日数が不足して落してしまった数科目を取る為に懸命に勉学を始める訳でも無く、不足している単位を気にしながら、悶々として時がいたずらに流れ行くのを、眺め続けた。その以前から退屈を紛らす為に手にしたハワイアン楽器のウクレレが、少しずつ上達し、二十曲程のコードを弾きこなす様になつていた。そのころ、中島公園のスポーツセンターで時折運動部主催で開かれて

いたダンスパーティに出席していたハワイアンバンド・ブルーハワイアンズ（北大生が主なメンバーであった）が、一ヶ月間、登別温泉に住み込みで演奏出演すると言う話を聞きこんだ。冬休みも迫つていて、その期間退屈しきった生活を実家で過すしか方法の無かつた私は、寮内スキー部に在住していたメンバーの一人である高野を訪ねて、同行させてもらう事を頼みこんだ。食事付きで、ひょっとしたら出演ギャラの一部でも貰えないかと言つた虫の良い考えを持つての話である。バンドのメンバーで無い私にそんなうまい話が許されるはずが無かつたのだが、ギャラの話は別として、遊びに来るのなら来ても良いと言う、バンドマスターの外岡さんの許しを得て、私は喜び勇んで登別温泉へ出掛けて行つた。ハワイアンバンドの編成は通常五人であつたがウクレレが二人いても許されると考えて同行させたのかもしれない。

行き着いた所は第一滝本・本館の眼前に有つた「門」と言う名の比較的広いフロアとステージを持った店である。その店は芸妓の置き屋も兼ねていて、私達が宿泊して二階の部屋の一室は、多分空いていた芸妓の為の室をあてがわれていたのかもしれない。食事は店で料理されたものが運ばれて来て、その部屋の中で食べていたが、なにせ寮生が主体の男六人が生活している部屋である。室内は若い男の体臭と煙草の煙で充満し、何時も雑然としていた。当時の若い私から見ると、その店の芸妓達は、いずれも四十～五十歳位の年配者が多く、若くて私に色香を感じさせる女は唯一一人に過ぎなかつた。その女も私の推定ではあるが、三十歳は過ぎて半ばに近くなつてゐるようと思われた。

店の出演にも慣れて数日間が過ぎた頃から、日が高く昇つた時刻に起き出した芸妓達が朝（と言つても昼近く）の退屈な時を凌ぐ為に我々の部屋に入りこんで雑談を重ねる様になつてゐた。女達は時折しどけない姿を垣間見せたりしたが、私に性の衝動を引き起す程の魅力を感じさせる事は無かつた。しかし、歓楽街の温泉街には常に男と女が醸し出す怪しい香りが漂つてゐる。その香りに刺激されて性の衝動に走りがちな若い男達であるが故に、バンドマスターであつた外岡さんは、芸妓達が気やすく我々の部屋に

出入りしだしたのを見て、「商売物には、間違つて手を出さないよ」と厳しく注意をしてゐた。そんな事もあって、その様な情感が沸上がる事を無意識のうちに抑えていたのかかもしれない。

私達のバンドは、夕方六時半からの出演で、一ステージ三十分間、この間に演奏する曲は約十曲、ポピュラーなハイアン曲の他に、当時流行していたマヒナスターズの「グッナイト」や「泣かないで」、バッキー白片の「キャラバン」、水原弘の「黒い花びら」等が演奏されていたように記憶している。勿論これ等の曲はバンドのコーラス付きである。一日四ステージ、九時半になると客の入りを見ながらステージを延長する事は有つたが、多くはステージを終えて遅い夕食をとり、それから店内にある小さな温泉の湯舟に漬つて一日を終えるのである。金の無い学生達であるからその後、酒を飲みに出歩く等という事は一日としてなかつた。しかし、ステージの上から眺める客席やフロアには酒の香りに満ち溢れ、少しほの暗い店内では酒に酔つた女達が己の欲望を恥じる事なくさらけ出して、男の身体にしなだれかかる姿を毎日のように見せつけられると、何時しか己の身も心も乾き始め、何処かで酒と女の肉体を激しく求め始めていた。時折、私の身体の奥底からは、叫

び出したくなる様な性の衝動が突き上げて来て、私の肉体を癒す事なく苛み続けた。そんな暮しの中で性の衝動を少しやわらげてくれたのは年配者の芸妓達であった。我々が湯舟に漬っている時に、座敷を終えて帰つて来た芸妓達が酒に酔つた姿のまま、数人して浴室へ入つて来ると、浴槽の中になだれ入り、裸の肉体をからかい半分に押しつけてきた。なにしる、性に関しては歴戦の勇士達であるだけに、全く物怖じする事なく、少し垂れ下りぎみの乳房を自分で下から持ち上げて、「ほら触つてみる。あらあ、顔が赤くなつて來た」等と大声で笑いながら、大胆にも己の太股を押し付けたりするが、男と女も大勢であるだけに、少しの陰湿さも感じさせる事は無く、外見的には非常に健康的な性の供覧を見せてくれて、私達をへきえきさせる状態であった。しかし私は色香を感じさせていた芸妓だけは私達の部屋に来る事は有つても、健康的な性の供覧に加わる事は決して無かつたのである。

ジングルベルの音も止み、年の暮れの押し迫まつた街中には、雪混じりの木枯しが吹き荒ぶ日々が続いた。食事付きと言つても若い我々は、食後すぐに空腹を感じる程で、外出するにも金は無く、時々、空腹を癒す為に街はずれのラーメン屋に出掛けるのがやつの生活である。若い女性

は街中に多かつたが、話しかけて友達になる程の勇気も無く、来店してくれたお土産屋の売子に街で会つても単なる挨拶を交す位がやつの状態で、それ以上の発展は全く無く、何かを期待してやつて来た私にとって、失望と焦燥の日々の中で、欲望だけが次第に大きくなり姿を膨らませていた。告白するが、私はこの時迄、女の肉体を一度も味つた事が無かつたのである。それだけに、その欲望は何かに触れると、すぐにはじけて爆発しそうに鬱積していた。しかしながら、男に汚れた娼婦や水商売の女を相手にして最初の己の性を経験するのには、著しい抵抗感を持ち続けていた。以前に、酒に酔つた勢いで場末の年増の女と初めて重ねた唇は、ねつとりとした生々しさと後味の悪い不潔感を残したまま、私の記憶の中に重く沈んで身体の奥底に残つた為に、その想いは更に強くなつていたのかもしれない。

温泉街では連日忘年会が続くらしく、芸妓達は毎日忙しそうに装いをこらして出掛けに行くが、帰つて来る時の酒酔いは、日一日と強くなつていく様に思われた。暮も押し迫つた三十日の夜、私の家では元旦の日は必ず家で迎える様に義務づけられていた故に、翌日早朝の一番列車に乗つて家に帰るべく、帰宅の準備の為、最終ステージを出演せず一人部屋に帰つた。準備も程なく終え、為す事も無いま

ま誰もいない温泉の湯舟の中に身をひたしていた。外から吹き寄せる風と雪が湯殿の窓ガラスを揺すってガタガタと音を浴室に響かせていた。湯の中で肉体は心地良く温まっているが、心の奥底は満たされない欲望の故に何処か冷えびえとしていたのである。その本質は限りなく女の肉体に恋いこがれていたのではないか。

突然湯殿の戸がガラリと開かれて、女の裸体が私の眼前に姿を現わした。あの比較的若い芸妓である。女も多分誰も入浴していないと思っていたのかもしれない。時刻的にはそんな時間である。裸体の女は少しきくとして立ち止ったが、湯舟の中の人が私であると認めるに少し足をふらつかせながら、ためらう事なく湯舟の中へ入つて来た。年配の芸妓達とは違つて、首筋から脂肪のつた皮膚の流れが豊かな胸元に統き、乳房が勢いの良い流れに乗つて前に向つて張りつめた形でぴんと隆起している。その隆起が再び流れ下つて腰元へ統き、くびれを細く見せていた。両側の腰のくびれは再び脂肪を蓄えながら稜線を形成して、一方は足元に向つて走り、他の一方はぱつたりとした裾野を形造つてゆっくりと盛り上つて軟らかそうな腹部となつてゐる。その裾野のはずれは黒々と生い茂つた樹林に連なりながら、突然深い渓谷の流れとなつて谷底へ落ちていた。

多くの男の精を生け贋としていざなつた谷底はその精を糧とした強靭な腰と豊かな臀となりそれを誇りながら再び新しい男を誘うのである。

女は怖氣る気配等全く感じさせない様に私の近くで湯舟に身体を沈めると「ああ、いい気持。少し酔つてしまつたわあ」ところでえ、今日は、どうして一人なのよお。他の人は何処」と話しかけて來た。化粧を落した顔は張が残つていて、普段眺めている時より清潔感が感じられる。私は、しどろもどろになりながら事情を話すと「あらあ、そう。若い人つて本当にうらやましいわあ。こおれ、膚がぴちぴちして輝やいているうん」と言いながら、女は更に私に近づくと、右手を延ばして私の顔に触れ、その指を肩から下腹部へ向つて流す様に這わせてきた。恥かしい事ではあるが私の肉体は女の刺激にすぐ反応し始めた。女はその反応を見定めるかの様に「うふ」と含み笑ひをしながらやんわりと豊かな乳房を私の胸に押しつけてきた。そうして「私の身体、欲しいっん。ねえん、哲ちゃんだつたらあげてもいいわよお」と私の眼をじっと見つめた。「私の部屋、知つてゐるでしよう。この風呂場を出た廊下の突き当り。一番奥の部屋……。私一人だから先に上つて、待つてえ」と少し鼻声混りの甘い声で私の耳元へ囁くと、私の頸を軟

らかい指先で触れ、少し私の顔を上向きにすると、唇を重ねて来た。ねつとりとした舌先を私の舌に絡ませている。

血が全身を駆けめぐり鼓動が激しく脈打つてくる。恥しさも忘れて私の肉体は立ち上り、その先が女の下腹部に触れて、ひくひくと動き始めた。

「あらあ、可愛いーー。若い人って違うわあんねえ」と脈打つ私の物を軽く握りしめ「でもここでは駄目よ。誰か来るかもしないでしょ。もう少し我慢してねえ。あーん、いい子いい子。後で沢山満足させてあげるからねえ」と言いながら少しの間指先で、もて遊んでいた。私の身体がたまりかねて放出しそうになる直前、さっと身を引くと浴槽を離れ、少し興奮ぎみの掠れた声で「ねえん、先に部屋に行つていてねえ」と言いながら、洗い場の鏡に向つて身体を洗い始めた。むっちりとした臀部が若い男の精を期待してか、ほんのりと赤く染つてゐるかに見えた。

私は性的興奮の為か、それとも永い間湯舟の中にいた為か、湯当たりを起した様に頭が重くなり、あわてて浴槽から飛び出すと急いで下着を付け、私の部屋に逃げ帰つた。女の部屋の前の廊下にはぼんやりとした電燈がともつていたが、そのまま一人で女の部屋に潜りこむ勇気が私に無かつたのである。部屋に帰ると私は布団を敷き、そのまま寝床

へ潜りこんだ。興奮して頭に昇りきつた血潮は、その鼓動を伝えて鎮まらうとはしない。再び布団から起き上つて衣服を付け廊下へ出たが、どうしても女の部屋の戸口を開く勇気は湧いて来なかつた。更に私をおし止めたのは、「店の商品には手をつけるな」と言つた外岡さんの声が、頭の上で大きく響いていたからである。再び部屋に帰つた私の耳に、廊下からステージを終えて帰つて来たバンドの仲間達の話し声が聞えて來た。私はとうとう豊満な女の肉体を知るチャンスを失つてしまつたのである。

元旦も過ぎて再び登別へ帰つて來た私は、線香がかかつて早くから出掛けようとする女と店の玄関口で鉢合せをした。女は私を見てにつこりと笑いながら目くばせをして、すれ違ひざま「どうして来なかつたの、待つっていたのよおん。いけず」と言いながら右手の指で私の手を軽くつねり上げると、あつと言う間に去つて行つた。女は忘れた様にあのなまめかしい誘いの声を再び私にささやこうとはしなかつた。誘われる事を期待していた私は、大切な落し物をした様に、心が晴れる事は無かつた。チャンスは再びめぐつて来なかつたのである。

盆踊りの太鼓も聞かぬまに（心臓移植を中心に）

中瀬篤信

（昭和二十六年入寮）

晩夏

一九八九年九月二日、早朝五時五十分頃枕元の電話がけたたましく鳴り響いた。寝はけまなこで受話器を取ると、心臓外科の副医長からの緊急電話である。

「先生、救急部にAMI(Acute Myocardial Infarction)(急性心筋梗塞)の患者が搬入されました。血栓溶解療法(PTCR)をやつても全く効果がなく、心室細動を繰り返し、除細動器(電気ショック)を頻回に使用しているようです。」「歳は幾つだ?」「四十六才の男です。発症からまだ三～四時間ですからすぐに手術をすればなんとか救命できると思うんですが……」

「そんな若い人か。よし、今すぐ病院に行く。麻酔医と手

術室に連絡して手術のスタンバイを頼む。それから患者の家族によく病状の説明をして手術の承諾がとれたらすぐに

「心筋梗塞発症後六時間以内になんらかの手段により血行を再建出来ないときには、傷んだ心筋は元のように回復しないといわれる。早ければ早いほど良いのだ。時間との闘いである。間に合えばよいがと車を走らせながら、明朝出発のカナダでの学会の準備もしなくてはと苛立つ気持ちを抑え、これも臨床医の宿命なのだからと言い聞かせた。

夏の短い北海道の九月の朝なのに空の色は妙に青く、今日もまた熱い一日となる予感がした。

一時間ほどで手術室に駆け込むと、患者はすでに挿管麻酔下に手術台上に仰臥していた。

佐藤和夫(仮名)四十六才、商社マン、約一ヶ月前より早朝胸やけを訴え目覚めることがあった。しかし一～二分で

自然に改善していた。猛烈社員の多忙な夏、九月二日午前二時半頃、高度の胸やけを訴え、何時までも緩解せず近所の救急センターを経てAMIの診断下に当院の救急部に搬送されたのであつた。

心電図は心室中隔および左心室前壁の広範囲の梗塞像と、危険な不整脈を高頻度に示している。搬入直後に撮影されたシネアンジオグラム（造影剤を使用して左心室や冠動脈の動態を映画により撮影したフィルム）をみると左冠動脈前下降枝の根元で完全閉塞し、それより末梢の心筋に血液が灌流しないために、全身に血液を送り出す左心室壁の動きが非常に低下している。これは最悪の状況であった。「血圧は？」「少し前から殆ど測定不能です。昇圧剤も使用しているのですが……」麻酔医は焦った顔で答え、「早くなんとかして下さい」と不安げに私を見た。ICU（濃厚治療室）で心機能補助のため挿入されたIABP（バルーンパンピング後述）が心拍に同期してボコンボコンと音を立てている。

「先生、またVF（心室細動）です」若い医師が即座に患者の胸壁に両手を添えての心臓マッサージにとりかかる。心電図の波形を見て電気的除細動を繰り返す。手術室は騒

然となる。

心拍停止には ①心動停止(Aystole)と ②心室細動(Ventricular Fibrillation, VF)に大別される。

心動停止とは心臓がぴくりとも動かない状態に対し、心室細動は心室の筋肉繊維各々がぐにゅぐにゅと無秩序に動き、掴むと虫の袋のように感する。このような状態になると、心室の筋肉全体での収縮運動が出来ないので、心臓からの拍出は停止し、脳血流は途絶する。心電図上には心動停止は平坦波、心室細動は一五〇～三〇〇／分の不規則な異様な心室波となって現われる。十五秒以内に意識消失、四～五分の持続で脳の不可逆性変化が起こり、死に至る。電気ショックは、この心室細動を認めた時、あるいは心動停止には無効なので、心臓マッサージや薬剤の効果により心室細動となつた時点で適用する。勝手気ままに動いていた心筋纖維は、このショックにより協力しあい、心臓全体の拍出機能を取り戻し、整脈となる。

急いで手術衣に着替えた私は、助手の心臓マッサージの合間をぬつて前胸壁にメスをいれた。殆ど出血はみられない。胸骨正中切開による開胸術により露出された心臓は暗

赤色に変色して、弱々しくそして必死に動こうとしていた。手早く右心房に脱血用、大動脈に送血用のカニューラを挿入、人工心肺装置に連結した。直ちにポンプは回りだし、酸素を使いきった真っ黒な静脈血は右心房より人工肺に還流し、人工肺で酸素化された真っ赤な血液が患者の全身を駆け巡る。心臓の動きが少し良くなつたようだ。

「先生、血圧が九〇mmHg以上に上昇してきました。」「よし、心停止時間が短時間だったので、これで脳のほうは大丈夫だらう。」手術室の緊迫感が少し緩んだようだ。

エアコンが充分に働いていないのか急に暑さを感じる。

九時を過ぎて、発症が午前二時半頃というからもう七時間も経ってしまつて、果して心臓が動き出すのである。大動脈遮断鉗子をはずし冠血流を再開、軽く心臓マッサージを行う。硬い心筋が少し柔らかくなつたようだ。心電図上に細動がみられる。金属のへらのようなもので心臓をはさみこみ、電気ショックを加える。動き出さない。二度三度と繰り返す。やはり駄目だったか。額の汗を拭わせる。暑い。

心臓マッサージを継続する。もう一度電気ショックを加えた。びくびくと部分的に動いている心室細動から心臓全体がひきつたような完全停止の状態となり、数秒後、どくつドクッと自力で動きだした。「先生、心拍再開ですね。本当に良かったですね。」麻酔医は術野をのぞき込みながらVサインを出した。

しかし傷んだ左心室の動きが弱く血圧を保つには不十分であるので、補助循環としての人工心肺からの離脱には猶数時間要したのであつた。

翌朝、ICUを訪れた。患者は依然として重態であるが、前夜と比べかなりの改善をみせており、一抹の懸念はある

ように、予め下腿より採取した大伏在静脈片を用いて吻合した。即ち大動脈からの血液がこのバイパスを通って閉塞冠動脈より末梢の心筋に充分な酸素を供給出来るようになる(A-Cバイパス術)ためである。この吻合に四十分を要した。さあこれから心拍再開だ。時計を見る。午前

ものの多分大丈夫だらうと後事を副医長に託し、カナダに旅立つたのである。

さて心筋梗塞とは？

虚血性心疾患といわれるものの中には①狭心症と②心筋梗塞がある。

①狭心症＝いわゆる狭心発作といわれる胸痛（生命の不安を感じさせるような）や胸部絞扼感を特徴とするが、人により様々である。

この本態は不明とはいえ、その要因は、動脈硬化による冠動脈狭窄や冠動脈の痙攣、冠動脈内血栓などによる心筋需要酸素の不足、あるいは心筋肥大による心筋需要酸素の増大によるものと考えられる。身体を動かして発する労作狭心症、静かにしても生ずる安静狭心症などがあるが、これらは通常一～二分の短時間で消失するが、遷延すると心筋梗塞に移行する。

②急性心筋梗塞（A M I）＝激しい胸痛で発症する心筋壊死で、特徴のある心電図や血液内の心筋逸脱酵素の上昇をみて診断される。無痛性の梗塞も存在するが、一般的には、死ぬのではないかという恐怖感を伴う締め付けられる

ような重い痛みが特徴で、部位は前胸部、心窓部、背部、頸部、肩部などで、バリエーションがある。

急性心筋梗塞症の死亡率は三十五～五〇%と高く、その死亡例の六〇%前後は発症後一～二時間以内で、病院にたどり着く前に死亡する。従ってAMIに対する救命治療のポイントは如何に早く診断し、如何に早くなんらかの手段により閉塞冠動脈枝を再開通させ、心筋壊死を防ぐかにかかっているのである。

壊死がすすむと心室自由壁破裂、心室中隔穿孔、或は乳頭筋断裂による急性僧帽弁閉鎖不全症を発症する。亜急性期、慢性期には心室瘤ができることがある。

これらの治療はどうなのか？

薬物治療＝狭心発作は、胸痛や胸部絞扼感を発症させる心筋の一過性の酸素不足状態であるので、早急に心筋の酸素需要を減らし、酸素供給を増加させるような薬剤が選択される。a＝ニトログリセリンに代表される硝酸薬は、舌下錠、経口錠、経皮製剤、注射剤などがある。b＝カルシニーム拮抗薬＝細胞内へのカルシウムの流入を抑え血管平滑筋の収縮を抑制することにより、冠動脈の拡張作用を

現す。c = β遮断薬。d = 抗血小板薬、抗凝血薬。

A. 経皮的冠動脈形成術(percutaneous transluminal coronary angioplasty=PTCA)風船療法 = 先端に風船の付いているカテーテルをガイドワイヤで狭窄部まで誘導し、風船を膨らませることで狭窄部あるいは閉塞部を拡張し、冠血流を確保する。簡便で、ときには非常に有効であるが、再発率が高い。又この際併発した動脈解離(内膜剥離)や急性再閉塞にはステントを使用する。

B. 経皮的冠動脈内血栓溶解療法(PTCR) = AMIでは、粥腫(コレステロール)による狭窄部の血栓性閉塞が多いので、選択的に冠動脈内に血栓溶解剤を投与する。早期に血流再開を認めることがある。

C. Directional Coronary Atherectomy(DCA) =

特殊なカッターが付いているカテーテルで、狭窄部を削り取る。

D. Rotablator = 周囲にダイヤモンド粉の付いている小さな弾丸状の金属球を高速回転させて、狭窄部を削り取る。高度に石灰化している硬い狭窄に適している。

E. 外科的治療法 = A-Cバイパス術(Aorto-Coronary

Bypass) = これについては前述したが、大動脈から狭窄部を越えて冠動脈末梢にバイパスを通じて血流を供給しようとするもので、冠動脈血流障害をもたらす内徑の七十五%以上の器質的狭窄部位が中枢に近くに存在し、吻合しようとする末梢の動脈径が一mm以上で流れが良いことが必要である。使用する移植片が自己静脈であるので拒絶されることはないが、七十程度で老廃閉塞する。そこでより長持ちのする自己動脈を用い、最近では内胸動脈や胃大網動脈と直接接合される。

併発した心室中隔穿孔、心室瘤等も同時に手術加療される。心室壁の穿孔性破裂は亜急性浸出型と異なり緊急に外科的処置を要するが、間に合わないことが多い。

F. 補助循環

1. 大動脈内バルーンパンピング(IABP = Intra-Aortic Balloon Pumping)前出。

カテーテルの先端に細長いバルーンを大動脈内に挿入し、心臓の拍動の周期に同期させながら膨張、弛緩させることにより、冠血流量を増やし、左心室からの血液駆出抵抗を減らす目的の補助循環法である。つまり心臓が拡張する時期にバルーンを急速に膨張させると、バルーンより中

枢の大動脈の拡張期圧が上昇し、大動脈根部から出ている冠動脈への血液量が増加する。また収縮期直前に弛緩させるとバルーンより中枢の大動脈圧が急に降下し、左心室から楽に血液を送り出すようになる。このIABP

は心筋虚血を改善し、心拍出量を増加させ、ポンプ機能を補助する。

IABPは、急性心筋梗塞は勿論、弁膜症、心手術後など種々の原因による重症なポンプ失調の治療に大きな役割を果たす。

2. 補助人工心臓 (VAD=Ventricular Assist Device)

(VAD=Ventricular Assist System)

心不全となつた心臓の側に機械的なポンプシステムを埋め込み、心機能の一部または100%の働きを代行するものである。左心室を補助するものをLVAD、右心室を補助するものをRVADと呼ぶ。

3. 全置換型人工心臓 (TAH=Total Artificial Heart)

Heart)は、完全なものはなかなか出来ないが、一九六九年クーリーらのリオッタ型では、ドナー心が得られるまでの64時間ブリッジとして使用された。また永久使用の目的での人工心臓(ジャーピック7-70)の成績は良好で、最長生存六百二十二日であった。各国で改良を重ねているが、

いずれも血栓、感染症が問題となる。

木枯し

九月十八日、二週間にわたるカナダの学会、視察旅行を無事終えて成田空港に到着。電話で患者佐藤和夫の安否を尋ねた。「まあまあです」の返事に少し安心したのであった。

術後二週を過ぎてゐるのに集中治療室の管理下にあり、IABPから離脱していたとはいへ、心機能の回復は未だしだつた。肺動脈圧も中等度に高く、心室性不整脈も多発し、利尿も薬物に依存していた。精神科的には失見当識を認めるが会話にも不自由なく、血中酸素濃度も正常なことから、多少の懸念があるものの次第に改善されていくものと思われた。

「奥さん、どうやら命をとりとめて良かつたですね」「先生、有難うござります。お陰さまで少しずつ良くなつていうように思いますが、他の人と比べると少し回復が遅いようで心配です。元のように社会復帰出来るのでしょうか?」「術後の検査所見を診せて貰いましたが、バイパスの血流も非常に良いのですが、左心室壁の収縮が弱く、広い範囲

の梗塞心筋の回復が遅いようです。この心筋の浮腫がとれてくれればよいのですが……もう少し様子をみましょう」かなりの改善を期待していた左室前壁の動きが、殆ど認められなかつた左心室造影像が頭の中をよぎつた。もう少し良くなるはずだ、きっと。

十月五日、ICUより一般病棟に転室。

十月六日、午後二時、トイレへの歩行後、急に呼吸困難を訴え、血圧下降、ショック状態となりICUに搬入、気管内挿管、機械呼吸となる。

十月十一日、ショック状態を脱し、肺うつ血も改善される。暑かつた晩夏のあの日からもう二ヶ月以上も経つて、病院の中庭の楓がいつのまにか色を失い、冷たい風に落葉せんとしていた。

十一月十三日、心機能も改善傾向となり、一般病棟に転出できた。しかし数日後再度ICUに逆戻りとなる。心筋梗塞となつた左心室の傷んだ心筋は、血行再建術によつても回復することが出来ず、床上安静以上の運動に耐えられないのであつた。つまり梗塞となつた心筋は、術後二月も経てばその筋肉としての弾力性を喪い、纖維化という修復機転の結幕を示しているにほかならない。生命はとりとめた

ものの、心筋が回復することはほぼ絶望的なのである。「先生、救急部の若い先生たちも本当によくして下さいますが、先生がいつもおられる心臓外科の病室に移して頂けませんでしょうか。簡単に良くならないことは充分判つております。主人も私もそう願っているのですが」奥さんはうつむきながら小声ですがるような目をした。これは救急部受付の緊急手術患者は救急部病棟に、待機的心臓手術患者は心臓外科病棟で各々管理することとなつてゐるからである。

「先生、これで毎日心臓外科の先生たちに診て貰えるので安心だ」十二月四日、転科してきた患者はベッドの上に腰を掛けながらニコッと笑つた。窓外は雪がちらちら舞落ちて、明日にはかなり積もるかもしれない。気温が下がると弱つた心臓に負担が掛かるかなと気がかりであつた。案の定、翌日から低心拍出症候群（LOS=low cardiac output syndrome）は、尿量減少、肺うつ血、うつ血肝となつて現われた。

カテコラミン（強心剤）、利尿剤などにも反応せず、十二月十一日、三回目のIABPを右大腿動脈より挿入するところになつた。北海道の十二月は日が暮れるのが早い。すぐ

に暗くなる。

ような気がします……

病室の外でこの会話を立ち聞いていた奥さんは、涙を隠すかのように室外に出た私に背を向けて了。

さくら餅

一九九〇年 元旦、「明けましておめでとう。今日の調子は如何?」「サンキュー、ヴェリーファイン。もう一度お正月を迎えるとは思いませんでした。有難うございます」久しぶりに髭を剃りさっぱりした顔であつたが、溶血のせいで少し黄ばんだ目をしょぼつかせながら外人のような挨拶をした。精神科医によると心気抑鬱状態との診断であつたが機嫌が良いようだ。相変わらず心電図に同期したバルーンパンピングのボコンボコンという音が病室に虚しく響いていた。「今年はきっと良いことがあるのではないかと思うんだけど、どおお?」「今年の干支は、私の午歳だからあ：跳ね上がるような良いことがあるような予感が……」「そんな良いことってどういうこと?」「それはこの世からおさらばすることですよ。もうこんな命、こんな生活、飽き飽きしてきたんです」「そんなこと云うんじゃない。暖かくなればもつともっと元気になるよ」「でも、このバルパンが止まればあの世行きでしょ? このボコンボコンといふ音は、なにか遠くに、遠くに聞こえる盆踊りの太鼓の

北海道ではまだ雪が降ったりしているのに、ちらほら桜の便りが聞かれるようになった。嚴寒の二月と異なり、三月弥生の季語は軟らかい空気とほのかな夢を与えてくれそうだ。ずっと一対一の状態からやつと二対一に改善した。もう少しで三対一になるかもしれない。

「奥さん、正月には患者さんの厳しい状況を詳しく説明し、いつ急変するか判りませんので、どうかご家族の皆さん覚

悟しておいて下さいと申し上げましたが、最近少し良いようですね」「ええ、お父さんの機嫌もよく、時折昔の若い頃を思い出すのでしょうか、そんな話もするんですよ。先ほども看護学生さんがおひな祭りの桜餅を下さって、初めて美味しいと云つて少し食べたんです。先生、バルパンはもうじき外せるのでしょうか?」看病疲れのやつれた顔で聞いた。「さあ、どうでしょうか?」他の先生からも聞いたかと思いますが、体外からこのような異物を長期間入れたままにしておくと、必ず細菌感染が起ります。もう限界なのです。取れるもなら早く取りたいのですが……奥さん、嫌なことを申し上げるようですが、この数週間が一番良い時期で、このままで次第に病状が悪化してゆくのではないかと心配しているのですが。私どももこの数か月いろいろな治療法を考えました。しかし、現実的ではありませんでした。「それはどんなことですか?」「例えは……」

：收縮する力の弱った心臓を背中の筋肉で包み、その筋肉に電極を付け患者さんの心電図に合わせて通電する。そうすると弱った心臓と一緒に筋肉も收縮し、協力しあって心拍出量を増やそうとする手術とか……、あるいは……」「先生、あのう、うちの人には心臓移植は考えられないのですが……か?新聞に脳死臨調とか難しいことが出ていますが

……と今まで思い詰めていたことを吐き出すかのように尋ねた。「ええ、勿論考えました。確かに心臓移植の適応だと思います。既に組織適合性判定のためのHLAの検査なども済んでいます。しかし……現在の日本では出来るような状況ではありませんし、外国に行くにしてもバルパンが付いていては……飛行機で運ぶのも大変なことです……。」

丁度その頃、東大医科学研究所や大阪大学医学部の倫理委員会では、脳死患者からの臓器移植を認可し、また国会の脳死臨調(脳死および臓器移植臨時調査会)の答申が出次第、その如何によつては阪大第一外科あたりで心臓移植の再開があるかもしれない雰囲気があつたのである。

心臓移植

一九六七年十二月三日、南ア連邦の首都ケープタウン、フルート・スクール病院において、バーナード博士による同種同性心臓移植の第一例目の臨床例成功のニュースが世界中を駆け巡つた。満を持していたかのように米国のかントロウイツやシヤムウェイにより二、三、四例目がその年のうちに施行され、翌年の一九六八年には世界の各施

設で百例もの臨床手術が行われた。通算三十例目が日本の和田移植であり、術後八十三日の生存を得ており、三十日以上生存例としては十一番目で、当時としてはかなりの良い成績であった。心臓移植ブームとなつたこの年を過ぎて、翌年の一九六九年には、移植後の拒絶反応、感染症、患者の情緒不安定等による生存率の悪化、特に術者や施設に対する訴訟問題の多発により心臓移植の症例は三十例と激減し、施設によつては心臓移植を当分行わないと発表する所も出てきたのであつた。

臓器移植のうち角膜、腎臓などの移植は、従来の心臓死からの臓器提供で可能であるが、心臓、肝臓などの移植では生着せず、どうしても脳死下での臓器提供、即ち心臓が動いている間に摘出することが要求される。すると「脳死は果して本当の人の死なのだろうか?」「移植材として使用したいばかりに、人がまだ生きているうちに臓器を取り出しているのではないのか?」というような素朴でしかも重大な疑問に対し明快に答え、社会的コンセンサスを得る必要がある。だが、このようなことが日本の風土において、つまり瞳孔散大、呼吸停止、心拍停止そして冷たくなつた体温をもつて死を体感していた人々が、あるいは心臓が停止し、明らかに死亡しているのにも拘らずいつまでも心マッサージの継続を懇願する人々が、そして又何十年経つても地の果てまでも遺品や遺骨を捜し求めて歩く民族において、このようなことが果して可能なのだろうか。

米国ハーバード大学は一九六八年、いち早く脳死基準を制定、一九七四年には加州ではより簡潔な脳死基準を定めた。

わが国においても遅ればせながら一九八五年、厚生省「脳死に関する研究班」が脳死判定基準を、一九八八年には日本医師生命倫理懇談会（加藤一郎座長）が「脳死および臓器移植についての最終報告」を発表した。その他アメリカ大統領委員会「死の判定基準」（1980）、英國「脳幹死判定基準」（1983）等があるが、いずれも基本的には脳死を認めるものである。だが世界的にも、脳死をもつて人の死とする正式な法律を制定した国は、デンマーク、スウェーデン（二十年も費やして）などの小数であり、ほとんどの国はこれらの脳死判定基準を認めた上で、これを人の死とみなす立場を国が追認する形をとつてゐる。わが国においてはどの様な形にせよ、脳死をもつて人間の死とすることをどうしても認めたくない感覚と体質が存在するように思われる。

特に心臓移植においては、拍動心(beatting heart)をドナー(提供者)からレシーピエント(受容者)に移植することで成り立つものであることから、脳死が個体死と認めることができが前提条件であり、個体死として認めるならば脳死の正確な判定が最も重要な課題となるのだが…。

日本医師会生命倫理懇談会の要旨

(一九八八年一月)

1. 「死の定義」

従来の心臓死のほかに、脳の死(脳の不可逆的機能喪失)をもつて人間の個体死と認めてよい。

2. 「脳の死の判定基準」

厚生省研究班(班長竹内一夫)の判定基準を必要最小限の基準として大学病院等の各々の倫理委員会において基本的事項を定め、これによつて疑義を残さないように、慎重かつ確実に判定を行うべきである。

3. 「患者本人または家族の意思の尊重」

脳の死による死の判定は、患者本人またはその家族の意思を尊重し、その同意を得て行うのが、現状では適当である。

4. 「脳の死による死の判定の正当性」

脳の死による死の判定は、それが日本医師会等で一般的

に認められるとともに、患者側の同意を得て、適切な方法で、医師によつて確實になされるのであれば、それを社会的および法的に正当なものと認めてよいと考えられる。

5. 「脳死判定による死亡時刻」

脳死判定による死亡時刻としては ①はじめの脳死判定時、②その後六時間ないしはそれ以上たつてからの脳死確定時とが考えられる。死亡診断書の死亡時刻は①と②のいずれでもよいが、死後の相続の問題にそなえて、もう一方の時刻も診療録に記載するものとする。

6. 「臓器移植」

臓器移植は、臓器提供者および受容者本人、またはそれらの家族が十分な説明を受け、自由な意志で承認した場合に、日本移植委員会の定める指針に従つて行うものとする。(一九九一年発行)「心臓移植・肺移植」日本胸部外科学会臓器移植問題特別委員会編より引用。)

脳死判定基準(厚生省、竹内基準一九八六年十二月)を基礎にして、大学病院や各施設の倫理委員会において脳死判定基準を定め、厳密に判定を下している。

1. 深昏睡: どのような刺激にも全く反応を示さない。
2. 生命維持機能の喪失: 自発呼吸の喪失、体温、血圧の

不安定。

3. 兩側瞳孔散大 \parallel 4 mm以上。

4. 脳幹反射の喪失 \parallel 脳幹機能の停止を意味する対光反射、角膜反射などの各種反射の消失。

5. 平坦脳波。

6. 時間経過 \parallel これらの所見が六時間経過をみて変化が無いことを確認する。

7. 当施設では、脳幹反射をより客観的に表現すべく、聽性脳幹反応の消失を必須項目とし、時間経過もより長くして正確を期している。

当救急医療部において、一九八三～九年の間の総搬入例は七三三三例で、死亡例は一五二三例(20.8%)、そのうちの一七九例(死亡例の11.8%)が脳死症例であった。

これらの脳死症例は、脳死判定より心停止までの平均時間は100.1時間であり、五日以内にはその総てが心停止に陥っている。この中の三家族から臓器提供の申し出があつたといふ。(註三)

下火となつた世界の心臓移植の潮流の中で、スタンフオード大学のシャムウェイらはなお症例を重ね、臨床成績

の向上に努力を重ねた。平均余命が三十日以内の末期の重症心不全患者に対しての移植治療なのに、一年生存率が四〇%、五年生存率二〇%の比較的安定した成績は、当時の屍体腎移植の成績に匹敵するものであつた。一九八〇年に至つて免疫抑制剤としてシクロスボリンが臨床に導入され、拒絶反応を抑制するようになつてからは生存率は更に向上し、また臓器移植のためのコーディネーターの配備、移植ネットワーク、情報センターなどの社会的整備により、症例数も增加了。術後一八年以上の長期生存例も含め、一九八八年には世界で一万例を数え、一九九〇年には一四〇〇例を越えた。その成績はシクロスボリンや他の免疫抑制剤との三者併用療法を行つた二五〇〇例では、一年生存率 \parallel 八十七%、五年生存率 \parallel 八十五%にも達し、しかもその七十三%が完全社会復帰を果たしているという驚くべき好成績なのである。しかし他人の臓器を移植するのであるから、必ず異種蛋白に対する免疫反応が発生し、なんらかの形で拒絶反応となつて表れる。この免疫反応を完全に抑制することは難しい。(拒絶反応についての詳述は略す。)

るのか？

レシーピエント（Recipient、受容者）の適応疾患、条件、年齢。

1. 移植以外に患者の命を助ける治療手段が存在しないか？
 2. 移植手術をしなければ、患者の余命はどれほどなのか？
 3. 移植手術後の長期にわたる定期的検査や免疫抑制療法に心身共に耐えられるか？
 4. 患者自身が移植の必要性を認識し、積極的に希望すると同時に家族の同意と協力が得られるか？
- 以上の事項を十分考慮しながら、その適応を決定しなければならない。

A = 適応となる疾患

1. 重症虚血性心筋症（心筋梗塞など）
2. 重症の特発性心筋症（拡張型心筋症など）
3. 高度心筋障害を伴う心臓弁膜症
4. 高度複雑先天性心疾患
5. その他、心筋炎、ザルコイドーシス、心臓腫瘍など

ど。

B = 適応条件 = 最長余命一年～六ヶ月以上生存する確率が10%以下と予想される場合。

また IABP、人工心臓、補助循環装置からどうしても離脱出来ないような救命治療中の患者なども当然適応となり得る。

C = 適応の決定 = 内科系及び外科系の複数の循環器専門医の協議により決定する。

D = 年齢の因子 = 五〇才以下が望ましい。五〇才以上では悪性腫瘍、糖尿病、動脈硬化性疾患、慢性呼吸器疾患等が好発するので、移植から受ける利益が半減するからである。しかし個体差が大きいので年齢のみで除外することはできず、最近の欧米での年齢上限は、六〇才としているところが多い。

E = 絶対的除外条件

1. 悪性腫瘍。
2. 肺高血圧症……この場合、心・肺同時移植が必要となる。
3. 活動性感染症。
4. 肝、腎の不可逆的機能障害。
5. 薬物中毒、麻薬中毒。（アルコール性心筋疾患を

も含む)

6. H.I.V抗体陽性者。（エイズ）

以上を有する患者はレシーピエントから除かれるが、その他、相対的除外条件としていくつかの疾患があり、またドナー（提供者）との関係で、心臓のサイズ、血液型、組織適合性の不適合により除外される場合も出てくる。

ライラック（リラ）の香り

札幌は四月の春らしい日和に雪は解けざり、東京より一月遅れの桜が蕾をふくらませる。昔、恵迪寮生の頃の観桜会を思い出す。アカシア並木の北一条通りを馬糞風に吹かれながら、食糧を載せたりヤカーを曳き、太鼓を叩き、隊伍を組んで円山公園まで歩いて行つた。樹間に寮の幕を張り、冷たい風を遮りながら貧しい食糧を食べ、大声で寮歌をがなつた。勢いに満ちてはいたがすぐに腹のへる青春であった。

「先生、八雲の高木さんの爺ちゃんが若い先生の説明ではさっぱり判らんと文句を言つてゐるのですが……」婦長からの連絡である。都ぞ弥生を知つてゐる爺ちゃんは、その

昔才氣煥発な官庁のお偉いさんであつたらしいが、今は引退した八〇才、相当の歳の息子夫婦と暮らしているのである。少しボケてきてはいたが、時折失神発作があり、どうしたものかと連れてこられたのである。診ると脈拍が一時間に三〇～四〇回と異常に少なく、心電図では房室ブロックという刺激伝導系の疾患であり、簡単にいうと心臓内の電気の配線が切れた状態なのであつた。数週間前にペースメーカーの植え込みを無事に終え、退院前の医師の説明に難しく反論し、どうしても納得しないということであった。

「先生、この器械を身体の中に埋め込んだのだから、器械が動いているうちは心臓が止まらないのでしょうか?」「それはそうだけど、電池が切れたり、たまあには故障することもあるので時々検査に来て下さい」「やっぱりそうでしょう。器械が故障しなければいつまでも心臓が動いて長生き出来ることもありますよね」「でもね、高木さん、癌とか他の病気になることもあるし……歳をとつても心臓の筋肉が弱ってしまうと、器械が作動しても思うように心臓が動かなくなることもあるんですよ」「そうすると今の私の心臓は、器械が上手く働いているのだからまだまだ良い心臓なのですね?」「それはそうです。」爺さんはやはり頭の良いことを言う。「わたしや若い頃粗食だったので動脈硬化も少なく

良い心臓なんだ。余り長生きはしたくないんだが」と光った頭をつるりと撫でた。「ところで、あの重症室のボコンボコン（補助循環装置）の人の奥さんに聞いたんだが：なにか患者さんは：確かに五〇才前のお若い方ですってね。それを聞いただけで心が痛みます。私のような丈夫な心臓をあの人にはあげることが出来ると良いんだが」と左胸を押えながら妙に得意そうな顔をした。

D. ナー (D o n o r 、臓器提供者) の選択基準

A. 不可逆性脳障害 || 移植する心臓は、頭部外傷や頭蓋内出血などによる不可逆性脳障害をきたした脳死者から提供される。

B. ドナーになりうる脳死者

- ① 既往歴からみた適応 || 生前に、心疾患、重症感染症、悪性腫瘍等の疾患を有していた者。脳死に至るまでの間に、高度的心筋障害を受けていた者、あるいは胸部外傷を認めているものは除外する。
- ② 年齢からみた適応 || 日本人は比較的冠動脈の硬化性病変の発生が遅いので、男性 || 四十五才、女性 || 五十才以下が適当と考えられている。

移植後の慢性拒絶反応として、冠動脈硬化症が発生するからである。

C. 胸部X線写真、心電図、心エコー図などの心機能検査、あるいは血液による細菌検査、ウイルス感染などの諸検査をパスする必要がある。

D. 脳死者の移植までの管理には、体温調節など色々な点に細かい注意が必要である。

E. レシーピエントとの関係において、ABO血型、HLA-A2の適合が必要である。詳細は略す。

F. 摘出臓器の阻血許容時間

脳死の状況下に提供された摘出臓器は、各種の保護液などで処理をさるが、血流が無いので移植されるまでのタイムリミットがある。その許容時間を越えると生着率（成功率）が下がる。実際私どもの行っている腎臓移植でも、心臓死による屍体腎移植の五年生着率は、親族などの関係者からの生体腎移植に比し50%も低い。その許容時間は、脾臓 || 七十二時間、腎臓 || 四十八時間、肝臓 || 二十時間以内といわれる。心臓では四時間なので、手術操作などに約一時間を要するとして、摘出時間や輸送のロースタイムなどを予想し加算すれば、輸送時間が二時間以内の施設の患者にしか提供できない。日本において輸送

するとすれば、専用のジェット機や自衛隊機の緊急使用が可能であればかなりの範囲に配分する事が出来る。

このようないドナーにもレーシーピエントにもその適応となるためには、それなりの制限がある。しかし心臓移植を必要とする多くの心疾患者に対し、きわめて少ないドナーという昨今の世界の現実は、良好な手術結果に拘らず移植手術例数の減少となつて表れている。

桜の散った五月の札幌には名残りの雪が降つたりで肌寒い日が続く。鳩が肩を寄せ合う大通り公園や街のあちこちに紫色のリラの花が震えている。リラ冷えという。そんなある日、高木の爺さんは息子に連れられて八雲に帰つていった。

紀のヒポクラテスらは既に人間の精神活動の中心が脳に在ると考えていた。ただ紀元前四世紀のアリストテレスだけが胚の研究から、心臓はすべての臓器に先立ち発生すること、あらゆる動物に存在し、血管の始点となり、感情の動きと密接な関係に在ることから人間の心の中核は脳ではなくて心臓にあると説いただけである。しかし時は過ぎ現代に至つても、生身の人間は心が痛むと左胸を押さえるのである。

然るにこのような不可侵の立場の心臓に対し、人間の医師は神を恐れず手を下すのであつた。一八八三年、胃の手術で有名なドイツのビルローは心筋損傷に対する心臓縫合の実験について「このような手術を企てる外科医は同僚の尊敬を失うだらう」と述べたという。にも拘らず一九五三年ギボンは人工心肺装置を作り、今や体外循環下に心奇形、心臓弁膜症、心筋梗塞などの手術治療が世界各地で日常に行われている。心臓移植にしても二十世紀初頭からの数々の実験から、一九六〇年のロウラー、シャムウェイの心移植外科手技の確立を生み、一九六七年バーナードの第一例目に結びついてゆくのである。

確かにあの時爺さんは心が痛むと言つて胸を押えたが、爺さんに限らず誰もがこころの表現に心臓の在処をたなごころで触れ、あるいは心臓を意味する言葉で表現する。原始時代のスペインのエルビンダル洞窟の心臓に印の付いたマンモスの壁画にしても、古代エジプト「死者の書」の書き記アニの心臓を計測する意味あいからも（註二）心臓に靈魂の本質を捕らえていたと考えられる。しかし紀元前五世

五月の末頃には佐藤さんの補助循環装置のバルーンパンピングは二対一から四対一の状態に改善した。誰かが摘んできたライラックの小枝を枕元に、「先生、家内から聞きました。心臓移植のことです。今日はとても気分がよいので少し話をしたいのですが…」「ええ、私もすいぶん前から色々なことを考えました。しかし日本の現状では…」「いえ、いえ、ご心配なさらないで下さい。私は決してそれを望んではいませんから。確かに長生きはしたいです。子供たちのためにも。でも私も商社マンです。無理なことをしてもらくな結果が出ないことは身にしみて分かつています。自分の事は自分の精神力でかち取ります。かりに心臓提供者がいて、移植が出来ても、その移植された心臓にみあうような立派な人生を送る自信がありません。私はそれを受けようとは決して思っておりません。どうぞご心配なさらないで下さい。自然のままが、自然のままが一番良いのです。」

バルパンが四対一となり少し状態が改善しているかのようみえて、実際に計測させた彼の心拍出量は平均二〇〇〇cc／分以下で、正常の半分以下なのに落胆していた私には、全く辛い話であった。

枕元のライラックの香りが匂つた。子供の頃読んだ本にライラック殺人事件というのがあった。ライラックにはその香りが良いだけに毒性があり、この樹の下で眠ると、いつの間にか死んでしまうという。限りある命の人間は、その時を知り、いつの間にかライラックの樹の下で眠れないものだろうか。（註二）

盆踊りの太鼓も聞かぬまに

札幌祭りと共に爽やかな初夏がやってくる。はまなす、つつじ、牡丹、芍薬と沢山の花たちが一斉に咲き誇る。いちごが美味しいと毎日のように食べていた佐藤さんであつたが、栄養も抵抗力も次第に低下し、各種の予防薬にも拘らず、高熱を認めるようになつた。最も恐れていた感染症である。急性肺炎を併発した佐藤さんは、七月のある日静かに、彼岸に渡つていった。

「主人と共に十ヶ月の病院生活でしたが、主人もよく頑張りました。もう十年も二十年も病院で生活していたような気がします。田舎育ちで盆踊りが大好きでした。今年は盆踊りの太鼓の音も聞かないうちに…。」

あとがき

日本における和田移植は告発され、不起訴になつたとはいえた多方面に多くの不信感を残した。二十年以上も前の初期の事例に就いて今云々することは出来ないが、米国やその他の国では、似たような多くの訴訟の中に脳死判定やその他の臓器移植の問題点に積極的に取り組み、少しづつ解決し現状に至つている。日本においても医師会、学会を中心として第一例目の反省点を基に、医の倫理に基く臓器摘出に関する法的問題、臓器搬送に関わる問題、移植情報ネットワークや移植費用などの社会的基盤システムなどの確立に努力をはらつてゐる。

米国では百五十七施設で心臓移植が行われているが、年

間一〇例以下の施設では成績が目立つて悪いことから、日

本では官民一体の心臓移植財団を設立し、その中に移植医療の質と倫理を管理する機構を設け、条件の整つた立派な心臓移植センターを新設、そこだけで心臓移植などを行つべきである。現在の日本の病院は、心臓移植を行う経済的余裕も、施設も、病院運営体制も十分でない。（山口 洋教授順天堂大学内科、平成六年十月十七日、朝日新聞）

日本で心臓移植が行わるのは、日本特有の身体觀や宗教觀のせいではなく、託せるような責任ある医療組織が存在しないからである。日本医師会は任意加入の社会法人でしかないのに、弁護士会のような、強制加入の懲罰規定を持つ公的身分組織ではない。従つて他先進国のように医療職能集団の自治に託そうにもあまりに危険で託せないのである。との米本昌平氏（三菱化学生命科学研究所室長）の論評（平成六年十月二十九日朝日新聞）は傾聴に値する。いずれにせよ臓器移植の前提条件である「脳死をもつて人間の死とするか？」の命題に日本人はそろそろ決着をつけなければ不可以と思うのだが。脳死を診断する医師に対する不信があれば論外であるが、自國での臓器移植はまづいが、外国でやる分には構わないといった論理は、日本人だから成り立つのだらうか？。

この文では、心臓移植さえ行えば助けることが出来たのにといった情緒論で、拒絶反応を伴う心臓移植のわが国での実施を強制するような意図はない。また、文明論的、哲学的な観点から、脳死を「人の死」とすることを全く容認できない人をも理解し得る。しかし一方、脳死による臓器移植を認め、生前より自由な意志で（強制される事なく）

臓器提供を表明している人々も存在する。

確かにこの世の中には、宗教的信条などの違いから相手を倒すまで闘い続けている地域もあるが、この脳死からの臓器移植の問題に就いては、このような二律背反に陥ることなく、日本人の知恵で、相反する思考の人々と緩やかに共存する道を探り当てることが出来ないのだろうか。

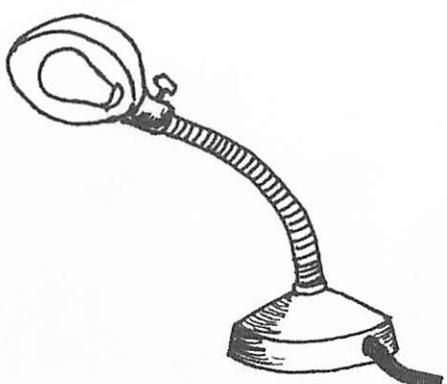
この文中に出てくる症例は、総てフィクションであり、実在ではないことをお断りしておく。 1994.11.3.

(註二) ライラックの芳香は香料に使用されたりしているが、毒性は全く無いらしい。クマリン類、リグナン類など多数の物質が検出されているが、北海道大学農学部寺沢実氏によると、その種の中にsirenotoxinという化合物があるという。

(註三) 松原 泉 || 「救急医療と脳死」市立札幌病院救急医療部、1991.

(註二) 紀元前一二五〇年代エジプト「死者の書」、最後の審判では、ジャッカルの頭をしたアヌビスが書記アニの心臓を量っているのが描かれている。天秤の片方には真実の象徴の鳥の羽根が置かれている。万一、心臓の重量が不足していれば、それを食おうと、かたわらに怪獣アミットが控えている。

ここでは心臓がその人の生前の行為を象徴しており、ミイラに靈魂が再来することで再生を信じていたエジプト人にとっては、心臓を失うことは全てを失う事なのである。(酒井シズ || 循環器学の歴史、循環科学 Vol.7, No.1, 90, 1987)



《O B 座談会》

拝啓、現恵迪寮生諸君！

恵迪寮で育った人間が、今

恵迪寮についてどのように考え

君たちに今、何を伝えたいか…



(左から安井、谷口、高井、湯浅、清原の諸氏)

出席

安井

勉（昭和十八年入寮）

村山

正（昭和二三年入寮）

富永

巖（昭和二五年入寮）

中瀬

篤信（昭和二六年入寮）

井口

光雄（昭和二八年入寮）

高橋

邦臣（昭和二八年入寮）

幸

健一郎（昭和三十年入寮）

高井

宗宏（昭和三一年入寮）

湯浅

亮（昭和三二年入寮）

谷口

哲也（昭和四八年入寮）

清原

義雄（昭和五七年入寮）

司会

河原

克美（昭和二六年入寮）

日時 平成六年十一月五日（土）

場所 スノーカー会館会議室

（札幌市中央区北3西3）

恵迪寮の現状

幸 みゆき それじゃ、現在の恵迪寮がどうなっているのかというの大きな関

して、現寮生にも比較的身近に接していらっしゃる幸さんから口火を切ってもらいたいんですが。

まずは、同窓会の現寮担当部会長として、現寮生にも比較的身近に接していらっしゃる幸さんから口火を切ってもらいたいんですが。

河原 お忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。今日は「我ら恵迪寮同士」ということで、ざつくばらんに座談会を進めて行きたいと思いますが、実は僕ら恵迪寮のOBが、最近すーっと心配しているのが、恵迪寮の現状、それに将来についてです。それで、恵迪寮をどうすればいいのか、恵迪寮にこうあって欲しい、あるいは寮生にこのようにしてもらいたいというようなことなど率直にお話しitいただければと願っています。



(左から中瀬、幸、富永、高橋、村山、河原の諸氏)

心事だと思いますので、寮の現状を若干ご紹介したいと思います。

八年、今から十二年前に、鉄筋コンクリートの寮として、現在の場所に新築されたわけです。確か雪の結晶形で六棟あるんですね。それぞれ五階建です。

まあ大学当局では厚生施設という立場から、全室を個室にしたんですが、寮生はそれをできるだけ集団部屋でやりたいということで、工夫しながら生活していたんです。一棟の各階は2ブ

ロックに分かれており、五階あるので一棟には10ブロックあるんですが、一ブロックずつを約10人で生活するというのを考えまして、現在全棟で50ブロックあるうち、24ブロックが集団部屋です。個室の部屋が12ブロックといふことで、したがって三分の二が集団部屋で生活しているわけです。

これまで生活しているのではなくて、なんとなく気持ちの合う連中が集まっているんです。例えば応援団の部屋なんかもあるのかと思つたら、応援団の連中もバラバラに居て、何がある時には集まるという恰好です。私が住んでいた時のよだな目的意識のあつた集団部屋ではなくて、かなり自由な集団というか、そんな恰好になつているようです。

それから新入生が入つてくると必ず寮歌の研修をやりまして、寮歌を少なくとも50曲くらいは歌えるようにさせるんだと言つております。したがつて寮生は有名な寮歌は殆ど覚えているというわけで、寮歌の伝統はしっかりと引き継がれているんです。

現在の委員会は十五名で構成されていまして、寮務、炊務、会計と、この区分も我々とまったく同じ構成で、ちよつとびっくりしたんですが、炊務なんて一体何をするのかと、つまり現在の寮はご存じの通り食堂が無くなっているんですね。これは寮は厚生施設で、アパートと同じなんだから、食堂とか集会場は必要ないというのが、大

活してきた恵迪寮と同じような恰好なんですが、ただ、それぞれサークル毎に分かれて生活しているのではなくて、なんとなく気持ちの合う連中が集まっているんです。例えば応援団の部屋なんかもあるのかと思つたら、応援

は全国でも恵迪寮だけじゃないかと思います。

それから、寮生たちは自治と自由を大事にするというのは、誰に聞いてもくちぐせのように言っています。寮の執行委員会も大体昔からの伝統を受け継いでいて、現在二百六十一期委員会になっております。私が百五十八期でから、その後三十八年間で約百期ぐらい、連綿と受け継がれてきているのです。

現在の委員会は十五名で構成されていまして、寮務、炊務、会計と、この区分も我々とまったく同じ構成で、ちよつとびっくりしたんですが、炊務なんて一体何をするのかと、つまり現在の寮はご存じの通り食堂が無くなっているんですね。これは寮は厚生施設で、アパートと同じなんだから、食堂とか集会場は必要ないというのが、大

学とか文部省の言い分で、寮にはそう

いう施設は無いわけです。

それなのに何故炊務を置いておくのかと質問しましたら、やはり伝統的に

あつたものは残して置くんだというんで、じゃあ一体炊務は何をやつてあるのかと聞きましたら、委員会の夜食や、

それにスペシャルと称して、週に一回炊務の者が、彼らに言わせれば栄養満点のものを作つて安く配給しているのだそうです。それから牛乳やパンの斡旋を毎朝取り仕切つてゐるということ

で、我々の頃とは基本的には違いますけれども、なんとか炊務らしい仕事を見つけてやつて行こうと努力しているのがうかがえるような気がしました。

それから、会計です。今約三百六十名の寮生がいるようですが、本来大学当局は一人一人からいわゆる寮費、電気代などを徴収するんですが、それを寮委員会の会計が取り仕切つて一括ま

とめて大学当局へ支払うんです。したがつて会計は大変な任務なんぢやないかと思うんですが、彼らはやつてゐるようです。ただ、往々にして滞納者が

出て、寮の財政が赤字になるんぢやないかと思つて聞くと、今のところは百萬円ぐらいで、それほど驚くほどの赤字ではないが、それは早急に回収していくんだということでした。中には卒業しやつて払つて行かない奴もいるんじやないかと私は心配なんですが。

それから寮務は、一般に通信の受渡しだとか、バイトの紹介だとか、対外的な交渉だとか、まあそんな事をやつてやつての頃と同じよう

です。なお、寮生たちは一ヶ月千円、年間に一万二千円の自治会費というのを支払つて、その中から委員の手当でなんかも支払つてゐるようです。

一応彼らは年に一回寮生大会をやつてゐる。また、月に一回代議員会をやつて、

つてゐることで、これはプロック毎に選出しているので、現在代議員の構成は四十七名、色々な物事をここで決めています。

それから、後ほど詳しく述べますと、一番問題のは、寮委員会と大学との間での入寮権をめぐつての交渉の仕方です。どういうことかと言いますと、大学との接衝は寮委員会が中心ですが、全寮生が自由に参加できるいわゆる集団交渉でやるんです。これは例の全共闘の時代からのやり方だと思うんですね。これを彼らはかたくなに守つてゐるんです。

私が執行部に、君らは全寮生に選ばれてやつてゐるんだから、大学側とは選ばれたものの代表として交渉すべきではないかといつたら、いやそうじゃない、集団交渉でだれでも参加できるというのが我々の伝統であるという。

私も随分論議してみたんですが、彼らはこの伝統の交渉方式をゆする気配はないのです。この点が我々の時代とは違っている点で、そのことが大学当局との話し合いが上手くいかない、しかも根底には不信感がこびりついて、大学当局が何をやっても信用できないという状況も生み出していると思うんです。

たりは寮生もびしとしなきやいかんと思うんです。

まあ、いろいろありますが、彼らとしてはもう少し大学当局との間とか、掃除の問題だとかを正していくべき、いわゆる恵迪の伝統を引き継いでいるのではないかと、大枠としては感じました。大学当局とのことについては、高井さんの方が詳しいと思いますのでお願いします。

寮の生活をみてみると、寮全体の掃除については、個々の部屋は我々の時から汚かっただのですが、廊下や共同で使う部分は、我々は古い木造の寮の中で一生懸命きれいにしましたよね。しかし現在は、かなり汚れていて、この点は彼らももつと反省しなきやならんと思うんです。それと現在の寮生たちは荷物をかなり持っていますね。これが廊下のあっちこっちに置かれているという状況で、消防署の視察できびしい指摘を受けているようです。このあ

まり、いろいろありますが、彼らとしてはもう少し大学当局との間とか、掃除の問題だとかを正していくべき、いわゆる恵迪の伝統を引き継いでいるのではないかと、大枠としては感じました。大学当局とのことについては、高井さんの方が詳しいと思いますのでお願いします。

寮問題の推移

高井 昔は、寮生が全学の三分の一とか、もつと昔は二分の一とかいうことで、寮生が大学を牛耳っていた訳です。第二次大戦後に新制になつてからは、寮の収容設備はまったく変えないで、大学の募集人数だけどんどん増していったので、今では、寮生は全学生の5%にも満たない。だから

寮生が何を言つたって、大学側も寮生だけを特別扱いには出来ないという姿勢があるし、また寮生の主張が学内で広く理解が得られず、孤立化している風潮が強い。つまり残念ながら、僕等が抱く全学の寮という恵迪寮の位置付けが、今はすっかり変わってきているんじゃないのかと思えるんですね。

で、いわゆる制度的な事で何が問題になるかといいますと、戦後、新制大学になつていわゆる自治なり、自主独立なりということが大幅に認められ、昭和二十九年には、完全な自治寮としての寮規則ができました。もちろん委員会が決め、その後学生部長に届け出て承認を得たんだしあが、実際には全面的にまかされたと言う推移があつたんです。

その後、これは実は僕らが寮生の頃から出始めていたんですが、経費など個人で使う分は寮生に負担させるとい

う「負担区分の問題」が具体的になつてきました。加えて、いわゆる大学紛争が激しくなり、寮は大学紛争の温床になつてゐるとも言われました。

そうした一方で、恵迪寮はますます表面化してきました。この段階で文部省は基準的な制度、大学では「新々寮規」と呼びますが、それを認めたら寮の建て替えをするとした。その中身は先程からの「負担区分」、それから今までのような教育的施設じゃなくて

「厚生施設」として、単に部屋貸しをするという制度とし、個室という形を前提に持つてきました。

その後、いろいろありました。北大でもそれを認めて現在の寮を作った訳です。その段階で、市内にあつたいくつかの学部寮を一つにまとめてしまつたのです。つまり、現在の恵迪寮には教養生から学部生まで混在して寮生

活を送つてゐる訳です。しかし執行部はだいたい教養生が中心になつてやつてゐるんですけど、いわゆる参加しない学部生も相当数いるので、執行部は動きづらいんだなという気がします。以上がこれまでの経過のあらましですが、寮生側は全く新寮規則を認めていない訳で、新寮になつてからもずっと、寮生側は自分たちで入寮銭衡をやつて入れたい、大学側は大学が銭衡、部屋貸しをするんだという立場を崩さず、紛争が続いています。実はこれまで四回、学生側が自主入銭を始め、その都度大学が募集停止するというような事態がおこつてゐるんです。

新しい寮が出来てもう十年になろうとしているんですが、まだ何も先が見えなくて、暫く議論が続くのかなと思ひます。そのへんは先程、幸さんの方からお話をあつた寮生側の自治ということも理解できるんですけども、も

う一つは、話し合いで両者とも上手く継続されていないというのも問題だと思ひます。どちらも委員が替わると、又振出しから議論をする、早くその辺のところは解決つけて欲しいなと思います。制度的には一番その辺が問題だと思います。

安井 僕も北大に長く居たので、大学の学生部委員を二回やらされましたけどね、一回目はあの大学紛争の後、今村学長の時代と、それから二回目は有江学長の時です。最初の時はもうめちゃくちゃで、二回目も、高井さんの言つた新寮での最初の自主入銭で、おもめにもめたときでした。

この時のやりとりの中で、いやー、寮生たちも結構元気よくやつてゐるわい、と思つたこともあつた、心の中でね。けれども、とにかく自主入銭というのを寮生側が強行して、大学当局は入寮募集停止というので対抗した。し

かしその時の話し合いをみて、これはひとつずつ詰めていったら、今後上手く行くんじゃないかなと、ただ自主入銭そのものは永遠の課題として残るかも知れないなと感じましたね。まあ、自主入銭を追求している限りは寮の自治伝統というの無くならない。(笑)

幸 やはり、その頃も集団交渉ですか。

安井 集団交渉です。

幸 何人ぐらいですか。

安井 あれはすごかった。百人から二百人でしょう。でも面白かったんですね。

ですよ。ところで現在の寮の充足率はどのくらいなの。

井口 今、三百六十人ぐらいでしょ。うち女子が十一名、五百名定員だから75%弱ですね。

河原 充足率が75%ということを、

どういう風に評価していますか。

村山 大学の悪口を言いたくないん

寮OBの先生方は今

高井 大学側はとにかく100%つめたいわけなんんですけど、それには部屋を全部整理しないと上手くゆかないんですよ。先程言われたように、集団でロック毎に入っています、それに荷物があつて、十人の所に七人ぐらいいの生活が丁度いいようになっているんです。これ以上入れられると、寮生側ではどうもならないということがあるんじゃないかな。

幸 われわれの頃のように、行李一つじゃないからね(笑)。テレビだとか洗濯機だとか、皆一式持つてくるんじゃない。

河原 今まとめてもらった現在のこ

ういった状況について、ご感想を聞きたいと思うんですが。

高井 大学側はとにかく100%つめたいわけなんんですけど、それには部屋を全部整理しないと上手くゆかないんですけど、その中で、二十年間ゴミを處理する委員とか委員長やつてるんです。たかがゴミ燃やすんでも二十年かかるんですね。それを人間の魂の問題を扱わなければならぬ学生部委員といふのに、二年ぐらいごとにゴロゴロ変わるものじゃないんですか。それから、学生部長なんか特急列車の途中停車駅みたいな人が来て座って、あれで本当に人間の心に関わるような問題が扱えんだろうかと、ちょっとその感じだけは前から持つているんです。

昔の予科の頃なんかは、そんなことなかつたんじゃないでしょうか。山元(やまげん)さんみたいな先生がいて、ショッちゅう寮に来られて寮生と心を開いてつきあってくれて。
幸 確かにそういうことはあるんでしょうか。われわれの頃には明峯先

生が来られましたね。寮係では水野さ

んがいて、この人は寮の生き神様みたいな人で、寮のこと何でも知っているんですよ。だから、そういう人がパイプ役として、寮生と大学との間につながっていたと思うんですよね。ところが今は何か精神的な支柱みたいなものが抜けているから、大学と寮生との間がなかなか上手く話が進まない。

井口 昨日、先輩の稻垣さんと二人で、寮の寮歌祭に行ってきたんですけどね、そこには四、五人来てるんですよ、大学の先生たちが。恵迪寮のO.Bの方ですね。だから大学の先生とはまったく没交渉じゃなくて、やはり寮生が声をかける先生がいるんだね。只、あれだけ寮と大学の紛糾がありながら、かなり大勢いるはずの寮O.Bの先生方の姿が見えて来ない、高井さんなんかが色々苦労しているのを見ているだけに、それが何か寮O.Bの一人として淋

しいと思うんだが。まあこれは、現寮生側にも原因の一半はあるんだろうけれど。

高井 僕も厚生課には色々と話しにいくんですけど、事務官は規則通りのことしか言えません。やはり学生部委員の先生が規則をどう解釈して、このぐらいは譲歩するというような気持ちを持つてもらわなければならないんですね。学生部委員の先生の中には理解してくれる人もいますけれども、一方わずか数%の学生に特別扱いできるかという立場の方も多い訳です。規則にしばられて、大学側も身動き出来ないという面もあると思います。

一方、寮生側ですけれど、執行委員会が大学に議案を出す場合や、大学との間で決めてきたことを寮生大会で議決をしてもらう時に、たしか事前に部屋廻りとかいうのが有るんですね。つまります部屋全部を回って了解を得

てからでないと議決にかけられない。

それから例えば入寮銓衡ですと、執行委員会の他に入銓委員会というのがあ

つて、執行委員会に話をつけても、さらに入銓委員会にも話をつけないと上手く行かないということですね。要するに、かつての大学紛争の時の集団交渉もそうなんでしょうけど、いろいろ権限を分けてしまって、今でも何かしらとしても、あっちに挨拶、こっちに挨拶しなければならない。昔は執行委員長一人に話をつけたらなんとかなったのが、今は、委員長や執行部全体に話がついても、寮の合意とはならない、というところが一番大きな問題だと僕は思うんです。

集団交渉と自治能力

河原 どうなんですか、大学紛争当時に近い谷口君とか、新寮移行時の清

原君あたりは、恐らく皆さんの中の集団交渉の仕方と言いますか、ものの決め方が、現在、伝統の交渉方法といわれるものなんですか。

谷口 私は昭和四十八年の入寮なんですが、あの時代と今の時代は、先程からのお話ですと、かなり違うなと思いますね。私の頃は執行委員会の下にいろんな委員会がありました。いわゆる炊務、寮務、それにレコード管理なんかもね。しかしそれはあくまでも委員会ですよね。物事の決め方としては根本は寮生大会です。ただしこれはよっぽど重大事項でなければ開かれないことが慣例になつていきました。代議員会というのがつまり常設の決議機関で、各部屋から一人ずつ部屋の意見を代表して出るわけですよ。しかも部屋上は、即座に判断できるだけの見識ある人間を出しているということです

ね。寮生大会というのは本当に重大事項があつた時ですね。そんな大きな問題については何人以上集まらなければ寮生大会を開けないというように厳密にやつてました。例えば議決の時なんか必ず議場を閉鎖して、今何人いるか確認しました。集団交渉の話ですけど、

私の時は集団交渉という覚えが特にないんですよ。

幸 清原君は、丁度、旧寮から新寮に移った頃ですよ。

清原 そうですね。集団交渉はぼくらの頃は一般的でしたね。集団交渉前の予備的な話は寮の委員長、それにあ

の頃は寮連というのがあり、寮連の人が行きました。代議員会は谷口とかが行きましたね。代議員会は谷口さんの時と基本は同じで、各部屋毎に代議員を出してました。また、代議員

部屋はこうしましょうかと、それを経たあとで代議員会があつたんですね。寮生大会というのも、そんなにひんぱんにあるものじゃなかつたし、例えれば新寮に移つた時だつたら、自治会規則をどうするかっていうのは寮生大会で決めました。

谷口 一つのエピソードをいえば、

当時監査懲罰委員会というのがありました。これは非常に権限の強い委員会で、寮の自治に反するものであれば、強権発動できるような、われわれは鬼の監懲と呼んでいたくらいです。とにかく、廊下で煙草でも飲んで歩いていたもんなら、すぐ監懲がとんでもきましてね、こっぴどくしかられて始末書、下手したら退寮。エッセンタックもね、現場押さえたら監懲はきびしく罰しました。強い権限の人たちを自らあえて作つて、自分達で治めていこうという姿勢があつたんです。それ

が今の新寮に移るときに、色々話を聞いたり、監査委員会になるという。ようするに懲罰というような事はないんだというんですね。それじゃ寮自治の根本は成り立たないんじやないかといふような気が致しましたね。

幸　ただ現在の寮でも監査懲罰委員会という是有るんです。私はあれ

だけの寮生がいて、盗難事故でも起きるのでないかと思つたんですが、それで部屋に鍵かけているのかと聞いたら、誰もかけていないって言うんです。盗難なんか起きないと聞くと、全然起きないっていうんですね。「幸さんの時代と違つてわれわれは裕福ですからね」と言つてゐる(笑い)。

村山　裕福ねえ。僕らの頃は食物のない時代だからダブル・エッセンと称して一回食つたやつがもう一回食つたり、いろいろ問題があつたよ。

富永　私の時もありました。ただ懲

罰委員会というのは聞いたことがないので委員会自体が取り締まつていた。

でも公表はしないんですね。村山先生の頃もそうでしょうけど、あの昭和二十年代は食糧難時代ですからね。ダブル・エッセンは重大犯罪に当たる。

村山　そう、重大犯罪。

谷口　さつき言い忘れたんですけど

ど、私のいた時の昭和四十九年に、北寮で火災があつたんですよ。この火災の後から寮に対する意識が変わつてきましたと思われるんです。われわれが永遠不滅と感じていたものが、燃えればなるというのを目の前で見た時にですね。それまではなんだかんだ言つたて、こうやってもめている事が寮自

治の再生産だというような意識がどこにあつたんです。つまり、この建物がある限り色々な意味の既得権も守られていくのではないかと。ところが火事にあつた。その時にひょっとしたら、

寮のアパート化

高橋　僕らの時から寮のアパート化ということを議論した記憶があるんですね。私は古い故か、寮つていうのに教育機能的なものを求め、寮生であるということの誇りを持つたし、人間形成にも役立つたと理解していました。だから今、恵迪寮は厚生施設であるという大学の話を聞くと、本当に私の持つていた寮の哲学が変わつてしまつた。はつきり言えば、かつて、われわれが批判していた方に流れが行つてしまつたという風に受け止めているんです。私はスキー部のO.Bなんですが、だか

う遠くない将来に今の寮というものが無くなつてしまふ、それをきつかけにして大きな時代のまがり角が来るのではないか、というような意識が出てきたような気がしますね。

ら無意根小屋の小屋祭りにも行ってきました。今の部員の中に恵迪寮の連中

がそこに浮かび上がつてきて いるよう
な気がするんです。

も居て、その連中なんかは、俺は恵迪寮にいるんだって、今流行りの恵迪寮のやり方で自己紹介するんですよ。そういう風なことを見ると、やはり自分の寮を大切だと思っている若い寮生達の気持ちを、ぼくは理解出来ました。

湯浅 今の関連なんんですけど、建物の設計を従来の大部屋でなく個人部屋にした、そこが一つのポイントだと思うんですね。従来の恵迪寮の様なスタイルが若し出来ていたとしたら、いろんな意味でスムーズに行つたと思うんです。

と寮生との交渉で、集団交渉が伝統だ
なんて言つてしまつたら、とてもじゃ
ないけどもう議論なんかは出来ないで
すね。不信感のぶつけ合いみたいなも
のになつて、一歩も前に進まないとい
うように僕は思うんです。しかし、お

中瀬 同っていたら、集団交渉とか色々なやり方、これはあの紛争の時代なんかもあって、人を人が信じないような人間関係が出来てきたこともあるかと思います。特に建物の件ですが、個室を作るならば、個室の脇に集会をする場所を作るというのは前提だとと思

たってだめでしょうね。やはり根本的には、寮を厚生施設と位置づける、つまりわれわれが昔から危機感を持っていた寮のアパート化という傾向を生む大学や文部省の方針、今の時代の流れ

うんですね。これは村落の出来方を考えてもそうだと思いますね。家がいくつかできれば村落となる。結局、個は個であるだけではありませんから、そちらは一つのコミュニティを作るわけ

う所に、今の恵迪寮の基本的崩壊があるように思われます。私は大学時代貧乏の中で暮らしておりまして、学校にはさっぱり行かなかつた恵迪寮卒業生であります。が、魂だけは、恵迪寮で育てられたと思つております。

今の寮生たちは子供の少ない家庭の中で育てられた甘えっ子ばかりが多いようです。大学当局も、なんというか人間を育てているという感覚にとぼしく、えらい先生達も自分のことばつかり考えて、さっぱり若い人の事を考

集まれば何か悪い事をするんじやない
かという考え方、これは文部省の考
えであると思ひますが、本来そ
ういう考

えないのでこう言うことになったと僕は思いますよ。

富永 恵迪寮の話をしている時に別の寮の話をするのは、いささか不見識かもしませんが、先日、偶然見たテレビで東大の教養の駒場寮が放映されておりましてね。建物も相当古いし、かなりいたんでもいるらしいんですが、一つ感心したのは、寮の委員会が交代で風呂場の掃除をしているのがありました。通りいつべんの掃除ではなくて、大勢の寮生に気持ちよく入ってもらうために、かなり徹底した掃除をやっているんですね。何年か前、何人かで今的新しい恵迪寮を訪ねたんですが、その時寮を見た印象は、きわめて不衛生で、汚くて乱雑でという感じでしたよね。先程自治とはなんぞやとうお話をありましたけれど、自治を行なうには、当局の世話をになり、人から言われてということではなくて、自主管

理とか自主運営というか、そういうことを自ら努力して、汗を流してやっていける能力が、少なくとも必要なんですね。先程、寮の規則違反とか滞納とかがあつた場合に、監査懲罰委員会ですか、そういうのも自治の一つの機能として大事な分野だらうと思うのですが、最近の寮は自治寮と言えるのかどうかということになると、自ら管理能力が本当にあるのかどうかという事に関わつてくるだらうと思うのです。

それから教育施設か厚生施設かという議論もありますけれども、あくまで寮は一つの人間形成の場なんですから、これは単に、貸間業みたいに居場所を提供するというだけのものではないんだろうと思うんですよ。

寮の存在価値とは

河原 はい、今、富永さんのお話に

あつたんですけど、寮の存在価値といふか、寮というのはそもそもなんのために存在しているんだろうかというようなことについて、もう少し意見をいたときましょうか。

中瀬 それは、難しく言えば色々な言い方があると思いますけどね。もともと寮というものは色々な事を勉強するのに都合いいようにとって、学校が学生たちを集団的に集めたんでしょうけど、私はそういう教える側の都合よりも、私たちがそこで何を得たのかという事の方が意味合いがあるよう思うんですよ。だから、富永さんがおっしゃったみたいに、自治という形で自治会みたいなものを作つていろいろな事をするのも結構だし、それよりも自分たちが暮らしていく上で、自分がルールを作るということが大切だと思うんです。

恵迪のあの汚い建物を、一生懸命ふ

き掃除してきれいにした覚えがありますね。おまけに私は恵迪寮に入っていますぐインキンになつたんですね（笑い）。それで一念発起して、寮の委員になつてから大学当局に交渉して風呂場を建て替えさせ、ムトウハップ（六一〇ハップという硫黄剤）を風呂の中に入れ、インキン退治をやつたんです。そのおかげで私はいつの間にか医者になつたというわけです（笑い）。

まあこんな風に自分達で自分たちの生活を守る、これが自治の基本的な事ではないかと思うんです。

幸 習寮というのがどういう役割を果たすのかということを、私も常に考えているのですが、われわれの育つた時代よりも現代の方が、寮生活というものが重要な役割を果たす時期に来ているんじゃないでしょうかね。私は六人兄弟ですが、一人で一部屋なんてゼイタクなことなど考えたこともなくて、

一部屋で五人ぐらい生活するのが当たり前だった時代ですね。ところが今は一人かせいぜい二人っ子で、小さい頃からいわゆる個室に住み、一人で自分の世界を造っている。しかも偏差値教育で、競争の中で生きているというような孤立型の人間がどんどん輩出されてしまっているんですね。

そういう時代にあって、寮生活といふのは、これは現在の寮生も言つてますが、集団生活というのはこんなに素晴らしいものかって言うんですね。やはり、北は北海道から南は九州、沖縄まで雑多な人々が集まってきて、それぞれの文化をひきずつて生活をするという、それは非常にすばらしい。

しかしもその中で、皆で共同で生活するというものを身につけていくということは、社会人になって非常に役に立つんじやないかと思うんですね。たしかに寮というものは、厚生施設としての役割はあるでしょうけれど、教育的な観点からみると、かつての時代より今の方が重要な存在となっているのではないかと私は思いますね。

山村 私もそれが、われわれ一般の寮のO.B.が持つてある率直な気持ちだと思いますね。だから恵迪寮という名前のアパートなら、こんな座談会をやらなくともいいんだけども。大学というか、文部省が欲しがつてるのは、恵迪寮という名前のアパートと言つたら悪いけど、厚生施設で、われわれが残つて欲しいのは恵迪寮という名前の”寮”ですよね。そこに大きな食い違いというか、断絶がある。

幸 私は毎年、卒寮生のコンパに呼ばれて行つてあるんですがね。今まで卒業して行く寮生は、この寮での集団生活は素晴らしいと言つてしまふよ。われわれがつちかつて来た恵迪の精神というものは、現在でも引き継

がっている、ただ表面的には、たとえ
ば今の恵迪寮を見てもまったくマンガ
チックで、ちょっとわれわれの感覚に
合わないけれども、底に流れるものは
やはり恵迪精神であると私は見ます
ね。

高橋 わたしは機能は二つあつても
良いと思うんです。当時は本当に貧乏
でしたから、寮費が安かつたというよ
うに、厚生的な機能も大です。しかし
それ以上に寮での集団生活の中で、人
間形成という面では僕は本当に教えら
れたと思っています。恵迪寮の教育と
いうのは、そんな堅苦しいものではなく
くて、例えば食堂では、食事が終わっ
たらイスを必ずテーブルの中に入れる
というように、自然に身についてしま
うんですね。僕は市役所に就職したん
ですけど、恵迪寮のO.B.がたまたま同
じ課にいまして、役所の食堂で飯食つ
た後、こうスーとイスを入れるんです。

そうしたら「やはり恵迪寮ですね」と。
恵迪寮といえば一見、旧制高校時代の
パンカラな伝統みたいなものばかりと
思われますが、そういう紳士的なきち
んとした礼儀みたいなものを教えてく
れたんですよ。

清原 厚生施設、教育施設のどちら
が大事だったかと言ったら、僕と一緒に
に動いた人たちにとっては、やはり寮
が教育施設であったというのが大きか
った。そして友達との関係、人間関係
を作った寮生活。だから旧寮から新寮
に移つて行くときには、新寮を安ア
パートにしてはいけないと頑張つたん
です。移つた当初は恵迪寮という名前
が無かつたですね。確かに札幌地区
男子学生寮という名でした。それじゃ
ダメなんだといって、寮生の投票をや
つたりして恵迪寮と決めてしまった。

安井 ちょっと自己批判もこめて言
いたいんだけど、私の場合は戦争中の
学生だった。あの頃の旧制中学生とい
うのは、何もしゃべりたいという教
育を受けたんですね。しかしいかに自治
というものを言葉としてなくした寮で
あつてもですよ、そこに入つて実際の
寮生活から得たインパクトというのは
強烈だった。一番守らなければならな
いのは、寮の委員会の決定事項だとい
うことをたたき込まれましたからね。
ぼくは後に軍隊へ行つたが、帰つてき
てすぐ戦争末期に出版された恵迪寮小
史というのを見た。そしたら、自治は
なくなつたけど、自治はわれわれの中

に生かせばいい、ということが書いてあるんですよ。なるほどなと思ってね。

大学紛争華やかなりし頃、大学のなんとか委員会とかで寮の問題をとりあげて、厚生施設という風に割り切つて

いかどうかっていうのをね、猛烈に議論したことを見ている。だけどね、それこそ監査懲罰委員会で決定下したら、みんなふるえあがつたと言うセルフマネージメントね、その精神と言ふものが寮生の中に残つて寮を運営して行くんなら、それを制約するものは大學側に何もないんだと、だからそれさえ寮生が持つていてくれればいいんじやないかっていうことで、厚生施設という学校の方針を承認したことがあるんですよ。

今考えると、いいんだか悪いんだか判らないんだけどさ、しかしくら頑張つても、あの時はダメだったかもしないんですけどね。というのは、一方

で新寮の要求が出てたでしょう、これを建てなきやならない。建てるからにはこの方針が必ずくつついで来る。そんなような事でそつちに踏み切つた覚えがありますね。

私が学生部委員をやつた時、いわゆる新々寮を建てるため、新々寮規を作

り、これでどうだというのを寮連と交渉したんだ。しかし、寮連というのは各寮でみんな主張が違うわけさ、だから大勢各寮から出てきて交渉を見ていがけだ。それであの集団交渉というのが成り立つたんじやないかという気がします。そして新々寮が出来たら、そういう学寮などの連中も皆入つてくるでしょ、だからそういう形を、その後もとらざるを得なかつたのじやないかと思いますね。

それから個室にした根拠はね、これは新入生に何回か手紙を出して聞いている訳です、学校当局が。そしたら個

室という返事が圧倒的多数だった。だからこれでいいのだというのが学校当局の説明でしたね。

個室と集団生活

富永 個室への希望がアンケートで多いというのは、新入生にとって寮生活というのを想像上でしか考えられない段階での調査ですからね。集団生活っていうと、いかにも雑居で、ゴタゴタしており、そういう中に埋没するというイメージがあり、それに對し個室というのは、自分だけの城を持つて勉強も読書もなんでも出来る、そういう風な感じで個室の方が多數をしめたと思うんですね。寮生活に入つてからもういっぺん聞いてみたら、こんどは個室はダメだという事になりそうな気がしますよ。

も集団交渉の中でそのように主張していました。しかし、学校当局はアンケート取ったんだからって引き下がらないし、わあわあ互いに言い合いしてましたよ。

清原 その時、僕も居たと思うんです。新入生で入って来た頃は、僕自身も集団で生活するのにすごいとまどいがあったんですよ。ところがあそこに住んでいると、これはとてもいいんだけど、言葉では上手く説明できないけど。あの当時、女の栄養士さんで川越さんという方がいらしたんです。その川越さんが、「寮生になつて夏休みを過ぎる頃には学生らしくなつてくるわよ」とぼくらに言つたんですが、本当にでしたね。子供の時からいわゆる自分の部屋もあって、そこで受験勉強しながら大学に入つてきて、自分の一つの世界を作つていたいという気もあるけど、それよりもっともつと価値のある

ものが、こうやつて生活する事によつて得られるんだということが、皆の認識になつたんですよ。

幸 だからこそ、本来は個室制になつているんだけど、現実はブロック毎に集団生活をやつているんだよ。やはり集団生活の良さを彼らも理解しているんですよ。大学当局はものすごく嫌つているんですがね（笑い）。

安井 だけどね、やはり大勢の中には入つてびっくりしちゃつてね。どうしても嫌だつて、お母さんに手紙書いてさ、お母さんが飛んできて、学生部に文句を言つたりするんだよ。

村山 安井先生、我々の時にも入つてびっくりして、ひと月で出たというのもいますよ。

安井 われわれの時でもそうでした。

谷口 先程、東大の駒場寮の話出ましたけど、彼らはどうしているんだろうかというのが非常に興味あります。たまたま機会があつて駒場寮に泊まつたことがあります。その時色々話聞きまつたら実に上手くやつてます。すると東大生は頭がいい、大人だなあと思いましたね。入寮はどうやってやつているんだ、それは学校の施設だから学生の方でちゃんと、入る手続きは学校を通してやつてるよと。但しその後、面接という形でちゃんと寮生がやつて入れるんだ、つまり、彼らは何を渡して、何を自分たちのものとに置いておくかという事を判つてましたね。

京都大学の吉田寮の人達と話したときにも驚きました。入つて来るのを俺たちが選ばうが大学が選ばうが、どちらでもいいじゃないか、ただ問題は入つた後だろうと。入つた後で、俺は大学の許可をもらつたから入つたんだといふような、そんなふざけたやつがいたら、コッパ・ミジンに突き出すと。問

題は入ってきた手続きじゃなくて、入ったその日からどうやって暮らすかが問題なのだというのを聞きまして、私は非常に感心した覚えがあるんですよ。

幸 確かに、僕も痛感するんですがね。要は入って以降の恵迪寮だからね。だからさっきの安井先生のお話にあつたように、戦時中、形式では自治を弾圧されても、心の中には自治があるんだという、自分たちで自治を主体的に持つていれば、この問題は解決出来ると思うんですよ。どうも形式にこだわって、大学が銓衡するから徹底的に戦うんだという、そのところばかり焦点をあてるけれど、入ってきたらこっちのもんですからね。

井口 昨日の夜、寮の寮歌祭に顔出した時、僕らも二時間つきあつたけどね、零下に近い玄関前の外の会場で百人以上の寮生達、女子寮生も数人居た

かな、皆んな毛布かぶりながら寮歌祭やつてるんだね。そして僕らが知らない寮歌もとにかくしゃにむに歌う。今寮生はわれわれの時代の寮生よりも本当に寮歌知ってるよ。

だけどやっぱり問題も多いんだよ、寮生側にも大学側にも。今後恵迪寮の伝統を引き継いでいくとすれば、今何かしないと。それは形としては、個室ではなくていわゆる集団生活だよね。

かつて石川学生部長の時代に（註・5年前）にわれわれO.B.会が中に入つて、学生部長に了解させたんですよ。二つの部屋を一つにするなどを。何か壁は簡単に取り壊せるということなんだけれど、今もそれに類したのはやつて回あつただろうねえ。

村山 その自主入銓に関連してですが、今宣誓式なんてやつているのかな。昔は、あれに誓約してサインする事で寮生になつたんだけど。

高井 今もそれに類したのはやつてゐるはずです。

清原 面接はしますね。

村山 そんなら、大学当局が選ぼうがどうが、さっき谷口君が言つたとおり、問題は入つたあとであつて、実質的に自治のある寮生活をすればいいんだよ。

井口 いや、実際、今の恵迪寮生は

そうでしょうけど、担当が変わるとせつかくの交渉の成果が消えてしまうんですね。そして同じようなテーマで再び初めから交渉が始まる。問題がこじれて寮生側が自主入銓を打ち出すと、またわれわれO.B.会が何となく乗り出します。この十二年間、こうしたこと何回あつただろうねえ。

村山 その自主入銓に関連してです

だけれど、今宣誓式なんてやつているのかな。昔は、あれに誓約してサインする事で寮生になつたんだけど。

高井 今もそれに類したのはやつてゐるはずです。

清原 面接はしますね。

村山 そんなら、大学当局が選ぼうがどうが、さっき谷口君が言つたとおり、問題は入つたあとであつて、実質的に自治のある寮生活をすればいいんだよ。

われわれの時代以上に寮生らしいですよ。高橋さんがさつき言つた挨拶の仕方にして、われわれあんな挨拶できなかつたもの。言つてみれば、あのコンクリートの寮の中で、なんとか自分は恵迪寮生やろうという風にね、すごい寮生になつて、なんとなく痛々しいよう気もするけどね。

食堂がないのに炊務部がある

幸　　さつき井口さんが言つたような形の集団部屋ね。二つの部屋の間の壁を簡単にこわせると約束もしてるんだから是非実現させなきゃいかんと思うんです。それともう一つ、食堂ですがね、やはり集団生活の基本は食べ物ですよ。これから色々と集団生活の規則とか礼儀とかを身につけていくんですから、是非食堂を作らせないとね。そういう意味では、今の恵迪寮生は食

堂もないのに炊務部っていうのを置いているのは感心してしまいますね。

清原　あの旧寮最後の年に、今度の寮は食堂のない寮だといわれ、寮の近くに学内の食堂か何かが出来て、そこが代わりをするといわれたんですねど、新寮になつてから寮生はなかなか食べにいかなかつたんですよ。今もそ

うでしようけれど。

高井　その食堂は始めたんですが、遠くに離れていると言つて、朝なんかも五十食ぐらいしか出ない。また、夜九時頃に寮生が会議やりたいと申し入れても絶対許可しない、あそこは集会所じゃないんだと。

清原　だから最初はコンパも出来なかつたんです。歓迎コンパだとか、追いコンなどね。それで教養の生協食堂へ行つてやつたんです。わざわざ縁台を持って行ってね。その後は寮のロビーでだつて出来るはずだと、テープ

ル借りてきてね。そして仕出しの飯を頼んだり、鍋を作つたりして、あそこでやるようになつたんです。

中瀬　昔は食堂に皆んな集まつて晩餐会などもやつた。大学の学長さんも来られたし、色々な先生やOBも来られて、寮生たちも有志演説をやつた。それこそヘボな話をしたらすぐ沈没させられて、ああいう体験はものすごく大事だと思いますね。だから食堂に皆んなが集まつて、一緒に食事をしながら大学の先生のお話を伺つたり、それに反発したり、そういう色々な事をやる、そういうような混ぜ合う教育でも言うか、そういう場がないから、今はやはりダメなんだね。

井口　恵迪寮生は現在、全学の4%ぐらいなんだよね。かつては、予科全体の半分以上だったときもある。予科から恵迪寮引いたらもうなんもないといふ時代があつたんだけど、だんだん

寮生の割り合いが少なくなつてきて、われわれの頃で大体20%ぐらい。でも

恵迪寮生が、北大の中でたとえ4%でも、キラッと光る4%であつてほしいね。マンモス化した北大の中で、恵迪寮こそ残さなくてはならないんだというような。

先程、清原君がいつた“俺たちこそクラークの直系だ”という自負ある寮生に支えられる恵迪寮なら、たとえ寮生数が全学の1%になつてもその存在は大きいし、われわれOBも寮のために力を入れなければという気になるよね。

たくましい恵迪寮生

高井 僕も学生の就職の斡旋などしてまして、企業が恵迪寮生とそれから応援団は、海外駐在にボーンと出してモノイローゼにならないと（笑い）。

これはやはり、寮での集団生活、生き

た教育のせいだとと思うんですよ。

村山 僕の教室にも一人寮生が居てね。そいつ就職してすぐサウジアラビアへやられてね、毎日クレーンの上で、夕日眺めなら寮歌歌つていたっていうやつがいるけどね。

中瀬 北大もそうなんすけど、恵迪寮というのは特に雑種なんですね。雑種の強さというものを育てるところなんだわ。北大そのものも本当は雑種なんだけど、いつの間にかエリー卜ぶつちやつて。だから恵迪寮の雑種の巣をだね、きれいなエリートの巣にしようと考えるから間違つてしまふ。

雑種の持つている力みたいなものはハイオニアであつて、何処へ行つても丈夫、やって行くんだという“たくましさ”“強い精神力”を寮は育てるんだよ。

高井 恵迪寮生もOBの話は積極的に聞いてくれるんです。彼らと色々話

しあつていますと、寮の問題でも解決の道はいくらでもあるように思いますね。それにこれは前の学生部長さんだけれど、現寮も十年経ったので、今の寮規も現状に合わせて幾分は改正できるだろう、検討していいのではないかと言われましてね。現在の学生部長とはその辺は確認していませんけど。まあそういうムードも出てきていいんです。その辺のところを、OB会は学生部委員や寮生ともこれまで一つと会つてるので、上手く話し合いで持つていけたらと期待しているんですが。

幸 幸 それにもしても、この間も寮生と話したんだけれど、やはり大学側に対するあの不信感ね。これをどうぬぐっていくかということなんですよ。大學のいうこと全然当てにならない、僕は共同部屋について、「壁をこわして

「たんだ」といたら、そんなことあり得ない、あの連中（大学側）は、口ではそういうても絶対にやらないというんだ。もうぬぐいきれない不信感があるんだね。

我々の頃も寮と大学当局とはしょっちゅう争いをやっていたんだけど、やはり、その中には一定の信頼感があつたよねえ。あの学生紛争の中で不信感が作りあげられたんだと思うんだ。だから、早くこの不信感を払拭してあげなければダメだと思うんだよね。入寮銓衡がキーポイントになつていてると思うんだけど、大学が仮に募集したって、さつき谷口君が言つたように、入つたらこっちのもんだからね。寮生も形式にとらわれ過ぎていてる感じがするな。

村山 ケンカするときはね、やばい時はちょっと引いてね、相手が弱いと思つたらガツンとやって、硬直しすぎたら駄目だね。

幸 本当、相手のことを良く知つてケンカしなきやならんのだけど、もうしゃにむにケンカしている感じだもうね。七年予科にいた。われわれスキー部のもう名物男だったんですね。

井口 高井さん、大学の中に居てね、寮生以外の学生や先生たちの寮に対する見方というのはどうなの。

高井 そういう事はちょっといいづらいんですけど、寮生の授業への出席率があまりにも低くてね、留年率がとびぬけて高いんです（“身に覚えがある”などの声あり）。でまあ、もう少し授業に出て欲しいというのがわれわれの：

村山 だけど、昔の僕らの頃はね、北大の予科に入つたら一年ぐらいは留年してもいいよ、という感じありましたよ。今はダメなんだよね。親がカリカリしちゃつて。

高橋 スキー部では、一回位どっぺつた者がいばつていたんですよ。僕ら

の大先輩で、稻葉さんという方がいらっしゃった。この方はいつたん卒業してまた入りなおしてきてるんですね。七年予科にいた。われわれスキー部のもう名物男だったんですね。

女子学生入寮

幸 ここで女子学生の入寮問題について論議してもらいたいんですが。寮で聞いてみると、女子学生を入寮させるかどうかというので、寮生大会を開いて相当論議したようです。一万人の全学生のうち、女子学生は約二千人で、現在の女子寮が70名ですから女子学生の入寮率というの是非常に低くわずか3%位です。恵迪寮は定員から言うと四百九十九名で、百数十名が空いていることになっています。ですかね、女子寮をもっと増設しようと文部省に要求したら、文部省から、現在あ

る寮が空いているのにそんなの建てられない」とやられたわけですね。だから

惠迪寮生にとては検討せざるを得ない。賛成派も必ずしも、もろ手を上げ

て賛成じやなくて、そういう事情をふ

まえて女子学生を入寮させざるを得ない」という意見だし、一方伝統を守るた

めにはどうしても女子学生の入寮はダメだと、六時間も延々論議をやって、

最終的には、やむを得ず入寮させよう

ということになつたようです。そこで

私も五人ぐらいたり執行委員の連中に会

い、現在の心境を聞いてみたんですが、

意見は半々で、いまだに女子を入れた

のはまずかったというのと、様子を見

ていこうというのとの二派に分かれて

いるようです。ここに、寮の雑誌があ

つて、女子寮生問題を扱っているので

ちょっとと読ましてもうとですね、「今

の寮は迷惑をかけ合うことで生まれた

親密さを下地にした雰囲気を持つてい

る。しかし寮内に迷惑をかけ合えない集団が出来る、ようするに女子が入ることで、ということですね」ということは、寮全体でみて、外面向的につきあいしかしないくなるようになるかも知れない。数名の仲間としか、本音でつきあえない

ような人間関係は惠迪寮にあるべきではない。したがって、どう女子寮生と接して行くかが今後大きな問題になる。女子との接し方が、たとえ男子とは違うものではあっても、今の惠迪寮の持つてあるいい雰囲気を伸ばすよ

うなものであればいいことだ。なぜならば、異質なものとぶつかり合う中で、

互いに高め合う事が共同生活の真骨頂であり、それこそが惠迪寮の目指す理想であるからだ」こういう風にしめくくつてあるんですがね。

一棟を女子学生に開放して、現在の留学生・大学院生のいるF棟のよう

もあつたんですが、入るからには寮自治の中に入れなきやダメだということとで、まとまつたらしいです。

安井 ビー・ジェントルマンというはどうなるの、クラークの直系としては。

村山 アメリカでは男女混住の宿舎つていうのはね、ドアがあつて棟が分かれているんですよ。それで、ある時間になるとそのドアが閉まっちゃう。大丈夫かなあ。

幸 だから鍵なんかかけているのかと聞いたら、かけてないって言うんです。

井口 信頼するしかないんじやない。まあ女子学生が殆ど居なかつた時代から女子が大勢いるような時代になつたんだから、惠迪寮も変わるさ、俺は余り気にしないけどね。

幸 まあ事故が起こらなければいいけどね。彼らも言つていた、事故が

— 200 —

起きたら大変な事になるつて。

井口 昨日の寮歌祭だって女子が自然な形で入っててさ、男以上に黄色い声張り上げて歌っているし、すごいなーと思つたよ。

幸 本当にすごいんだ、ちょっと理解できないけど。やはり恵迪寮も変わつていかざるを得ないのかな。

井口 やはりね。北大に入ったんだから、女子であろうとああやつて寮歌を歌いたいんだよ。俺は、彼女達も自ら的に歌いたいという気持ちで参加したと見てたよ。

高井 まあ農学部でも、約半数が女性という学科が出てきましてね。女性だから男性だからと、学部運営の面では余り意識しませんが、寮のように、生活が一緒というとやはり気になりますね。

谷口 この前、現役の寮生と偶然話す機会がありましたので、実際君達は

共存できるのかと、そしたら自信はありませんと。もう始まつてあるんだぞ

というと、いや実は困つてゐるんですという答えが出てきましてね。そりや

そうだね、一番元気旺盛な時期に、同じ屋根の下でメッシュがいるんです

から、心おだやかではないですね。

それで、君達がやろうとしていることは、すごく大事な事なんだよと、男女

平等がどうたらこうたら言つてるけれど、そこら辺の難しさ、すごさを見据えた上でしつかりやれよと話したんですがね。

井口 寮が少しはきれいになつて来るんじやないかと期待してゐるんだけどさ。応援団の部屋へ行つた限りは全然きれいになつてない。部屋の中はしようとしないけど、せめて階段や共通部分ぐらはいはもう少しきれいにして、ホコリも消えればいいんだけど、相変わらず汚いね。

富永 昨年六月の大学祭に、たまたま水泳部の新しく出来たブール開きの日が重なつたんで行つたんですけど、教養の前では「一萬人都ぞ弥生」という集会があつて、一万人居たかどうか正確にはわかりませんが、とにかくまわりはすごい人でした。大学を見てみると女子学生も男子学生もそれぞれに個性を發揮して、見事に仲良くやつてゐるんですよ。ブール開きの方は、式の進行役は全部女子学生なんですよ。昔の水泳部の私の友人は、女子学

高井 僕も女性が入つたらもつとそういう面が変わるのを期待していたんだけど、今のところ何も変化ない。今入つてゐる女子寮生たちは、どうも女子寮などが選んだ先遣隊らしい。だからまだしつかりしたグループだけど、

今後またたく新入生の女子学生がボーランと入つてきたら…と心配するんですけどね。

生と肩を並べて一緒に泳ぐなんてうらやましいなあと（笑い）。北大も現代の若者のある側面を代表するような学生たちが、それぞれちゃんとやっているのではないかという印象を受けてきたんですがね。

入銓問題は本質ではない

河原　まだ話しきりないんでしょうけれど、時間もそろそろきました。最後に、恵迪寮をこれからどうしたらいいかということについて、まず、O

Bとして、今の寮生諸君にどういうことを望むか。もう一つは大学の学生部の先生にですね、寮生への指導、あるいは現寮生との接衝について、OBの立場としてどのようにやつてほしいか、お願ひしたいか、この二つの点を中心へ皆さんからご意見をいただきたいのですが。

安井　学生委員をやつてた時、女子寮の学生達と団交を持つたことがあるんだけど、なかなかのもんだったですよ。女子学生達もああいうようにきちんととした交渉の仕方を身につけているのであれば、むしろ、これから男子学生に混じってやつていって欲しいなあと、そしてやつて行けるのではないかという希望を持った訳です。ですから学校当局もあまり杓子定規にならないで、永続的に、互いに信頼感を醸成出来るような機構を作つて対処してほしい、そういう風に思いますね。

清原　入銓ですが、確か安井先生が学生部委員だった頃、上手くまとまりかけた時があつたんですね。平行入銓という言葉でしたが、学生部の銓衡の書類の中に寮の銓衡書類も一緒に入れてもらつて、二つの書類を出すという話があつたんです。これは上手く行きかけた。ところが、イヤ絶対銓衡権

持たなきやダメなんだと言うのがいるんですね。結局立ち消えてしまつた。寮側は入銓権は寮にとつて大事なものだから欲しい、大学の方も当然大学側がやんなきやいけないと考えていると思いますが、僕はその間を取る方法を模索しなければやつていけないんじやないか、つまり、もう上手くやつて行くしか方法はないと思うんですがね。

井口　僕もこの十二年間、幸さんたちと何回も寮に行つたり、寮生と色々話す機会も多かつたんだけど、その中で僕は、選ぶのは大学にさせればいい、大学は間違いなく、少しでも経済的に苦しい人たちから選ぶ。これも大事なことで昔もそうだった。だからどんな人が寮に入つて来たつて、君達に本当に力があるんなら、そういう人達と腹を割つて語り合い、恵迪寮の心というものを彼らに伝え、彼らを恵迪寮生として育てるという事が大切だと。自分

の主張に合う者はばかりを選ぶのは簡単かもしれないけど、そうじゃない人にトライする方が俺はもっと大事だと

思う、だから形にこだわるなど。今もその持論に変わりない。だから先程高

井さんがおっしゃったように、大学側もこの十年の間で、現実的な解決といふか、まあ少し変わってきていると、僕もやはり決して無駄な十年じゃなかつたと思うんですよ。だから今、学生も実をとる、大学も実をとる時期に来てるんじゃないかなあ。例えば、一時合意が出来た全体の半分ぐらいの部屋については、壁をとりはらって二部屋を一部屋にして、大学前期の二年間位は、集団的な生活を可能にさせ、後半の三年目、四年目になつたら個室で勉強を一生懸命せいというふうに、まあ幾つかの方策は出てくると思うんだ。

今の寮生にはあまりにもピリピリしたものを感じるんですが、もつとおおら

ことは明確に覚えております。実はこういう事から得たものと言うのは非常に大きかった。

寮のシンパをふやせ

谷口 私が一番、寮生諸君に言いたいのは、今の寮生たちは、我々の時代とは全くといっていいほど大きく変わってしまった状況の中で、何とか恵迪生らしく生き抜こうとしている。それは一種の教条主義的でもある。私は寮生たちに、そういう自分達の立場を、一步離れた所から見なさいと。

それともう一つは、恵迪寮というのは、今いる現寮生だけの存在じやないんだと。私が寮に居た時にも色々O Bの方々と交流があつたんです。例えば二十年前の寮祭でしたが、安井先生のお話伺つたことがありました。自分の

寮生時代のお話をなさいましたが、非常に示唆に富んだお話で、今でもその

高井 学内の事を申し上げますと、

ある意味では不信感を持つてもがいているところが見えますが、もつと心を開いて欲しい。それから色々な制度上の問題、例えば入銓の問題とか管理の問題とかで闘つてますけど、それに気を取られているうちに無くしてしまうのであらう寮生活というのに、もつとよく留意してほしいということです。かつて私が寮に居た時に、「恵迪ルネッサンス」という部屋サークルがありました。が、まさしくこれからは生活上のルネッサンスが恵迪寮に必要でしょうし、そういう観点からわれわれO Bも、今の寮生たちの相談にのつてあげなくてはいけないんじやないかと思ひます。

寮の問題について、学生部側からは公式文書というか、学部長を通じ来る訳ですが、そこで説明は、寮生と前にこう約束していたが今回約束を破られたと、それが全部の先生に報告される。これに対して寮生側の言い分は、ビラまきと教官訪問という手段ですが、特にこちらから求めない限り判らないもんですから、寮の理解者というのがどんどん減って行つてゐると思うんですね。ですから、もっとまことに実情を話して歩いて学内に理解者を増やすこと、それには自分たちの生活をもう少ししごしごとして、寮生たちもなかなかしっかりしてゐるなどということを示すことが必要だと思うんです。それらが伴つてくれれば、上手く行く道が自然に開けて来るんじゃないかと期待しているんです。

我々は若い君たちを信頼する

たと、それが全部の先生に報告される。これに対しても、寮生側の言い分は、ビラまきと教官訪問という手段ですが、特にこちらから求めない限り判らないもんですから、寮の理解者というものがどんどん減つて行つてゐると思うんですね。ですから、もっとまことに実情を話して歩いて学内に理解者を増やすこと、それには自分たちの生活をもう少ししごしごとして、寮生たちもなかなかしっかりしてゐるなどということを示すことが必要だと思うんです。それらが伴つてくれれば、上手く行く道が自然に開けて来るんじゃないかと期待しているんです。

村山 われわれは第二次大戦に負けた後、アブレガールって言つてゐたんですけどね、その頃の子供たちの事を批判した文章をこの前見つけたんだ。それによると、近頃の若い奴はまず礼儀を知らない、非常に自己中心的で基本から勉強するという姿勢が無い、そういう事を三つか四つ書いてあつたんですよ。だけど結局ね、その当時の子供のわれわれが日本の復興を支えて、今までやつてきたんだよね。だから今も期待していいんだよ。

湯浅 現在の寮生は大丈夫だと思います。樂観しています。“寒梅は、あえて風雪に耐えて咲く”。今の学生に期待していいと思いますね、必ずいい人材がいるんじやないんでしょうか、と私は思っています。願わくば先生方が「火中の栗」を思いきつて拾つていただきたいと思う。

高橋 若い人を信頼してやりたい気持ちも強いですよ。ただ言えることは、寮生たちも自分達に対する責任みたいなものがないと駄目だと思います。自分たちが選んだ委員会が、交渉してせつかりまとめて持ちかえったものを、ひっくり返したり、集団交渉じゃなければ正規の交渉じゃないというようでは、本当の意味の民主主義じゃないと思うんですよ。三百何十人いる寮生が全員同じ意見ということは絶対あり得

らない食えるように学校当局に交渉して食堂ぐらい作つてあげたいねえ。

ないと思うし、当然少数意見もあるで
しょうけれど、それを最大多数でうま
くまとめて行くように、お互ひ努力す
ることじやないかと思うんですね。

それと信頼関係を回復して、寮側と
大学側が一日も早く同じ土俵で話が出
来るようになってほしいですね。寮生
諸君にとってみても、せっかく大切な
四年間の実りが少なくなってしまいま
すよ。もう一つは、それは人に教えら
れることじやなくて、自分で体得して
いくことが、寮の大切な部分じやない
でしようか。現寮生には、いい青春、
いい寮生活を送つてもらいたいと思つ
ています。

富永 一人一人の寮生の心がまえと
いうものを越えた悪条件といいうものが
現在の寮にあるんだと思うんですね。一
つは集会する場所がない、それから食
堂がない。ディスカッションするよう
な手頃なグループの部屋が無い。こう

いう点が根源となって、今の状況が生
まれて来ているんだと思います。これ
は、歴史的にもともと北大当局を越え
たところでの学生運動を抑圧するとい
う延長線上に作られたように思われる
ので、何を成しうるかというと非常に
難問だと思いますね。ただ、私共もノ
スタルジアとでもいうか、そんなのを
持つておりますから、寮の伝統とか、
あるいはわれわれの大事にしてきたも
のが空中分解して、あとかたも無くな
るということはもう忍びがたい。だか
らこういう悪条件の中でも、寮の伝統
というものを継承して行く方法はない
ものかと考える訳ですが、これはわが
同窓会の永遠の課題として、現寮生と
もども取り組んでいかなければならな
いと思いますね。

清原 寮生が居なくなってしまう状
態といいうのが一番恐いですよ。廃寮に
なりますからね。そうしたら施設があ
るから別なものにしようということに
なって来ると思う、それは是非とも避
けてほしい。その為にはどうしたらい
かという方向で行動してほしい。さ
つき井口さんもいつていましたが、先
輩方がいらっしゃった頃の寮は、いろ
いろ問題もあったんだしようが、何か
のびのびとした温かいものだったと思
うんですよね、寮生活は。それが僕ら
の時代では、すごくせつばつまつたよ
うな気持ちの中で寮生活を送らせられ
ていた、今もそうだと思うんですよ。
だからそうでなく、もっとおおらかな
寮生活をおくれるように、現寮生も含
め、皆んなで努力していってほしいと
願っています。

中瀬 今のお話にあつたように、寮
がなくなつたんじやしようがない。ま
ことにそうです。恵迪寮という名を残
せ、寮歌を存続させよという、われわ
れOB会の基本的な原則も全て失われ

てしまふ。

考えてみれば、先程から申し上げて
いるように、恵迪寮というのは雑種を作
る。その雑種というのは、いいかげ
んな俗っぽい人間がいるという事では
なくて、集団生活の中で、最低の基本
的なルールみたいなものを身につける
という、その事が雑種の前提であります。
その雑種が育つた恵迪寮というの
は一つの文化であります。

つまり、その中に住まつている人間、
寮生達が、相互作用の中で自分達の文
化を作り上げる、これが恵迪寮の基本
であります。そういう雑種の最低のマ
ナーといふものは人間を信じ合うとい
う事ですから、そのポイントが無い所
には何も育たない訳で、つまり文化を
作るために人間を信頼するというこ
とがまず一番の肥料であるのです。
また、なんだかんだ横から援助する
というようなお話をございます。これ

はなかなか大変なことで、また援助し
たから必ずしも良いもんぢやないんで
すね。これは自分達の子供達を考えて
みればわかるように、こういう人に育
つてほしいと色々な事してやつても、
親の願い通りになったことは一度もな
くて、逆になるばかりで（笑
い）。だから寮生たちにも、現在の状
況を自分で自覚できるようにさせて、
その中から自分の力で問題を解決する
ようにもつていくというのが、本当の
意味での恵迪寮の文化のようと思いま
すね。

ただ、われわれOBは、かつてこう
いう所で育つたぞ、こういうことがと
ても自分の人生に素晴らしいだったぞ、
というように伝えてあげること、それ
から我々OBは年寄りが多いから、年
寄りの顔で何か潤滑油みたいな役割を
果たせればいいなあというように思
うです。

ですから今、OB会の雑誌「恵迪」
を作っている訳ですが、恵迪寮で育つ
た人間が、どういう事を考え、どうい
う風に現在を生き、しかも未来に向か
つてどういうことを感じているかを若
い人達に知つてもらう、これは非常に
良い事だというように感じています。

河原 ありがとうございました。今
日はせつかくのお休みのところ、お集
まりいただきまして、恵迪寮卒業生と
して熱い思いをですね、現在の寮生あ
るいは将来の寮生に託すというような
お話を、さまざま角度からしていただき
ました。われわれOB会の雑誌が
出来上がりましたら、これを読んでで
すね、現役の寮生諸君、あるいは関係
者の皆さんに、恵迪寮OBの気持ちを
くんで頂ければ、というふうに願つて
います。長時間ありがとうございました。
た。（拍手）

編集を終えて

図されたのであつた。

▼腰をあげたのは八月孟蘭盆明けであつた。スタートの遅れは出稿の強要にまで及び、この種の作業のシワ寄せは印刷屋に一手に降りかかると相場が決つていて「恵迪」も例外ではなかつた。そして、その印刷屋—佐藤印刷さん！一を督励し、編集委員会に馬力をかけ年内発送の悲願を成就せんと奮斗する井口事務局長である。

若き日、我等を育んでくれた恵迪寮の生活と、そこに流れる精神—それを

某君に原稿集めを、東日本は某々君にと、下請けを強制したりました。かくして編集委員会に寄せられた原稿は、

いずれもが玉稿であつたが会誌「恵迪」として企画した構成を充分に実現できたとするには心もとないものとなつた。何よりも立ち上りの号令を遅らせた編集委員長の責任に負うべきところである。

我々はしばしばクラーク精神、開拓者の心、自主自律、独立独行の心などと表現するが一を、単に我々が回顧するにとどめず、現寮生諸君に、全ての北大関係者に伝え、あわよくば広くこの世の人々の目にも触れ心を揺すことでも期待して、この「恵迪」発刊が企

立られ、これに沿う多数の寄稿を期待した。また寄稿の依頼も、主題を決めて押しつけ依頼をしたり、西日本は某君に原稿集めを、東日本は某々君にと、下請けを強制したりました。かくして編集委員会に寄せられた原稿は、いずれもが玉稿であつたが会誌「恵迪」として企画した構成を充分に実現できたとするには心もとないものとなつた。何よりも立ち上りの号令を遅らせた編集委員長の責任に負うべきところである。

玉稿ではあつたが、明らかな誤字、あるいは脱字、セントテンスとして未完成のもの、など編集委員会で手を入れるものもあつた。句読点は執筆者の表現方法の決め手にもなるので可能な限り原稿のままとした。相當に専門的なもの、あるいはウルサイ事で名の知ら

れている執筆者には本人に校正をお願いし、全体的に注意深く取扱つたつもりであるが、所詮は人間の為すことで、執筆者の意に沿わない点もあつたのではないかと思う。同窓のよしみでご寛恕願うものである。

今回の仕事は「創刊号」の仕事であつたが原稿を寄せられたついでに、次号への期待とこれこれのテーマで昭和何年入寮の何某君に書いてもらうようにな、と執筆の推せんが一、二にとどまらず届いた。また、この「創刊号」の原稿でさえ、同窓生の推薦、紹介により執筆をお願いしたものも多い。この「創刊号」が同窓の諸兄の目にとまるのは一九九五年の正月。そして第二号は一年後発刊であるから、一年後の発刊へ向けて寄稿の自薦他薦を事務局へ寄せられるようお願いしたい。

外は冷氣、白雪の薄くおおう札幌の今日、時計台は大改修に入つて鐘の音

の響かぬ淋しさを感じる。静かな夜、南寮の開いた窓から、あの鐘の音が聴えた日々が懐かしい。あの音はクラーク精神を伝える音だろうか。

河原 克美（二十六年入寮）

▼寮誌「恵迪」は何度か発刊、復刊、廃刊をくり返してきたようである。手元に「復刊第一号」の発行日は昭和二十七年二月十五日。つまり三年前のことだが、これも第五号でダウンしたという。

同窓会誌「恵迪」が漸く発刊に漕ぎつけた。校正編集の最終作業を終え、あとは配布を鶴首するばかりだ。こんどの「恵迪」は息ながく続くような予感がする。青春の日のそれと熟年期のそれのちがいがそこにある。

富永 敏（二十五年入寮）

▼今回の「恵迪」の編集にたずさわり、年月の重みを痛感しました。人はすべて年老いていきますが、老いると同時に

に青春時代のような新鮮な感動や学ぶ心を失っていくものであることを、改めて思い知らされたのです。

投稿された諸兄には、共通して恵迪

寮時代に育まれた精神、高きを求める魂が脈々と流れています。今後、巢立ちゆく後輩のためにも、語り継ぐ魂の場としての「恵迪」が育つことを祈ります。

白井 俊三（二十七年入寮）

▼編集委員を仰せつかり、素人の私につとまるかどうか危ぶんだ。幸に河原委員長をはじめ先輩のご指導と井口事務局長の励ましで、伴食大臣ならぬ伴食委員として役目を終えさせて頂いた。校正にあたって、私の担当分には、かなりの見落しがあつたことと思うが、プロの鈴木委員という後楯があるといふ安心感——いうより甘えといった方が適切——から一番お粗末な校正でなかつたかと反省している。

カットを同室のよしみで、河辺傑兄にお願いしたところ快諾を得、ご多用の中、多数の楽しい作品をお寄せ頂き、会誌がより充実したこと、この場を借りて、厚くお礼申し上げる。

高橋 邦臣（二十八年入寮）

▼昭和二十九年入寮の旧寮生たちが昨秋、札幌に集まり同期会を開いた。遠くは九州からも駆け付け、約三十人が顔を合わせた。四十年前に戻つて一夜、飲み、語り、共に肩を組みながら、次から次へと寮歌を歌つた。翌日、同室だつた旧友と一緒に、かつての寮周辺を散策した。「ここに玄関があつて、食堂はあるあたり」と話しながら、大学一年の春、初めて寮の玄関前に立つた日のことが、つい昨日のように思い出された。恵迪寮時代の二年間は、貧しかつたが全く自由で、いつも空腹だったが、けつこう酒を飲み、昼の講義よりも徹夜の議論、床勉に熱心だつ

た。「歴史は古りて四十年」。寮歌の一節が口に上った。

さて「恵迪」復刊で、寄せられた原稿を読みながら、昭和一ヶタ時代の在寮生から現寮生まで、世代は違つても、

「恵迪寮」の屋根の下で暮らした年月がいかに貴重な、かけがえのないものだつたか。改めて思い知らされた思いがする。

鈴木 勝男（二十九年入寮）

▼入寮以来四十年を過ぎた今、少しでも恵迪寮に触れることが出来たのは幸である。

ただ出張など業務と編集会議が重なることが多く、小生は殆どお手伝いが出来なかつたのが慚愧である。委員長はじめ先輩委員方は最多忙の中これを短期間で纏め上げられた。サボリ委員として深い敬意を禁じ得ない。小生も相当の「恵迪オンチ」を自負しているがこれら先輩の前では顔色を失う思い

であった。

今後は、本誌を北大人のみではなく幅広く多くの人々に読んで頂き恵迪魂を理解して頂くよう努力するのが小生の責務であると自覚している。

高橋 陽一（三十年入寮）

▼なんの仕事もしない応援者に過ぎなかつたが、一九五七年に恵迪復刊四号を編集した者として新たな感慨に耽けつていて。四号では都ぞ弥生歌碑除幕式を特集し、正調論争に巻込まれて多くの大先輩の世話になつた。この経験が私のあり方を支配しているのか、個

委員 高橋 邦臣（二十八年）
委員 富永 敏三（二十七年）
委員 鈴木 勝男（二十九年）

委員 高橋 陽一（三十一年）
委員 湯浅 亮（三十二年）

事務局 井口 光雄（二十八年）
事務局 高井 宗宏（三十一年）

会誌「恵迪」

編集委員会

() 内は入寮年次・昭和

高井 宗宏（三十一年入寮）

室になつた現寮にも微力ながら想いを伝えたと努力している。一方、昨年には赤木顯次氏のご子息から当時の録音テープを届けられ、論争時の種々の譜面と比べているが、現寮生が新しく、変調した歌い方をしているため、論争の終焉はいつになるかと悩んでいる。



惠迪 —創刊号—

平成七年一月一日発行

領価 八百円

発行者／惠迪寮同窓会

札幌市中央区北二条西三丁目

札幌第一ビル七F

(株) 現代ビューロー 気付

(TEL) 〇二一二三一一六〇四九
(FAX) 〇二二二三三一六一四九

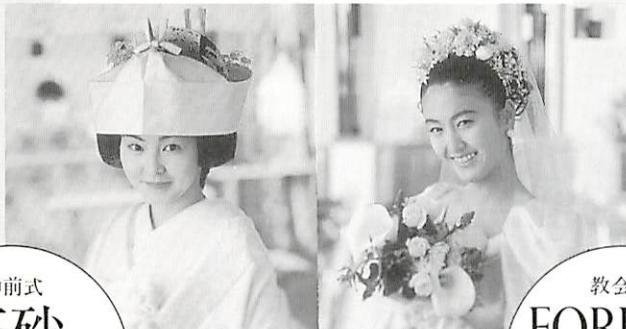
編集デザイン／(株) 現代ビューロー

印刷所／佐藤印刷株式会社

私から、プロポーズ宣言。

プラザウェディングプラン'95

期間：'95年4月1日～'96年3月31日
●只今ご予約承り中●



神前式
高砂
●ご両家ご負担●
65万円

- 挙式料●新郎新婦の衣裳・着付料●装花料
- 司会者・エレクトーン奏者料●写真・挙式及び披露宴VTR料などをパックしました。

会費制プラン<60名様より>
9,000円・10,000円・11,000円・13,000円

教会式
FOREVER
フォーエバーTM
●ご両家ご負担●
70万円

プラザウェディングの特典

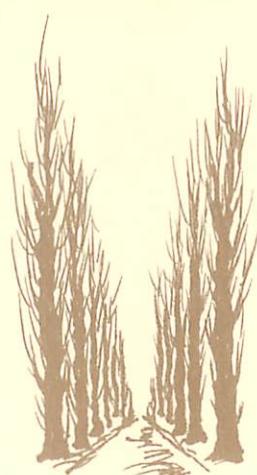
- ◆挙式当日の宿泊ご招待◆
- ◆挙式当日のベビーシッター無料サービス◆
- ◆ご結婚一周年記念ディナーご招待◆
- ◆PECへの入会登録◆
- ◆PECパーティご招待◆

SPECIAL WEDDING

- ワーキングデー・ウェディング（祝日を除く平日及び仏滅の土・日・祝日）
- ゴールデン・ワーキングウェディング（5/1～5/7）
- サマーワェディング（7/1～8/31）
- ウインターワェディング（12/1～3/31）
- スペシャルウェディングの特典
ご出席者人数×500円割引 他



京王プラザ・ホテル札幌
札幌市中央区北5条西7丁目 TEL(011)271-0111(代)



発 行

惠迪寮同窓会

(価額 800円)